

**Digital**  
— HMI Human Machine Interface —

**Pro-face**®

# GP-PROII Ver.3.3

GP 作画支援ソフトウェア

オペレーションマニュアル

株式会社 **デジタル**

# 改訂履歴

発行年月日	版数	改訂内容
1995年 5月 15日	初版	

# GP-PROII Ver.3.3

GP作画支援ソフトウェア

オペレーションマニュアル

# はじめに

このたびは、(株)デジタル製「GP作画支援ソフト GP-PRO II」をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

GP-PRO IIは、「グラフィック操作パネル GPシリーズ」の画面データをパーソナルコンピュータ上で作成するためのソフトウェアです。  
作画および動画の設定を、マウス操作により簡単に行えます。

本書をご精読の上、GP-PRO IIの性能を十分にご理解いただき、GPシリーズの多彩な機能を最大限に活かしたシステムをご構築ください。

本書では三菱電機(株)製 MELSEC AnAシリーズ対応を基本とし、パソコンは日本電気(株)製PC-9801シリーズを基本として説明しています。

なお、本書でのGPシリーズとは以下の機種を指します。

GP-*50系	GP-*50シリーズ	.....	GP-450E、GP-550T、GP-550S、GP-B50
	GP-250シリーズ	.....	GP-250L、GP-250B、GP-250S
GP-*30系	GP-*3Jシリーズ	.....	GP-43J、GP-53JT、GP-53JS
	GP-*30シリーズ	.....	GP-430、GP-530T、GP-530VM
	GP-230シリーズ	.....	GP-230G、GP-230S、GP-230B、GP-230H

<お断り>

- (1)本製品、および本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2)本製品、および本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- (3)本製品、および本書の内容について万全を期して作成いたしました但、万一誤りや記載もれなどご不審な点がありましたらご連絡ください。
- (4)本製品を運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。  
(不慮の事故に備えて、必ず画面データをバックアップするようにしてください)
- (5)本書の内容は日本国内仕様であり、海外仕様とは一部内容が異なりますのでご注意ください。

Please be aware that specification in this manual is for Japanese products and there are some differences between this specification and an overseas one.

©(株) デジタル May. 1995

本プログラムはINDE Electronics,Inc.(カナダ)で開発され、(株)デジタルで販売、権利を有するソフトウェアです。

MS-DOSは米国マイクロソフト社の登録商標です。

IBM DOSは日本アイ・ビー・エム(株)の登録商標です。

その他の商品名や製品は、それぞれの所有者の商標です。

# もくじ

はじめに .....	1
もくじ .....	2
マニュアル中の用語および記号 .....	6
ご使用上の注意 .....	7
バージョンアップ項目一覧 .....	9

## 第1章 ご使用いただく前に

1 GP-PROIIとは .....	1-1
1 GP-PROIIの特長 .....	1-1
2 ファイルの種類 .....	1-2
2 システム構築環境 .....	1-5
1 製品構成 .....	1-5
2 開発環境 .....	1-6
3 システム構築手順 .....	1-12
3 インストール .....	1-13
1 バックアップディスクを作る .....	1-13
2 インストールする .....	1-14
4 パソコンの環境を整える .....	1-16
1 CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定例 .....	1-16
2 EMSの設定について .....	1-18

## 第2章 GP-PROIIの基本事項

1 GP-PROIIの基本操作 .....	2-1
1 画面各部名称 .....	2-1
2 マウス/キーボード基本操作 .....	2-3
3 操作の進め方 .....	2-4
4 起動と終了 .....	2-7
2 対象機種の設定 .....	2-10
1 対象PLGを設定する .....	2-10
2 GPの機種を設定する .....	2-10
3 操作開始 .....	2-12
1 ファイルのオープン/セーブ .....	2-12

## 第3章 画面を作成する<1>

1 絵や文字を描く .....	3-1
1 GP-PROIIの描画機能 .....	3-1
2 直線/連続直線 .....	3-3
3 四角/塗込み四角 .....	3-4
4 円/楕円 .....	3-5
5 円弧/扇形 .....	3-6
6 塗込み .....	3-7
7 文字 .....	3-9
8 ファイル呼出 .....	3-11
9 マーク呼出 .....	3-13
2 編集する .....	3-15
1 対象図形を選択する .....	3-15
2 属性を変更する .....	3-18

3	削除する	3-19
4	コピーする	3-20
5	移動する	3-21
6	回転する	3-22
7	拡大縮小する	3-23
8	取消し	3-25
9	全画面消去	3-26
10	画面を再表示する	3-26
11	ライブラリ編集	3-27
3	タグを設定する	3-30
1	F6-タグについて	3-30
2	タグ設定	3-31
3	タグの編集	3-36
4	タグ一覧とクロスリファレンス	3-39

## 第4章 画面を作成する<2>

1	ライブラリの活用	4-1
1	ライブラリを活用する	4-1
2	ウインドウを表示する	4-3
1	ウインドウ登録と削除	4-3
2	ウインドウを表示させるには	4-6
3	マークを作る(Mファイル)	4-9
4	折れ線グラフを作る(Tファイル)	4-17
5	キーボードを作る(Kファイル)	4-20
1	キーボードを作る	4-20
2	サンプルキーボードの利用方法	4-23
6	メッセージを登録する(Aファイル)	4-26
7	テキストデータの作成(Xファイル)	4-29
1	Xファイル画面の概要	4-29
2	テキストデータの作成	4-30
8	イメージデータの表示(Iファイル)	4-35
9	GP側の初期設定(Sファイル)	4-36
10	ファイル一覧を表示する	4-40
11	ユーティリティ	4-41
1	ファイルコピー	4-42
2	ファイル番号の変更	4-43
3	ファイル削除	4-44
4	PLCタイプの変更	4-46
5	テキストファイル変換	4-47
6	アドレス一括変換	4-48
7	BMPファイル変換	4-50

## 第5章 覚えておくと便利な機能

1	F4-オプション	5-1
1	グリッド	5-1
2	画面確認(カラー/モノクロ)	5-2
3	タグ表示	5-2
4	塗込みモード	5-3
5	表示/非表示の切り替え	5-4

2	F7-環境設定	5-5
1	ガイドラインカラーを変更する	5-5
2	システムカラーを変更する	5-5
3	通信ポートを変更する	5-6
4	マウス感度を調整する	5-7
3	F2-ファイル	5-7
1	ファイル情報	5-7
2	GP-PROについて	5-8
3	DOSコマンド	5-9
4	F1-ヘルプ	5-10

## 第6章 印刷

1	プリンタを設定する	6-1
2	印刷する	6-2
1	画面ハードコピー	6-2
2	ファイル一覧	6-4
3	タグ一覧	6-5
4	連続画面ハードコピー	6-5
5	ウインドウ一覧	6-6
6	クロスリファレンスリスト	6-7

## 第7章 転送

1	転送準備	7-1
2	画面ファイルの送信、受信	7-2
1	画面ファイルの送信	7-2
2	画面ファイルの受信	7-7
3	オプション	7-8
1	画面ファイルの比較	7-9
2	GP内の画面一覧	7-10
3	GP内の画面削除	7-11
4	内部メモリのリストア	7-12
5	内部メモリのバックアップ	7-13
6	内部メモリの比較	7-14
7	内部メモリの残量	7-15
8	GPバージョン確認	7-16

## 第8章 プログラムツールの活用

1	GP-*10用データを*30用、*50用に変換	8-1
1	画面ファイル単位の変換	8-3
2	メモリーカード単位の変換	8-5
2	バックアップ&リストアツール	8-6
1	バックアップ&リストアの概要	8-6
2	使用可能な機種および環境一覧	8-8
3	動作するまでの手順	8-11

巻末資料













1	エラーメッセージ .....	巻末-1
2	トラブルシューティング .....	巻末-10
3	メニュー一覧 .....	巻末-15
4	ホットキー/ショートカットキー一覧 .....	巻末-17
5	アドレス一括変換表 .....	巻末-19
6	画面レイアウトシート .....	巻末-34
7	タグリスト .....	巻末-38
8	お客様お問い合わせFAX用紙 .....	巻末-54

索引



# マニュアル中の用語および記号

本書で使用している用語や記号等の意味は、以下のとおりです。

GP-PRO II	GP作画支援ソフト「GP-PRO II Ver.3.3」(本ソフト)を指します。
パソコン	パーソナルコンピュータの略です。
PLC	プログラマブル・コントローラ(別名シーケンサ)を指します。
   	パソコンのキーボード上のキーを示します。
 	GP-PRO II の画面上にあるボタンを示します。
 + 	+の前に示すキーを入力しながら、+の後ろに示すキーを入力することを示します。
	特に注意していただきたいことについての説明です。正しくご使用いただくために必ずお守りください。
*	説明が必要な語句についています。
	*のついた語句の説明を行っています。
	使用するに際して、ポイントとなる項目です。
	関連事項の参照ページを示します。
① ②	操作手順です。番号に従って操作を進めてください。
対象機種	機能によっては対象機種が限定されるものがあります。その場合、マニュアルの下見出しに、対象となるGPシリーズの機種を記載します。  GPシリーズの機種は以下のとおりです。 GP-*50シリーズ .... GP-450E、GP-550T、GP-550S、GP-B50 GP-250シリーズ .... GP-250L、GP-250B、GP-250S GP-*3Jシリーズ .... GP-43J、GP-53JT、GP-53JS GP-*30シリーズ .... GP-430、GP-530T、GP-530VM GP-230シリーズ .... GP-230G、GP-230S、GP-230B、GP-230H  なお、「対象機種」の下見出しがついていない場合は、全機種共通です。

# ご使用上の注意

## ディスクの取扱いについて

- 高温、多湿な場所、ほこり、磁界などの影響を受ける場所には置かないでください。
- ディスクドライブのランプが点灯しているときは、フロッピーディスクを取り出さないでください。
- パソコン本体の電源のON/OFFは、フロッピーディスクを抜いてから行ってください。
- PC98シリーズパソコンをご使用の場合、ハードディスクドライブ使用時に電源を切るときは、必ずSTOPキーを押してから電源をOFFにしてください。

## 本ソフト使用上の注意

本ソフトを使用するにあたっては、次のことにご注意ください。

- ソフト起動中に、パソコン本体の電源をOFFしないでください。
- GP-PRO II 関連ファイルの内容、および名前の変更などは誤動作の原因となりますので、絶対に行わないでください。
- 使用できるフロントエンドプロセッサ(FEP)は以下のとおりです。
  - 「GP-PRO II/98」の場合
    - ① ジャストシステムのATOKシリーズATOK6、7、8について動作確認しています。
  - 「GP-PRO II/IV」の場合
    - ① ジャストシステムのATOKシリーズATOK6、7、8、② パックスのVJE/βシリーズおよびDOSに標準で装備されている日本語入力システムIBM MKK V、MS IMEについて動作確認しています。
- GP-PRO II は、ハードディスクにインストールしてご使用ください。インストールのための容量として、最小で1.5Mバイト、最大で5Mバイト必要です。
- GP-PRO II はシステムメモリを640Kバイト以上搭載した環境を対象として開発されています。EMSを組み込んで、システムメモリを640Kバイト以上搭載することをおすすめいたします。EMSを使用した場合でも、メインメモリの空き容量は最低480Kバイト必要です。
- DOS/V対応パソコンをご使用の場合、DOS/Vシステムに付属のプリンタドライバ(\$PRNUSER.SYS、\$PRNESC.P.SYS)は使用しないでください。DOS/V対応パソコンで付属のプリンタドライバを使用すると、プリント機能が正しく動作しません。
- 機能および設定項目によっては、GPシリーズ本体側でのみ対応しているものとGP-PRO II 側でのみ対応しているものがあります。
  - GPシリーズ本体側でのみ対応(GP-PRO II 側では未対応)のもの
    - ・ 時刻、日付の設定
    - ・ 自己診断機能
  - GP-PRO II 側でのみ対応(GPシリーズ本体側では未対応)のもの
    - ・ チェックサムコードの設定
- GP-PRO II で使用できる機能でもGPシリーズの機種やバージョンによってはサポートしていない機能があります。ご注意ください。



GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第1章3 動画表示機能一覧」

GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第2章2 動画表示機能の種類/GPの機種と使用可能機能一覧」

GP-PRO II はGP-\*30系、GP-\*50系用の作画支援ソフトです。

GP-PRO II で設定可能であっても、GP本体のバージョン(以下、Ver.と表記します)によってはサポートされていない機能があります。

GP上で有効な機能はGP本体の機種に依存します。お持ちのGPのVer.と機能をご確認のうえ、作画してください。

- 以下の機能はGP-\*50系でのみ有効です。GP-\*30系では動作しません。
  - ・ ウィンドウ表示機能(Wファイル、Uタグ)およびウィンドウ表示に関連する設定項目
  - ・ テキスト表示機能(Xファイル、Xタグ、Aタグ)およびXファイルに関連する設定項目
  - ・ イメージデータ表示機能(Iファイル)およびIファイルに関連する設定項目
  - ・ 設定入力警報値表示機能(nタグ)
  - ・ フォーマット指定付き数値表示(Pタグ)
  - ・ 統計データ数値表示(dタグ)
  - ・ メータグラフの機能(Gタグの一部)
  - ・ 演算機能、ゼロ表示無し機能(N,Kタグの一部)
  - ・ Kタグ、Sタグの入力文字数 max80文字(\*30シリーズではmax13文字)
  - ・ バーコード入力禁止設定(Kタグの一部)
  - ・ タッチスイッチからのブザー、AUX出力有無指定(T,K,Tih,Tiwタグの一部)
  - ・ ライブラリステート表示機能(Lタグの一部)
  - ・ Sファイルでのマルチリンク(n:1)設定
- 以下の機能はGP-\*50系およびVer.2以降のGP-\*30シリーズ、GP-\*3Jシリーズ、Ver.1.00以降のGP-230シリーズでのみ有効です。
  - ・ バーコードリーダーによる設定入力機能(Kタグの一部)
- 以下の機能はGP-\*50系およびVer.2以降のGP-\*30シリーズでのみ有効です。
  - ・ GP本体の画面ハードコピーのカラー、階調印字機能(S0ファイル設定項目)
- 以下の機能はGP-\*50系およびVer.2以降のGP-\*30シリーズ、GP-\*3Jシリーズでのみ有効です。GP-230シリーズでは動作しません。
  - ・ 統計(加算型棒、円)グラフ機能(Dタグ)
  - ・ アラームメッセージ機能
  - ・ ライブラリの移動表示機能(Fタグ)
  - ・ GP本体リセット機能(Tタグの一部)
  - ・ 円、半円グラフ機能(Gタグの一部)
  - ・ 警報値間接指定機能(N,G,Kタグの一部)
  - ・ Rタグの最大表示位置数(Ver.2未満では1画面につき他のタグの数を含めて256個 → Ver.2以降ではRタグの表示位置数のみで512個)
- 以下の機能はGP-\*30シリーズVer.2.03以降でのみ有効です。
  - ・ メモリtoメモリタイプ拡張機能(S0ファイル設定項目)
- 以下の機能はGP-530VMでのみ有効です。
  - ・ ビデオウィンドウ表示(Vタグ)およびビデオウィンドウに関連する設定項目
- マルチリンク(n:1)通信をするときは、GP-\*50系では「GP-PRO II Ver.3.3」のみで設定できますが、GP-\*30系では「GP-PRO II Ver.3.3」に加えて「GPシリーズマルチリンクソフトウェア」が必要です。



- GP本体のVer.はGP-PRO II 上で確認することができます。



「第7章3.8 GPバージョン確認」

# バージョンアップ項目一覧

GP-PRO II Ver.3.3でバージョンアップされた項目は、以下のとおりです。

## ■対象PLCの充実

- ・ 対応するPLCの種類もさらに充実しました(1995年5月現在37種の通信プロトコルに対応)。

## ■GP-B50シリーズをサポート

- ・ 作画対象機種にGP-B50が加わりました。

## ■マルチリンクプロトコルの追加

- ・ GP-\*50系用マルチリンクプロトコルを標準で搭載しました。
- ・ 初期設定の変更だけで、1:1通信とn:1通信のどちらでも簡単に切り替えられます。

## ■システムファイル(S0ファイル)のマルチリンク対応項目の追加

- ・ マルチリンク対応により追加されたシステム設定を、システムファイルに追加しました。

## ■印刷機能の充実

- ・ カラーコピーの濃淡が選択できます。
- ・ 階調印字がより鮮明になりました。
- ・ GP-550系の640×480ドットの画面も縮小せずに印刷できます(ただし、PC98シリーズまたはJ-3100シリーズパソコン使用時に限ります)。

## ■透かし文字の表示

- ・ 透かしモードの設定で、透かし文字を印刷でき、パソコン上でも透かし文字を確認

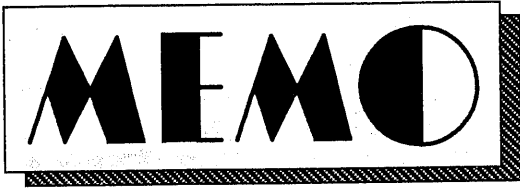
## ■三菱電機(株)製PLC用デバイスモニタアプリケーションを付属

- ・ GP-PRO II マスターフロッピーディスク Disc5 にデバイスモニタのアプリケーションが付属しています。ディレクトリはDEVMONI の中で、LHA\*1 の自己解凍型ファイルとして付属しています。付属アプリケーションはGPの画面、三菱電機(株)製PLC Aシリーズのラダープログラム\*2、およびDOCファイルで構成されています。(このアプリケーションは、GP-\*50系でのみ使用できます。)



\*1 LHAは吉崎栄泰氏の著作物です。

\*2 ラダープログラムは三菱電機(株)のNEC PC-9801シリーズ用ソフトウェアパッケージ SW2NX-GPPA (Aシリーズ・シーケンスプログラミング)用ファイルです。



このページは、空白です。

## 第1章

# ご使用いただく前に

GP-PRO II の概要およびGP-PRO II をご使用いただく環境について示します。

- 1 GP-PRO II とは
- 2 システム構築環境
- 3 インストール
- 4 パソコンの環境を整える

## 1 GP-PRO II とは

GP-PRO II はGPで表示させる画面を作成するソフトウェアです。画面上にスイッチやランプなどの絵を描き、動作させるための機能を設定します。画面の作成は対話形式で行われ、特別なプログラムの知識がなくても簡単に行うことができます。GP-PRO II で作成した画面をGP本体へ転送することにより、GPを操作盤として、またデータ表示器としてご使用いただけます。

### 1 GP-PRO II の特長

#### ■ マウスでオペレーション

コマンドの選択や描画など、ほとんどの操作はマウスのみで行えます。キーボードのみによる操作に比べ、操作性は非常に高くなっています。

#### ■ 簡単なコマンド入力

各メニューラインを選択すると、そのメニューに収められた機能(コマンド)一覧がプルダウン表示されます。機能を次々と選択し、初めての方でも簡単に操作することができます。また描画時は、アイコン入力による図形選択も併せて実行でき、スピーディかつ容易に作画できます。

#### ■ 豊富な編集機能

複雑な図形を一括して編集(移動、コピー、回転、拡大/縮小など)できます。修正が効率よく進みます。

#### ■ ヘルプ機能

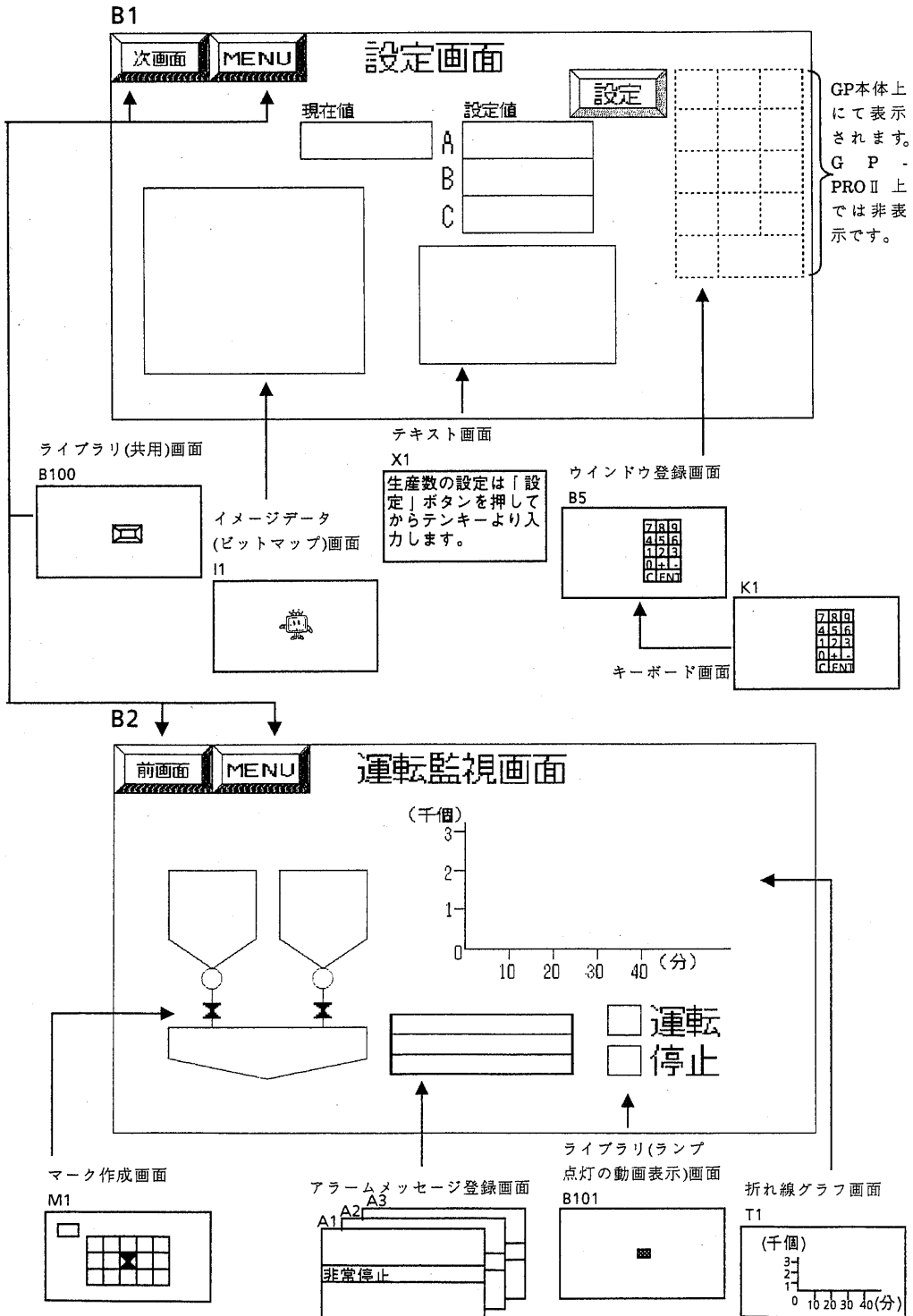
GP-PRO II の各機能の解説を、パソコン画面上で参照できます。マニュアルレス操作も可能です。

#### ■ 多彩なプリントアウト

画面ハードコピー、作成ファイルリスト、タグ一覧などを印刷し、データ管理やドキュメント作成を容易に行うことができます。

## 2 ファイルの種類

画面の例を示します(画面番号は仮のものです)。





- Xファイル、Iファイル、WファイルはGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズのみ使用できます。

種類	画面番号	内容	最大サイズ/ファイル
ベース画面 (Bファイル)	B1~B8999	運転モード時の表示画面です。共用する図形や動画表示用の絵を登録するライブラリ画面としても使用します。ベース画面の一部をウインドウ登録することもできます。	約8K バイト
マーク画面 (Mファイル)	M1~M8999	24×40ドットの範囲でドット単位のマークを作成する画面です。マークはベース画面上で固定表示、または動画表示できます。	約282 バイト
折れ線グラフ画面 (Tファイル)	T1~T8999	折れ線グラフのグラフ軸や目盛を作画したり、グラフ表示用のデータ設定を行う画面です。	約8K バイト
アラーム メッセージ画面 (Aファイル)	A1~A8999	アラームメッセージの登録および表示条件の設定を行う画面です。メッセージはベース画面上で流れ表示またはリスト表示(アラームサマリ)できます。	約250 バイト
キーボード画面 (Kファイル)	K1~K8999	設定入力(英数字、記号、カタカナ、ひらがな、漢字)を行う画面です。	約8K バイト
システムファイル (Sファイル)	S0	GP本体の動作条件、ホストとの通信条件などを設定する画面です。	*50系 ...約404 バイト *30系 ...約148 バイト
テキスト画面 (Xファイル)	X1~X8999	他のテキストエディタで作成したテキスト(文字データ)ファイルをGP用のファイルとして登録する画面です。テキストデータはベース画面上で動画表示できます。	約44K バイト
イメージ ライブラリ画面 (Iファイル)	I1~I8999	イメージデータをGP用のファイルとして登録する画面です。ベース画面で作成したライブラリと同様に使用できます。	約58K バイト
ウインドウ情報 ファイル (Wファイル)	W0	ウインドウ登録された画面の情報を収めるファイルです。	約13K バイト



- 各ファイルの頭文字のアルファベットをファイルヘッダと呼びます。





- 1~8999の範囲で自由に画面番号を付けてファイルを作成できますが、各ファイルの容量とファイルデータを保存するフロッピーやハードディスクの残り容量およびパソコン本体のメモリ残量によって、作業可能なファイル数が左右される場合があります。
- 各ファイルの容量やデータ転送先のGP本体の画面記憶容量に応じて、転送可能なファイル数は変化します。  
下表は、各GPの画面ファイル容量の目安を示したものです。

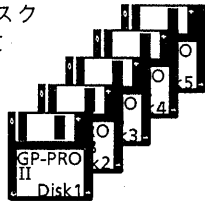
シリーズ名	機種名	内部記憶容量	一画面当たりの平均使用容量	転送可能ファイル数の目安
GP-*50	GP-450E	1Mバイト	3.2Kバイト	320ファイル
	GP-550T/S	1Mバイト	3.2Kバイト	320ファイル
	GP-B50	1Mバイト	3.2Kバイト	320ファイル
	GP-250L/B/S	256Kバイト	1.6Kバイト	160ファイル
GP-*3J	GP-43J	256Kバイト	3.2Kバイト	80ファイル
	GP-53JT/JS	256Kバイト	3.2Kバイト	80ファイル
GP-*30	GP-430	512Kバイト	3.2Kバイト	160ファイル
	GP-530T/VM	512Kバイト	3.2Kバイト	160ファイル
GP-230	GP-230G/S/B/H	128Kバイト	1.6Kバイト	80ファイル

## 2 システム構築環境

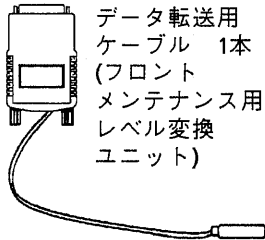
### 1 製品構成

GP-PRO II のパッケージには以下のものが入っています。ご使用前に必ずご確認ください。

マスターフロッピー  
ディスク  
5枚



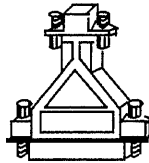
ユーザー登録FAX用紙  
1枚



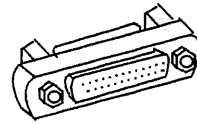
データ転送用  
ケーブル 1本  
(フロント  
メンテナンス用  
レベル変換  
ユニット)

「GP-PRO II/V」の場合のみ

9ピン-25ピン  
変換コネクタ

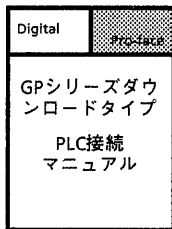


25ピンオス/メス  
変換コネクタ

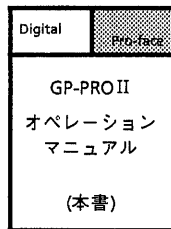


パソコンとRS-232Cポート  
の形状に合わせて選んでく  
ださい。

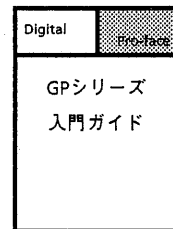
GPシリーズダウンロード  
タイプ  
PLC接続マニュアル 1冊



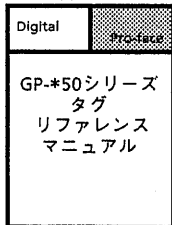
GP-PRO II  
オペレーションマニ  
ュアル 1冊



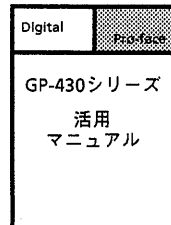
GPシリーズ  
入門ガイド 1冊



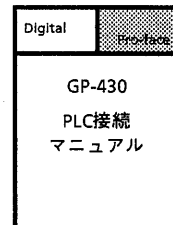
GP-\*50シリーズ  
タグリファレンスマニ  
ュアル 1冊



GP-430シリーズ  
活用マニュアル 1冊

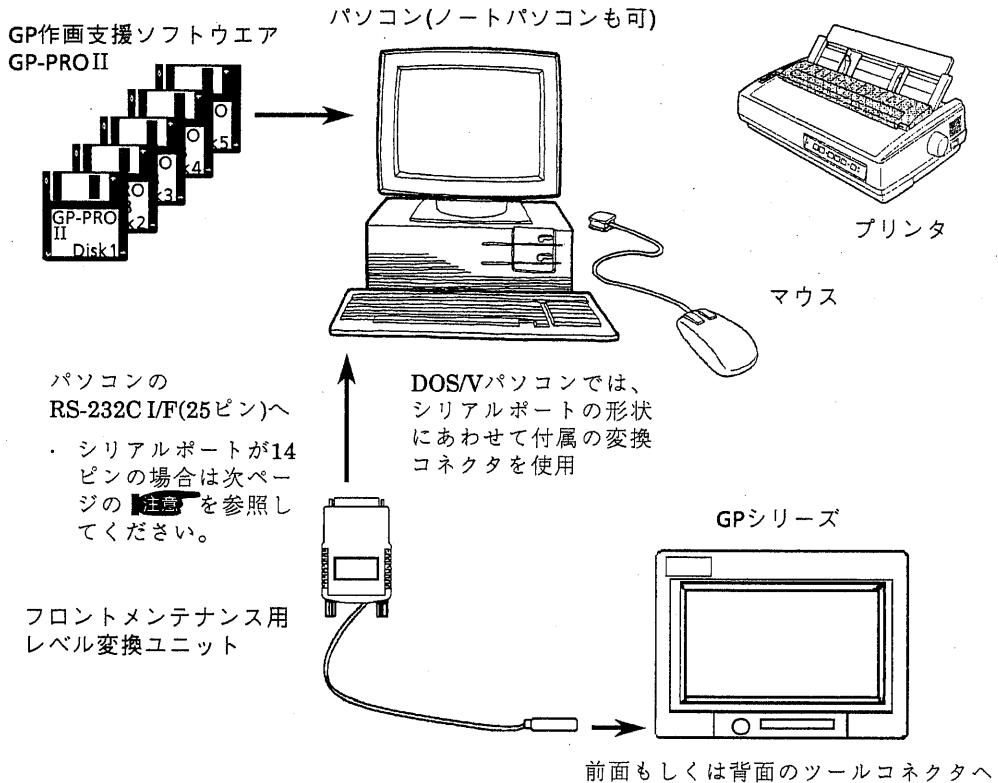


GP-430  
PLC接続マニュアル 1冊



品質や梱包などには出荷に際して万全を期しておりますが、万一破損や部品不足、その他お気付きの点がありましたら、直ちに販売店にご連絡くださるようお願いいたします。

## 2 開発環境



### <使用可能な機種および環境一覧>

#### 「GP-PRO II/98」の場合

##### ■パソコン

NEC PC-9801シリーズでVM以降のもの、およびその互換機

- ハイレゾリューションモードでは動作しません。
- 初期型のPC-9801シリーズ(E/F1,2,3/M2,3など)、およびLTシリーズは動作しません。
- 16色拡張グラフィックモードを有するものに限ります。

##### ■OSバージョン

MS-DOS Ver.3.10以上

##### ■必要メモリ容量

640Kバイト以上(EMSのご使用を推奨します)

##### ■ディスク

実行ファイルなどをインストールするための容量として最小で1.5Mバイト、最大で5Mバイト必要です。

EMSのないシステムの場合は、実行ファイルのあるディスク上に更に60Kバイトの空き容量が必要です。

### ■ マウス

- PCバスマウス(マウスは必ずご準備ください)  
 ●DOSに標準のMOUSE.SYSが必要です。

### ■ プリンタ

NEC PC-PRシリーズ、NMシリーズおよびその互換機、またはエプソンESC/Pコマンド互換機

### ■ GPシリーズ

- GP-\*50系 GP-\*50シリーズ ..... GP-450E、GP-550T、GP-550S、GP-B50  
 GP-250シリーズ ..... GP-250L、GP-250B、GP-250S  
 GP-\*30系 GP-\*3Jシリーズ ..... GP-43J、GP-53JT、GP-53JS  
 GP-\*30シリーズ ..... GP-430、GP-530T、GP-530VM  
 GP-230シリーズ ..... GP-230G、GP-230S、GP-230B、GP-230H

### 注意

#### ● パソコンの動作環境

GP-PRO II / 98を使用する際のパソコンの動作環境で特に注意すべき項目を示します。必ず下記のように設定してください。

● RS-232C伝送モード	調歩同期
● グラフィックモードの選択	拡張
● サウンドBIOS	切り離す
● 内蔵RAMの容量指定	有効にする (640Kバイト)

動作環境の設定方法は機種によって異なります。ご使用のパソコンのガイドブックを参照してください。

上記以外の設定はメモリ状況、ディスクの使用法によって変化します。

- GP-PRO II / 98では16色表示を採用しているため、拡張グラフィックモードに設定してください。
- PC-9801シリーズ U2、VF2、VM0,1,2は8色表示が標準です。16色表示のためにはオプションのグラフィックカードが必要です。
- RS-232Cのポートが14ピンの場合は、以下に示す変換コネクタを使用してください。また、省電力モードでは転送できませんので、ご注意ください。

・ホート(株)製

型式	CBC-98RN1	
コネクタ	パソコン側	14ピンオス
	中継側	25ピンメス

・日本電気(株)製

型式	PC-98HA-15	
コネクタ	パソコン側	14ピンオス
	中継側	25ピンオス

※ フロントメンテナンス用レベル変換ユニットもコネクタ部がオスのため、オス→メスに変換するコネクタが必要です。



- モノクロ表示のラップトップパソコンおよびノートパソコンをご使用の場合で画面が見づらく感じられるときには、LCDの表示方法をリバースにすると見やすい画面にすることができます。

## 「GP-PRO II/V」の場合

### ■パソコンの機種

IBM PS/Vシリーズ、またはその互換機。\*1  
東芝 J-3100シリーズ。\*2

### ■OSバージョン

IBM DOSバージョンJ5.0/V以上。\*3  
Microsoft MS-DOS 5.0/V以上。  
東芝 日本語DOS Ver.3.10以上。

### ■必要メモリ容量

640Kバイト以上(EMSメモリ拡張時に動作可能)\*4

### ■ディスク

実行ファイルなどをインストールするための容量として最小で1.5Mバイト、最大で5Mバイト必要です。\*5

### ■マウス


PS/2マウス、またはシリアルマウス。\*6(マウスは必ずご準備ください)

### ■プリンタ

NEC PC-PRシリーズおよびその互換機、またはエプソンESC/Pコマンド互換機

### ■GPシリーズ

GP-*50系	GP-*50シリーズ	GP-450E、GP-550T、GP-550S、GP-B50
	GP-250シリーズ	GP-250L、GP-250B、GP-250S
GP-*30系	GP-*3Jシリーズ	GP-43J、GP-53JT、GP-53JS
	GP-*30シリーズ	GP-430、GP-530T、GP-530VM
	GP-230シリーズ	GP-230G、GP-230S、GP-230B、GP-230H

-  \*1 DOS/V対応のパソコンはOADG加盟メーカーのもので、ビデオモードがVGAのもの、またはSVGAに限ります。  
ただし、これらのパソコンをご使用の場合でも、ハードウェアなどの環境の違いによって正常に動作しないことがあります。あらかじめご了承ください。
- \*2 ビデオモードがVGA、SVGAのものに限ります。  
ただし、これらのパソコンをご使用の場合でも、ハードウェアなどの環境の違いによって正常に動作しないことがあります。あらかじめご了承ください。  
東芝 DynaBookシリーズでは、パソコンのシステム設定で使用キーボードモードを101keyにしてください。東芝製パソコンで動作確認した機種は、DynaBook EZ486P、DynaBook V486A、J-3100 PV425、J-3100 ZXです。なお、各機種に関する起動方法については「GP-PRO IIの起動と終了」をご参照ください。
- \*3 英語モードでは動作しません。
- \*4 EMSメモリをご使用になりますと、より快適な環境で作業が行えます。ただし、EMSの種類によっては正常に動作しない場合もありますので、EMSに付属のマニュアル、および「第1章4.2 EMSの設定について」をご参照ください。


- \*5 現在、お使いのシステムからGP-PRO II が起動できないことがあります。この場合はCONFIG.SYS ファイルを変更してください。(詳しくは「環境設定」をご参照ください)
- \*6 マウスは、DOSに標準のMOUSE.COM、もしくはマウスに付属のマウスドライバを使用してください。ただしシリアルマウスを使用するときは、ドライバは必要ありません。また、使用するマウスによって起動時にパラメータが必要となる場合があります。(詳しくは、「GP-PRO II の起動と終了」をご参照ください)。



● モノクロ表示のラップトップパソコンおよびノートパソコンをご使用の場合で画面が見づらく感じられるときには、LCDの表示方法をリバースにすると見やすい画面にすることができます。

## &lt;対応PLC一覧表&gt;

GP-PRO II では以下の表のようなPLC対応になっています。各PLCタイプに応じたテーブルファイルが準備されています。ご使用のPLCに合わせて作画開始時に設定してください。出荷時はメモリtoメモリ(汎用)タイプ指定となっています。

 「第2章2.1 対象PLCを設定する」

PLCメーカー	PLC	テーブルファイル名	ファイル拡張子	GP-*30シリーズ用SIOユニット*1
-	メモリtoメモリ	MTOMSIO. TBL	DLM	SIO1
三菱電機	MELSEC AnNシリーズ MELSEC A2Cシリーズ	MELSECN. TBL	DL1	
	MELSEC AnAシリーズ MELSEC AnUシリーズ	MELSECA. TBL	DLB	
	MELSEC F <sub>2</sub> シリーズ	MELSECF2. TBL	DLI	
	MELSEC FXシリーズ	MELSECFX. TBL	DLH	
	MELSEC AnNシリーズ(CPU直結) MELSEC A2Cシリーズ(CPU直結)	MELSECNP. TBL	DOK	
	MELSEC AnAシリーズ(CPU直結) MELSEC AnUシリーズ(CPU直結)	MELSECAP. TBL	DOU	
オムロン	SYSMAC Cシリーズ	SYSMACC. TBL	DL0	SIO1
	SYSMAC CVシリーズ	SYSMACCV. TBL	DLD	
シャープ	ニューサテライトJWシリーズ	NEWSATJW. TBL	DL2	SIO2
横河電機	FACTORY ACEシリーズ	FA500. TBL	DL3	SIO4
	FA-500 1:n通信(マルチ接続)	FA500M. TBL	DNQ	
富士電機	MICREX-Fシリーズ	MICREXF. TBL	DL4	SIO2
	FLEX-PCシリーズ	FLEXPC. TBL	DLO	SIO4
	MICREX-Fシリーズ(Tリンク)	TMICREXF. TBL	DON	Tリンク用ユニット
豊田工機	TOYOPUC-PC1	TOYOPC1. TBL	DL5	SIO2
	TOYOPUC-PC2	TOYOPC2. TBL	DL6	
安川電機	Memocon-5Cシリーズ	MEMCOSC1. TBL	DL9	
日立製作所	HIDIC-S10 $\alpha$ シリーズ	HIDICS. TBL	DL8	SIO3
	HIDIC H (HIZAC H)シリーズ	HIZACH. TBL	DLG	
東芝	PROSEC EX2000	PROSECEX. TBL*2	DLE	SIO4
	PROSEC EX100	PROSECX2. TBL*2	DLF	
	PROSEC T	PROSECT. TBL	DLL	
	PROVISOR Bシリーズ	TC200. TBL	DLR	
東芝機械	PROVISOR TC200			
松下電工	MEWNET-FPシリーズ	MEWNETFP. TBL	DL7	SIO3
光洋電子工業	KOSTAC SRシリーズ	KOSTACSR. TBL	DLC	
	KOSTAC SGシリーズ	KOSTACSG. TBL	DLK	
	KOSTAC SUシリーズ			

PLCメーカー	PLC	テーブルファイル名	ファイル 拡張子	GP-*30シリー ズ用SIO ユニット*1
松下電器 産業	Panadac 7000シリーズ	P7000. TBL	DLP	SIO4
GE ファナック	GEファナックシリーズ 90	GEF-CCM. TBL	DNS	SIO6
	GEファナックシリーズ 90SNP	GEF-SNPX. TBL	DNT	
和泉電気	PF2-CPU1	IDEC_1. TBL	DNV	-
	PF2J-CPU1, PF3S-CP11	IDEC_2. TBL	DNW	
	PF2-CPU5M, PF3S-CP12, PF3S-CP13	IDEC_3. TBL	DNX	
	MICRO <sup>3</sup>	MICRO3. TBL	DNZ	
AllenBradley	SLC-5/03, SLC-5/04	SLC500. TBL	DLY	-
ファナック	Power Mate-MODEL D	FANUCNC. TBL	DNY	-
キーエンス	KZシリーズ	KEYENCE. TBL	DO0	-

**注意**

- GP-PRO II Ver.2.03までのテーブルファイルはご使用になれません。
- GP-PRO II で作成した画面データファイルにはPLCの設定に応じた拡張子が自動的につきます。拡張子の違うファイルを相互にアクセスさせることはできません。
- 作成したファイルをDOSのコマンドなどで改変しないでください。誤動作の原因になります。  
(例)・ リネームコマンドを使用してのファイル番号やファイル名の変更  
・ エディタプログラムを使用してのファイルデータの中身の変更/削除/追加
- ファイル番号、PLCタイプなどを変更したい場合には、**F2-ファイル**「ユーティリティ」を使用します。



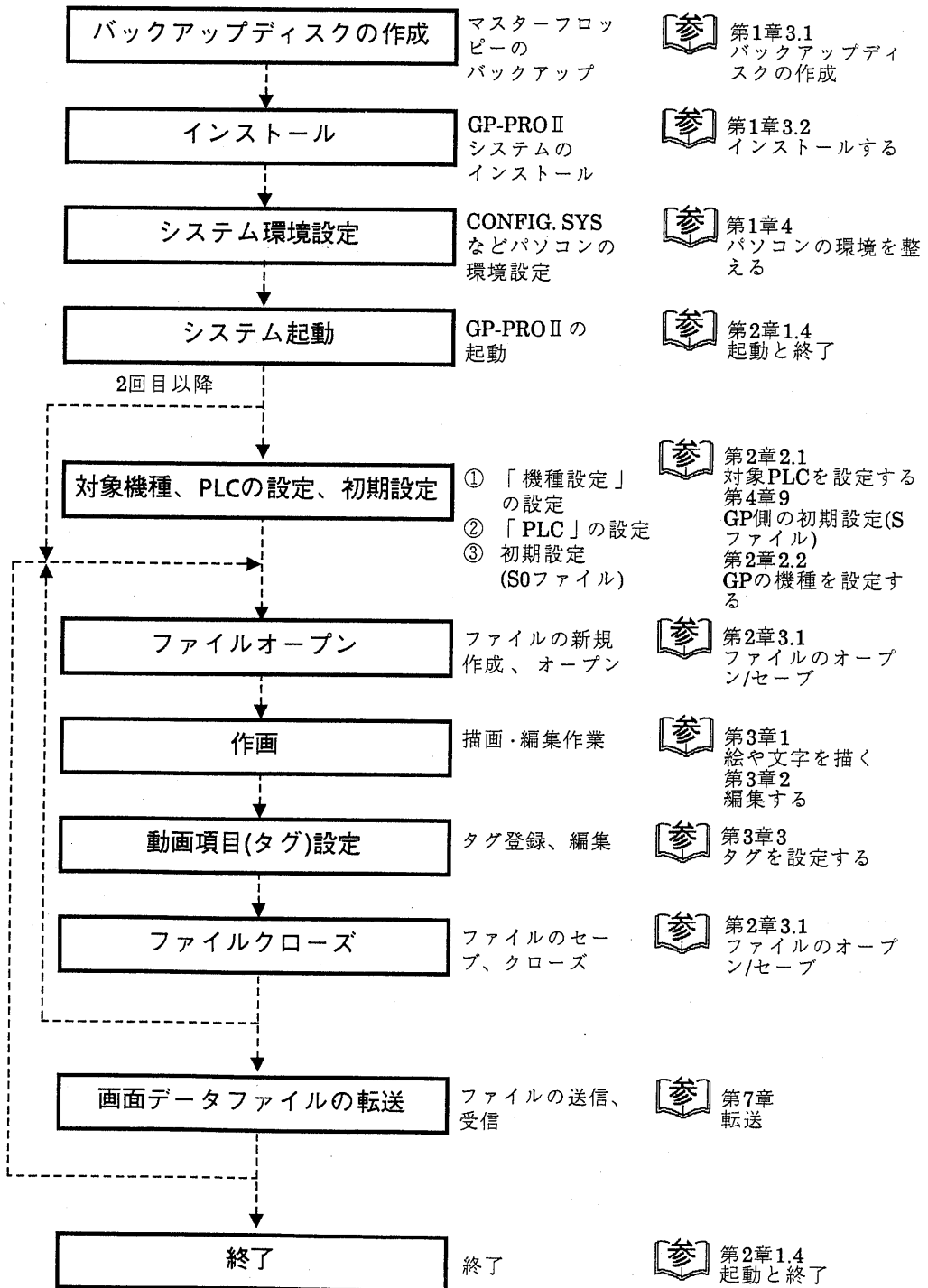
「第4章11.2 ファイル番号の変更」「第4章11.4 PLCタイプの変更」



- \*1 GP-\*30シリーズを使用する場合にはユニットが必要です。メモリ toメモリ通信で  
パラレル通信を行う場合には、DIOユニットとなります。
- \*2 Ver.2.03以前のGP-PRO II とテーブルファイル名が変更されていますのでご注意ください。  
なお、作画データの拡張子の変更はありません。



### 3 システム構築手順

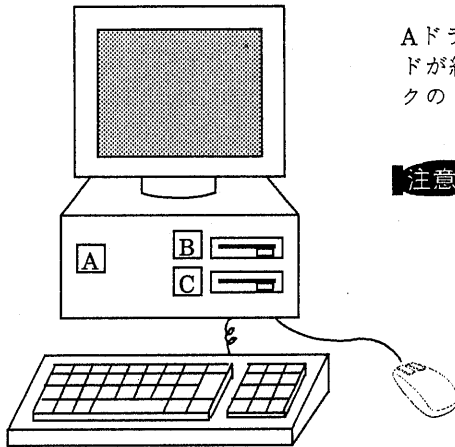


## 3 インストール

GP-PRO II をパソコンのハードディスクにインストールします。

### 1 バックアップディスクを作る

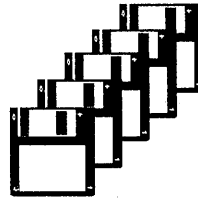
インストールを行う前に「GP-PRO II」のバックアップディスクを作り、万一誤ってマスターフロッピーディスクの内容を失ってしまった場合に備えます。



用意するもの



GP-PRO II マスターフロッピー  
Disk1~5  
(裏面のノッチを下げて書き込み  
禁止状態にします)



2HDフロッピーディスク 4枚  
「GP-PRO II/98」の場合 1.2MBフォーマット  
「GP-PRO II/V」の場合 1.4MBフォーマット

Aドライブ(ハードディスク)には既にDOSのコマンドが組み込まれているとします。フロッピーディスクのドライブ名をB,Cとします。

注意

- 「GP-PRO II/V」をご使用の場合は、下記のドライブ指定をご参照ください。

パソコン ドライブ	PC98シリーズ パソコン	DOS/V パソコン
ハードディスク	A	C
FD1	B	A
FD2	C	B

A>DISKCOPY B: C:

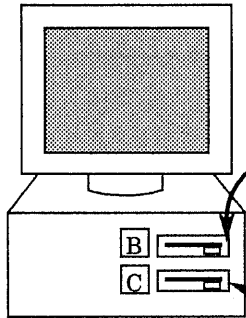
ディスクコピーを行います。  
以下のようにキーボードから入力します。  
(\_はスペースキーを示します)

DISKCOPY \_B:\_C:



- DOC/Vパソコンをご使用でFDドライブがAのみの場合は、「DISKCOPY \_A:\_B:」とキーボードから入力を行い、後はDOSのメッセージに従ってください。

ディスクのコピーを行います  
 送り側ディスクをドライブB:に挿入してください  
 受け側ディスクをドライブC:に挿入してください  
 準備ができたらどれかのキーを押してください



BドライブにマスターフロッピーのDisk1を、Cドライブに準備したフロッピーのうちの1枚を入れ、  
を押します。

GP-PRO II マスターフロッピー  
 Disk1~5

フォーマット済みフロッピー  
 No.1~5

コピーは終了しました  
 もう一度実行しますか(Y/N)

Disk1のコピーが終了すると、左のように表示されます。

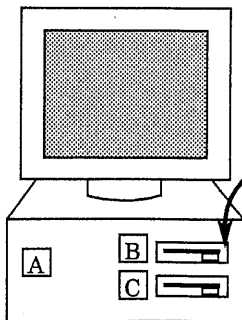
Y

画面の指示にしたがって、枚数分のディスクコピーをくり返します。ディスクコピーがすべて終了したらNを入力します。

これでGP-PRO IIのバックアップディスクができました。このディスクをバックアップマスターと呼びます。以降の作業は、バックアップマスターを使って行います。

## 2 インストールする

ハードディスクにGP-PRO IIをインストールします。インストールは、インストール用プログラムを作動させて行います。



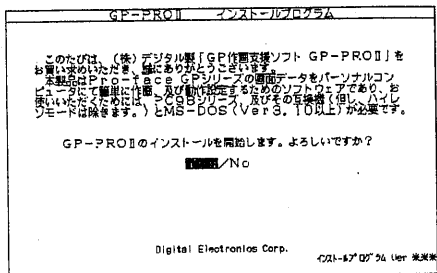
パソコンの各ドライブのカレントディレクトリはルートディレクトリとします。  
 バックアップマスターのDisk1をドライブBに入れます。

バックアップマスター  
 Disk1

```
B>INSTALL *1
```

以下のように入力します。

```
INSTALL 
```



以下、画面の指示にしたがって作業を進めてください。



- インストールが開始されるとインストールされるファイルごとに進行状況を示すグラフと%が表示されます。



- 単にマスターディスクからファイルをコピーしただけでは、GP-PRO IIをインストールしたことにはならず、GP-PRO IIを起動できません。  
必ず、インストール用プログラムを使ってインストールしてください。



- \*1 「GP-PRO II / V」では、次のようなオプションが必要な場合があります。

```
A>INSTALL _-*: * 
```

↓  
オプション#2

- \*2 オプション

- グラフィックモードを指定します。GP-PRO2は起動時に自動的にグラフィックモードを判断し、適切なモードで動作するようになっていますが、一部の機種では判断できずに間違ったモードで動作したり、まったく起動しない場合があります。その場合には、以下のパラメータを使用し、強制的にモードを指定して動作させます。

-e:7 :640×480ドット、VGAモードで使用する場合

-o :640×400ドット、東芝製パソコンを使用する場合

(ただし、このグラフィックモード指定をしても、正しく動作しない場合もあります)

以下の東芝製のパソコン動作確認機種については、次のようなオプションで起動してください。

- ・DynaBook V486A、DynaBook SS450などのDOS/V機種

```
INSTALL _-e:7 
```

なお、このオプションはGP-PRO II起動時にも使用します。

## 4 パソコンの環境を整える

### 1 CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定例

CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの設定例を示します。  
どちらも、DOSの立ち上げに関するファイルです。必要に応じて参考にしてください。

#### (1) CONFIG.SYS

CONFIG.SYSファイルはDOSの動作環境を整えるためのファイルです。CONFIG.SYSの設定例は以下のとおりです。この内容はGP-PRO IIを起動させるための最小限の設定として参考にしてください。

#### 「GP-PRO II/98」の場合

```
FILES=10
BUFFERS=8
DEVICE=¥ MOUSE.SYS
DEVICE=¥ ATOK6A.SYS
DEVICE=¥ ATOK6B.SYS
```

#### 注意

- CONFIG.SYSの詳細についてはDOSのマニュアルを参照してください。
- かな漢字入力を行うには日本語FEP(フロントエンドプロセッサ)を組み込む必要があります。FEPの組み込み方はその説明書を参照し、CONFIG.SYSを用いるようにしてください。なお、本製品にはFEPは含まれておりません。GP-PRO IIでは(株)ジャストシステムのATOK6、ATOK7、ATOK8について動作確認しています。


#### 「GP-PRO II/V」の場合

```
□ パソコン      : DOS/V対応のパソコン
OSバージョン    : IBM DOSバージョンJ5.0/V
FEP             : IBM IBMMKKV
マウス         : PS/2マウス
```

```
FILES=30
BUFFERS=20
DOS=HIGH,UMB
COUNTRY=081,932,C: ¥ DOS ¥ COUNTRY.SYS
SHELL=C: ¥ COMMAND.COM /P
DEVICE=C: ¥ $FONT.SYS
DEVICE=C: ¥ HIMEM.SYS
DEVICE=C: ¥ EMM386.EXE 1024 RAM
DEVICE=C: ¥ MOUSE.SYS
DEVICEHIGH=C: ¥ $DISP.SYS *1
DEVICEHIGH=C: ¥ $IAS.SYS /R=1 *1
INSTALL=C: ¥ IBMMKKV.EXE /M=S /Z=4 /C /S=
C: ¥ $MULTDCT.PRO /U=C: ¥ $USRDICT.DCT
```

#### 注意

- 上記の設定は、IBM DOSバージョンJ5.0/V以上を使用した場合の参考値です。MS-DOSバージョンJ5.0/Vの場合はデバイスドライバ名等が異なる場合があります。

-  \*1 この2項目は、DEVICE=へ指定しても使用できます。ただし、DEVICE=に指定すると基本メモリーにデバイスドライバを読み込むため、フリー領域(プログラム実行可能な領域)が狭くなります。そのためここではフリー領域を広くとるためにDEVICEHIGH=と指定しています。DEVICEHIGHへ指定するには、HIMEM.SYSの指定が必要です。  
(なお、DOS/V対応パソコンをご使用の場合、DOS/Vシステムに付属のプリンタドライバ < \$PRNUSER.SYS, \$PRNESC.P.SYS > は使用しないでください)

パソコン : J-3100シリーズ  
OSバージョン : 東芝 日本語DOS Ver.3.10  
FEP : ATOK7  
マウス : シリアルマウス

FILES=10  
BUFFERS=8  
DEVICE=C: ¥ ATOK7A.SYS /D=C: ¥ ATOK7.DIC  
DEVICE=C: ¥ ATOK7B.SYS

### 注意

- CONFIG.SYSの詳細についてはDOSのマニュアルを参照してください。
- かな漢字入力を行うには日本語FEP(フロントエンドプロセッサ)を組み込む必要があります。FEPの組み込み方はその説明書を参照し、CONFIG.SYSを用いるようにしてください。なお、本製品にはFEPは含まれておりません。  
GP-PRO II では以下のFEPについて動作確認しています。
  - ・ IBM DOS/Vの連文節変換プログラム (IBMMKKV.EXE)
  - ・ マイクロソフト日本語入力システム (MS IME)
  - ・ (株)ジャストシステム ATOKシリーズ
  - ・ (株)バックス VJE/βシリーズ

## (2) AUTOEXEC.BAT

AUTOEXEC.BATとは立ち上げ時に自動実行させたい処理を登録しておくファイルです。AUTOEXEC.BATの設定例は以下のとおりです。この内容はGP-PRO II を起動させるための最小限の設定として参考にしてください。

### 「GP-PRO II /98」の場合

```
ECHO OFF
ECHO GP-PRO2/98 VERSION *.*
ECHO copyright by DIGITAL 1992,1994
CD GPPRO2      注)*.**にはバージョンナンバーが示されます。
GPPRO2
```

### 「GP-PRO II /V」の場合

- DOS/V対応パソコンを使用した場合

```
@ECHO._OFF
SET._SYS=C:
SET._COMSPEC=C: ¥ COMMAND.COM
PROMPT._$P$G
PATH._C: ¥ ;C: ¥ GPPRO2
KEYB.COM JP,932,C: ¥ KEYBOARD.SYS
```

- J-3100を使用した場合

```
ECHO_OFF
PROMPT_$P$G
SET_PATH_C: ¥ ; C: ¥ GPRO2
```

これらは、インストール用プログラムにそのまま従ってGP-PRO IIをインストールした場合のAUTOEXEC.BATの一例です。デフォルトに従ってインストールし、特に支障がなければ、このファイルをそのままご使用いただくと、電源をONしてDOSが立ち上がったときに自動的にGP-PRO IIが起動します。

**注意**

- AUTOEXEC.BATの詳細についてはDOSのマニュアルを参照してください。

## 2 EMSの設定について

EMS(Expanded Memory Specification)とは、メモリ拡張システムの規格の1つです。EMSメモリを組み込むとDOSにおけるメモリの制約がとれ、640Kバイト以上のユーザーズメモリを使用することができます。拡張メモリの使用により次のような効果があります。

- ・ 操作スピードが速くなる
- ・ データ使用領域が増えるので、扱えるデータ量が増加する。

EMSメモリを組み込むには、EMS拡張メモリボードとそれを管理するデバイスドライバ(EMSメモリマネージャ)が必要です。パソコンに標準添付されているメモリとメモリマネージャを使用する場合のCONFIG.SYSの例を以下に示します。

### 「GP-PRO II/98」の場合

- 80386系CPUのPC-9801シリーズパソコンを使用した場合

```
FILES=10
BUFFERS=8
DEVICE= ¥ EMM386.SYS /F=C000
DEVICE= ¥ MOUSE.SYS
DEVICE= ¥ ATOK7A.SYS /D=A: ¥ ATOK7.DIC
DEVICE= ¥ ATOK7B.SYS
```

**注意**

- ページフレームアドレスは、必ずC000Hにしてください。  
(上の例の /F=C000の部分)
- プロテクトメモリを使用する場合は必ずXMSドライバを使用してください。
- デバイスドライバやハードウェアによっては正常に動作しない場合があります。
- EMSメモリの運用についてはEMS付属のマニュアルをご参照ください。
- EMSを使用した場合でも、DOSメインメモリの空き領域はGP-PRO II実行前に480Kバイト以上必要です。

- GP-PRO II は、すでにEMSを使用している場合でも自動的に空いている領域を確保します。
- GP-PRO II は立ち上がり時にEMSを検知すると、画面に「GP-PRO II をEMSに組み込みました。...」というメッセージを表示します。
- DOSのメインメモリの消費量が限界\*に達すると、エラーメッセージ\*\*が出たり、ウインドウの表示スピードが極端に遅くなる場合があります。このような場合は、EMS(拡張メモリ)を搭載したシステムでのご使用をおすすめします。EMSを使用していない場合は、CONFIG.SYSの内容を変更してメインメモリの使用量を増やしてください。

\* ファイルを多層プロット(ネスティング)した場合などに発生します。

\*\* エラーメッセージ

1. 通常の作画作業を行っている途中でシステムメモリの限界に達したとき

(エラーメッセージ)

"メモリが足りません"

"システムメモリのリミットを超えました"

"最大サイズを超えました! すべての描画機能は無効です"

2. ファイルやマークを呼び出し中にシステムメモリの限界に達したとき

"メモリが足りません"

"ファイル呼び出しを中断しました"

#### 対処方法

システムメモリの容量が足りなくなりましたので、作画途中のファイルをセーブし、システムメモリの容量を増やしてください。そのあと、もう一度ファイルをオープンして、作画を続けることができます。  
ただし、最後に作画した内容は無効になります。  
その他については、GPに転送すると、正常に表示されます。

#### 「GP-PRO II/V」の場合

- DOS/V対応パソコンを使用した場合

```
FILES=30
BUFFERS=20
DOS=HIGH, UMB
COUNTRY=081,932,C:¥DOS¥COUNTRY.SYS
SHELL=C:¥COMMAND.COM /P
DEVICE=¥$FONT.SYS
DEVICE=¥HIMEM.SYS
DEVICE=¥EMM386.EXE 1024 RAM
DEVICE=¥MOUSE.SYS
DEVICEHIGH=¥$DISP.SYS
DEVICEHIGH=C:¥IAS.SYS /R=1
INSTALL=C:¥IBMMKV.EXE /M=S /Z=4 /C
/S=C:¥$MULTDCT.PRO
/U=C:¥$USRDICT.DCT
```



## □ J-3100を使用した場合

```
FILES=10
BUFFERS=8
DEVICE=¥ EMM386.SYS
DEVICE=¥ ATOK7A.SYS /D=C:¥ ATOK7.DIC
DEVICE=¥ ATOK7B.SYS
```

**注意**

- プロテクトメモリを使用する場合は必ずXMSドライバを使用してください。
- デバイスドライバやハードウェアによっては、正常に動作しない場合があります。
- EMSメモリの運用についてはEMS付属のマニュアルをご参照ください。
- EMSを使用した場合でも、DOSメインメモリの空き領域はGP-PRO II実行前に480Kバイト以上必要です。
- GP-PRO IIは、すでにEMSを使用している場合でも自動的に空いている領域を確保します。
- GP-PRO IIは立ち上がり時にEMSを検知すると、画面に「GP-PRO IIをEMSに組み込みました。...」というメッセージを表示します。
- DOSのメインメモリの消費量が限界\*に達すると、エラーメッセージ\*\*が出たり、ウインドウの表示スピードが極端に遅くなる場合があります。このような場合は、EMS(拡張メモリ)を搭載したシステムでのご使用をおすすめします。EMSを使用していない場合は、CONFIG.SYSの内容を変更してメインメモリの使用量を増やしてください。

\* ファイルを多層プロット(ネスティング)した場合などに発生します。

## \*\* エラーメッセージ

1. 通常の作画作業を行っている途中でシステムメモリの限界に達したとき

(エラーメッセージ)

"メモリが足りません"

"システムメモリのリミットを超えました"

"最大サイズを超えました!すべての描画機能は無効です"

2. ファイルやマークを呼び出し中にシステムメモリの限界に達したとき

"メモリが足りません"

"ファイル呼び出しを中断しました"

## 対処方法

システムメモリの容量が足りなくなりましたので、作画途中のファイルをセーブし、システムメモリの容量を増やしてください。そのあと、もう一度ファイルをオープンして、作画を続けることができます。

ただし、最後に作画した内容は無効になります。

その他については、GPに転送すると、正常に表示されます。

## 第2章

GP-PRO II の基本  
事項

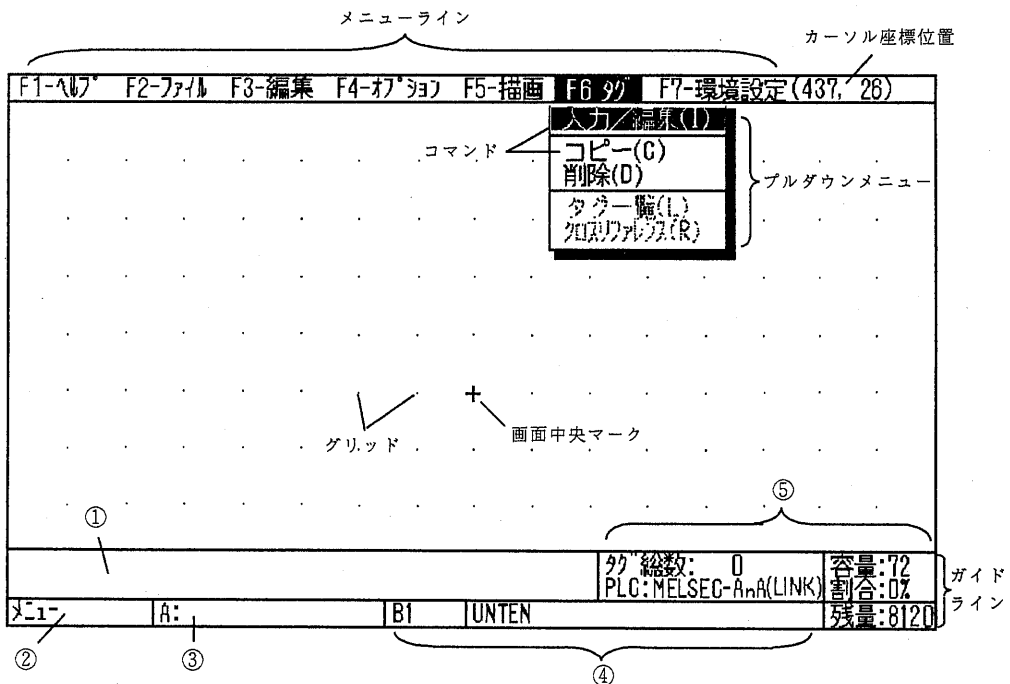
GP-PRO II の画面概要や操作方法など、GP-PRO II 全体に共通した基本事項を示します。

- 1 GP-PRO II の基本操作
- 2 対象機種の設定
- 3 操作開始

## 1 GP-PRO II の基本操作

## 1 画面各部名称


GP-PRO II で使用する画面の説明をします。





画面下部のガイドラインの各表示の意味を以下に示します。

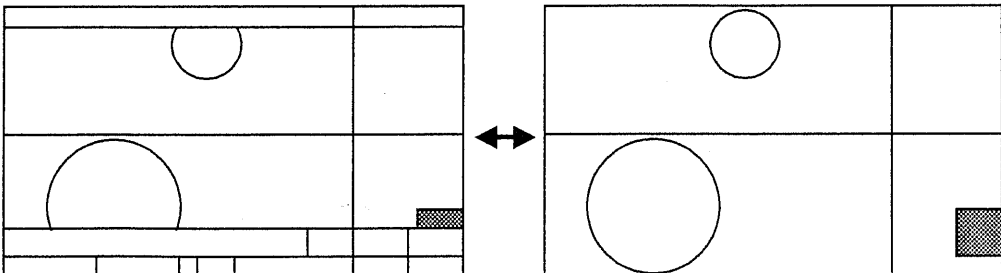
- ① 操作に関する説明や注意のメッセージです。描画時にはアイコンなどが現れます。
- ② 現在、選択されているコマンドです。

- ③ 現在指定されているディレクトリを表示します。
- ④ 現在オープンしているファイルのファイル名とタイトルです。
- ⑤ 作成中のファイルに関する情報です。
- タグ総数 : ファイルに設定されているタグの総数です。  
ライブラリ呼び出しで画面を合成している場合は、ライブラリのファイル上で設定しているタグも加算して表示\*1します。
- PLC : 選択されているPLCのタイプを表示します。
- 容量 : オープン中ファイルの使用容量(=ファイルのサイズ)を示します。  
単位はバイトです。
- 割合 : 使用容量が最大ファイルサイズに対して何%になるかを示します。
- 残量 : オープン中ファイルの使用可能残りバイト数です。


 \*1 複数画面を合成した結果、タグが1画面当たりの最大数256個を超えてしまった場合、タグ総数の表示が赤色となります。このとき、256個を超えたタグについてはGP上では無効となります。

## <画面表示の切り替え>

画面作成エリアの上部と下部は、通常、メニューラインとガイドライン(以下、メニュー&ガイドラインと表記します)の下に隠れています。メニューラインの下には上部25ドット分(Y座標0~24の範囲)が、ガイドラインの下には下部70ドット分(同330~399の範囲(縦400ドットパソコン使用時のみ))が隠れています。画面作成エリアをフルに使って作業したい場合には、任意の位置での右クリック\*1または  (DOS/Vパソコンでは ) の入力により、メニュー&ガイドラインの表示/非表示を切り替えることができます。



GP-550系(640×480ドット)の画面では、さらにY座標400~479の範囲が画面作成エリア外に隠されています。画面をスクロールさせて表示エリアを切り替えます(縦400ドットパソコン使用時のみ)。

 を押すと、押すたびに画面が上下にスクロールして表示エリアが切り替わります。また、画面最上部で右クリックすると80ドット分上に、最下部で右クリックすると80ドット分下にスクロールします。



- 削除などのコマンド実行中にメニュー&ガイドラインを非表示にしても、モードはそのコマンド実行中のままです。続けて作業できます。また、キーボードからファンクションキーを入力することにより、プルダウンメニューを表示し、コマンドを選択することもできます。
- 描画や編集などを画面上で実行する際には、自動的にメニュー&ガイドラインが消えて、フル画面で作業を行うことができます。

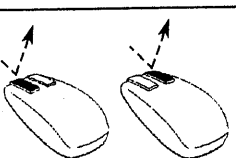

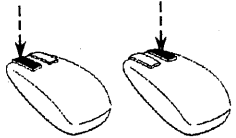







\*1「第2章1.2 マウス/キーボード基本操作」













## 2 マウス/キーボード基本操作

GP-PRO IIはマウスまたはキーボードで操作します。その基本操作を下に示します。















### マウス操作

マウス	呼びかた/ 本マニュアル内表記	操作方法
	クリック 	マウスのボタンを押してすばやく離します。クリックするのが左側のマウスボタンなら左クリック、右側のマウスボタンなら右クリックと呼びます。
	ドラッグ 	マウスボタンを押したままマウスを移動させます。これも左右どちらのボタンかにより、左ドラッグ、右ドラッグと呼びわけます。
	ダブルクリック 	左ボタンをすばやく2回クリックします。
	同時クリック 	左右マウスボタンを同時にクリックします。


### マウス/キーボード操作対応表

動作	画面中では	キーボード	マウス
マウスカーソルの移動		 (  +で8ドット単位で移動します)	マウス自体の移動
確定実行	 	 or  	画面中のボタンを左クリック
否定実行			画面中のボタンを左クリック
取消		 or 	右クリック、もしくは画面中のボタンを左クリック

### 文字入力時に有効なキー操作

キーボード		機能
PC98シリーズ	DOS/V	
		カーソルが一文字分右へ移動
		カーソルが一文字分左へ移動
		カーソルが文字列の先頭へ移動
		カーソルが文字列の最終位置へ移動
		現在のカーソル位置の一つ前の文字を消去
		現在のカーソル位置の文字を消去
		挿入モードと上書きモードの切り替え



- カーソルはポイント位置や状態により形状が変化します。
  - (矢印カーソル) ..... メニューの選択時や項目設定時など
  - ✚ (クロスカーソル) .... 描画時、座標位置指定など
  - (アンダーカーソル) .. 文字入力時(挿入モード時)
  - (ボックスカーソル) .. 文字入力時(上書きモード時)
- 作業中にマウスが動かなくなってしまった場合は、を押してください。正常動作に戻ります。

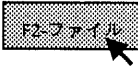

## 3 操作の進め方

GP-PRO IIの基本的な操作の進め方を説明します。

### (1)メニューを選択する

(例 F2-ファイル)



マウス	キーボード
選択したいメニュー上で左クリックする 	対応するファンクションキーを押す 

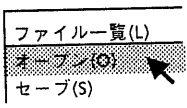

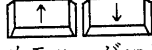

ブルダウンメニューを閉じたいときは別のメニューを選択するかももう一度上記の操作を行います。

## (2) コマンドを実行する

(例 オープン)

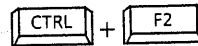
F2-ファイル	
ファイル一覧(L)	Ctrl-F1
オープン(O)	Ctrl-F2
セーブ(S)	Ctrl-F3
ウインドウ登録(W)	Grph-W
転送(T)	Ctrl-F4
プリント(P)	Ctrl-F5
ユーティリティ(U)	Ctrl-F6
ファイル情報(I)	Ctrl-F7
GP PROについて	Ctrl-F8
DOSコマンド(D)	Ctrl-F9
終了(Q)	Grph-X

ショートカットキー      ホットキー

マウス	キーボード
実行したいコマンド 上で左クリックする 	対応するアルファ ベットキーを押す (ショートカット キー)*1 
	 で メニューバーを移動 させて  を押す

- ホットキー\*2を入力するとプルダウンメニューをオープンしなくても直接コマンドを実行することができます。

(例オープン)



\*1\*2      ホットキー、ショートカットキーの一覧



「巻末資料4 ホットキー/ショートカットキー一覧」

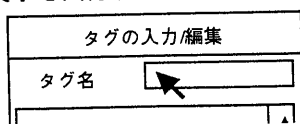
## (3) 項目を設定する、画面を作成する


本書の各コマンドの説明にしたがって、必要な項目設定、または描画・編集を行ってください。

### ダイアログボックス内の操作

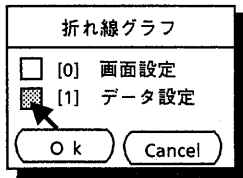
コマンドを選択するとそれに関する設定項目や選択項目の枠が表示されることがあります。それをダイアログボックスと呼びます。ダイアログボックス内のマウス/キーボード操作について説明します。

文字を入力する



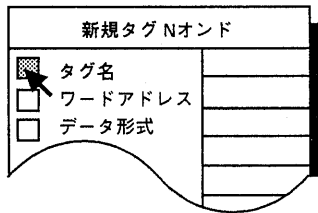
文字を入力したい枠内を左クリックするか  を押すと枠内にカーソルが現れ、入力可能状態になります。  
 キーボードから文字を入力します。

項目を選択する



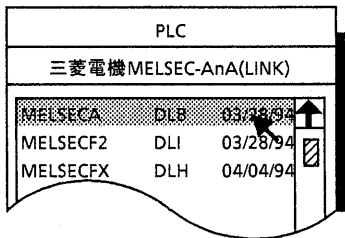
選択したい項目の左の□を左クリックするか□の横の数字をキーボードから入力します。

項目を設定する



設定したい項目の左の□を左クリックすると、その項目が設定可能状態になります。

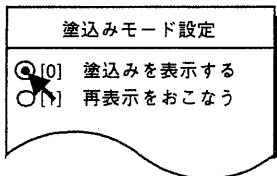
リストから選択する



選択したい項目上で左クリックするか、  
  でバーを移動させて項目上に合わせ、  
 または  を押します。項目上でダブルクリックすると  を省略できます。

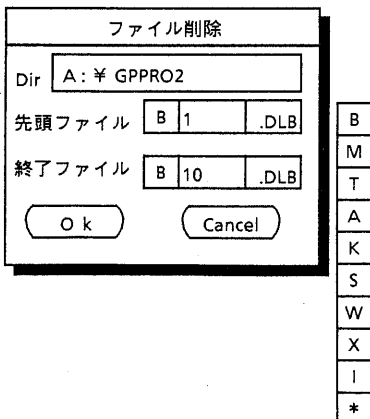
リスト横の   を左クリックするとリストが1行ずつスクロールします。  の間の  を左ドラッグすると相当位置にリストを大きくスクロールさせることができます。

指定する



○を左クリックするごとに●(指定する)と○(指定しない)が切り替わります。○の横の数字をキーボードから入力しても指定できます。

ファイルの種類と番号を設定する

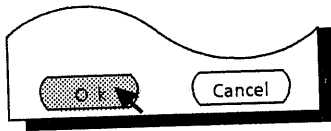


Dirには現在指定中のディレクトリが表示されます。変更する場合は枠内を左クリックして入力します。

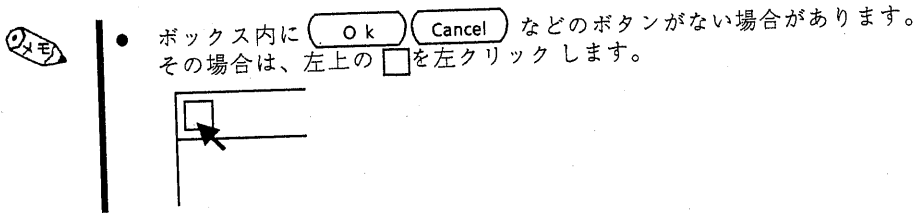
を左クリックするか  を押すとファイルの種類を示すファイルヘッダが縦一列に表示されます。ファイルヘッダ上を左クリックして選びます>(\*はワイルドカード<すべてのファイルヘッダ>指定です)。先頭ファイルのファイルヘッダと終了ファイルのファイルヘッダは必ず同じものになります。

ファイルヘッダ横の枠内を左クリックして、ファイル番号をキーボードから入力します。ファイル番号が入力できたら、確定のために  か  を入力してください。

ダイアログボックスをクローズする



項目設定が完了したら「Ok」で実行します。ダイアログボックスは自動的にクローズします。また、「Cancel」を入力すると、設定を中止してダイアログボックスがクローズします。



<日本語FEPの起動>

かな漢字入力を行うときは日本語FEPを起動してください。CTRL + XFER (DOS/VパソコンではALT + 半角/全角)で起動と終了が切り替わります。日本語FEP起動時には、画面最下部が文字列の変換エリアになります。←で確定すると、入力待ち状態の設定枠に文字が表示されます。

J3100シリーズパソコンは 漢字 で起動してください。

- 注意 ● FEPにより変換した漢字・特殊文字の中には、GP本体上で対応していないもの(①、Ⅱなど)があります。その場合には、GP上で正しく表示されません。
- 文字変換の方法は各FEPの説明書を参照してください。

## 4 起動と終了

<起動のしかた>

Aドライブの¥GPPRO2というディレクトリにGP-PROIIがインストールされているものとします。

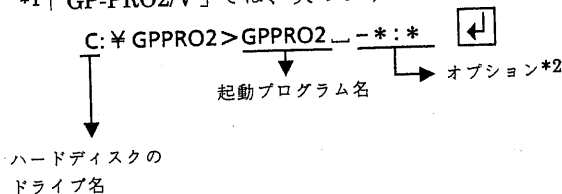
①

```
A:¥GPPRO2>GPPRO2 *1
```

DOSを立ち上げ、GPPRO2というディレクトリがカレントの状態です。以下のように入力します。

```
GPPRO2 ↓
```

\*1「GP-PRO2/V」では、次のようなオプションが必要な場合があります。





## \*2 オプション

- 使用するマウスを指定します。使用するマウスにあわせて以下のパラメータを設定してください。

**-m:d** :PS/2マウスを使用する場合  
(この場合、マウスドライバをインストールしておいてください。)

**-m:1** :シリアルマウスを使用し、ポートCOM1に接続している場合

**-m:2** :シリアルマウスを使用し、ポートCOM2に接続している場合

- グラフィックモードを指定します。GP-PRO2は起動時に自動的にグラフィックモードを判断し、適切なモードで動作するようになっていますが、一部の機種では判断できずに間違ったモードで動作してしまう場合があります。その場合には、以下のパラメータを使用し、強制的にモードを指定して動作させます。


**-e:7** :640×480ドット、VGAモードで使用する場合

**-o** :640×400ドット、東芝製パソコンを使用する場合

(ただし、このグラフィックモード指定をしても、正しく動作しない場合があります)

東芝製のパソコン動作確認4種については、次のようなオプションで起動してください。

- ・DynaBook V486A、DynaBook SS450などのDOS/V機種


GPPRO2 \_ -e:7 

- ・DynaBook EZ486P、J-3100 PV425などの東芝DOS機種



シリアルマウスをご使用の場合

GPPRO2 \_  または GPPRO2 \_ -m:1 または -m:2 

PS/2マウスをご使用の場合(MOUSE.COMまたはMOUSE.SYSの組み込みが必要です。)

GPPRO2 \_ -m:d 

- ・J-3100 ZX

GPPRO2 \_  または GPPRO2 \_ -m:1 または -m:2 

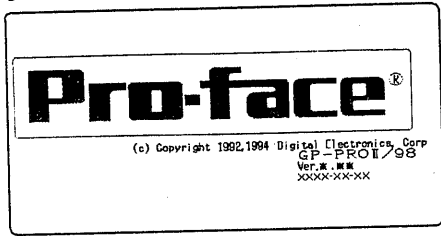
 注意

- オプションを設定せずに起動した場合、DOS/V対応パソコンではPS/2マウスを、J-3100ではシリアルマウス(ポートCOM1)が初期値になっており、自動的に指定されます。



- EMSが組み込まれている場合は「GP-PROIIをEMSに組み込みました…」と表示されます。
- MOUSE.SYSが組み込まれていない場合は「マウスが使用できません…」と表示されます。

②



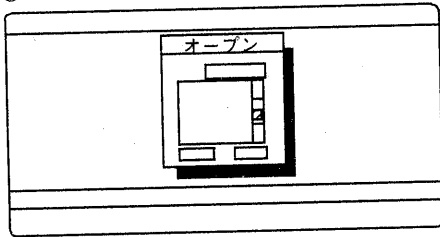
スタートアップ画面が表示されます。

スタートアップ画面の表示を中断したい場合は右クリックするか **ESC** を押してください。

注) \*.\*は、バージョンナンバーを表します。  
 XXは日付を表します。

日付  $\begin{matrix} \text{年} & \text{月} & \text{日} \\ \times\times\times\times & / & \times\times & / & \times\times \end{matrix}$

③



起動時には、ファイルオープンのダイアログボックスが自動的に表示されます。

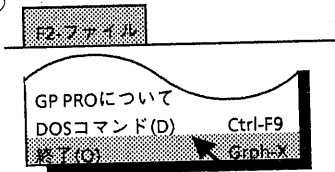


ファイルをオープンする場合→  
 「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

オープン以外の設定を行う場合→  
**Cancel** で取り消し実行してください。

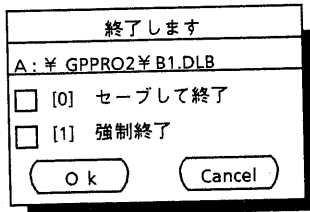
### <終了のしかた>

①



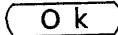
終了を選択します。

②

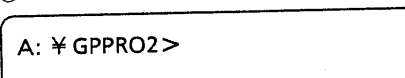


作画データを保存する場合→**セーブして終了**を選択します。

保存しない場合→**強制終了**を選択します。



③



(DOSのプロンプト状態に戻ります)



- ファイルに何も追加、変更をしていない場合は「終了します」のダイアログボックスを表示せずに自動的に終了します。

## 2 対象機種の設定

画面作成を開始する前に、必ず行っておくことに、対象機種の設定があります。

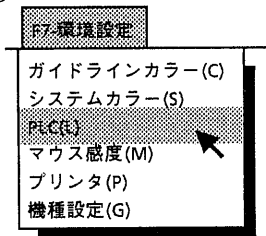
- 1 どのPLC用のデータか
- 2 どのGP用のデータか

を必ず設定してから作画作業を行ってください。

### 1 対象PLCを設定する

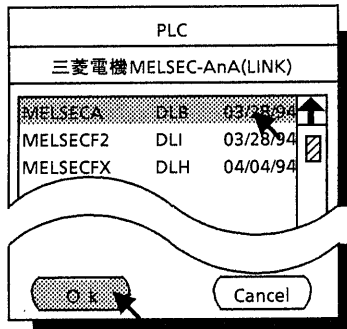
GP本体を接続するPLCの機種を設定します。

①



PLCを選択します。

②



PLCタイプを選択します。

参 「第1章2.2 開発環境図/対象 PLC一覧表」

例

三菱電機 MELSEC-AnA(LINK)

Ok

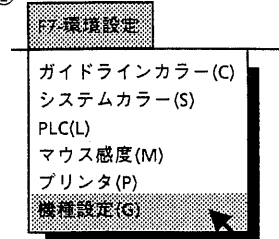
以後、PLCの機種指定を変更しない限り、設定したPLC用の画面データが作成されます。作成後の画面データを他のPLC用のデータに変換することもできます。

参 「第4章11.4 PLCタイプの変更」

### 2 GPの機種を設定する

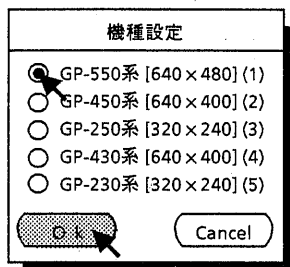
ご使用になるGP本体の機種を設定します。出荷時設定は、GP-430系です。機種によって作画領域や機能が異なるため、必ず画面作成を行う前に設定してください。

①



機種設定を選択します。

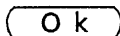
②



GP本体の機種を選択します。

例

GP-550系



「機種設定」は下表をご参照のうえ、ご使用のGPの機種と正確に合わせて設定してください。間違った機種を選択すると、GP-PRO II上で設定できる機能とGP上で使用できる機能との間に違いが生じます。

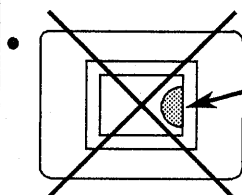
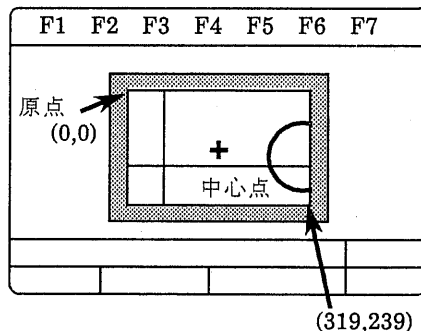
### <機種設定一覧表>

GP-PRO II 機能	画面領域	機種名
GP-550系	640×480	GP-550T、GP-550S、GP-B50
GP-450系	640×400	GP-450E
GP-250系	320×240	GP-250L、GP-250B、GP-250S
GP-430系	640×400	GP-430、GP-530T、GP-530VM GP-43J、GP-53JT、GP-53JS
GP-230系	320×240	GP-230G、GP-230S、GP-230B GP-230H

#### 注意

GP-230,GP-250シリーズの作画領域について

- GP-230,GP-250系を選択した場合は作画領域は320×240ドットの表示領域に応じたエリアになります。原点座標なども図のように変わります。



図形を塗込む場合は、作画領域を塗込みの境界に使用しないでください。

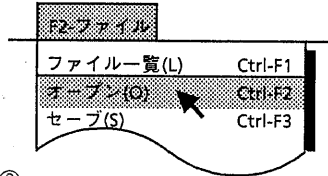
## 3 操作開始

### 1 ファイルのオープン/セーブ

GP-PRO II では、画面作成を開始するときには必ずファイルをオープンします。ファイルのオープンおよび作成したファイルのセーブのしかたを示します。

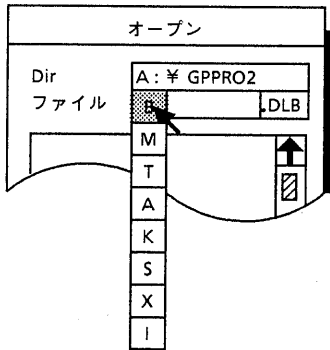
#### 1 ファイルをオープンする

①



オープンを選択します。

②



ディレクトリとファイルの種類を指定します。

**Dir** 現在指定されているディレクトリ以外のファイルをオープンする場合には変更できます。

**参** 「本章1内 表示ディレクトリ以外のディレクトリの指定方法」

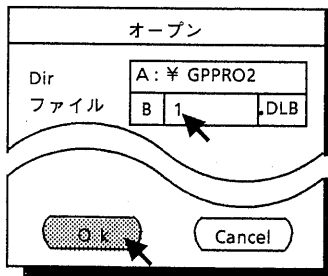
**ファイル** ファイルヘッダ上を左クリックするとファイルヘッダが縦一列に表示されます。左クリックで選択します。ここでは**B**を選択します。

**参** 「第1章1.2 ファイルの種類」

ファイルは新規作成のためにオープンする場合と、既存ファイルをオープンする場合とがあります。

#### (1) ファイルを新規作成するとき

③

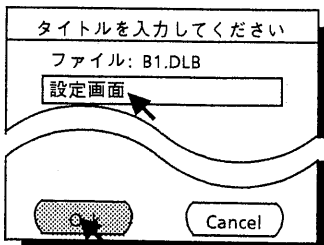


ファイル番号を入力します。

例  
1

Ok

④



ファイルのタイトルを入力します。(半角で30字分以内 ただしカンマ「,」は使用しないでください)

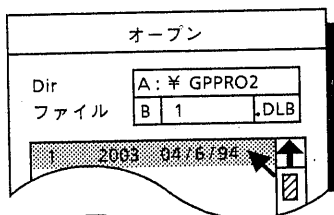
**参** 日本語入力するときは→「第2章1.3 操作の進め方<日本語FEPの起動>」

例  
**設定画面** ( ← でタイトル入力枠内に文字を格納してください)

Ok

## (2) 既存ファイルをオープンするとき

③



リストから選択します。またはファイル番号を入力して  します。

④



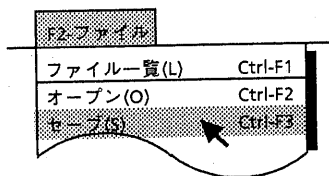
で実行します。

④

- 手順③でリストにカーソルを合わせてダブルクリックすると、手順④を省略してファイルをオープンすることができます。

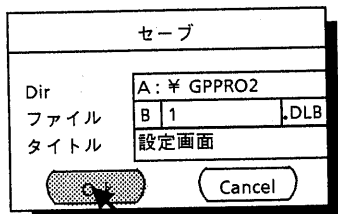
## 2 ファイルをセーブする

①

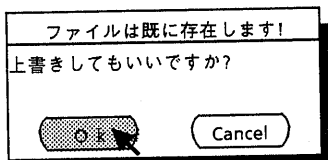


セーブを選択します。

②



現在オープンしているファイルのディレクトリ、ファイル番号、タイトルが表示されます。変更してセーブしたい場合は、それぞれの枠内で入力してください。

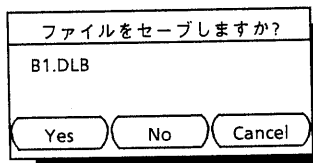


同じファイル番号のファイルが存在する場合は左図の表示に変わります。上書きする場合は  を、別のファイル番号でセーブし直す場合は  を選んでください。

セーブ後もファイルは開いたままの状態です。別のファイルをオープンするときは「第2章 3.1.1 ファイルをオープンする」を、GP-PRO II を終了するときには「第2章 1.4 起動と終了/終了のしかた」をご参照ください。

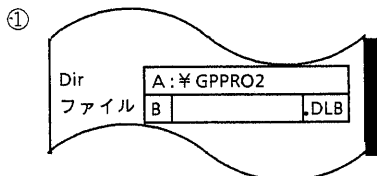
## 注意

- 現在オープンしているファイルをセーブせずに別のファイルをオープンしようとするすると右図のダイアログボックスが表示されます。 を選ぶと①②と同じ作業を行ったことになります。 を選ぶと追加作業分をセーブせずにオープンの作業に移ります。

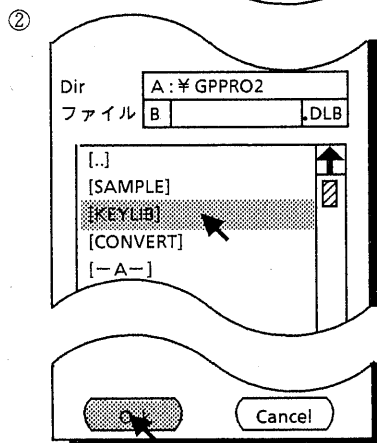


### <表示ディレクトリ以外のディレクトリの指定方法>

ファイルの指定時にDirに表示されている以外のディレクトリのファイルを指定したいときには、以下のように行います。



ディレクトリが表示されている枠内で左クリックします。もしくは  を入力します。



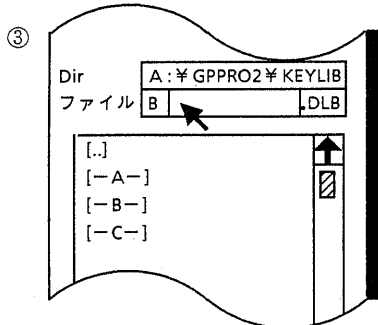
ディレクトリおよびドライブ名がリスト表示されます。

左の例で、**[-A-]**、**[-B-]**など“-”ではさまれているものは、ドライブ名です。ディレクトリ名やドライブ名を、コマンドを入力するのと同じ要領で、マウスまたは   で反転表示させて指定します。

を左ドラッグしてスクロールバーを移動させて指定することもできます。

例

**KEYLIB**



ディレクトリが**KEYLIB**に移りました。

続けてファイル指定を行う場合は、ファイル名の表示枠内で左クリックしてください。

指定するディレクトリ名がわかっているときは、ディレクトリの表示枠内を左クリックして入力待ち状態にし、ディレクトリ名を直接入力する方法もあります。このとき、ディレクトリはドライブ名から全てのパスを指定してください。また新たなディレクトリ名を入力すると、新規ディレクトリを作成することができます。



- ハードディスク内に作業データ専用のディレクトリを作って作業する場合でも指定が簡単です。

## 第3章

## 画面を作成する&lt;1&gt;














GPで表示する画面データを作成するための基本的な機能を示します。


- 1 絵や文字を描く
- 2 編集する
- 3 タグを設定する

## 1 絵や文字を描く

## 1 GP-PROIIの描画機能

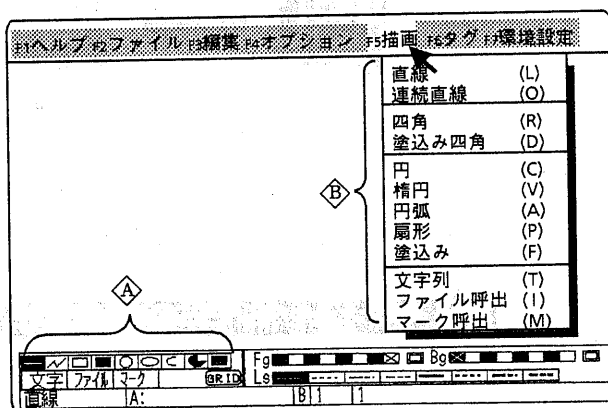
GP-PROIIは、以下の描画の機能を備えています。

機能	アイコン	機能	アイコン
直線		円弧	
連続直線		扇形	
四角		塗込み	
塗込み四角		文字列	
円		ファイル呼出	
楕円		マーク呼出	
		グリッド	 *1





 \*1「第5章1.1 グリッド」


これらの機能は、ガイドライン上のアイコン(下図のA)もしくはプルダウンメニュー(同B)のどちらからでも指定することができます。本書では、アイコンから指定する方法で説明します。

<GP-PROII画面>



描画モードへの入り方

 を左クリック、またはそれに対応する  を入力します(プルダウンメニューが現れます)。右クリックを1回ないし2回、もしくは  (DOS/Vパソコンでは  ) を1回ないし2回入力します(アイコンが現れます)。

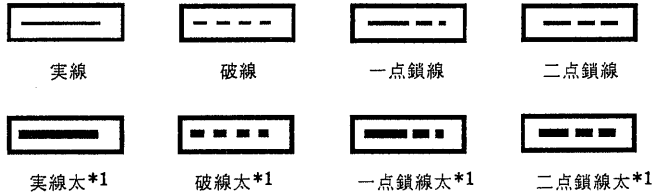
描画作業は、主に左クリックで行います。作業途中で中止したいときは、右クリック、または  を入力します。



図形の属性には線種と色、およびタイリングパターンがあります。

**線種**

直線と連続直線では8種類、円と四角では4種類のうちから指定することができます。図形によっては線種が固定されていることもあります。



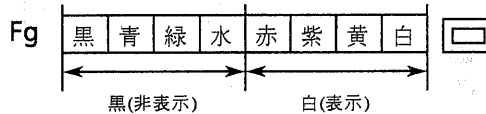
\*1 直線/連続直線のみで指定できるもの

**色**

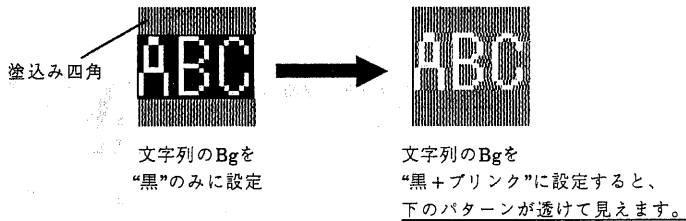
8色から指定することができます。下図のようなカラーバー上で指定します。Fgは表示色、Bgは背景色、Bdは境界色です。☐はプリンク表示の有、無を指定します。プリンク有に設定すると、カラーバーは暗色で表示されます。



なお、モノクロタイプGP上では黒、青、緑、水色は黒(非表示)で、赤、紫、黄、白は白(表示)で表示されます。



- 文字やマークの背景色(Bg)を"黒+プリンク"に設定すると、透かしモードになります。透かしモードを設定した部分は透過色となり、下に図形などがあった場合には設定部分が透けて、下の図形が表示されます。図形の上に文字を重ねる場合などに使用します。



**タイリングパターン**

「塗り込み四角」と「塗り込み」で指定することができます。タイリングパターンは9種類あります。



効率的に画面を作成する→「第5章 覚えておくと便利な機能」

描く要領が同じものをまとめて実例にそって手順を説明します。

- 直線/連続直線
- 四角/塗り込み四角
- 円/楕円
- 円弧/扇形
- 塗り込み
- 文字
- ファイル/マーク呼出し

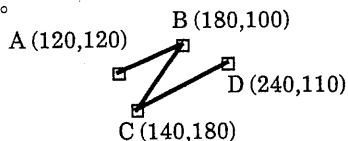
## 2 直線 / 連続直線

図のような連続直線を描きます。

ここでは始点A(120,120)

終点をD(240,110)とします。


□ ... 指定ポイント

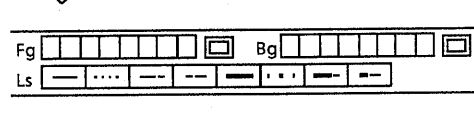



- 直線は、始点から終点を左クリックで指定して描きます。
- 連続直線は始点、折れ山、終点を左クリックで指定し、最後に直線確定のための右クリックを行います。

①

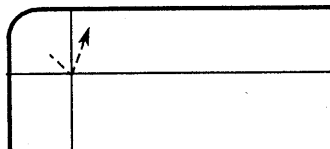


 (連続直線)のアイコンを選択し、必要なら線種と色を指定します。



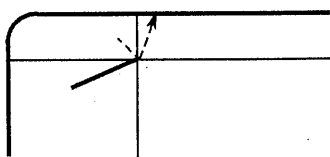
- 直線を描く場合には、 を選択します。

②



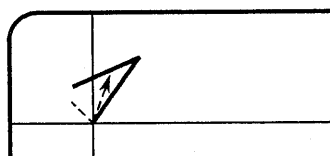
カーソルをA(120,120)のところに移動させ、左クリックします。

③



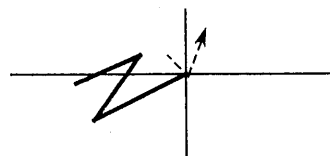
カーソルをB(180,100)のところに移動させ、左クリックします。

④



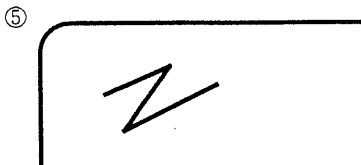
カーソルをC(140,180)のところに移動させ、左クリックします。

⑤




カーソルをD(240,110)のところに移動させ、左クリックします。

D(240,120)はこの連続直線の終点です。連続直線を確定するための右クリックを任意の位置で行います。



連続直線が確定しました。

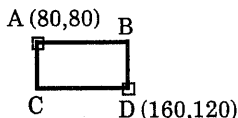


- 他のコマンドを入力するまでは、続けて描画することができます。通常は②から、属性を変更して行いたい場合は①から始めてください。
- キーボードで連続直線を描く場合は、折れ山のところで **SPACE** を、終了点で **↵** を押します。
- 連続直線  を選択し、左ドラッグしながら描くと手描き感覚で描けます。

### 3 四角 / 塗り込み四角

図のような長辺80ドット、短辺40ドットの長方形を描きます。


... 指定ポイント

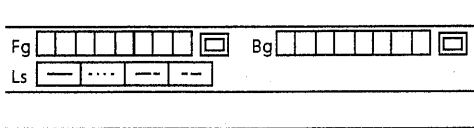



- 四角、塗り込み四角は対角の2点を左クリックで指定して描きます。対角はAとD、BとCのどちらの組み合わせでも有効です。

①

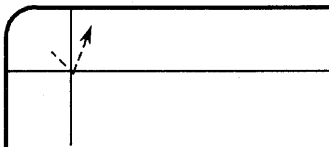


 (四角)のアイコンを選択し、必要なら線種と色を指定します。



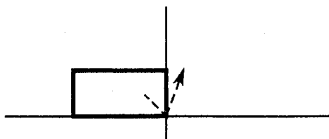
- 塗り込み四角を描く場合は、 を選択します。その場合、Ls(線種)の代わりにPA(パターン)を選択します。

②



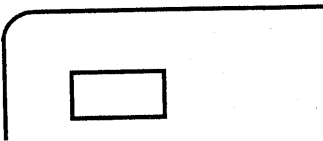
カーソルを対角の1点A(80,80)のところに移動させ、左クリックします。

③



カーソルをもう一方の点D(160,120)のところに移動させ、左クリックで確定します。

④



四角が確定しました。

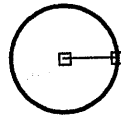


- 他のコマンドを入力するまでは、続けて描画することができます。通常は②から、属性を変更して行いたい場合は①から始めてください。

## 4 円 / 楕円

図のような直径40ドットの円を描きます。

A (80,80)

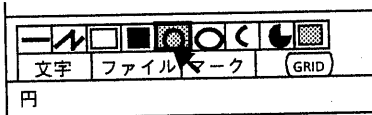



B (80,120)

□ ... 指定ポイント


- 円、楕円は中心となる点と円周上の一点を指定します。

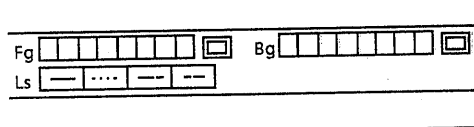
①



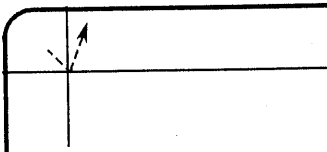
 (円)のアイコンを選択し、必要なら線種と色を指定します。



- 楕円を描く場合は、 を選択します。その場合は、線種は実線のみとなります。

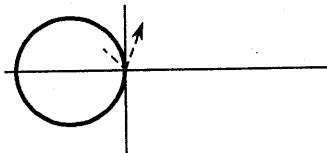


②



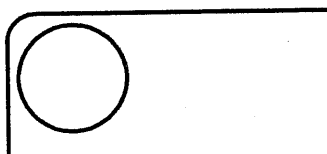
カーソルを円の中心点A (80,80) のところに移動させ、左クリックします。

③



カーソルを円周上の1点B (80,120) のところに移動させ、左クリックで確定します。

④



円が確定しました。



- 他のコマンドを入力するまでは、続けて描画することができます。通常は②から、属性を変更して行いたい場合は①から始めてください。

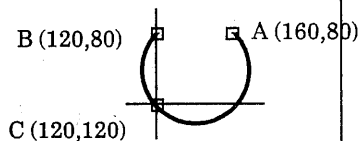


- 指定したカーソルの位置によっては、楕円が描画できない場合があります。

## 5 円弧 / 扇形

図のような円弧を描きます。  
ここでは始点をA(160,80)  
終点をB(120,80)、通過点を  
C(120,120)とします。

□ ... 指定ポイント

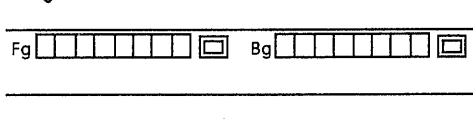


- 円弧、扇形は弧の開始点、終了点、通過点(円周上の一点)を左クリックで指定して描きます。

①

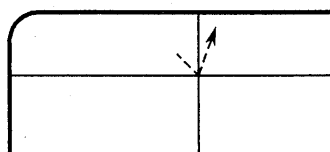


(円弧)のアイコンを選択し、必要なら色を指定します。



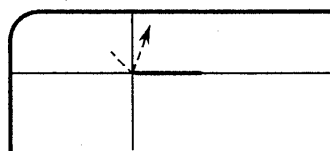
- 扇形を描く場合は、を選んでください。

②



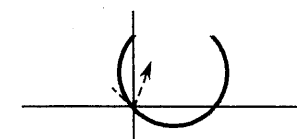
カーソルを始点A(160,80)のところへ移動させ、左クリックします。

③



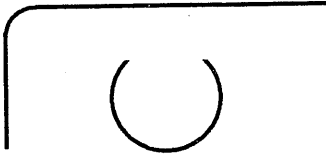
カーソルを終点B(120,80)のところへ移動させ、左クリックします。

④



カーソルを通過点C(120,120)のところへ移動させ、左クリックします。

⑤



円弧が確定しました。

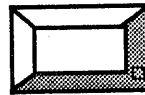


- 他のコマンドを入力するまでは、続けて描画することができます。通常は②から、属性を変更して行いたい場合は①から始めてください。

## 6 塗り込み

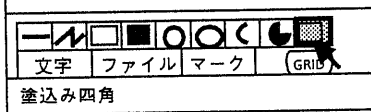
図のような塗り込みを行います。

□ ... 指定ポイント

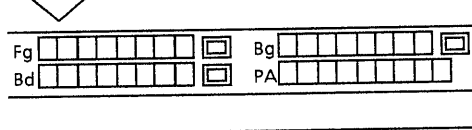


- 塗り込みは、塗り込みたいエリア上(境界線で囲まれた内側)で左クリックします。境界線上でクリックしても塗り込まれません。完全に内側のエリアでクリックしてください。

①

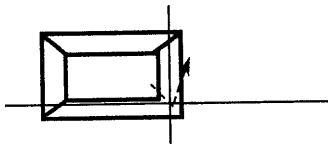


☐ (塗り込み)のアイコンを選択します。



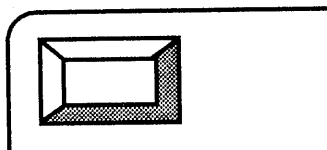
表示色(Fg)、背景色(Bg)、境界色(Bd)およびタイリングパターン(PA)を指定します。

②



カーソルを塗り込みたいエリアに移動させ、左クリックします。

③




指定したエリアが塗り込まれました。

実行された塗り込みは、塗り込み位置(塗り込みを指定した位置)から周囲に広がっていきます。そのとき指定した表示色、背景色、境界色の3色のどれか1つでも同じ色を指定したエリアにおつかったときに塗り込みは止まります。同じ色におつかるまで、塗り込みは広がり続けます。

**注意**

- 塗込む図形は必ず実線で描画してください。破線は使用しないでください。
- 図形に1ドットでも切れ目があると、そこから塗込みがもれます。多角形の頂点など特にご注意ください。
- 塗込んだ図形の一部でも削除したいときは、必ず塗込みを削除してから行ってください。
- プリンク表示を設定している図形には塗込まないでください。
- 内側を塗込んだ楕円、円弧、扇形はGP本体に転送して表示した場合、塗込みがもれてしまうことがあります。図形を直線で補正する必要があります。

**メモ**

- 他のコマンドを入力するまでは、続けて塗込むことができます。通常は②から、属性を変更して行いたい場合は①から始めてください。
- 広いエリアを塗込んだ場合などに、画面表示に時間のかかることがあります。塗込みを表示している途中で右クリック、または  を押すと画面上の塗込み表示を中断することができます。

**参**

"スタックオーバーフロー"のメッセージが出た場合→「第5章1.4 塗込みモード」

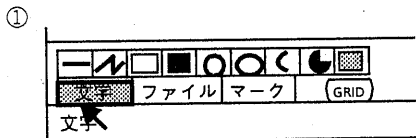
塗込んだ位置の表示/非表示→「第5章1.5 表示/非表示の切り替え/塗込み位置」

# 7 文字

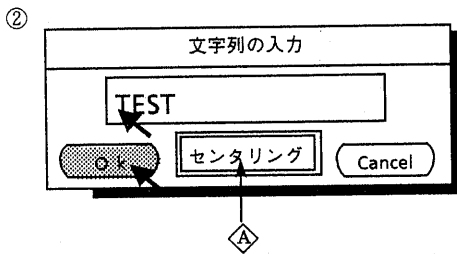
図のような文字を入力します。

... 指定ポイント

- 文字列の位置指定ポイントは、先頭文字の左下隅になります。



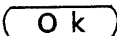
文字 (文字)のアイコンを選択します。



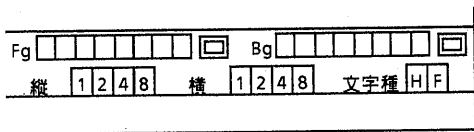
文字を入力します。  
日本語入力する場合は、日本語FEPを起動させます。\*1

- ◇ ここを左クリックまたは **TAB** を入力し、反転の状態にして選択すると、指定範囲内で文字列をセンタリングすることができます。

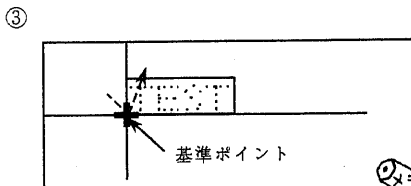
例 TEST



必要なら色、文字サイズ、文字種を指定します。

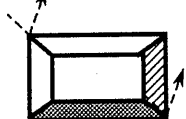


- 文字サイズ 縦横それぞれ1、2、4、8倍が指定できます。
- 文字種 H(Half) 1/4角(8×8ドット) ただし、Hは半角文字の場合のみ有効です。  
F(Full) 半角(16×8ドット) 全角(16×16ドット)



設定したサイズ分の文字枠が画面に表示されます。文字サイズを確認できます。文字列やサイズを変更したい場合は、ここで右クリックして設定をやり直すことができます。

- 手順②で「センタリング」を指定した場合は、文字枠が表示される前に、センタリングさせる範囲を指定します。文字枠は、その範囲の中でセンタリングされて現れます。



例: スイッチの中心に文字列を配置したい場合

四角形を描く要領で左クリックでセンタリングさせる範囲を指定



④

## TEST

カーソルをA(120,80)に移動させ、左クリックします。



- 他のコマンドを入力するまでは、続けて文字列を入力することができます。通常は②から、属性を変更して行いたい場合は①から始めてください。
- 一行に表示できる最大文字数は、GP-230では半角40文字分、その他のGPでは半角で80文字分です。ただし、文字サイズにより、最大文字数は変わります。
- GPが表示対応している文字は、以下のとおりです。  
 ANK 158種  
 漢字 6349種(非漢字453種含む、JIS第1、2水準)  
 上記以外の文字(①、Ⅱなど)を表示させたい場合は、マークファイルを使って文字を作成してください。
- 図形の上に重ねて文字列を表示させる場合は、「透かしモード」に設定すると便利です。



「第3章1.1 GP-PROⅡの描画機能/色」



## \*1 日本語入力手順


- ① まず、日本語FEPを起動させます。 + (DOS/Vパソコンでは + ) と入力します。  
パソコンの画面の最下部にFEPの入力モードが表示され、FEPが起動したことがわかります。
- ② 文字を入力します。入力した文字がパソコン画面左下隅に表示されます。ここが文字の変換エリアになります。
- ③ 変換キー(ATOKではスペースキー)を押し、文字列を漢字変換します。
- ④ 文字列が確定したら、 を押ししてください。入力待ちだった設定枠内に文字列が表示されます。

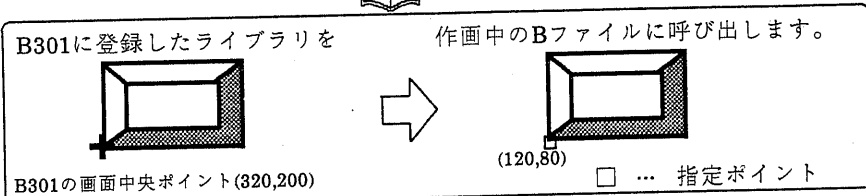
なお、FEPを解除するには、もう一度 + (DOS/Vパソコンでは + ) と入力してください。

## 8 ファイル呼出

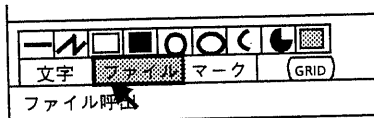
繰り返し使う図形など、あらかじめ他のファイルに作成・登録したライブラリをファイル呼び出しして利用します。

ライブラリ呼び出しすることで、画面の使用容量も節約できます。

 「第4章1 ライブラリの活用」

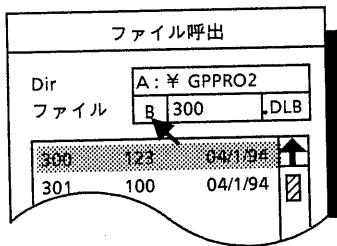


①



**ファイル** (ファイル呼出)を選択します。

②

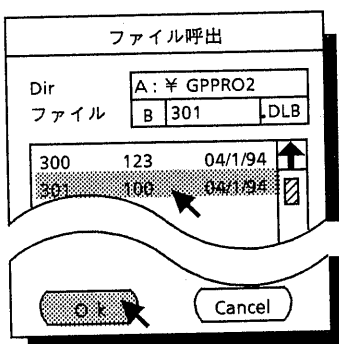


画面上に、ファイル指定のためのダイアログボックスがオープンします。  
ライブラリファイル(呼び出ししたいファイル)のヘッダを指定します。

例 B

ライブラリファイルはオープン中のファイルと同じディレクトリに格納しておいてください。作業中のファイルと別のディレクトリにあるファイルは呼び出しできません。

③

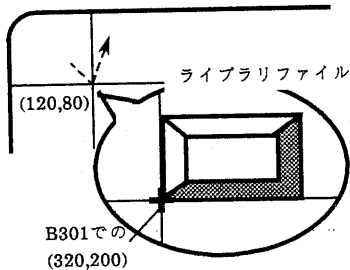


ライブラリファイルを選択します。

例 301

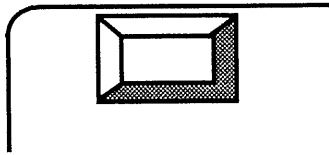
**Ok**

④



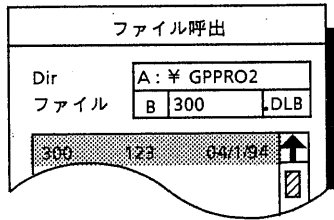
呼び出しの指定ポイントで左クリックします。  
指定ポイントは、ライブラリファイルの画面中央(320,200)を基準に考えます。

⑤



ライブラリファイルの呼び出しができました。

⑥



画面上には、再びファイル指定のためのダイアログボックスがオープンします。続けてファイル呼び出しできます。ファイル呼び出しを中止する場合は  します。

**注意**

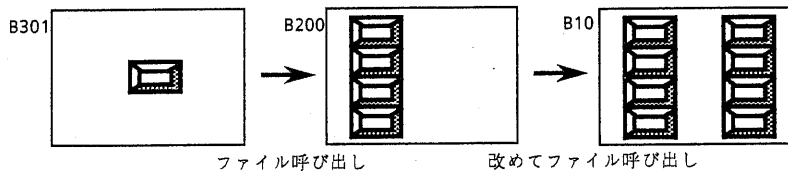
- ファイル呼び出しできるファイルの種類は限定されています。

オープン中のファイル	呼び出しできるファイル
B ベースファイル	B ベースファイル T 折れ線グラフファイル(ただしGP-230シリーズは除く) K キーボードファイル I イメージライブラリファイル(GP-*50、GP-250シリーズのみ)
T 折れ線グラフファイル	B ベースファイル
K キーボードファイル	B ベースファイル

- 呼び出しできるK(キーボード)ファイルは、B(ベース)ファイル1つにつき1つのみです。
- オープン中のファイルと同じ画面番号のファイルを読み出すことはできません。



- ネスティング(階層呼び出し)もできます。

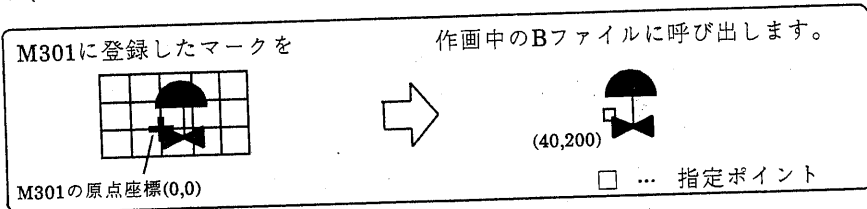


上記の例では、2階層のネスティングとなります(3重)。

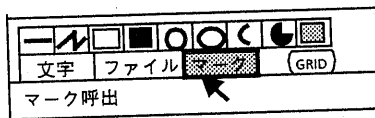
最高10階層(11重)までネスティングできます。ただし、作業中のパソコンのシステムメモリ残量が少なくなった場合、画面上での表示が省略されるときがあります(転送したGP上では正常に表示されます)。

## 9 マーク呼出

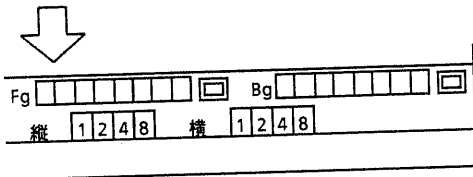
マークファイルで作成・登録したマーク(ドットパターン)はB(ベース)、T(折れ線グラフ)、K(キーボード)の各ファイル上で呼び出して使用できます。



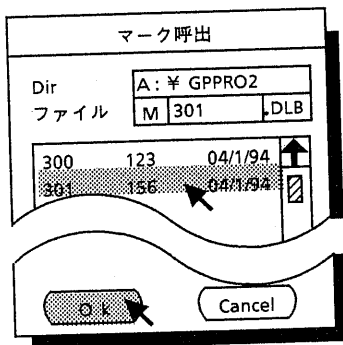
①



マーク (マーク呼出) を選択します。必要ならば色とマークのサイズを選択します。



②



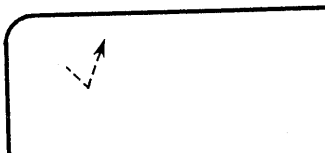
画面上に、マークファイル指定のためのダイアログボックスがオープンします。マークファイルを選択します(ヘッダはM固定のため指定の必要はありません)。

例 301

マークファイルは作業中のベースファイルと同じディレクトリに格納しておいてください。作業中のベースファイルと別のディレクトリにあるマークファイルは呼び出しできません。

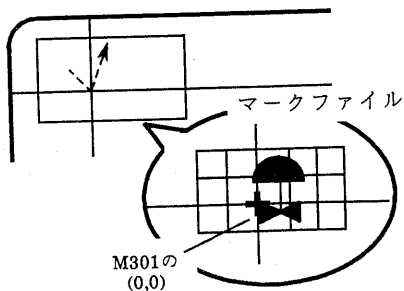
Ok

③



設定を確認して一度左クリックします(ここで色属性とマークサイズを再設定することもできます)。

④



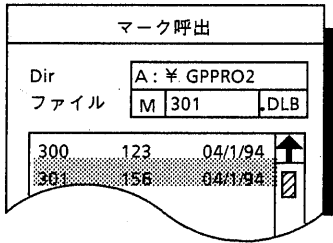
画面上に設定したマークの大きさに応じた枠が表示されます。呼び出しの指定ポイントで左クリックします。指定ポイントは、マークファイルの原点座標(0,0)を基準に考えます。

⑤



マークファイルの呼び出しができました。

⑥



画面上には、再びマークファイル指定のためのダイアログボックスがオープンします。続けてマーク呼び出しができます。  
マーク呼び出しを中止する場合は **Cancel** します。

## 2 編集する

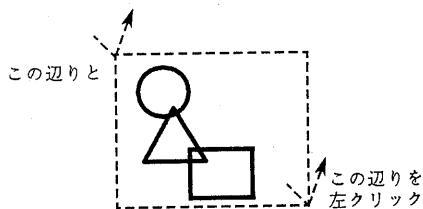
いったん作成した図形や文字に対して、移動や削除などの編集作業を行うことができます。

### 編集作業の手順

- (1) **F3-編集** を選択する
- (2) コマンドを選択する
- (3) 対象となる図形(および選択方式)を選択する
- (4) 実行する

### 1 対象図形を選択する

対象図形を選択は、**範囲指定**で行います。選択したい図形を内側に含む四角形を描く要領で、左クリックまたは **←** で範囲指定します。



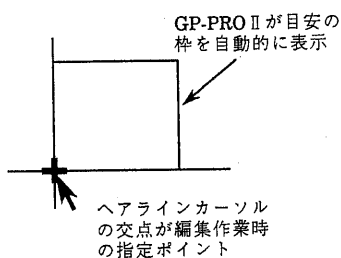
図形を完全に囲む必要はありません。その図形を描画した際の指定ポイントのうちどれか1つが範囲内にあれば、選択することができます。複雑に重なった図形の中からいくつかを選び出すこともできます(後述)。

範囲指定は図形を囲む適当な位置でOK



- 塗込みやファイル呼出の場合は、指定ポイントが1つだけです。その1点だけを囲めば選択できます。

範囲指定を行うと、画面上には指定範囲の目安となる枠とヘアラインカーソルが表示されます。表示枠の頂点のうちの1つがカーソルの交点となっています(初期値は左下です)。これが編集作業時の基準ポイントとなります。



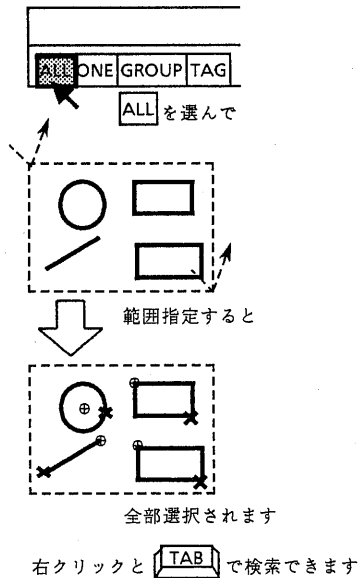
指定ポイントは **SPACE** の入力で切り替えることができます。**SPACE** を入力するごとにポイントが時計回りに切り替わります。

また、範囲内の図形に、⊕、×のマークが表示されます。これは描画時に指定した始点や終点などのポイントを示すもので、ポイントマークと呼びます。⊕は始点、×は終点を示します。図形がポイントマークされた状態で左クリック(または **←**) を入力すると、その図形を選択したことになります(「選択が確定する」といいます)。

ガイドラインに表示される **ALL ONE GROUP TAG** は選択方式のモードを指定するボタンです。図形をまとめて編集する場合、1つずつの場合など、その時々に応じて切り替えます。

## ALL

タグ以外の複数の図形に対して編集作業を行いたいときには **ALL** を左クリック(または **A**)を入力します。

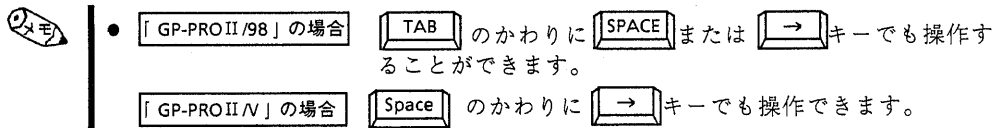


**ALL**モードでは指定範囲内にある対象全てを選択することができます。範囲内の図形の指定ポイント全てがポイントマークされます。そのまま全てを選択したい場合は、左クリック(または **↵**)を入力します。

ポイントマークされた図形の中に選択対象から外したい図形がある場合は、右クリック(DOS/Vパソコンでは右クリックまたは **Space**)と **TAB** で操作します。

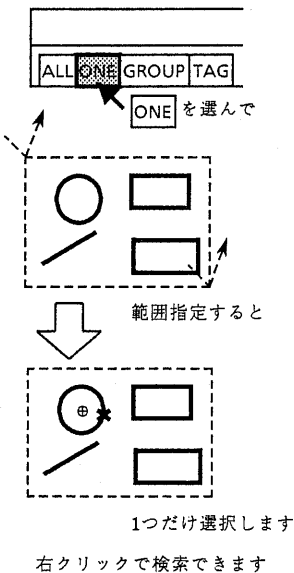
まず、一度右クリックまたは **TAB** を入力します。図形の中に、ポイントマークの色が変化するものが現れます。ガイドラインには、その図形名と座標位置が表示されます。右クリックの度に示す図形は切り替わります。

目的の図形まで進んだところで **TAB** を入力すると、ポイントマークが消えて選択対象から外れます。対象が絞れたら左クリック(または **↵**)で選択を確定してください。



## ONE

1つ1つの図形に対して編集作業を行いたいときには **ONE** を左クリック(または **O**)を入力します。



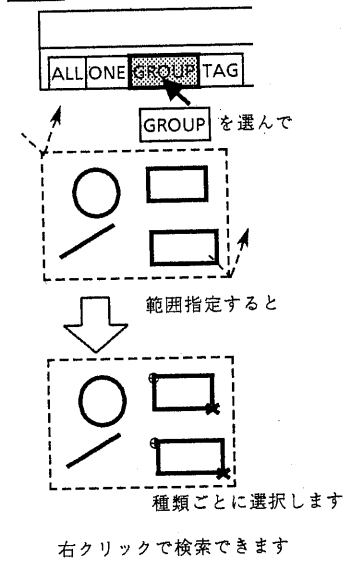
**ONE**モードでは指定範囲内にある対象のうち、1つだけが選択されます。

範囲内で一番先に描かれた図形からポイントマークされます。ガイドラインに図形名と座標位置が表示されます。その図形を選択したい場合は、左クリック(または **↵**)を入力します。

他の図形を選択したい場合は、右クリック(または **Space**)もしくは **→** を入力します。右クリックの度にポイントマークされる図形は切り替わります。目的の図形がポイントマークされたところで左クリック(または **↵**)で確定してください。

## GROUP

ある種類の図形だけに対して編集作業を行いたいときには **GROUP** を左クリック(または **G** を入力)します。

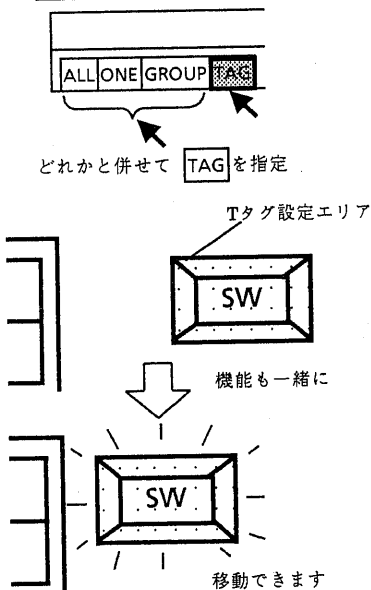


**GROUP** モードでは指定範囲内にある対象のうち、ある種類の図形タイプだけが選択されます。範囲内にある図形タイプを検索して1種類ごとにポイントマークします。ガイドラインには、ポイントマーク中の図形タイプの名称が表示されます。その図形を選択したい場合は、左クリック(または **←** を入力)します。

他の図形を選択したい場合は、右クリック(または **SPACE** もしくは **→** を入力)します。右クリックの度にポイントマークされる図形は切り替わります。目的の図形がポイントマークされたところで左クリック(または **←**)で確定してください。

## TAG

選択対象にタグを含みたいときには **TAG** を左クリック(または **T** を入力)します。**ALL****ONE****GROUP** と併せて使用します。



絵のデータとタグのデータを一緒に指定できるので、スイッチやグラフを移動するときなどに便利です。

## 注意

- コマンドの中には指定時に **TAG** と表示され、このモードを指定できないものがあります(例: 属性変更)。



タグの入力および設定内容の変更について → 「第3章 3.3 タグを設定する」



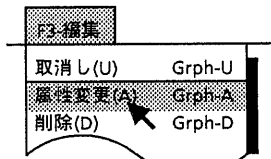
## 2 属性を変更する

図形や文字等の色など、属性を変更します。変更できる属性は描画時に指定する線種や色などの項目です。

四角形の線種を実線から破線に変更します。

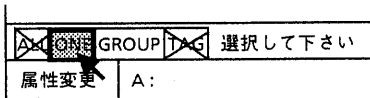


①



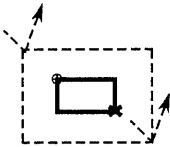
属性変更を選択します。

②



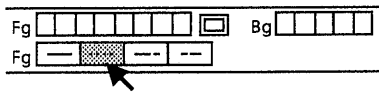
選択方式を指定します。  
ここでは**ONE**を指定します。

③



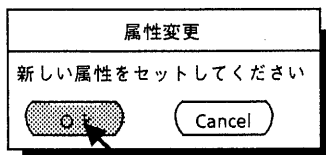
対象を囲むように左クリックします(このとき、画面上のメニュー&ガイドラインが消えてフル画面表示になります)。四角形がポイントマークされたら、左クリック(または **↵**)で選択を確定します。

④



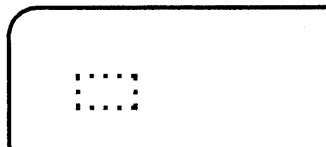
**.....** (破線)を指定します。

⑤



**Ok** します。

⑥



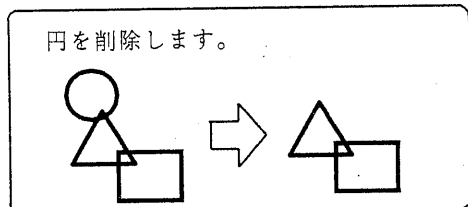
線種が破線に変更されました。



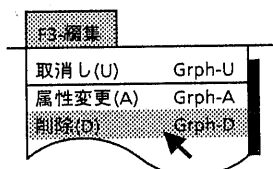
- 他のコマンドを入力するまでは、続けて属性変更を行うことができます(コマンド表示エリアが「属性変更」となっています)。通常は③から、選択方式を変更して行いたい場合は②から始めてください。
- 作業を中止する場合は **ESC** を入力してください。

### 3 削除する

図形や文字を削除します。

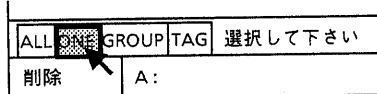


①



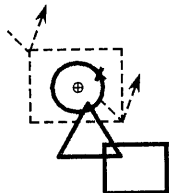
削除を選択します。


②



選択方式を指定します。  
ここでは**ONE**を指定します。

③



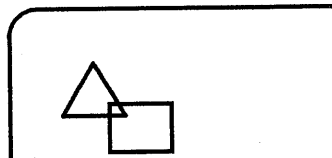
対象を囲むように左クリックします(このとき、画面上のメニュー&ガイドラインが消えてフル画面表示になります)。円がポイントマークされたら、左クリック(または )で選択を確定します。

④



 します。

⑤




円が削除されました。

#### 注意

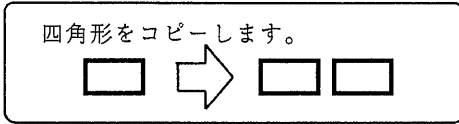
- 塗込みの境界線となっている図形を削除すると、塗り込みがもれますのでご注意ください。



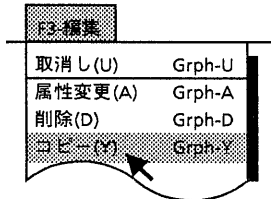
- 他のコマンドを入力するまでは、続けて削除を行うことができます(コマンド表示エリアが「削除」となっています)。通常は③から、選択方式を変更して行いたい場合は②から始めてください。
- 図形を誤って削除してしまった場合は、削除した直後であれば「取消し」で復活させることができます。
- 作業を中止する場合は  を入力してください。

## 4 コピーする

図形や文字をコピーします。

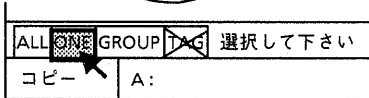


①



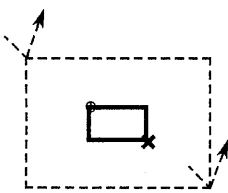
コピーを選択します。

②



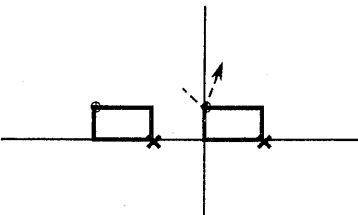
選択方式を指定します。  
ここでは**ONE**を指定します。

③



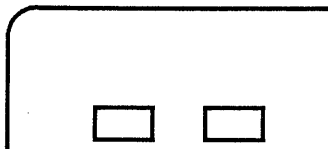
対象を囲むように左クリックします(このとき、画面  
上のメニュー&ガイドラインが消えてフル画面表示  
になります)。四角形がポイントマークされたら、左  
クリック(または )で選択を確定します。

④



再びフル画面表示になります。コピーしたい位置  
までカーソルを動かし、左クリックします。

⑤



四角形がコピーされました。

コピー完了後も画面はフル表示状態で、同じ図形をコピー元にして連続コピーすることができます。その場合には、いったん左クリックして手順④を行います。必要な回数だけ左クリックと手順④を繰り返します。

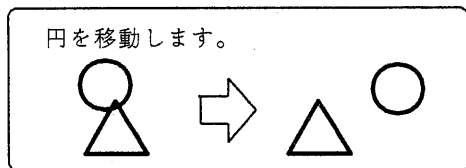
連続コピーを行わない場合は右クリックします。



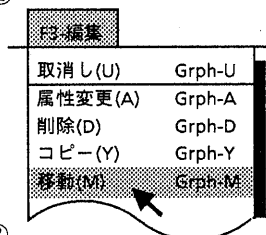
- 右クリックで連続コピーをキャンセルした後も、他のコマンドを入力するまでは、続けてコピーを行うことができます(コマンド表示エリアが「コピー」となっています)。通常は③から、選択方式を変更して行いたい場合は②から始めてください。
- 作業を中止する場合は を入力してください。

## 5 移動する

図形や文字を移動します。

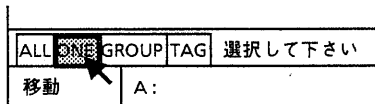


①



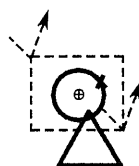
移動を選択します。


②



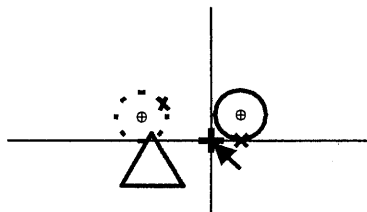
選択方式を指定します。  
ここでは**ONE**を指定します。

③



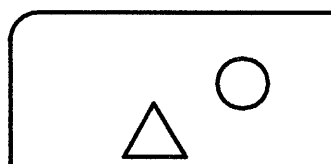
対象を囲むように左クリックします(このとき、画面上のメニュー&ガイドラインが消えてフル画面表示になります)。円がポイントマークされたら、左クリック(または ) で選択を確定します。

④




再びフル画面表示になります。移動したい位置までカーソルを動かし、左クリックします。

⑤



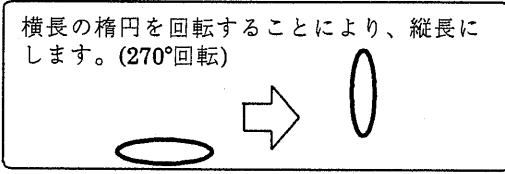
円が移動されました。



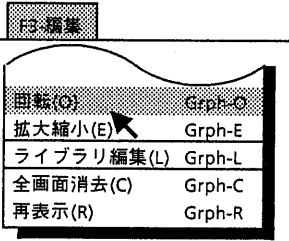
- 他のコマンドを入力するまでは、続けて移動を行うことができます(コマンド表示エリアが「移動」となっています)。通常は③から、選択方式を変更して行いたい場合は②から始めてください。
- 作業を中止する場合は  を入力してください。

## 6 回転する

図形およびタグを回転します。

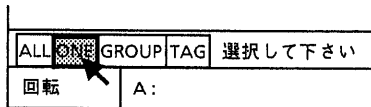


①



回転を選択します。

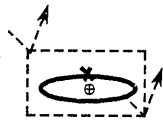
②



選択方式を指定します。  
ここでは**ONE**を指定します。

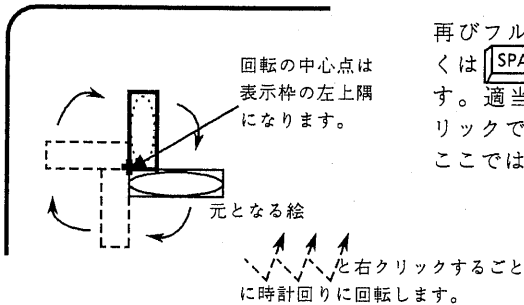
● **ONE** のときのみ、 **TAG** になります。

③



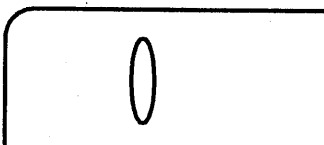
対象を囲むように左クリックします(このとき、画面上のメニュー&ガイドラインが消えてフル画面表示になります)。楕円がポイントマークされたら、左クリック(または )で選択を確定します。

④



再びフル画面表示になります。右クリック、もしくは **SPACE** を入力することにより時計回りに回転します。適当な位置になるまで右クリックし、左クリックで確定します。  
ここでは3回右クリックして、左クリックします。

⑤



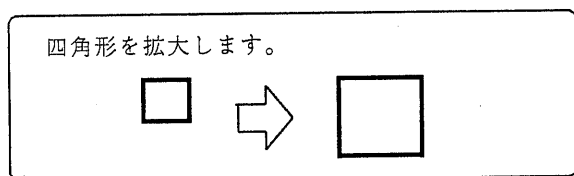
楕円が回転されました。

## 注意

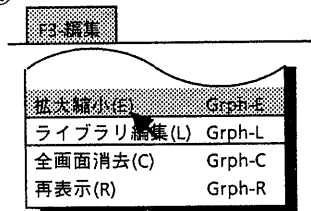
- 以下のものは、回転できません。  
ライブラリ呼び出ししたファイル、文字列、マーク、Vタグ
  - 回転を実行した結果、画面表示エリアから図形がはみ出してしまう場合は、回転は実行されません。
  - 回転後の図形に1~2ドットの誤差が生じる場合があります。
- ② 他のコマンドを入力するまでは、続けて回転を行うことができます(コマンド表示エリアが「回転」となっています)。通常は③から、選択方式を変更して行いたい場合は②から始めてください。
  - ③ 作業を中止する場合は  を入力してください。

## 7 拡大縮小する

図形、およびタグを拡大縮小します。

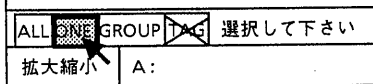


①



拡大縮小を選択します。

②

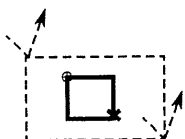


選択方式を指定します。  
ここではONEを指定します。

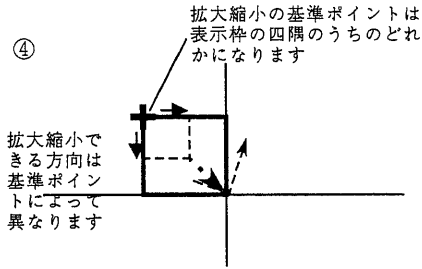


•  のときのみ、 になります。

③

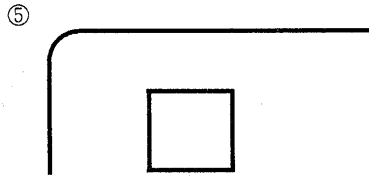


対象を囲むように左クリックします(このとき、画面上のメニュー&ガイドラインが消え、フル画面表示になります)。四角形がポイントマークされたら、左クリック(または )で選択を確定します。



拡大縮小したい位置までカーソルを動かし、左クリックします。

**SPACE** を入力すると、拡大縮小の基準ポイントおよび方向を切り替えることができます。



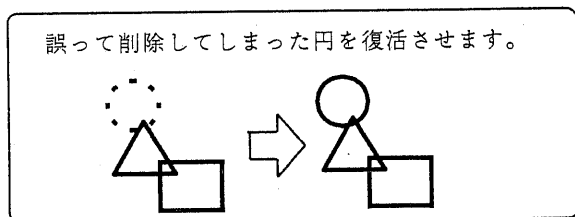
四角形が拡大されました。

**注意**

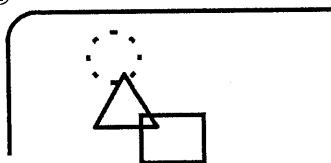
- 以下のものは、拡大縮小できません。  
ライブラリ呼び出したファイルの絵、文字列、マーク、Vタグ、Dタグ、Gタグ
- 極端な拡大縮小の結果、元の図形のイメージと異なってしまう場合があります。
- 拡大縮小後の図形に1~2ドットの誤差が生じる場合があります。誤差により塗込みがもれる場合がありますのでご注意ください。
- 拡大縮小位置の指定時には、グリッドのスナップは無効になり、座標は自由に設定できます。
- 他のコマンドを入力するまでは、続けて拡大縮小を行うことができます(コマンド表示エリアが「拡大縮小」となっています)。通常は③から、選択方式を変更して行いたい場合は②から始めてください。
- 作業を中止する場合は **ESC** を入力してください。

## 8 取消し

編集および描画のコマンドは、実行直後ならば「取消し」で実行前の画面状態に戻すことができます。

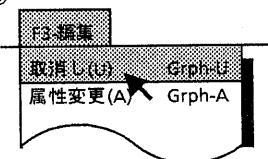


①



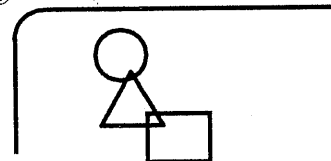
誤って円を削除してしまいました。

②



取消しを指定します。

③



円が復活して削除実行前の画面状態に戻ります。

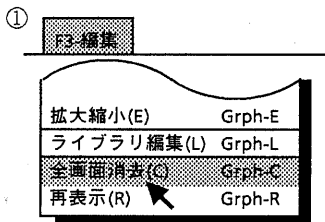
### 注意

- 以下のコマンドは、取消しできません。  
「全画面消去」、**F6-タグ** 内の「入力/編集」、「コピー」、「削除」

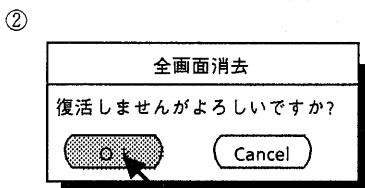


## 9 全画面消去

画面の作成を一からやり直したい場合には、全画面消去します。画面作成エリア内のデータはすべてクリアされます。



全画面消去を指定します。



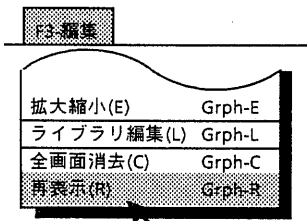
**OK** すると、表示中の画面データはすべてクリアされます。再表示および取消しはできませんので十分ご注意ください。  
**Cancel** で中止します。



- 誤って「全画面消去」を行った場合、そのファイルが既存ファイルであればセーブせずに再オープンすれば保持できます。ただし、追加修正したものについては無効になります。

## 10 画面を再表示する

表示中の画面をリフレッシュして再表示します。最新の画面状態を表示します。



再表示を指定します。



- F4オプション** の「塗り込みモード」の設定によっては、実画面と異なる場合があります。「塗り込みモード」の設定を確認の上、画面再表示を行ってください。



「第5章2.4 塗り込みモード」

## 11 ライブラリ編集

オープン中の画面に呼び出されたライブラリファイルを属性ごとに表示、編集します。

①

F3 編集	
拡大縮小(E)	Grph-E
ライブラリ編集(L)	Grph-L
全画面消去(C)	Grph-C
再表示(R)	Grph-R

ライブラリ編集を指定します。

②

F1 前画面	F2 次画面	F3 前属性	F4 次属性	F5 1行上	F6 1行下
ベースファイル		ライブラリ編集			
ファイル名	位置	色	サイズ	タイトル	
B10	320, 320	....	....	操作画面ライブラリ	
B100	120, 150	....	....	動作状況ライブラリ	
B200	140, 150	....	....	ファイルがオープンできません	

③

ベースファイル	1/3 ← 現在位置と総数表示	タグ総数:	
		PLC:	
A: ¥	B 200		

### 注意

- 現在オープン中の画面にライブラリファイルが呼び出されていない場合は、右記のメッセージを表示します。

ライブラリは存在しません


Ok

- ①② ライブラリファイルが1画面に収まらない場合、前画面または次画面に切り替えます。ただし、他の属性\*1には移りません。
- ③④ 属性切り替え。1つ前または次の属性に切り替えます。
- ⑤⑥ 1行上または下に反転表示行を移動します。
- ⑦ 現在表示中のライブラリファイルの属性が表示されます。
- ⑧ GP-\*30系でイメージファイルがオープンされている場合や、GP-230でトレンドファイルが呼び出されている場合、メッセージが表示されます。

例

イメージファイル 1/3		タグ総数:	
注意:この機種ではイメージファイルを呼び出せません。		PLC:	
A: ¥	B 200		

- ⑨ 呼び出そうとするファイルが存在しない場合、タイトルの代わりに“ファイルがオープンできません”というメッセージが表示されます。
- ①~⑥はそれぞれキーボード上のファンクションキーに対応しています。


 \*1 ライブラリファイルの種類(ベース、マーク、トレンド、テンキー、イメージ)です。

ライブラリ編集画面から設定内容を変更します。

ライブラリ編集画面で、ファイル名およびいくつかの項目が反転表示されています。反転表示されている項目をダブルクリックすると、ダイアログボックスが現れて、設定を変更することができます。





ファイル名をダブルクリックすると、現在指定されているファイルを他のファイルに変更することができます。



タグ名以外の反転表示項目をダブルクリックすると、その項目のみについて設定変更することができます。


また、を押すと、ポインタのあるライブラリファイルを削除することができます。

<例:マークファイル>

マークファイル		ライブラリ編集		
ファイル名	位置	色	サイズ	タイトル
M10	150, 240	7,0	2,1	マーク1
M20	100, 80	2,0	1	マーク2


反転表示される項目は、属性によって異なります。色とサイズが表示されるのは、マークファイルの場合だけです。

 をダブルクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

マーク呼出

Dir

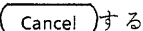
ファイル


300	123	04/1/94	
301	100	04/1/94	<input checked="" type="checkbox"/>

呼び出したいファイルを選択します。

ライブラリファイルはオープン中のファイルと同じディレクトリに格納しておいてください。作業中のファイルと別のディレクトリにあるファイルは呼び出しできません。





ファイル呼び出しを中止する場合は  するとライブラリ編集画面に戻ります。



 をダブルクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

ライブラリ編集

位置 (  ,  )

入力枠を左クリックすると入力待ち状態になります。設定変更後、 します。 するとライブラリ編集画面に戻ります。

変更する座標位置の値が決まっている場合は、数値入力ですぐに変更できます。

  をダブルクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

属性変更

新しい属性をセットしてください

設定変更後、 します。 するとライブラリ編集画面に戻ります。

↓

Fg   Bg

縦 1 2 4 8 横 1 2 4 8

キーで、反転表示されているライブラリファイルを削除できます。

削除してもいいですか?

します。

## 3 タグを設定する

### 1 F6-タグ について

F6-タグ ではタグの設定を行います。

タグとはGPの持つ様々な機能を設定するものです。タグを設定することにより、画面上の四角形が「スイッチ」になったり、ホストのデータの変化に応じてGPが動画表示を行ったりするようになります。

タグには、一つひとつにタグ名を付けます。タグ名は半角の英数字、記号、カナを使って6文字以内で付けます。ただし、タグの種類によって頭文字が決められています。

例

ランナー

頭文字によってタグの機能が定義づけられます。  
 この場合は、「ライブラリー表示(L)タグ」となります。  
 同一画面上に同じタグ名のタグは設定できません。

タグは、機能を持たせたい画面\*1上で設定します。動作時に必要な項目を設定し、表示位置を画面上に指定します。

#### タグ設定の手順

- (1) F6-タグ を選択する
- (2) 入力/編集のコマンドを選択する
- (3) タグ名を入力する
- (4) 項目を設定する
- (5) タグ名の位置を指定する
- (6) タグの機能する位置を指定する

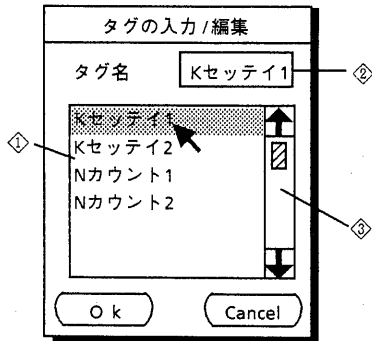
また、設定したタグについて変更したり、削除したりコピーすることができます。設定済みタグの一覧表示を行うことができます。

\*1 ほとんどはBファイル上で設定しますが、Kファイルなど例外もあります。



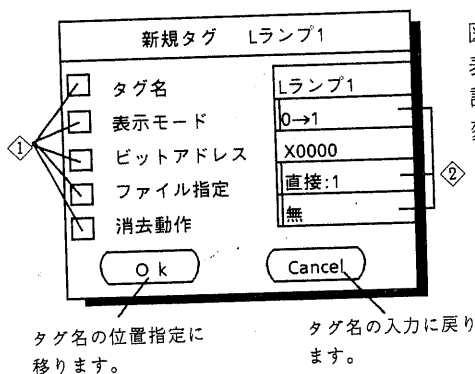
タグ機能の詳細についてGP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル」  
 GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル」

タグ名入力時には、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



- ◇ オープン画面上に既に設定された他のタグがある場合は、リスト表示されます。
- ◇ タグ名の入力枠です。
- ◇ 設定済みタグが多数ある場合は、スクロールバーを使って◇をスクロールします。

項目設定時には、下図のようなダイアログボックスが表示されます。



タグ名の位置指定に移ります。

タグ名の入力に戻ります。

図のように初期値もしくは前回の設定値が枠内に表示されます。そのままでもよい項目については再設定の必要はありません。変更したい項目がある場合は、その項目の①もしくは枠内を左クリックします。

項目設定は、キーボード入力で行う場合と選択肢を選択する場合があります。②のように入力枠が二重線となっている箇所は選択を行います。

左クリックと同時に更に設定画面がオープンする場合と、クリックごとに設定が切り替わる場合があります。そうでない箇所は入力を行う項目です。枠内にアンダーカーソルが現れ、入力待ち状態になります。

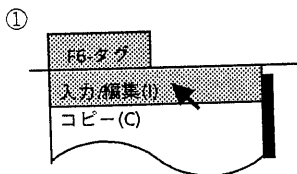
なお、左クリックを受け付けず、設定のできない枠がありますが、それは自動的に値が決められるなどの理由で、項目設定を行う必要のない枠です。

## 2 タグ設定

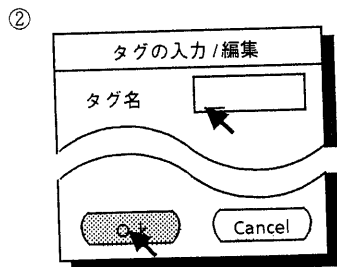
例 Lタグを以下のように設定します。

タグ名	Lランプ1
表示モード	0→1
ビットアドレス	M0016
ファイル指定	直接:300
消去動作	有
タグの位置	(100,60)

M0016がセットされると 点灯するランプです (M0016のリセットで消灯します)



F6-タグ の入力/編集を選択します。



タグ名を入力するためのダイアログボックスが表示されます。タグ名を入力します。

TAB を入力するか設定枠上で左クリックすると、アンダーカーソルが表示され、入力待ち状態になります。

例 Lランプ1  
Ok

③

項目を設定するためのダイアログボックスが表示されます(タグの種類によって項目の内容は異なります)。

④

項目設定を行います。  
1つ設定することにより「Ok」で確定します。  
タグ名と表示モードはそのままです。ビットアドレスを変更します。

例  
ビットアドレス M0016

Ok

⑤

ファイル指定を設定します。  
◆を左クリックすると、ファイル指定のためのダイアログボックスが更にオープンします。ファイルNo.の枠上で左クリックして入力待ち状態にし、キーボードから値を入力します。

例 300

Ok

⑥

消去動作を設定します。  
◆を左クリックもしくは「↓」を入力することにより有と無が切り替わります。この場合は「Ok」の必要はありません。

例 有

⑦

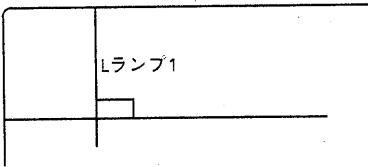
確定します。

Ok

⑧

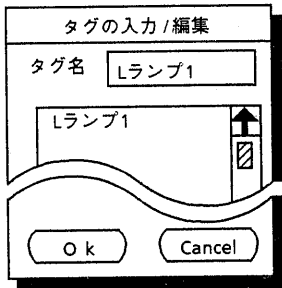
ダイアログボックスはクローズし、フル画面表示になります。  
タグ名の位置を左クリックで指定します。  
タグ名の位置は任意ですが、タグの機能する位置の近くに指定した方が、メンテナンスしやすくなります。

⑨



タグの機能する位置を左クリックで指定します。指定した位置にタグマークおよび指定アドレスが表示されます。


⑩



再びタグ名入力のダイアログボックスが表示されます。続けて他のタグについての入力を行うことができます。タグ入力を終了する場合は **Cancel** します。



- タグの種類によっては、機能位置の指定ポイントの数が異なります。  
例 Tタグの場合、タッチパネルとして機能させるエリアを指定するので、2箇所(範囲)指定することになります。
- タグ名、タグマークおよび指定アドレスの画面上での表示/非表示は切り替えることができます。なお、タグ名、タグマーク、および指定アドレスは、GP上には表示されません。

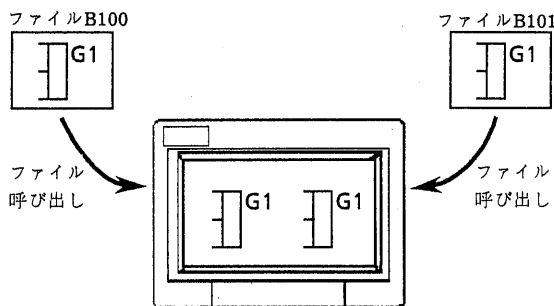
 「第5章1.3 タグ表示」



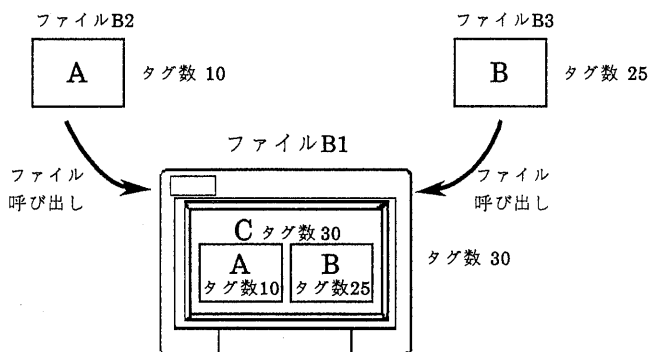
## タグ設定時の注意事項

画面上にタグを設定する場合には、以下のことに注意してください。

- 同一画面上で複数のタグを設定する場合は、タグの表示位置が重なり合うと正常に表示されません。ファイル呼び出しする場合はご注意ください。
- 同一画面上に同じタグ名のタグは設定できません。タグを設定する画面が違う場合は、重複したタグ名を使用できます。ファイル呼び出しによって、同一表示画面上に重複する場合は構いません。



- 1表示画面において有効となるタグ数は、256個までです。ファイル呼び出しによって呼び出されたファイル上のタグや、ウインドウ(Uタグによる)上のタグもこの数に含まれます。ただし、Rタグの設定数は含まれません。



総タグ数 = 30(ファイルB1) + 10(ファイルB2) + 25(ファイルB3) = 65 個 ≤ 256

OK!

- タグ数のカウントは登録順に行われます。256個を超えたものについては、設定が無効となります。ウインドウ上のタグは、GPの画面上に呼び出されて、はじめてカウントされます。そのため、ウインドウを呼び出すことによってタグ数が256個を超える画面では、ウインドウ上のタグが無効になりますのでご注意ください。

### 注意

- ファイル呼び出しを行った場合、呼び出されたファイル上のタグの表示や修正作業は、呼び出した方のファイル上ではできません。上記の例では、ファイルB2とB3上のタグはB1上でカウントはされますが、B1での表示(画面作成エリア内およびタグ一覧)や編集はできません。修正の際は、それぞれのタグを入力したBファイルをオープンして行ってください。

- タグごとに1個当たりのサイズ(バイト数)は異なります。タグ設定の際には、画面の残り容量とタグのサイズおよび設定可能数に留意する必要があります。

### タグサイズ一覧

タグ名	機能	タグサイズ	タグ最大設定可能数
A	アラームサマリ(テキスト)表示	56	<u>1</u> * <sup>1</sup>
a	アラームサマリ表示	34	<u>1</u> * <sup>1</sup>
C	時刻表示	28	<u>1</u> * <sup>1</sup>
D	統計グラフ表示	48	170
d	統計値表示	74	108
F	図形移動表示	42	190
G	グラフ(棒・円・半円)表示	40	200
J	マーク移動表示	38	30
K	設定値入力	40	200
k	キーボード入力	28	256
L	ライブラリー表示	34	235
M	マーク表示	34	235
N	数値データ表示	36	222
n	警報値表示	30	266
P	フォーマット表示	118	67
R	ルール設定	20	<u>30</u> * <sup>2</sup>
S	文字列表示	32	250
T (Tih, Tiw含む)	タッチパネル入力	36	222
U	ウインドウ表示	34	32
V	ビデオウインドウ表示	30	32
W	デバイスへの書き込み	32	250
X	テキスト表示	40	200

最大設定可能数とは、他に何の設定も行っていないBファイル上でそのタグを何個まで設定できるかの数です。



\*1 1画面につき、1個のみ設定できます。

\*2 Rタグ(ルール)は1画面に30本までです。  
表示位置数(マークがルール上を移動するポイント数)は全ルール合わせて406個までです。ただし、ファイル呼び出しにより合成したベースファイル上では512個までとなります。

## 3 タグの編集


### 1 タグの設定を変更する

設定したタグの内容を変更します。

タグの設定内容の変更には、2通りの方法があります。

- (1) タグの入力/編集で行う
- (2) タグ一覧で行う

ここでは、入力/編集で行う方法で説明します。

 タグ一覧で行う → 「第3章3.4 タグ一覧」

例 Nタグ(タグ名:N1)を以下のように変更します。

現在値

Nタグの表示位置  
を右端に

➔

現在値

①

入力/編集を選択します。

②

設定済みのタグが一覧表示されます。内容を変更したいタグを選択します。

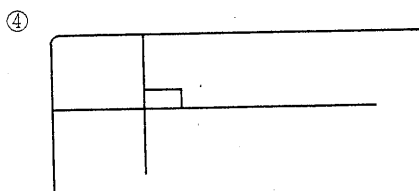
例  
N1

③

指定したタグの設定内容が表示されます。

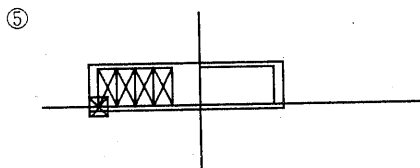
必要な項目を変更して  します。

ここでは変更箇所がないのでそのまま  します。

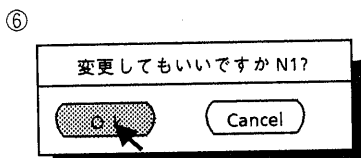


必要ならばタグ名の位置を変更します。  
左クリックした位置が新しい位置となります。  
変更する必要のないときは、**SPACE**を入力して飛ばし(スキップ)します。

**Cancel**すると手順③に戻ります。  
ここではタグ名の位置は変更しません。**SPACE**を入力します。




タグの機能する位置が表示されます。  
必要ならば左クリックで変更します。  
変更する必要のないときは、**SPACE**を入力してスキップします。\*1  
ここでは表示位置が右端になるところで左クリックします。



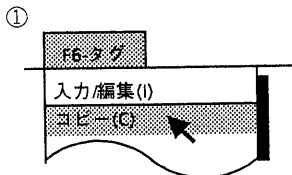
確認します。**Cancel**すると手順③に戻ります。

**注意** | ● 変更した内容は、**F3-編集**「取消し」できませんのでご注意ください。

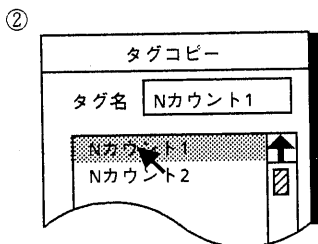
 \*1 Tタグなど、2箇所以上を指定するタグについては、指定点すべてが表示されます。それぞれについて、変更もしくはスキップを行います。

## 2 タグをコピーする

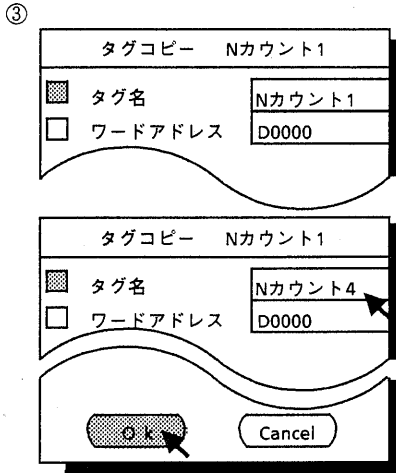
すでに設定済みの同種類のタグをコピーすることによって、新規タグ設定の手間を省くことができます。



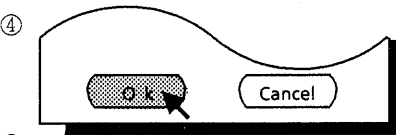
コピーを選択します。



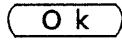
リスト表示されたタグの中からコピー元となるタグを選択します。



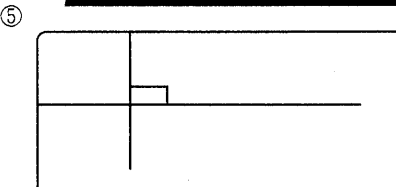
指定したタグの設定内容が表示されます。



タグ名など必要な項目を変更します。



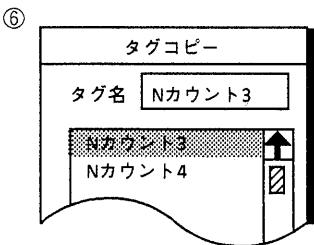
変更内容を確定します。



タグ名の位置と表示位置を指定します。



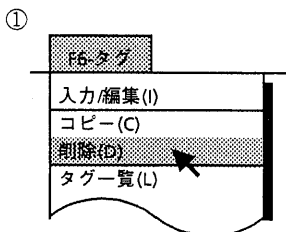
指定方法→「第3章3.2 タグ設定/手順⑧～⑨」



設定したタグが新たにリストの中に加わります。続けてタグコピーを行う場合は、手順②から始めます。タグコピーを終了する場合は **Cancel** します。

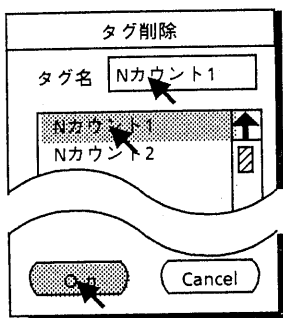
**注意** • R、C、a、Aタグは、コピーできません。

### 3 タグを削除する



削除を左クリックします。

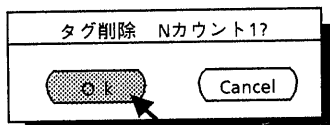
②



タグを選択します。

Ok

③



確認します。

Ok

**注意**

- 削除したタグは復活できませんのでご注意ください。

## 4 タグ一覧とクロスリファレンス

タグ設定が進みデバッグする際には、タグ一覧およびクロスリファレンスが便利です。

### 1 タグ一覧

オープン中画面のタグの内容を一覧表示します。

一覧表示画面上での設定内容の変更もできます。

Bファイル、Kファイル、Tファイル、Aファイル上で実行できます。

タグ一覧は、次の順に表示されます。

Bファイルの場合

L→N→M→J→R→T→Tih(Tiw)→K→k→G→  
W→C→S→a→V→F→D→U→X→A→n→P→d

Tファイルの場合

画面設定→チャンネル設定


Kファイルの場合

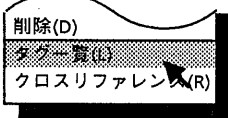
k→消去エリア

アラーム

Aファイルの場合は1項目のみです。

手順および画面例(例:Nタグ)

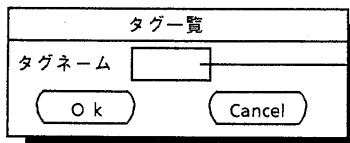
①  タグ一覧を選択します。



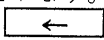
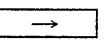


① ② ③ ④ ⑤ ⑥

	F1 前画面	F2 次画面	F3 前タグ	F4 次タグ	F5 1行上	F6 1行下
⑦	1/57	←	Nタグ	→		
ポインタのある行のタグのタグ名が表示されます	ネーム	ワードアドレス	データ形/bit/符/レンジ	表示形/符/レンジ	演算種/直/間/値	
	Nカウント1	D0100	ABS16 0 ...	DEC ...	+直 0	
	Nカウント2	D0101	ABS16 0 ...	BCD ...	...	
	Nカウント3	D0104	ABS32 0 ...	BCD ...	...	
			...	...	...	
	マウスの右クリック または ESC で終了します					⑨ 左画面

- ① ここを左クリックすると、前画面に切り替わります。
- ② ここを左クリックすると、次画面に切り替わります。
- ③ ここを左クリックすると、1つ前のタグの一覧画面に切り替えることができます。
- ④ ここを左クリックすると、次のタグの一覧画面に切り替えることができます。
- ⑤ 1行上に反転表示行が移動します。一番上の行の場合は、前画面の最後のタグに移動します。
- ⑥ 1行下に反転表示行が移動します。一番下の行の場合は、次画面の先頭のタグに移動します。
- ⑦ 反転表示中のタグが、オープン中の画面上の総タグ数のうち幾つめに当たるかが表示されます。
- ⑧ 現在表示中のタグの種類が表示されます。



ここを左クリックすると左図のようなダイアログボックスが表示されます。  
 Ⓐにタグ名を入力してタグを検索することができます。

- ⑨ タグによっては表示が横長になって1画面で収まらないものがあります。あふれた項目のある場合、現在表示中の画面が左右どちらの部分の画面にあたるのか、ここに表示されます。  
 1画面で収まっているタグの場合には、全画面と表示されます。  
 表示画面を左右切り替える場合は、⑨の両脇にある   を左クリック、もしくは   を入力します。
- ①~⑨はそれぞれキーボード上のファンクションキーに対応しています。

タグ一覧の画面から設定内容が変更できます。

タグ一覧画面で、タグ名およびいくつかの項目が反転表示されています。反転表示されている項目をダブルクリックすると、ダイアログボックスが現れて、設定を変更することができます。

タグ名をダブルクリックすると、タグの入力/編集と全く同じように設定変更することができます。

タグ名以外の反転表示項目をダブルクリックすると、その項目のみについて設定変更することができます。

また、**DEL** を押すと、ポインタのあるタグを削除することができます(ただし、Rタグは除きます)。

**注意** | タグ一覧画面上で反転表示されていない項目の変更については、タグ名をダブルクリックして行ってください。

<例:Nタグ>

1/57		← Nタグ →		
ネーム	ワードアドレス	データ	表示	演算
		形/bit/符/レンジ	形/符/レンジ	種/直/間/色
<b>Nカウント1</b>	D0100	ABS160 ....	DEC ....	+直0
		.....	.....	
Nカウント2	D0101	ABS160 ....	BCD ....	

1/01		← Nタグ →		
ネーム	スタイル	警報	位置	
	桁/桁色/サイズ/ZZ表/結	直/間/下限/上限/色		
<b>N1</b>	517,0 2x1 1 0 右	.....	60,60	
N2	702,0 1x4 1 1 右	間 D0102	4*,0	60,140
		D0103		

反転表示される項目は、タグによって異なります。

Nタグの場合、タグ名以外で反転表示するのは、**B** ワードアドレスと **C** 位置です(位置については、全てのタグで反転表示されます)。

**B** を左クリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

タグ一覧 Nカウント1	
ワードアドレス	D0100
<b>Ok</b>	<b>Cancel</b>

入力枠を左クリックすると入力待ち状態になります。

設定変更後、**Ok** します。

**Cancel** するとタグ一覧画面に戻ります。

**C** を左クリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

タグ一覧 Nカウント1	
位置 ( <input type="text" value="60"/> , <input type="text" value="80"/> )	
<b>Ok</b>	<b>Cancel</b>

**B** と同様に設定変更後、**Ok** します。

**Cancel** するとタグ一覧画面に戻ります。

変更する座標位置の値が決まっている場合は、数値入力ですぐに変更できます。



タグ名をダブルクリックして全項目に対して変更を行う場合

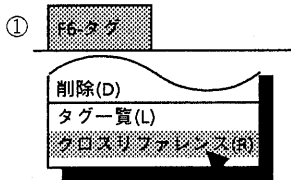
→「第3章3.3.1 タグの設定を変更する」



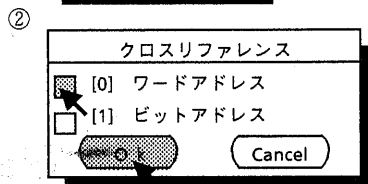
## 2 クロスリファレンス

アドレスの指定状況を一覧表示します。どのアドレスにどのタグを設定しているか、一覧することができます。

### 手順および画面例



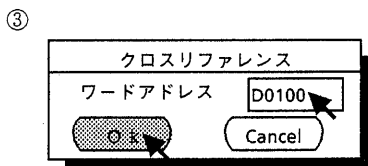
クロスリファレンスを選択します。



ワードアドレス単位で行うかビットアドレス単位で行うかを指定します。

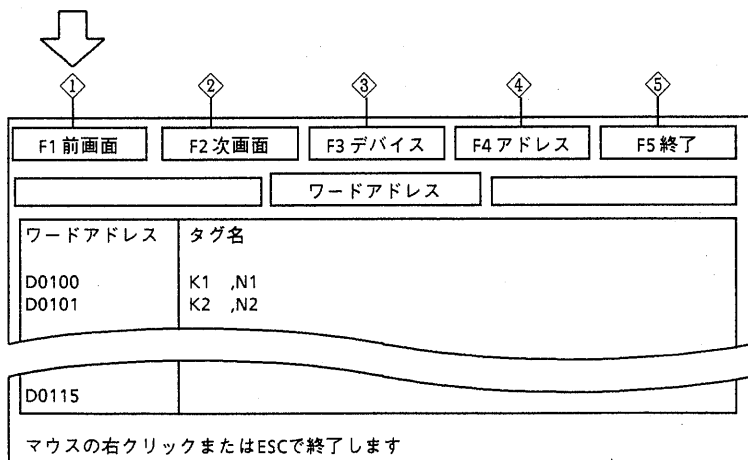
例 ワードアドレス

**Ok**



表示させたいアドレスの先頭を指定します。

**Ok**



- ① ここを左クリックすると、16アドレス分前のリファレンス画面に切り替わります。
  - ② ここを左クリックすると、次の16アドレス分のリファレンス画面に切り替わります。
  - ③ ここを左クリックすると、上記の手順②のダイアログボックスが現れます。手順②から指定し直すことができます。
  - ④ ここを左クリックすると、上記の手順③のダイアログボックスが現れます。手順③から指定し直すことができます。
  - ⑤ クロスリファレンスリストを終了します。右クリックもしくはは **ESC** の入力でも終了することができます。
- ①～⑤はそれぞれキーボード上のファンクションキーに対応しています。

## 第4章

## 画面を作成する&lt;2&gt;

各種ファイルを活用するなど、画面データを作成するための応用編です。

- 1 ライブラリの活用
- 2 ウィンドウを表示する
- 3 マークを作る(Mファイル)
- 4 折れ線グラフを作る(Tファイル)
- 5 キーボードを作る(Kファイル)
- 6 メッセージを登録する(Aファイル)
- 7 テキストデータの作成(Xファイル)
- 8 イメージデータの表示(Iファイル)
- 9 GP側の初期設定(Sファイル)
- 10 ファイル一覧を表示する
- 11 ユーティリティ

## 1 ライブラリの活用

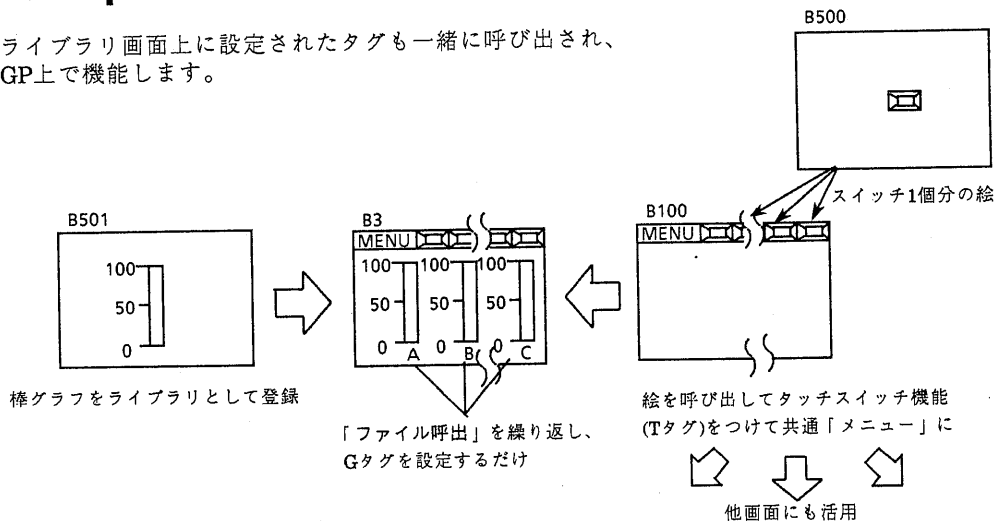
## 1 ライブラリを活用する

画面作成の効率を上げるために、ライブラリ機能を活用してください。  
標準部品など、何度も、また様々な画面で使う絵は、ライブラリとして1度だけBファイルに描画して保存します。**F5描画**のファイル呼出により、1つの図形を何度も使い回すことができます。重複呼出(ネスティング)もできます。

<ライブラリとして扱うことのできるファイル>  
Bファイル、Tファイル、Kファイル、Iファイル

**注意** ● IファイルはGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズのみ使用できます。

ライブラリ画面上に設定されたタグも一緒に呼び出され、GP上で機能します。



また、タグ機能でライブラリを呼び出して、動画表示させることができます。

### 注意

- タグ機能によりオンライン中に呼び出されたライブラリ画面については、描画データのみを呼び出します。タグ機能は呼び出されません。

ライブラリを呼び出す方の画面の消費メモリ量は、ライブラリ画面の容量には関係なくライブラリ呼出に使うわずかなメモリ量のみで済みます。細かい絵など、1画面だけに描くとファイル容量が不足しそうな絵でも、いくつかのライブラリ画面に分けて作画し、ベースとして扱う画面に呼び出すことで、容量をかなり節約した上での作画が可能となります。

### <ライブラリ画面を作画する際の留意点>

ライブラリ画面を作画する際には、ファイル呼出時の指定ポイントに留意して作画します。

ライブラリの画面基準は、画面中央(320,200)です。

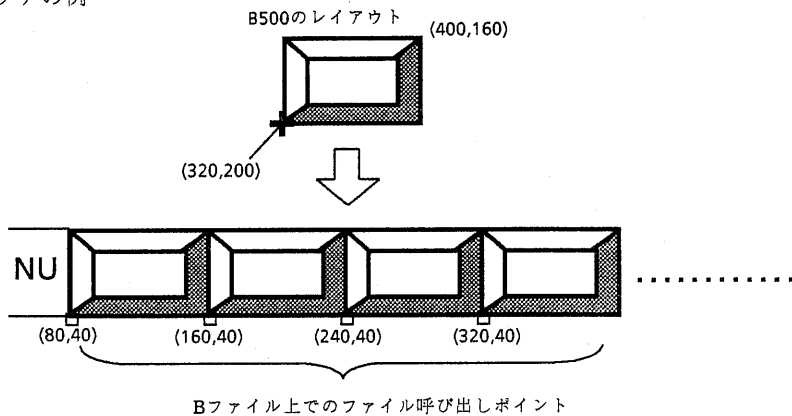
ファイル呼出で指定したポイントに、ライブラリ画面の(320,200)が重なる格好で図形が呼び出されます。

ライブラリ画面は(320,200)を基準にレイアウトすると、活用しやすいライブラリになります。

### 注意

- GP-550では、画面中央は(320,240)となります。

上のスイッチの例



ライブラリ画面の(320,200)の点がどの位置にあたるかを考えて呼び出します。

なお、ファイル呼出の手順については **F5描画** 「ファイル呼出」を、T、K、Iファイルについては、各ファイルについての記述部分を参照してください。



- |        |                            |
|--------|----------------------------|
| ファイル呼出 | → 「第3章1.8 ファイル呼出」          |
| Tファイル  | → 「第4章3 折れ線グラフを作る(Tファイル)」  |
| Kファイル  | → 「第4章5 キーボードを作る(Kファイル)」   |
| Iファイル  | → 「第4章8 イメージデータの表示(Iファイル)」 |

## 2 ウィンドウを表示する

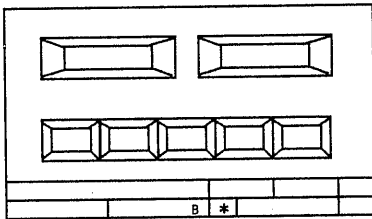
GP-\*50系には、ウィンドウ表示機能があります。ベース画面の一部分(もしくは全体)をウィンドウ画面として登録します。タグの機能もそのまま登録されます。  
登録された画面は、GP上で共通表示画面として扱うことができます。GPの運転画面はそのまま、設定された別画面を必要ときに重ね表示できます。ウィンドウ表示位置を移動させることもできます。  
ウィンドウ画面には、次の2種類があります。

- グローバルウィンドウ表示 ... 全画面に共通の同じウィンドウ画面となります。  
(GP-\*50シリーズのみ)  
ローカルウィンドウ表示 ..... それぞれのベース画面専用のウィンドウ画面です。

### 1 ウィンドウ登録と削除

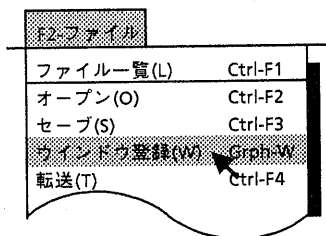
<登録> ベースファイル画面の一部分(もしくは全体)をウィンドウとして登録します。

①



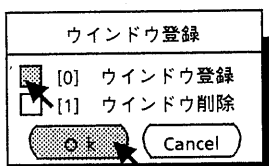
ベースファイルがオープンされています。

②



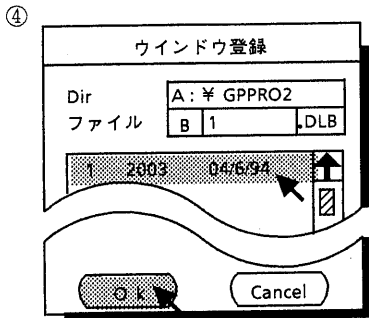
ウィンドウ登録を選択します。

③



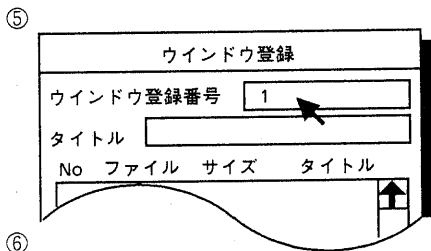
ウィンドウ登録を選択します。

Ok



作成済みのベースファイルがリスト表示されます。ウィンドウとして登録したい部分が作画されているベースファイルを指定します。

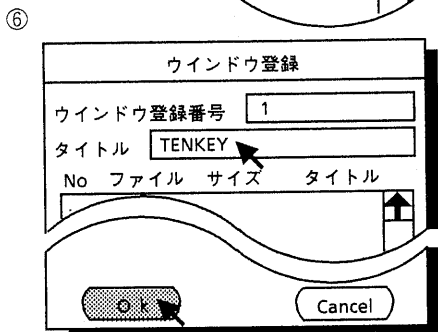
Ok



ウィンドウ登録画面がオープンします。ウィンドウ登録番号を入力します。

例

1 Ok



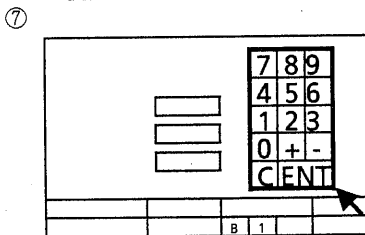
タイトルを入力します。

例

TENKEY Ok

確定します。

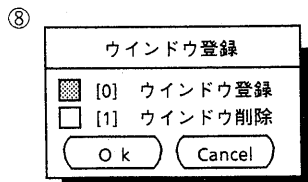
Ok



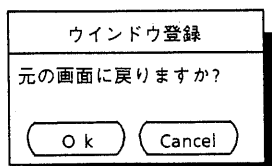
指定したベースファイルの画面がオープンされます。ウィンドウ表示したい範囲を図形の選択の要領で囲みます。

注意

- ウィンドウ表示サイズはGP本体の機種によって異なります。  
GP-550、GP-B50……640×480ドット  
GP-450……640×400ドット  
GP-250……320×240ドット



他にウィンドウ登録したい部分がある場合は、③～⑦の作業をくり返してください。登録を終了する場合は **Cancel** を選択します。



手順④でそれまでオープンしていたベースファイル(手順①の画面)と異なるベースファイルを指定した場合、ウィンドウ登録完了時に左図のメッセージが表示されます。

**Ok** を選択すると、手順①の画面が再オープンされます。

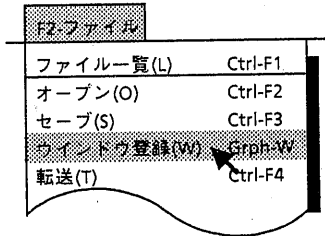
**Cancel** を選択すると、手順④で指定した画面がオープンされます。

**注意**

- ウィンドウ画面のエリア指定のX座標は、GP-\*50シリーズは8ドット単位、GP-250シリーズは16ドット単位となります。端数は自動的に8ドット単位に吸収されます。Y座標は任意です。
- ウィンドウ画面では、以下の機能は動作しません。  
・Kタグ、Uタグ、トレンドグラフ
- ウィンドウ登録は最大256個まで可能です。

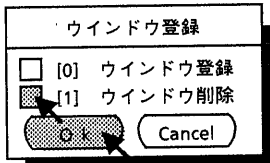
<削除> 登録したウィンドウを削除します。

①



ウィンドウ登録を選択します。

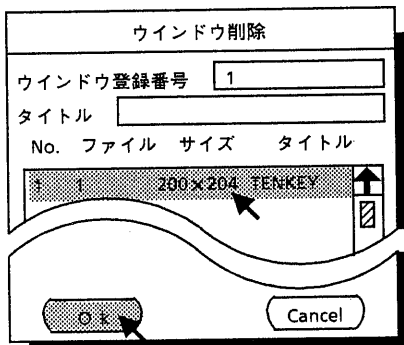
②



ウィンドウ削除を選択します。

Ok

③



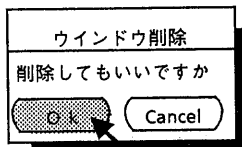
ウィンドウ削除画面がオープンします。  
削除したいウィンドウの登録番号を選択します。

例

1

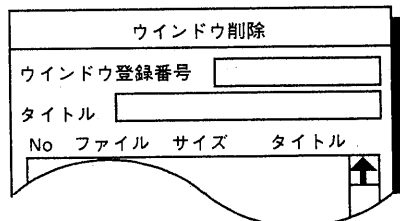
Ok

④



Ok で実行します。

⑤



再びウィンドウ削除画面になります。  
他のウィンドウを続けて削除する場合は、③~④の作業を繰り返してください。終了する場合は「Cancel」を選択します。


## 2 ウィンドウを表示させるには

登録したウィンドウを表示させるための設定を行います。

グローバルウィンドウ表示 ... システムファイル上でUタグを編集します。システムファイルには既にUタグが準備されています。

(GP-\*50シリーズのみ)

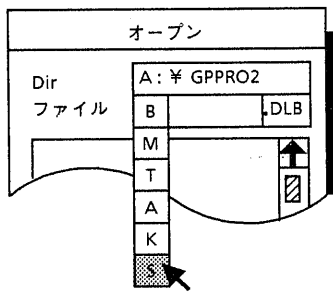
ローカルウィンドウ表示 ..... ウィンドウを表示したいベースファイルにUタグを設定します。

 Uタグについての詳細→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章20 ウィンドウ表示<Uタグ>」

ここではグローバルウィンドウ表示の設定を説明します。

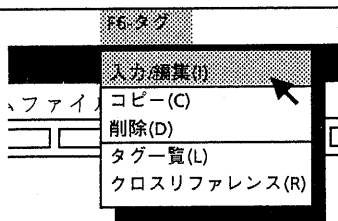
### グローバルウィンドウ表示の設定

①



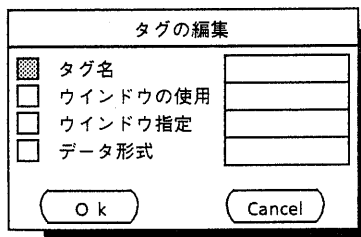
システムファイル(S0)をオープンします。

②



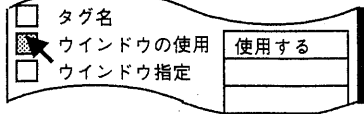
**F6-タグ** の入力/編集を選択します。

③



Uタグの編集画面が自動的にオープンします。

④

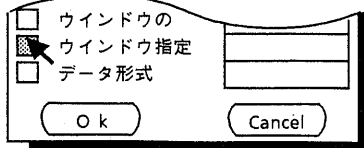


ウィンドウの使用を「使用する」に設定します。  
(を左クリックするごとに使用する、しないが切り替わります)



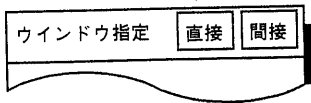
- タグ名は入力する必要はありません。

⑤



ウィンドウ指定を選択します。

⑥

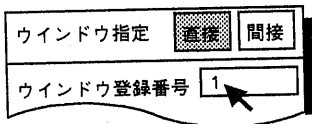


ウィンドウ指定のダイアログボックスがオープンします(ウィンドウを使用するに設定したときのみ)。ウィンドウ登録画面の指定方法を選択します。

- 直接 ... ウィンドウ登録画面および表示位置の指定は固定値となります。
- 間接 ... システムエリアに設けられた専用ワードアドレスに登録番号を書き込むことによって、複数のウィンドウ登録画面をグローバルウィンドウとして扱うことができます。また、グローバルウィンドウの表示位置も可変値となります。

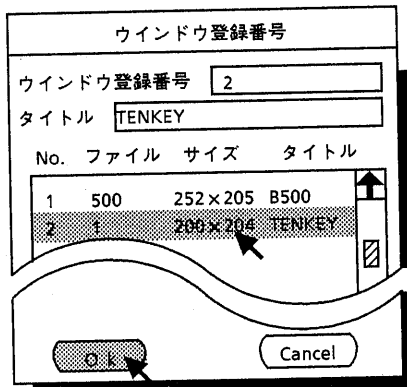
指定方法を左クリックで選択します。間接指定の場合は、他に設定項目がありません。手順⑨に進みます。

⑦



直接の場合はウィンドウ登録番号を指定します。枠内を左クリックします。

⑧



グローバルウィンドウとして登録するウィンドウ画面をリストから選択します。

例  
2

Ok

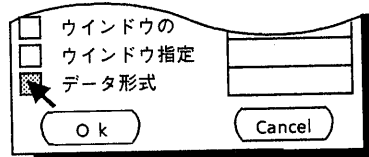
⑨



指定方法の設定を確認します。

Ok

⑩



データ形式を設定します。(☐を左クリックすることによりBinとBCDが切り替わります)

例  
Bin

⑪

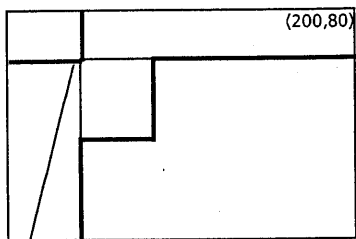


設定が終了したら Ok で確定します。


間接指定の場合はここで終了です。



⑫



ヘアラインカーソルの交点が  
指定ポイントです。

直接指定の場合のみ、ウィンドウ表示位置を左クリックもしくは  で決定します。画面上には指定したウィンドウ画面の登録エリアに応じた枠が目安として登録されます。

指定ポイントはウィンドウの表示エリアの左上隅となります。

位置を指定すると、自動的にUタグの設定が終了します。

### 注意


- 表示位置指定のX座標は8ドット単位となります。端数は自動的に丸められます。Y座標は任意です。
- 「機種設定」で「GP-430系」「GP-230系」を指定している場合は、Uタグの設定はできません。
- GP上でウィンドウ表示を行う場合はファイル転送時にW0ファイルを転送してください。
- GP上でグローバルウィンドウを使用する場合はGP本体の初期設定で「グローバルウィンドウを使用する」に必ず設定してください。



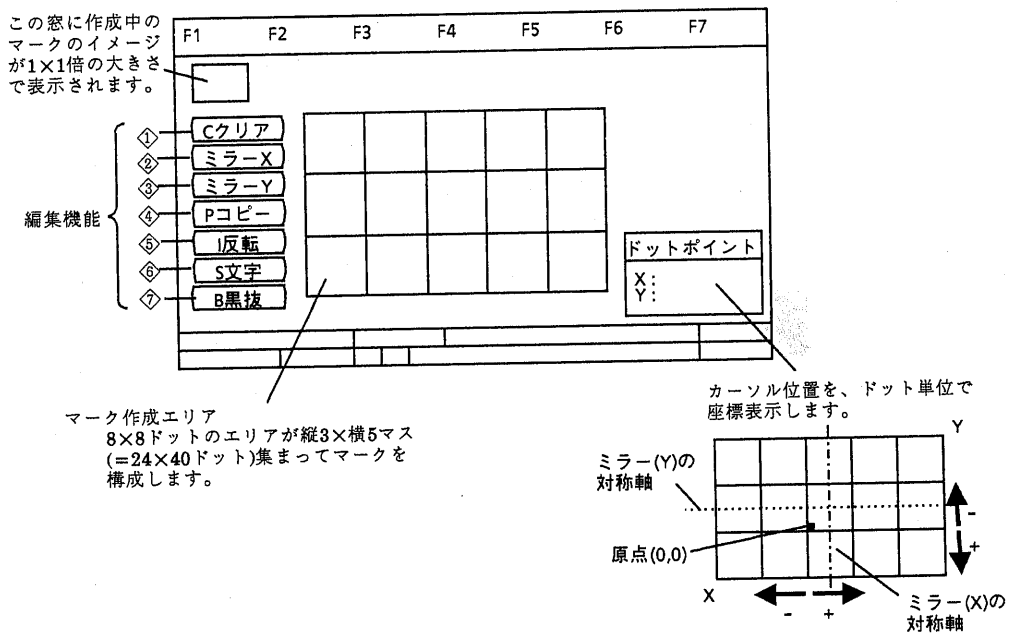
「GP-\*50シリーズユーザーズマニュアル/第5章 初期設定」

## 3 マークを作る(Mファイル)

Mファイルでマークを作ります。マークはBファイルに呼び出して表示したり、動画(タグ)設定により動画させることができます。

-  GP-\*50系 → 「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章12 マーク表示 <Mタグ>」  
 GP-\*50系以外 → 「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章3 Mタグ(マーク表示)」  
 「第3章1.9 マーク呼出」

Mファイル画面の概要を以下に示します。

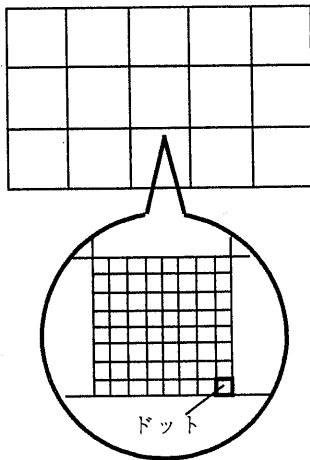


編集機能の内容を示します。

- ① 全画面もしくは一部を消去します。
- ② ドットを垂直線対称に移動します。対称軸は画面を縦に2等分する線です。
- ③ ドットを水平線対称に移動します。対称軸は画面を横に2等分する線です。
- ④ 部分的にコピーできます。
- ⑤ マークの表示を白黒反転させます。
- ⑥ すでにある文字を参照してマークを作成できます。
- ⑦ 1ドットも表示していない8×8ドットのマスがある場合、そこを透過表示させるかさせないかを指定できます。



- マーク呼出やタグ設定時に指定する表示ポイントは、マークファイル上では原点(0,0)となります。


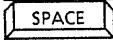


マークはドットをON/OFFさせることによって作成します。

<マウスを使用する場合>

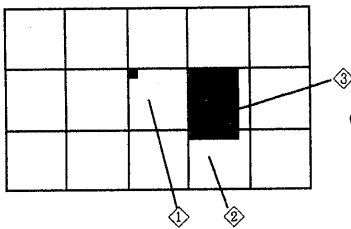
ドット上で左クリックするとON、右クリックするとOFFします。左ドラッグ、右ドラッグしながら描くこともできます。

<キーボードを使用する場合>

 でカーソルを移動し、  
 を押すことによりONとOFFを切り替えます。

マークは文字と同様の表示属性を持ちます。作成はドット単位で行いますが、表示エリアは8×8ドットのマス単位で計算されます。またGP上ではマークは図形よりも前方に表示されます。

<例>下図のようなマークの場合(図中で黒塗りされているドットがON指定とします)

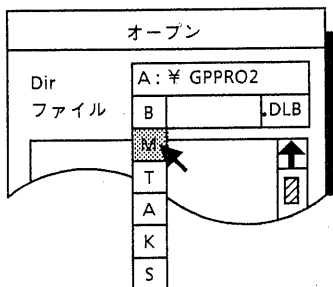



①②③のマス内でOFF指定のドットはGP上では黒抜になります。下に図形が重なった場合、図形は透過されません。

- ベース画面で「マーク呼出」するとき、背景色を黒+プリンク(透かし)にすると、ドットOFFの部分を透過表示させることができます。


マークの作成手順を示します。

①

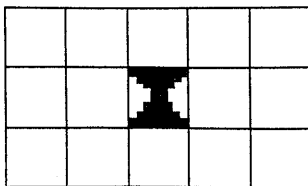


他のON指定のドットのないマスについては、  
 **黒抜** で透過表示させるかさせないかを指定できます。

Mファイルをオープンします。

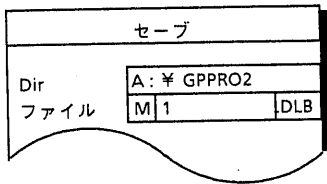
 「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

②




マウスまたはキーボードで描画します。必要に応じて編集機能を活用します(編集機能については次項で説明します)。

③



作業が終了したらセーブします。

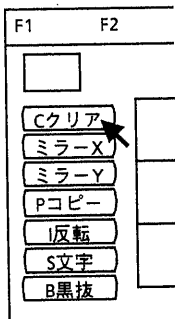
 「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

## マークの編集

マーク作成時には、以下の編集機能を活用できます。

- ・クリア            ・ミラー(X,Y)        ・コピー
- ・反転             ・文字                ・黒抜

## 編集機能の指定方法



使用する機能上で左クリックするか表示しているアルファベットをキーボードから入力して選択します。

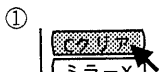
(例 「クリア」したい場合)  
**C**クリア を左クリックするか **C** を押します。

**C**クリア

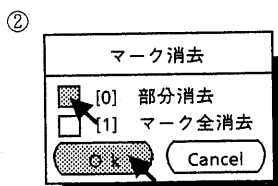
全画面、もしくは一部を消去します。

**注意** | **C**クリア は **F3-編集** での「取消し」はできませんのでご注意ください。

<一部を消去する場合>



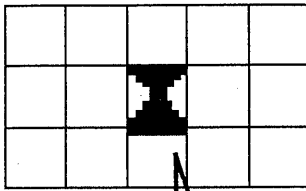
**C**クリア を選択します。



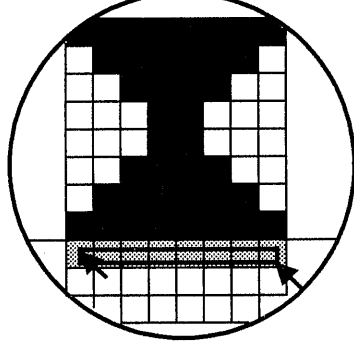
部分消去を選択します。

**O k**

③



(例 縦1×横8ドットの範囲を消去する場合)

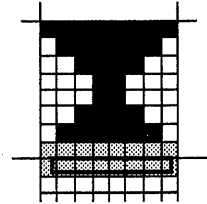


拡大図

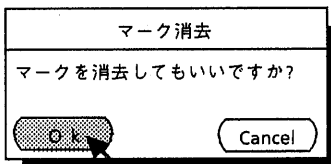
注意

消去する範囲を四角形を描く要領で指定します。  
消去したいドット上で左クリックします。

ドットの境界線上を指定すると、隣のエリアまで含んで指定されますのでご注意ください。

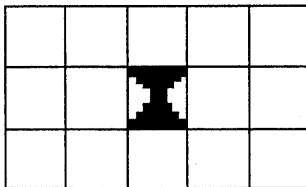


④



Ok で実行します。

⑤



指定した部分が消去されます。

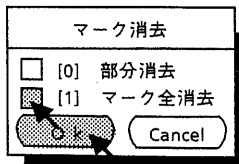
<すべてを消去する場合>

①



クリア を選択します。

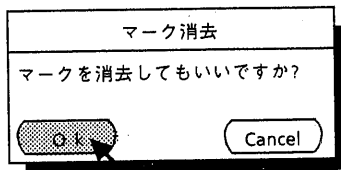
②



マーク全消去を選択します。

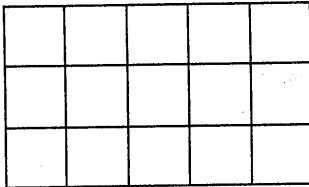
Ok

③



**Ok** 実行します。

④



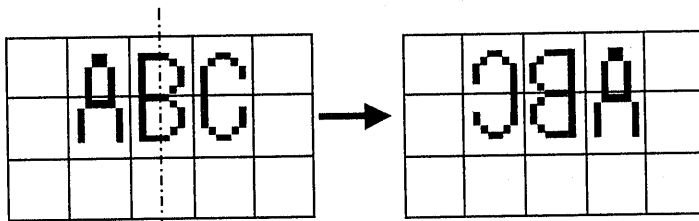
全画面が消去されます。

**注意**

実行後、復活できませんのでご注意ください。ファイルがセーブしてあった場合は、セーブファイルを再オープンすることで、セーブ時の状態までは戻すことができます。

**ミラーX**

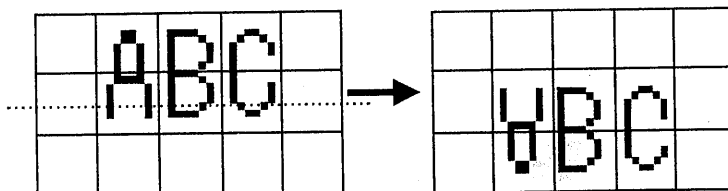
ドットを垂直線対称に移動します。対称軸は画面を縦に2等分する線です。



ミラーXを選択するとすぐに実行されます。

**ミラーY**

ドットを水平線対称に移動します。対称軸は画面を横に2等分する線です。



ミラーYを選択するとすぐに実行されます。

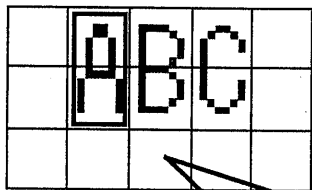
**Pコピー**

部分的にドット単位でコピーできます。



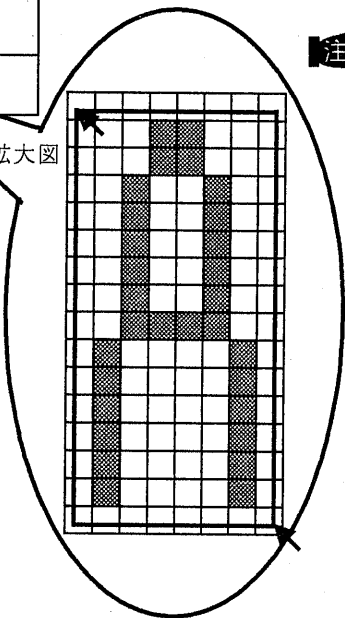
**Pコピー** を選択します。

②



コピーする範囲を四角形を描く要領で指定します。  
コピーしたいドット上を左クリックします。

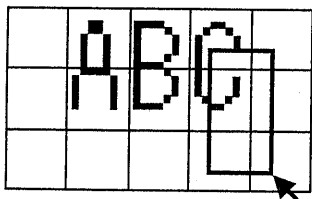
拡大図



**注意**

- ドットの境界線上を指定すると、となりのエリアまで含んで指定されますのでご注意ください。

③



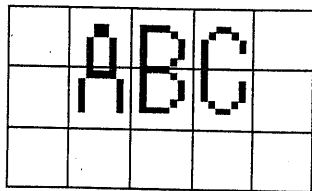
画面上には指定した範囲の枠が表示されます。  
コピーしたい位置に移動させ、左クリックします。  
左クリックすると何度でもコピーできます。

**注意**

- 既に作成済みのエリア上にコピーした場合は、上書きされ、それまでの設定は消えます。

**I反転**

マークの表示を白黒反転表示させます。



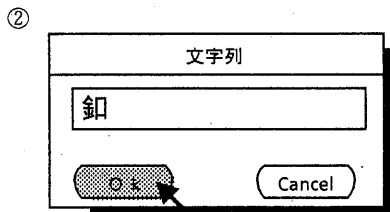
**I反転** を選択するとすぐ実行されます。

**S文字**

他の文字を参照してマークを作成できます。文字のパターンを読み込んで表示します。



**S文字** を選択します。

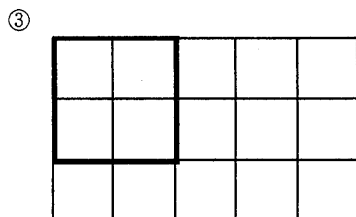


文字を入力します。

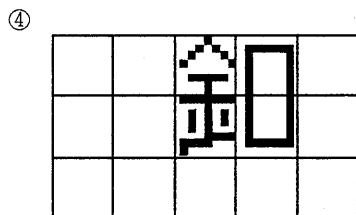
**参** 日本語入力するときは→「第2章1.3  
操作の進め方<日本語FEPの起動>」

例  
釘

**Ok**



画面には入力した文字の大きさに応じた枠(全角文字の場合16×16ドット、半角文字の場合16×8ドット)が表示されます。表示したい位置へ文字枠を移動させ、左クリックします。



指定した文字のパターンが表示されます。このパターンを利用して、マークを作成することができます。

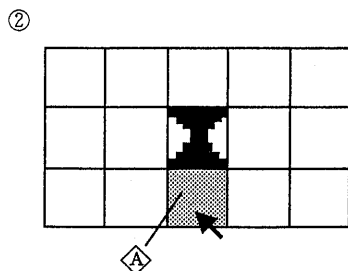
**B黒抜**

1ドットも表示していない8×8ドットのマスがある場合、そこを透過表示させるかさせないかを指定できます。

黒抜指定すると、透過表示されなくなります。



**B黒抜** を選択します。



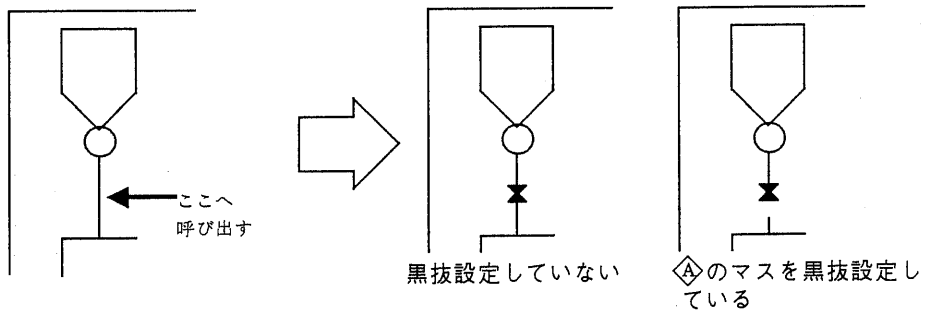
黒抜したい8×8ドットのマスの内側で左クリックします。

選択したあと、右クリックするか **ESC** を押し  
て確定します。

黒抜指定したマスは、マーク作成エリア上ではマスの境界線の色表示が変化します。マークのイメージを表示する窓では、黒抜で表示されます。



上記のマークをGP上で表示した場合、以下のようになります。



## 4 折れ線グラフを作る(Tファイル)

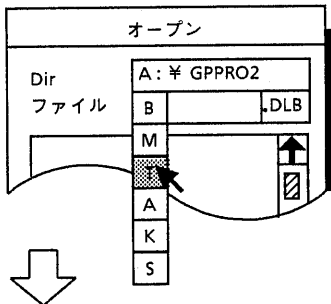
Tファイルでトレンドデータの折れ線グラフ画面を作成します。Tファイルで作画したグラフ画面はBファイル上に呼び出して使用します。

- 参** GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章24 折れ線グラフ表示」  
 GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章19 折れ線グラフ表示」  
 「第3章1.8 ファイル呼出」

**メモ** 1つのBファイルに呼び出すことのできる折れ線グラフファイルは、最大8画面です。GP上で有効な折れ線グラフの設定数は、グラフの画面数最大20本です。

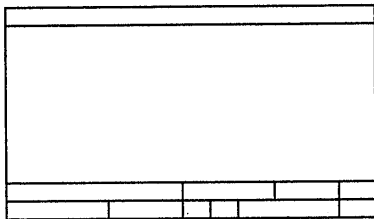
**注意** GP-230シリーズでは折れ線グラフ表示はサポートされていません。

①

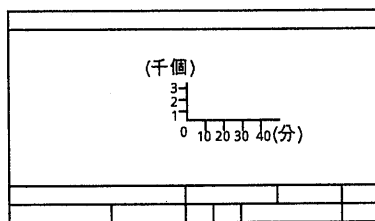


Tファイルをオープンします。

**参** 「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」



②



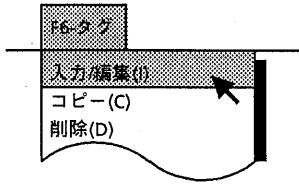
グラフを作画します。

**参** 「第3章1 絵や文字を描く」  
 「第3章2 編集する」

**注意**

- 折れ線グラフをBファイル上に呼び出すときには、グラフ画面の中央(320,200)を基準に指定ポイントを考えます。  
 GP-550系では中央は(320,240)となります。  
 GP-250系では中央は(160,120)となります。
- 軸や目盛りはグラフの表示エリアの外側に作画してください。表示エリアに重なると、GP本体で動作させたとき、軸や目盛りが消えてしまいます。

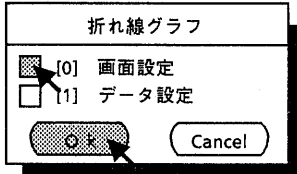
③



「画面の設定」を行います。

**F6-タグ** の入力/編集を選択します。

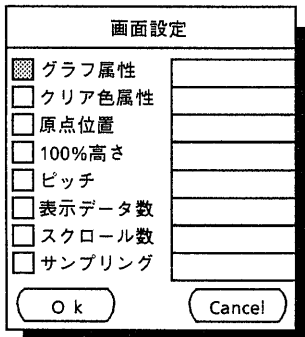
④



画面設定を選択します。

**Ok**

⑤



項目に従い設定します。1項目設定するごとに確定の **Ok** を入力してください。

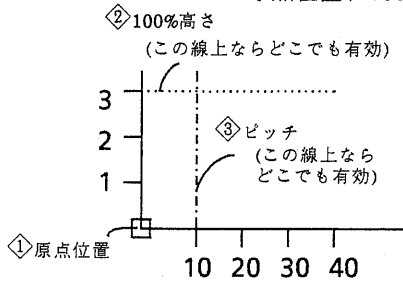


GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタググラフィレンスマニュアル/第2章24 折れ線グラフ表示」  
GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章19 折れ線グラフ表示」

**注意**

モード、クリア色、サンプリング以外の項目は他項目の入力値によって設定有効範囲が決められるため、項目設定は必ず上から順に行ってください。

原点位置、100%高さ、ピッチは画面上でクリック指定します。

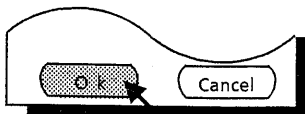


- ① 初期値は(320,200)です。グラフの原点となる位置で左クリックします。
- ② グラフの100%の高さ(Y座標)を左クリックで指定します。原点位置から自動的に計算された値が手順⑤の枠内に表示されます。
- ③ グラフの最初の折れ山となる位置(X座標)をピッチ幅として左クリックで指定します。原点位置から自動的に計算された値が手順⑤の枠内に表示されます。

**注意**

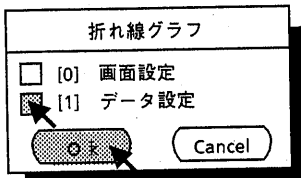
軸や目盛りはグラフの表示エリアの外側に作画してください。表示エリアに重なると、GP本体で動作させたとき軸や目盛りが消えてしまいます。

⑥



すべての設定を終えたら **Ok** を入力します。

⑦

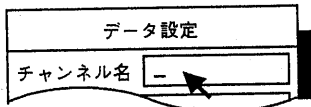


折れ線グラフの「データ設定」を行います。

データ設定を選択します。

**Ok**

⑧



チャンネル名を入力します。頭文字が「O」  
<オー>で6文字以内で付けます。

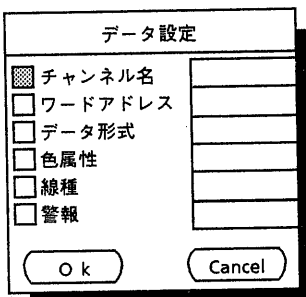
例  
O1

⑨



**Ok**

⑩



項目に従い設定します。1項目設定することに確定の**Ok**を入力してください。



GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンス  
マニュアル/第2章24 折れ線グラフ  
表示」

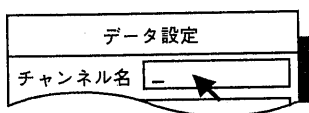
GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章19 折れ線グラフ表示」

⑪



すべての設定を終えたら **Ok** を選択します。

⑫



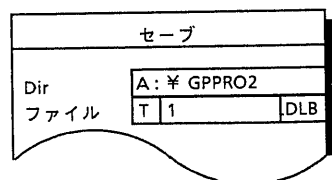
- 同じグラフ画面上に複数のチャンネルを表示する場合は同様に作業を繰り返してください。なお、GP本体で設定できるチャンネルの数(グラフの本数)は最大20です。

⑬



設定を終了するときは **Cancel** を入力します。

⑭



作業が終了したらセーブします。



「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

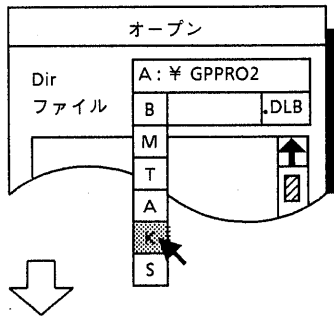
# 5 キーボードを作る(Kファイル)

Kファイルでキーボード(タッチパネルから設定入力を行うための画面)を作成します。  
Kファイルで作画したキーボードはBファイル上に呼び出して使用します。

- 参** GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章9 設定値入力<Kタグ>、10 タッチキーボード入力<kタグ>」  
GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章5 Kタグ(キーボード入力)、6 kタグ(キーボード入力)」  
「第3章1.8 ファイル呼出」

## 1 キーボードを作る

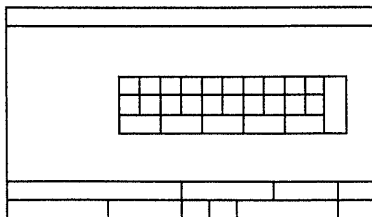
①



Kファイルをオープンします。

**参** 「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

②



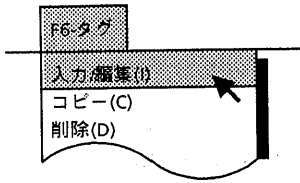
キーボードを作画します。

**参** 「第3章1 絵や文字を描く」  
「第3章2 編集する」



- Kファイルにはサンプルが用意されています。サンプルを利用することによってキーボード作成の手間を省くことができます。サンプルキーボードについては「2 サンプルキーボードの利用方法」をご参照ください。

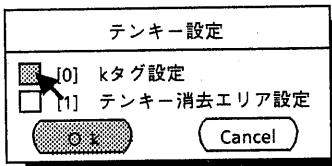
③



各キーに機能を割り付けるため、「kタグ設定」をします。

**F6-タグ** の入力/編集を選択します。

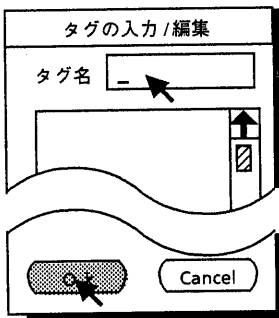
④



テンキー設定メニューが表示されます。  
kタグ設定を選択します。

Ok

⑤

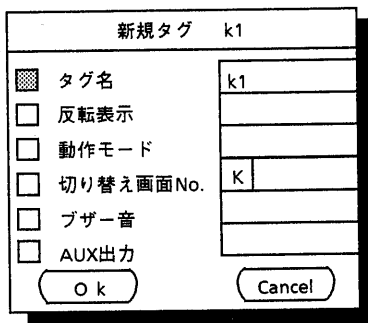


タグ名を入力します。頭文字が「k」で6文字以内で付けます。

例  
k1

Ok

⑥



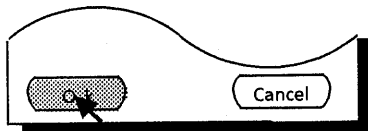
項目に従い設定します。1項目設定するごとに確定のOkを入力してください。



GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章10タッチキーボード入力<kタグ>」

GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章6 kタグ(キーボード入力)」

⑦



Ok



● サンプルキーボードには、kタグもあらかじめ設定されています。

⑧

k1										
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	E N T
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
×		/		+		-		BS		

タグ名の位置を左クリックで指定します。

⑨

0	1	2	3	
A	B	C	D	

タッチエリアの始点と終点位置を左クリックで指定します。

**注意**

- タッチエリアは他のタグのタッチエリアと重ならないように指定してください。

⑩

タグの入力/編集

タグ名

⑤～⑨をくり返し、すべてのキーにkタグを設定します。

⑪

タグの入力/編集

タグ名

k1  
k2

Ok Cancel

すべての設定を終えたら **Cancel** を入力します。

⑫

テンキー設定

[0] kタグ設定

[1] テンキー消去エリア設定

Ok Cancel

設定を終了する場合は **Cancel** を選択します。大ききの違うテンキー画面を切り替える場合は「テンキー消去エリア設定」をします。

**2/2**

- テンキーの画面切り替え  
画面切り替えのキーを押すとキーボードの部分だけを切り替えることができます。

⑬

テンキー設定

[0] kタグ設定

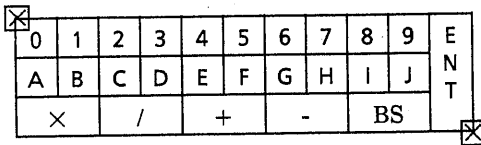
[1] テンキー消去エリア設定

Ok Cancel

テンキー消去エリア設定を選択します。

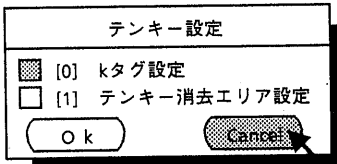
**Ok**

⑭



消去エリアの始点と終点位置を左クリックで指定します。

⑮

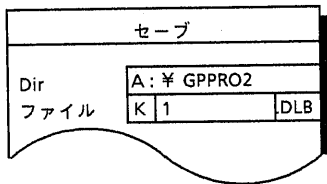


再びテンキー設定メニューが表示されます。

設定を終了します。

Cancel

⑯



作業が終了したらセーブします。

参 「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

## 2 サンプルキーボードの利用方法

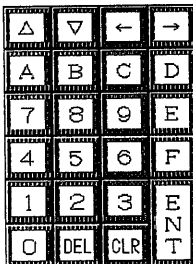
インストールしたディレクトリの下のディレクトリ<KEYLIB>にはサンプルキーボードが収められています。

サンプルキーボードの利用方法を説明します。

サンプルキーボードの内容は以下のとおりです

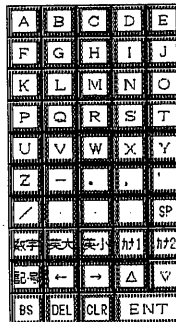
テンキー

K8000~8001  
<例: K8001>



フルキー(縦型)

K8010~8017  
<例: K8013>



フルキー(横型)

K8002~8009  
<例: K8007>



- K8000.DLM テンキー-10進数入力用
- K8001.DLM テンキー-16進数入力用
- K8002.DLM テンキーコントロールキー  
横形
- K8003.DLM テンキー横形 数字
- K8004.DLM テンキー横形 記号
- K8005.DLM テンキー横形 英大文字
- K8006.DLM テンキー横形 英小文字
- K8007.DLM テンキー横形 カタカナ1
- K8008.DLM テンキー横形 カタカナ2
- K8009.DLM テンキー横形 基本型
- K8010.DLM テンキーコントロールキー  
縦形
- K8011.DLM テンキー縦形 数字
- K8012.DLM テンキー縦形 記号
- K8013.DLM テンキー縦形 英大文字
- K8014.DLM テンキー縦形 英小文字
- K8015.DLM テンキー縦形 カタカナ1
- K8016.DLM テンキー縦形 カタカナ2
- K8017.DLM テンキー縦形 基本型



用意されているファイルはメモリtoメモリタイプ(拡張子.DLM)用です。  
 ご使用のPLCタイプに合わせて拡張子を変更する必要があります。  
 この作業は、いったんGP-PRO IIを終了させてから、付属のデータ変換用プログラムツール  
 を起動させて行います。変換用ツールは、<KEYLIB>の中にあります。

**注意** ● 変換後のファイルを格納するために十分な容量を確保してから、作業を開始してください。

## <起動方法>

A: ¥ GPPRO2>

いったんGP-PRO IIを終了し、DOSのプロンプト状態にします。カレントディレクトリはGP-PRO IIがインストールされているディレクトリとします。

①

A: ¥ GPPRO2>CD KEYLIB


KEYLIBのディレクトリに移ります。

CD\_KEYLIB 

②



A: ¥ GPPRO2¥ KEYLIB>KNC

変換プログラムを起動させます。

KNC 

```
=====
テンキーファイルの
PLCタイプを変更します
GP410:697-699.MTM
GP430:8000-8017.DLM
(株)デジタル
=====
PLCタイプを選択して下さい
(M: M to M      ,0: SYSMAC C  ,1: N
(3: FA-500     ,4: MICREX-F  ,5:
(7: MEWNET FP  ,8: HIDIC     ,9: N
(B: MELSEC AxA ,C: KOSTAC SR21,D: S
(F: EX100     ,G: HIZACH   ,H: N
(K: KOSTAC SG8 ,L: PROSECT  ,O: F
(R: TC200     ,2Q: FA-500M
(2S: GE-Fanuc Series90 ,2T: GE-Fanuc Seri
(2V: IZUMI IDEC-1  ,2W: IZUMI IDEC-2
(U: SIEMENS S5 90-115 ,V: SIEMENS S5 13
(X: AB PLC-5     ,TG: TGP-B10 ,MD:
PLCタイプ:
```

変換プログラムの画面が表示されます。

 ● 中止するときは、を押します。

③

PLCタイプ: B

PLCタイプを選択します。  
 この例では、三菱電機(株)製「MELSEC AxAシリーズ」を選択します。

B 

K8000.DLM ==>K8000.DLB  
変更終了

K8017.DLM ==>K8017.DLB  
変更終了

メモリtoメモリタイプ用のキーボードを、指定したPLCタイプ用のキーボードに変更します。もとのメモリtoメモリタイプ用のファイルは残ります。

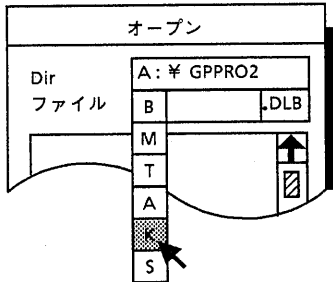
④

A: ¥ GPPRO2 ¥ KEYLIB > COPY \*.DLB A: ¥ GPPRO2

KファイルをBファイル等と同じディレクトリにコピーします。KEYLIB中の拡張子“.DLB”のファイルを、Aドライブのディレクトリ“GPPRO2”にコピーします。

COPY\_\*.DLB\_A: ¥ GPPRO2 

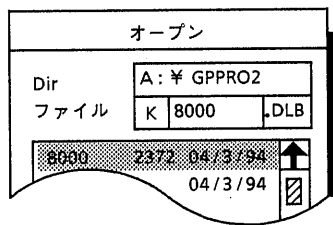
⑤



GP-PRO IIを立ち上げ、ファイルをオープンします。

Kファイルをオープンします。

⑥



Kファイルがリスト表示されます。



- 作成したKファイル(K8000.\*~K8017.\*)は、そのPLCタイプのKファイルのマスターファイルとして扱うことをおすすめします。

## 6 メッセージを登録する(Aファイル)

Aファイルにメッセージを登録します。メッセージ1つ(Aファイル1つ)に対し、監視ビットを1つずつ指定します。監視ビットがセットされると対応するメッセージが表示されます。メッセージの表示方法(アラームモード)には2種類あります。どちらかを選択します。

アラームサマリ表示 ..... メッセージを一覧表示します。

アラームメッセージ表示 ... メッセージを画面下に流れ表示します。

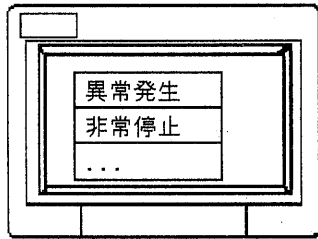
**参** GP-\*50系→「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章2 アラームサマリ表示<aタグ>、23 アラームメッセージ表示」

GP-\*50系以外→「GP-430シリーズ活用マニュアル/第3章7 aタグ(アラームサマリ表示)、18 アラームメッセージ表示」

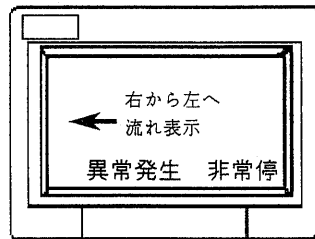
「第3章1.8 ファイル呼出」

**注意** ● GP-230シリーズではアラームメッセージ(流れ)表示はできません。

GP-430本体では、以下のように表示されます。

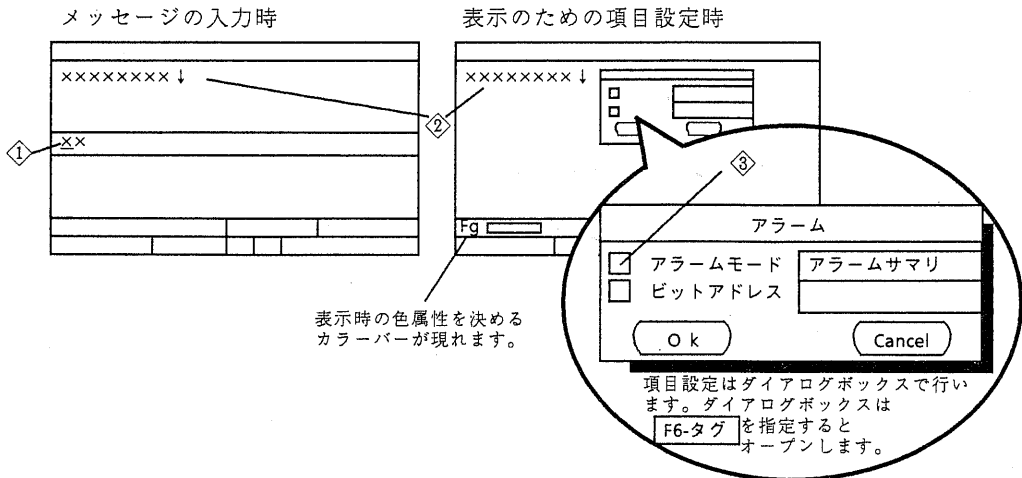


● アラームサマリ表示



● アラームメッセージ表示

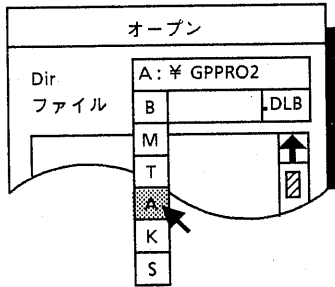
Aファイル画面の概要を以下に示します。



- ① メッセージ入力エリアです。半角で160文字分まで入力できます。入力終了時には、このエリアは画面上から消えます。
- ② 入力時のメッセージが表示されます。メッセージを変更したい場合には、ダイアログボックスがオープンしていない状態で表示エリア上で左クリックすると、①が現れてメッセージ編集を行うことができます。
- ③ アラームサマリ表示を行うためのメッセージか、アラームメッセージ表示を行うためのメッセージかを指定します。ボタンを左クリックすることにより、指定を切り替えることができます。

アラームメッセージの作成手順を示します。

①

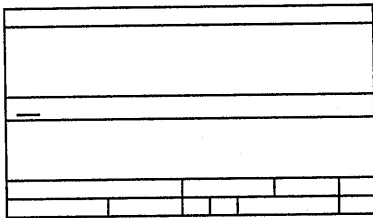


Aファイルをオープンします。



「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

②



ファイルオープン時は、メッセージ入力モードとなっています。メッセージを入力します。半角で160文字分まで入力可能です。

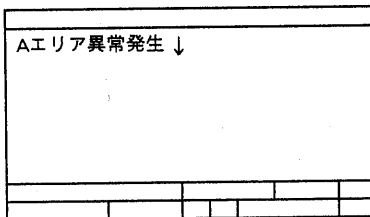
例

Aエリア異常発生



日本語入力するときは→「第2章1.3 操作の進め方<日本語FEPの起動>」

③



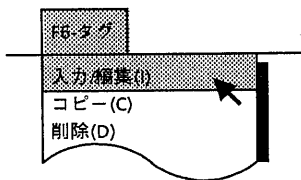
メッセージ入力終了すると、入力エリアは消えて、確定メッセージが表示されます。メッセージを変更したい場合は、表示エリア上で左クリックまたは  を入力します。再び入力エリアが現れてメッセージ編集を行うことができます。

メッセージが確定できたら、表示機能設定を行います。

**注意**

アラームメッセージは半角で160文字分まで入力できますが、アラームサマリの場合、GP上で表示する文字の大きさによって表示有効な文字数は変化します。有効文字数からあふれた分については、表示はカットされます。GP-230シリーズやGP-250シリーズで、アラームサマリ表示する場合は、半角で40文字分以内で入力して下さい。

④



メッセージを表示するための設定を行います。

の入力/編集を指定します。

⑤

項目設定のためのダイアログボックスがオープンします。  
アラームモードを指定します。初期値はアラームサマリ表示指定となっています。ボタンを左クリックするたびに、モードおよびダイアログボックス内の設定項目メニューが切り替わります。

アラームメッセージ表示の場合

⑥

監視ビットのアドレスを入力します。

例  
M0800

アラームサマリ表示の場合はボックス内での設定は終了です。手順⑨にとびます。

⑦

アラームメッセージ表示の場合、メッセージのプリントアウト機能があります(GP-250、GP-230、GP-\*3Jシリーズでは行えません)。メッセージ発報の履歴を印刷することができます。印刷したいメッセージの場合はプリントアウトを選択します。

⑧

必要な項目を指定します。

- ...プリント出力有
- ...プリント出力無

を左クリックするごとに切り替わります。

⑨

表示属性を設定します(ガイドラインに表示されます)。

左クリックで選択します

「第3章1 絵や文字を描く」

⑩

確定します。

⑪

作業が終了したらセーブします。

「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

**注意**

- アラームサマリは設定のみでは動作しません。Bファイル上でaタグを設定してください。

## 7 テキストデータの作成(Xファイル)

Xファイルにテキストデータを作成します。Xファイルをオープンし、GPテキストエディタを使って作成する方法と、他のエディタで作成したDOS形式のテキストデータをGP用のXファイルに変換する方法があります。

作成したテキストデータは、動画表示させることができます。動画方法には、指定した行数分の文字列表示(Xタグ)とエラーガイダンス付きのリスト表示(Aタグ)の2種類があります。

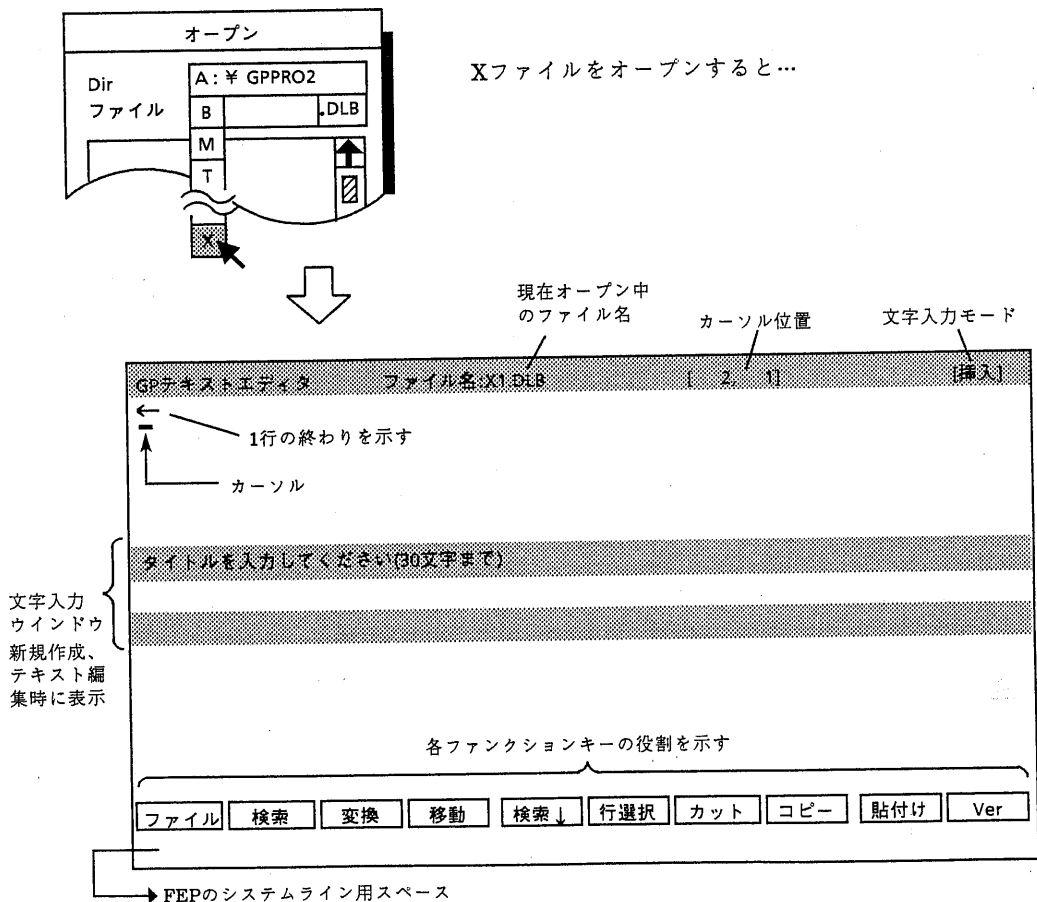
**参** 「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/  
第2章1 アラームサマリ(テキスト)表示<Aタグ>、  
第2章22 テキストデータ表示<Xタグ>」

**注意** | ● この機能はGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズのみ使用できます。

ここではGPテキストエディタを使って作成する方法について説明します。他のエディタで作成したテキストデータを利用する場合、**F2-ファイル**「ユーティリティ/テキストファイル変換」でも変換できます。

**参** 「第4章11.5 テキストファイル変換」

### 1 Xファイル画面の概要

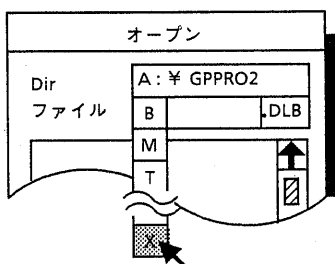


## 2 テキストデータの作成

テキストエディタはキーボードで操作します。ファイルの管理やテキストの編集はファンクションキーで行います。

### <起動のしかた>

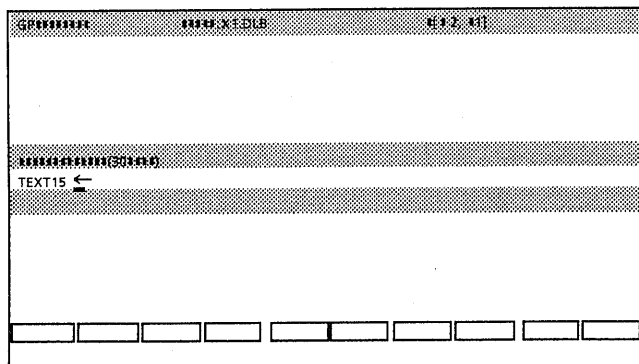
①



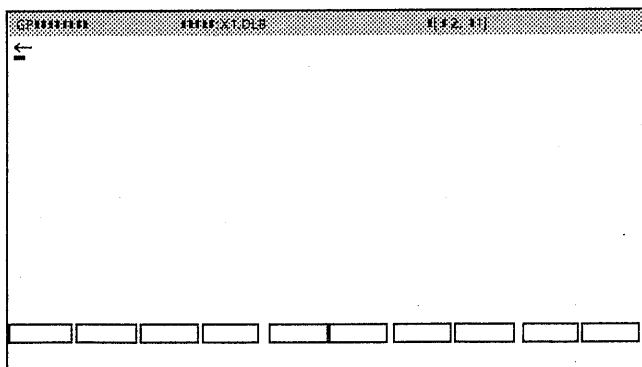
Xファイルを開きます。  
テキストエディタが起動します。

新規作成するときは、ファイル番号とタイトルを入力します。既存ファイルを開くときは、リストから選択します。

新規作成するときは...



②



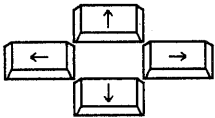
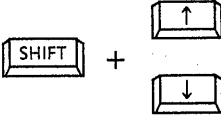
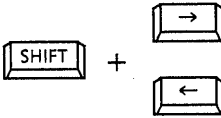





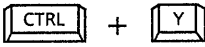
キーボードからテキストを入力します。

#### 注意


- 終了は **F1** (ファイル) で操作します。次ページの<ファイル管理>を参照してください。
- テキストを入力するときは以下の点に注意してください。
  - ・ 1行の区切りには必ずリターンコード(**CR+LF**)を入力して下さい。
  - ・ 1行の文字数は半角**80文字分以内**で入力してください。(GP-250は半角40文字)
  - ・ **512行以内**で作成してください(それ以上は無効になります)。


## <テキストエディタでのキー操作>

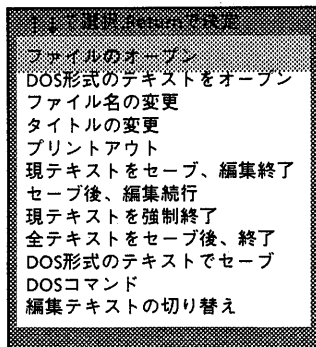
テキストデータ作成時に有効なキー操作を以下に示します。

キーボード	機能
	カーソルを1文字分移動
	カーソルを5行移動
	カーソルの行の末尾 または先頭へ移動
	カーソルを21行上へ移動
	カーソルを21行下へ移動
	カーソル位置の1つ前の 文字を削除
	カーソル位置の文字を 削除
	挿入モード、上書きモードの 切り替え
	カーソルのある行を削除





## <ファイル管理>

ファイルのオープン/セーブなどのファイル管理は  (F1) (ファイル)で行います。

 (F1) (ファイル)を押すと下図のようなウィンドウが表示されます。





カーソルキーの   で実行したいコマンドを選択し、 で決定します。  
 でキャンセルできます。

各コマンドの機能について説明します。

(1)ファイルのオープン

Xファイルをオープンします。現在編集中のファイルはセーブ/終了されません。新規ファイルオープン時には、タイトルも入力します。同時に10ファイルまでオープンできます。

(2)DOS形式のテキストをオープン

DOS形式のテキストファイルをオープンします。ただし、制御コードは無効とし、1行の長さが半角80文字を超える場合は80文字以降の文字を省略してオープンします。新規オープンはできません。

(3)ファイル名の変更

現在編集中のファイルのファイル名(ファイル番号)を変更します。

(4)タイトルの変更

現在編集中のファイルのタイトルを変更します。

(5)プリントアウト

現在編集中のファイルをプリントアウトします。プリント中には“印刷された行数/印刷する行数”が表示されます。

(6)現テキストをセーブ、編集終了

現在編集中のファイルをセーブして終了します。DOS形式のファイルの場合、Xファイルのファイル名とタイトルを入力します。

(7)セーブ後、編集続行

現在編集中のファイルをセーブします。編集は続行します。DOS形式のファイルの場合、Xファイルのファイル名とタイトルを入力します。

(8)現テキストを強制終了

現在編集中のファイルをセーブせずに終了します。

(9)全テキストをセーブ後、終了

オープンしているテキストファイルをすべてセーブして終了します。DOS形式のファイルの場合、Xファイルのファイル名とタイトル名を入力します。


(10)DOS形式のテキストでセーブ


DOS形式のファイルとしてセーブします。拡張子は、.TXTに変更されません。

(例) X1.DLM→X1.TXT

(11)DOSコマンド

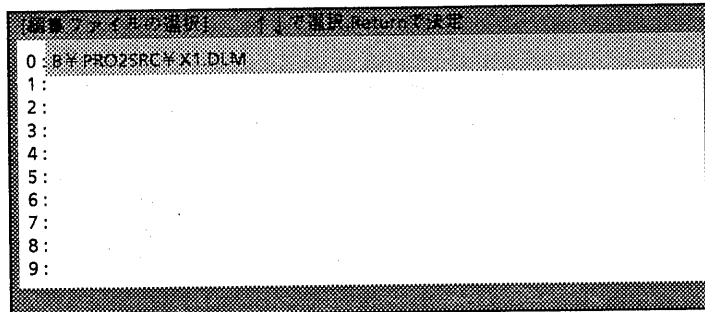
GPPRO2のDOSコマンドと同じ機能です。

DOSからテキストエディタへ戻る場合は、“EXIT ”と入力してください。

 「第5章3.3 DOSコマンド」

## (12)編集テキストの切り替え

このコマンドを選択すると、下図のようなウィンドウが表示され、オープンしているすべてのファイルの中から、編集するファイルを選択できます。

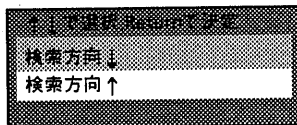


## &lt;テキストデータの編集&gt;

テキストの検索や移動、コピーなどの編集は、ファンクションキーのF2~F9で行います。

## ● テキストの検索

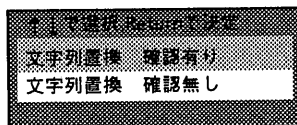
**F2** (検索)を押すと下図のようなウィンドウが表示されます。



検索方向↓、検索方向↑を選択すると、文字入力ウィンドウが表示されます。検索したい文字列を入力します。**↵**の入力で、カーソル位置の次の文字から検索を開始し、入力した文字列までカーソルが移動します。ひきつづき、同じ文字列を検索するときは、**F5** (検索↓)で↓方向へ、**SHIFT** + **F5** (検索↑)で↑方向へ検索できます。

## ● テキストの置換

**F3** (変換)を押すと下図のようなウィンドウが表示されます。



確認有り、確認無しを選択すると、文字入力ウィンドウが表示されます。旧文字列と新文字列を入力します。旧文字列を新文字列に置換します。**↵**の入力で、カーソル位置の文字から置換検索を開始します。

確認有りを選択したときは、カーソルが、現在の位置から順に置換したい文字列まで移動します。置換する場合は**↵**、スキップする場合は**SPACE**を押します。**ESC**で置換を終了します。

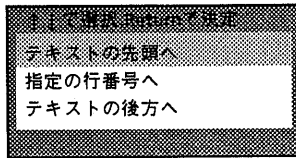
確認無しを選択したときは、カーソル位置以降にある旧文字列をすべて置換します。

**注意**

● **SPACE**でスキップするときはFEPを終了させてください。

## ● カーソルの移動

**F4** (移動)を押すと下図のようなウィンドウが表示されます。



テキストの先頭へを選択すると、カーソルがテキストの先頭へ移動します。  
 テキストの後方へを選択すると、カーソルがテキストの末尾へ移動します。  
 指定の行番号へを選択すると、文字入力ウィンドウが表示されます。ジャンプしたい行番号を入力すると指定した行へカーソルが移動します。

## ● テキストの移動

行単位でテキストを移動します。

まず、移動元となる行を選択します。選択したい行にカーソルをもっていき、**F6** (行選択)で行の選択を開始します。カーソルキーの 、**ROLL UP**、**ROLL DOWN** で範囲を指定します。選択されている行は黄色に反転します。**ESC** で選択を中止できます。選択できたら、**F7** (カット)を押した後、移動したい先へカーソルをもっていきます。**F9** (貼付け)を押すと選択した行が移動されます。

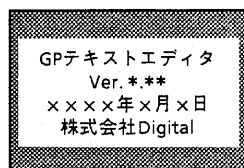
## ● テキストのコピー

行単位でテキストをコピーします。

まず、コピー元となる行を選択します。選択したい行にカーソルをもっていき、**F6** (行選択)で行の選択を開始します。カーソルキーの 、**ROLL UP**、**ROLL DOWN** で範囲を指定します。選択されている行は黄色に反転します。**ESC** で選択を中止できます。選択できたら、**F8** (コピー)を押した後、移動したい先へカーソルをもっていきます。**F9** (貼付け)を押すと選択した行がコピーされます。

## ● Versionについて

**F10** (Ver)を押すとテキストエディタのVersionを表示します。

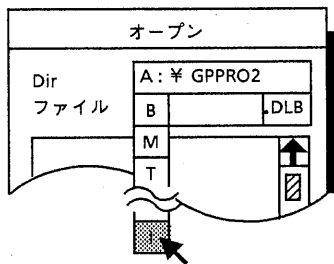


## 8 イメージデータの表示(Iファイル)

イメージスキャナなどで読み込んだイメージデータ(ビットマップ=BMPファイル)をGP用のIファイルとして登録し、イメージデータを固定表示または動画表示させることができます。最大640×480ドットまでのイメージデータを変換できます。

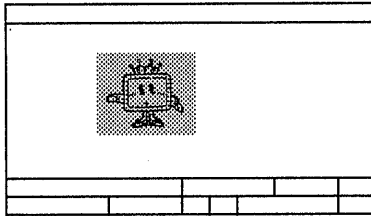
### 注意

- この機能はGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズのみ使用できます。
- イメージデータはモノクロ、16色、256色で描画されているものを扱うことができます。



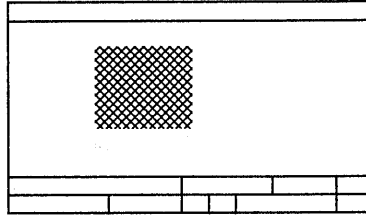
Iファイルをオープンすると...

イメージ表示On時



変換したイメージデータが詳細表示されます。

イメージ表示Off時



イメージデータのエリアのみ表示します。



- イメージ表示On/Offの切り替えは **F4-オプション** で行います。

### イメージライブラリファイル活用の手順

イメージスキャナや他の図形作成ソフト  
でイメージデータを作成する



GP-PRO II上でIファイルに変換する

「第4章11.7 BMPファイル変換」



Bファイル上に呼び出す、または  
使用目的に合わせて動画設定する

「第3章1.8 ファイル呼出」  
「GP-\*50シリーズタグリファレンスマニュアル/第2章11 ライブラリ表示 <Lタグ>」

### 注意

- GP-PRO IIのIファイル上では変換したイメージデータを確認することはできませんが、編集はできません。編集作業は変換前のイメージデータに対して行い、再度Iファイルに変換してください。

## 9 GP側の初期設定(Sファイル)

システムファイル(S0)ではGP本体の動作環境(GP本体の初期設定)を設定します。設定した内容をGP本体に転送すると、その設定に応じてGPは動作します。

**設定項目一覧** (各設定項目の詳細については、それぞれのユーザーズマニュアルをご参照ください)

### 1 - System

#### 1 - システムの設定

- チェックサムの検証
- パスワードの設定
- スタンバイモード時間
- スタートタイム
- タッチブザーの音
- ブザー端子出力
- ブザー端子出力の音
- 表示画面番号データ形式

### 2 - I/O

#### 2 - I/Oの設定

- HOSTチャンネル(ご使用のGP本体がSIOタイプかDIOタイプかを設定してください)

##### SIOタイプ

- RS-232C/RS-422通信方式
- 伝送速度
- データ長
- ストップビット
- パリティビット
- 制御方式
- タッチ動作モード
- 通信監視時間設定

##### DIOタイプ

- DIO設定
- DINディレイ時間
- データレディ時間
- 割り込みスローブ時間
- タッチ時間モード
- 通信監視時間設定

### 3 - Mode

#### 3 - モードの設定

##### PLCプログラムレスタイプ

- リンクプロトコルタイプ
  - システム先頭アドレス
  - システムエリア項目 — GP-\*50、GP-250
  - 号機 No. シリーズのみ設定
  - 読み込みエリアサイズ します
  - 書き込みエリアサイズ
  - アドレス不連続の補正値
  - 局情報の設定
  - カスタマイズ機能
- GP-\*50、GP-250シリーズでn:1通信する場合のみ設定します

##### メモリtoメモリタイプ

- 対象PLCの設定
- 通信プロトコル
- 号機 No.
- 通信形式
- ETX、チェックサム
- ターミネーター
- ACK
- NAK

GP-\*30シリーズ  
拡張モードの  
場合のみ設定し  
ます

### 4 - Option

#### 4 - オプション設定

- 拡張メモリアドレス
  - ビデオ制御先頭アドレス
  - センターズーム
  - チャンネル0
  - チャンネル1
  - チャンネル2
  - アダプタ使用モード — PLCタイプ MELSEC-AnA(CPU), AnN(CPU) 選択時のみ設定します
- GP-530VMのみ設定します

### 6 - Restrict'n

#### 6 - 機種制限項目の設定

- 強制リセット
  - コントラスト調整
  - 輝度調整
  - リバース表示
  - プリンタタイプ
  - 漢字フォントの設定
  - オンライン時エラー表示
  - 文字列データモード
- GP-\*50、GP-250シリーズのみ設定します

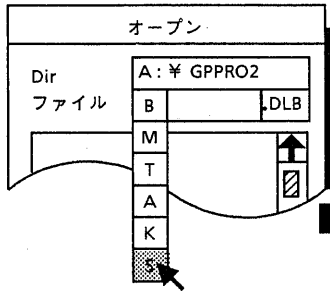
### 5 - Initial

#### 5 - 初期画面設定

- 初期画面番号
- アラーム縦サイズ
- アラーム横サイズ

システムファイルの作業手順を示します。

①



システムファイル(S0)をオープンします。

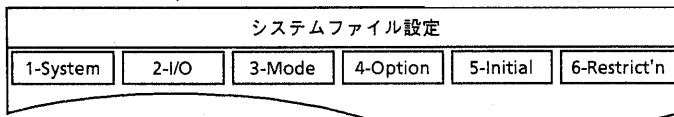


「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」

**注意**

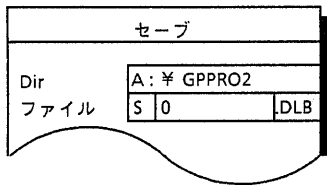
• システムファイルのファイル番号は0固定です。

②



設定したいメニュー(1~6)を左クリックし、設定内容を選択、または入力します。

③



すべての設定を終えたらセーブします。



「第2章3.1 ファイルのオープン/セーブ」


S0ファイルでの作業を終了します。別ファイルでの作業を行う場合は別ファイルを新たにオープンしてください。

**注意**

- S0ファイルをGP本体へ転送するとGP本体で初期設定を行う必要はありません。S0ファイル転送後にGP本体で設定を変更することは可能です。
- GP-430、530T/VMの伝送速度設定は本体裏面のポーレート設定スイッチ(SW1)で行うためS0ファイルでは設定できません。

## <設定方法>

「有」「無」を選ぶ

チェックサムの検証 : 有  無  左クリックします。


数値を入力する

スタートタイム : [0]秒(0-255)  または[ ]内を左クリックしてからキーボード入力します。

選択肢から選ぶ


データ長 : [7]8  [ ]内を左クリックします。

ダイアログボックス内で設定する


①  システムエリア項目 : [20]ワード  表示されたダイアログボックス内で項目を設定します(この例の場合では、を左クリックして設定します)。

②  エリア項目:

<input checked="" type="checkbox"/>	09 画面表示ON/OFF
<input checked="" type="checkbox"/>	10 時計データ(設定値)
<input checked="" type="checkbox"/>	14 コントロール
<input checked="" type="checkbox"/>	15 予約



設定値を切り替える

伝送速度 : 9600bps  数値上で左クリックすると切り替わります。

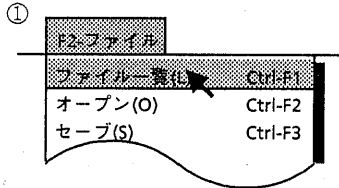
### 注意

- 「チェックサムの検証」「ブザー端子出力の音」はGP-PRO II上でのみ設定できる項目です。GP本体では設定できません。

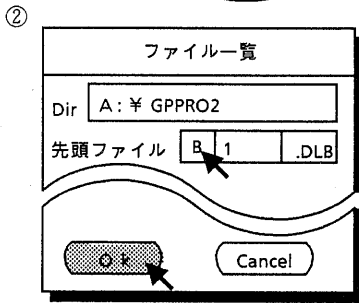


# 10 ファイル一覧を表示する

これまでに作成した画面ファイルを確認しましょう。画面ファイルのファイル名やサイズ、タイトルなどを一覧表示します。



ファイル一覧を選択します。



一覧表示させたいファイルの先頭のファイルヘッダおよびファイル番号を入力します。

例  
B1



- 一覧表示を中止したい場合は右クリック、もしくは  を入力してください。

<画面例>

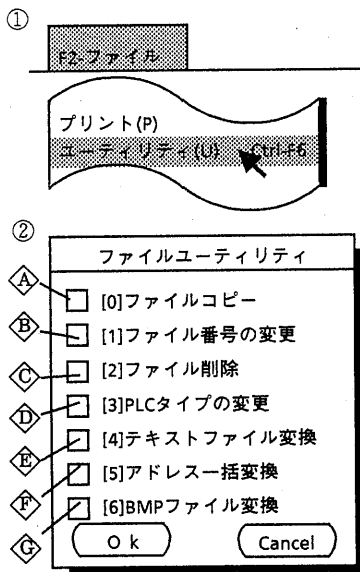
ファイル名	日付	時刻	サイズ	タイトル
B1 .DLB	1994/04/06	14:15	\$2003	設定画面
B2 .DLB	1994/04/06	11:10	1015	運転監視画面
B3 .DLB	1994/04/06	15:25	W1006	生産情報画面

サイズ表示の\$は画面にタグが設定されていることを、Wは画面にウィンドウが登録されていることを示しています

# 11 ユーティリティ

ユーティリティで各種ファイルを有効活用することができます。

- |   |           |   |            |
|---|-----------|---|------------|
| 1 | ファイルコピー   | 5 | テキストファイル変換 |
| 2 | ファイル番号の変更 | 6 | アドレス一括変換   |
| 3 | ファイル削除    | 7 | BMPファイル変換  |
| 4 | PLCタイプの変更 |   |            |



ユーティリティを選択します。

ユーティリティの項目が一覧表示されます。

- ◆A 指定したファイルをコピーします。
- ◆B ファイル番号を変更します。
- ◆C ファイルを削除します。
- ◆D ファイルのPLCタイプを変更します。
- ◆E 他のテキストエディタで作成したテキストファイルをGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズ用のファイルに変換します。
- ◆F タグ等で設定したアドレスを一括で他のアドレスに変換します。
- ◆G 他の図形ソフトなどで作成したイメージデータ(ビットマップ=BMPファイル)をGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズ用のイメージファイル(Iファイル)に変換します。

Ok

# 1 ファイルコピー

指定したファイルをコピーします。

①

ファイルコピーを選択します。

Ok

②

コピーしたいファイルのヘッダを指定します。

例 B

◆ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

③

300	123	04/1/94
301	100	04/1/94
302	86	04/1/94

コピー元のファイルを指定します。

例 301

Ok



• リスト上でダブルクリックすると、Ok を省略できます。

④

ファイル番号とタイトルを入力します。タイトルの入力は省略もできます。その場合は、コピー元のファイルと同じタイトルとなります。

例 401

◆ コピーにより新しく作成されるファイルを格納するディレクトリを変更する場合は入力します。未作成のディレクトリ名を入力した場合には、自動的にディレクトリを作成して、そこにファイルを格納します。

Ok で実行します。

**注意**

• ファイルヘッダの異なるファイル間でのファイルコピーはできません。  
[例] ×B100→K100

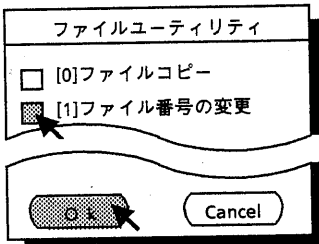
## 2 ファイル番号の変更

ファイル番号を変更します。

### 注意

- GP-PRO II のファイル番号は、データとして登録されています。DOSコマンドのRENAMEやCOPYで見かけのファイル番号を変更しても、データ上のファイル番号までは変更できません。ファイル番号を変更したい場合は、必ずこのコマンドで行ってください。RENAMEおよびCOPYコマンドでの変更は行わないでください。

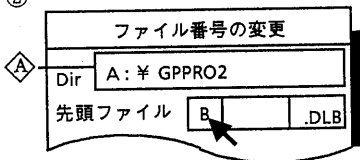
①



ファイル番号の変更を選択します。

Ok

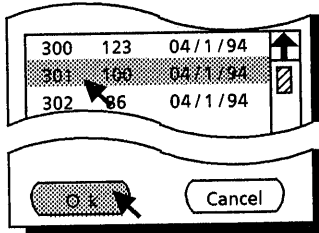
②



変更したいファイルのヘッダを指定します。

- ◆ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

③



ファイルを指定します。

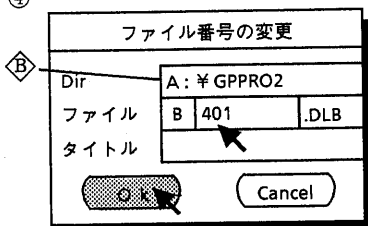
例 301

Ok



- リスト上でダブルクリックすると、Ok を省略できます。

④



ファイル番号とタイトルを入力します。タイトルの入力は省略もできます。その場合は、変更前と同じタイトルとなります。

例 401

- ◆ ファイル番号の変更により新しく作成されるファイルを格納するディレクトリを変更する場合は入力します。未作成のディレクトリ名を入力した場合には、自動的にディレクトリを作成して、そこにファイルを格納します。

Ok で実行します。

### 注意

- ファイルヘッダの異なるファイル間でのファイル番号の変更はできません。

[例] ×B100→K101

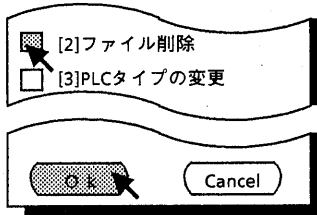
### 3 ファイル削除

ファイルを削除します。1ファイルごとの削除と複数ファイルの削除の2とおりの方法があります。

#### (1) 1ファイル削除

ファイルを1つずつ削除します。

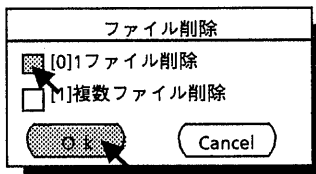
①



ファイル削除を選択します。

Ok

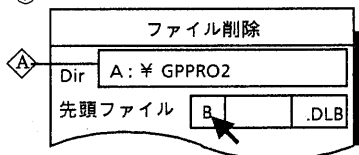
②



1ファイル削除を選択します。

Ok

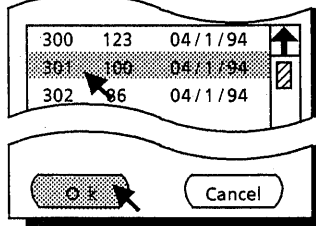
③



削除したいファイルのヘッダを指定します。

◇ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

④



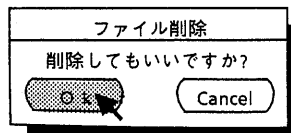
ファイルを選択します。

例 301

Ok

● リスト上でダブルクリックすると、Ok を省略できます。

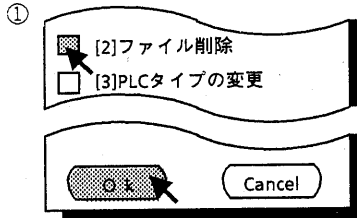
⑤



Ok で実行します。

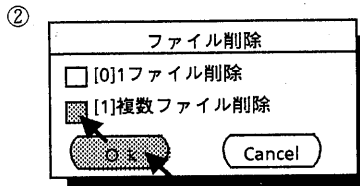
## (2) 複数ファイル削除

複数ファイルを削除します。



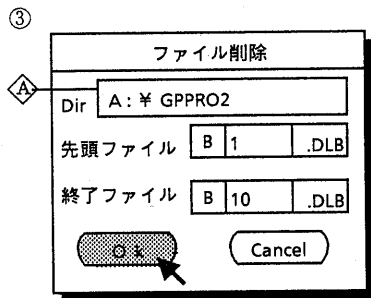
ファイル削除を選択します。

Ok



複数ファイル削除を選択します。

Ok



削除したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

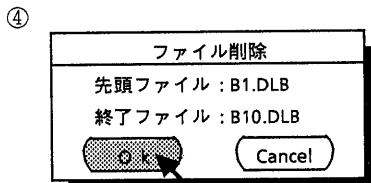
例  
B1



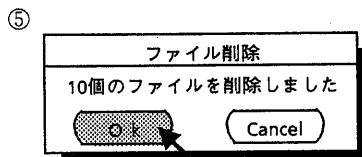
B10

◇A ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

Ok



Ok で実行します。



複数ファイル削除を実行すると、削除されたファイルの数をダイアログボックス内に表示します。

確認後、Ok または Cancel します。

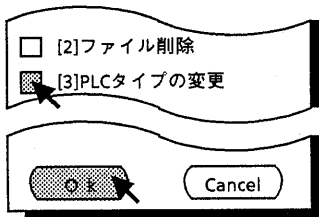
## 4 PLCタイプの変更

ファイルのPLCタイプを変更します。ファイルの拡張子が指定したPLC対応のものに変更されます。

**注意**

- PLCタイプを変更したい場合は、必ずこのコマンドで行ってください。DOSのRENAMEおよびCOPYコマンドでの変更は行わないでください。

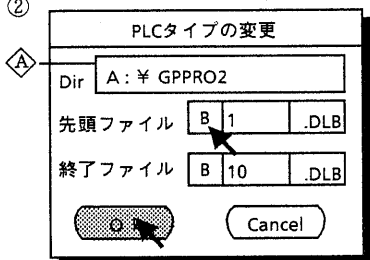
①



PLCタイプの変更を選択します。

Ok

②



変更したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

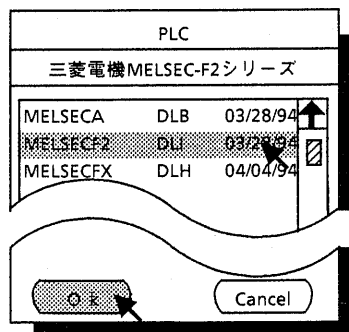
例  
B1

↓  
B10

- ◇ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

Ok

③



変更したいPLCタイプを指定します。

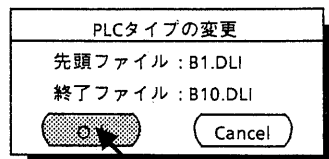
例  
三菱電機 MELSEC-F2シリーズ

Ok



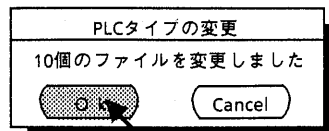
- リスト上でダブルクリックすると、Okを省略できます。

④



Ok で実行します。

⑤



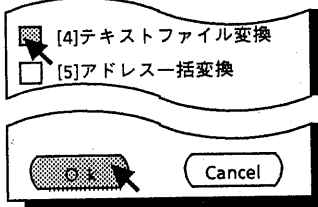
PLCタイプの変更を実行すると、変更されたファイルの数をダイアログボックス内に表示します。

確認後、Ok または Cancel します。

## 5 テキストファイル変換

他のエディタで作成したテキストファイルをGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズ用のファイル(Xファイル)に変換します。ワープロソフトで作成したファイルも、テキスト形式で保存することにより変換元のファイルに使用できます。

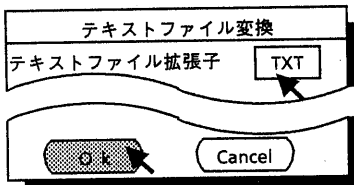
①



テキストファイル変換を選択します。

Ok

②

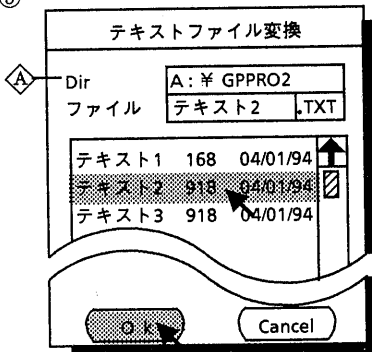


テキストファイルの拡張子を入力します。

例 TXT

Ok

③



②で指定した拡張子をもつテキストファイルがリスト表示されます。  
変換元のテキストファイルを選択します。

◆ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

Ok

- リスト上でダブルクリックすると、Okを省略できます。

テキストエディタが起動され、変換したデータが表示されます。

参 「第4章7 テキストデータの作成(Xファイル)」



## 6 アドレス一括変換

タグなどで設定したアドレスを一括で他のアドレスに変換します。ワードアドレス単位の変換、ビットアドレス単位の変換の2とおりがあります。デバイスのアドレス指定がずれたときに使用すると便利です。

B、A、Tの3種類の画面に対して行います。他の種類のファイルでは、アドレス指定を行わないので、必要ありません。

①

[4]テキストファイル変換  
 [5]アドレス一括変換

Ok Cancel

アドレス一括変換を選択します。

Ok

②

アドレス一括変換

[0]ワードアドレス  
 [1]ビットアドレス

Ok Cancel

ワードアドレス単位で行うか、ビットアドレス単位で行うかを選択します。

例 ワードアドレス

Ok

③

ワードアドレス

変換前先頭アドレス D0100  
 変換前終了アドレス D0116  
 変換後先頭アドレス D0200

Ok Cancel

変換したいアドレスの範囲および変換後のアドレスの先頭を指定します。変換前アドレスの先頭と終了のデバイスは自動的に同じものになります。異なるデバイスには使用できません。

例

D0100 Ok  
 D0116 Ok  
 D0200 Ok

Ok

ワードアドレス

変換前先頭アドレス  
 変換後終了アドレス  
 変換後先頭アドレス

Ok

ワードアドレス

号機No. 01  
 ワードアドレス 1D001

Ok Cancel

横河電機 FA500M(1:n通信)の場合は、PLCの号機No.も指定します。

④

アドレス一括変換

Dir A: ¥ GPPRO2

先頭ファイル B 1 .DLB

終了ファイル B 10 .DLB

Ok Cancel

変換したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例  
1

↓  
10

◇ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力  
します。

Ok

⑤

変換してもいいですか?

先頭ファイル: B1.DLB

終了ファイル: B10.DLB

Ok Cancel

Ok で実行します。

⑥

アドレス一括変換

6個のファイルを変換しました。

Ok

終了すると、アドレス一括変換を行ったファイル  
数が表示されます。

Ok で終了します。

### 注意

- 変換アドレスの指定は、  

$$\text{変換前終了アドレス} - \text{変換前先頭アドレス} \leq \text{そのデバイスの最終アドレス} - \text{変換後先頭アドレス}$$
 となるように行ってください。  
 上の式で、左辺>右辺となった場合、あふれたアドレスに指定されているタグについては、そのデバイスの最終アドレスにすべて割り付けられます。
- ワードアドレス単位の変換時には、指定範囲内のビットアドレス単位で指定されたタグもアドレス変換されます。

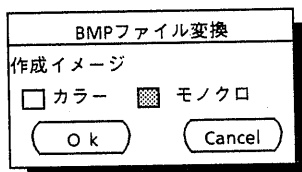
## 7 BMPファイル変換

他の図形ソフトで作成したり、イメージスキャナで読み込んだイメージデータ(ビットマップ=BMPファイル)をGP-\*50シリーズ、GP-250シリーズ用のIファイルに変換します。変換できるイメージデータは2色(モノクロ)、16色、256色表示のデータです。Iファイルはモノクロまたはカラーのどちらかを選択します。

カラーデータのIファイルの場合、データサイズが大きくなりますが、GP上の表示スピードは速くなります。モノクロデータのIファイルの場合、GP上での表示スピードが若干遅くなりますが、データのサイズは節約できます。目的に合わせてファイル変換してください。

変換元データがモノクロデータか、カラーデータかで、ファイル変換方法および設定項目が異なります。

<元データがモノクロの場合>



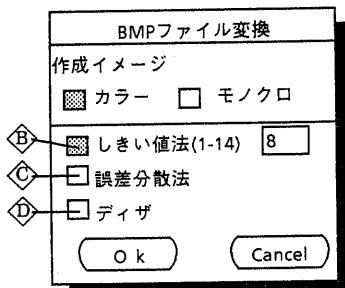
左図のダイアログボックスがオープンします。モノクロのIファイルに変換する場合はそのまま **Ok** します。

カラーを指定した場合、下図のようなカラーバーが現れます。



元データのうちの「白」のデータを、ここで指定した色に置き換えて(「黒」のデータはそのまま)変換します。

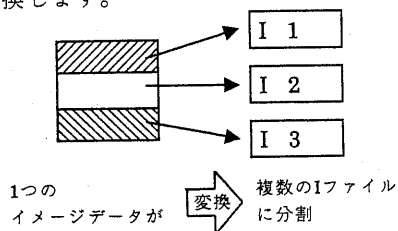
<元データがカラーの場合>



左図のダイアログボックスがオープンします。変換方法は3つのうちから選択できます。

- ◇B 明るさの度合いを基準にして変換します。基準値は1~14の範囲で調整できます。値が大きいほど明るめの、小さいほど暗めの画面になります。全体のトーンに差のないイメージデータの変換には、不向きな場合もあります。
- ◇C 色合いの違いは段階的に表示されます。
- ◇D 色合いの違いははっきりと表示されます。GPで表現できない色の場合は、擬似タイリングを使って中間色表示します。元絵が写真などの場合に向いています。

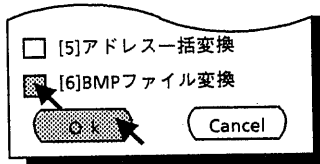
容量が大きく、1つのIファイルでは収まりきれないイメージデータの場合は、分割して変換します。



最大3つのIファイルに分割されます。変換元ファイル指定時にGP-PRO IIが自動的に判断します。

## &lt;BMPファイル変換手順&gt;

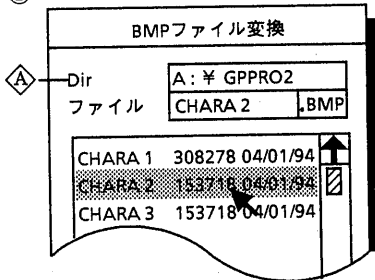
①



BMPファイル変換を選びます。

Ok

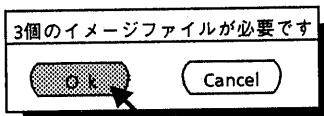
②



カレントディレクトリ内にあるイメージデータがリスト表示されます。イメージデータを選択します。

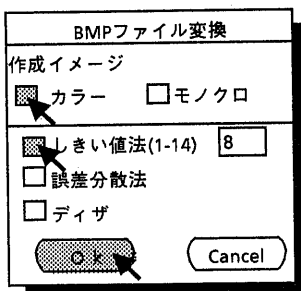
◇ ディレクトリ指定を変更したい場合は入力します。

Ok



複数のIファイルに分割変換が必要な場合は、ここで左図のように表示されます。実行してよいなら **Ok**、元のファイルのサイズを小さくしてやり直す場合は **Cancel** を選択します。

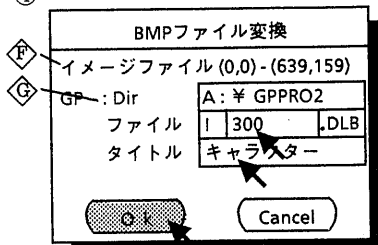
③



元データに応じたダイアログボックスがオープンします。ご使用のGPのタイプに合わせてカラーかモノクロかを指定します。元データがカラーの場合は、変換方法を指定します。

Ok

④



GP-\*50シリーズ、GP-250シリーズ用のファイル(Iファイル)の番号とタイトルを入力します。

例  
300  
キャラクター

◇ 元データの大きさが座標で表示されます。

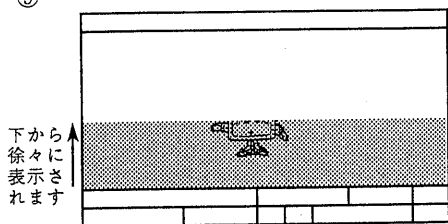
◇ イメージデータを格納するディレクトリを指定します。

Ok



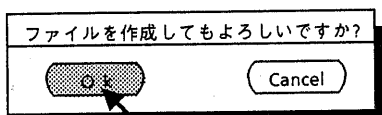
- イメージデータを分割して変換する場合は、その数だけ④を繰り返します。

⑤



イメージデータの変換が開始されます。  
変換後のイメージデータが次第に画面上に表示されます。

⑥



変換が終了したところで左図のダイアログボックスが表示されます。  
表示のイメージでよいなら **Ok** を、他の方法に変更するなら **Cancel** を入力します。

I300.DLBを作成します

手順④で入力したファイルが作成されます。

⑦



Iファイルが作成されました。

**Ok** で終了します。

**注意**

- 変換元のイメージデータのX(横)方向のサイズは、カラーイメージの時は4の倍数、モノクロイメージの時は8の倍数にしてください。端数がでた場合は右端から端数分、変換時にカットされます。
- 変換元のイメージデータのX方向のサイズがカラーイメージで4未満、モノクロイメージで8未満のときは、変換できません。

## 第5章

## 覚えておくと便利な機能

グリッド/スナップや画面の表示モードの変更およびヘルプ機能など、覚えておくと便利な機能を紹介します。

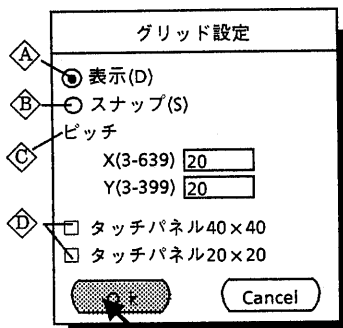
- 1 F4-オプション
- 2 F7-環境設定
- 3 F2-ファイル
- 4 F1-ヘルプ

## 1 F4-オプション

F4-オプションにはより効率的に画面を作成するための機能が収められています。

## 1 グリッド

GP-PRO II の画面上に等間隔に表示されている点をグリッドまたはグリッドポイントと呼びます。画面作成時の座標の目安になります。グリッドの間隔や表示/非表示の設定を行うことができます。



Ⓐ グリッドの表示/非表示を切り替えます。  
○を左クリックして●の状態にすると、グリッドは表示状態になります。●/○はクリックの度に切り替わります。

Ⓑ ●の状態にすると、スナップが有効になります。スナップ有効時には、グリッドに合わせてカーソル位置が決定されるので、カーソルの微調整の手間を省くことができます。

Ⓒ グリッドの間隔を指定します。単位はドットです。X軸方向(横)と、Y軸方向(縦)それぞれに数値を入力します。(初期値は20ドット)

Ⓓ ここを左クリックすると、タッチパネルに最適なグリッドの値が自動的に設定されます。  
40×40ドット GP-\*3J、230、  
\*30、250シリーズ  
20×20ドット GP-\*50シリーズ

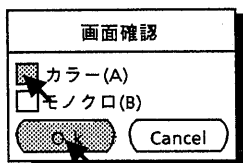
Ok で設定が実行されます。



- 描画時にガイドライン上に表示される **GRID** を左クリックすると、同様のダイアログボックスがオープンします。メニューをオープンしなくても設定することができます。

## 2 画面確認(カラー/モノクロ)

GP上での画面イメージを確認することができます。GPの表示デバイスタイプに応じて表示します。



GPの表示デバイスタイプを指定します。

**Ok** で表示されます。

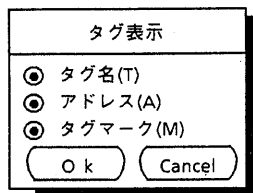
確認できたら、任意の位置での右クリック、もしくは **ESC** を入力してください。通常画面に戻ります。



- モノクロタイプのGP上では、カラーデータの黒・青・緑・水色は「黒」、白・黄・紫・赤は「白」と表示されます。
- プリントデータは点滅しますが、実際のGPの点滅スピードとは異なる場合があります。
- タグ名、アドレス、タグマークは表示されません。

## 3 タグ表示

「タグ表示」を指定すると、下のようなダイアログボックスがオープンします。それぞれ、●で表示、○で非表示モードになります。



### (1) タグ名、アドレス

タグの設定時につけたタグ名および設定アドレスのGP-PRO IIの画面上での表示/非表示を切り替えます。



- GP上ではタグ名およびアドレスは表示されません。
- アドレスはタグ名位置の下部へ表示されます。

## (2) タグマーク

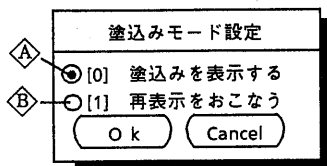
タグマークとはタグを設定したポイントや表示範囲を示すものです。GP-PRO II の画面上での表示/非表示を切り替えます。設定と同時に切り替わります。なお、aタグ、Aタグ、Dタグ、およびGタグの円、半円のタグマークはこの設定にかかわらず常に表示します。

<タグマーク表示状態一覧>

タグ	タグマーク	タグ	タグマーク
L,U		a,A 枠なし	
M		a,A外枠 X	
R		a,A 外内枠	
N,S,C,K,P		T,k,V,F	
G棒		D棒	
G円		D円	
n		J,W	表示なし
G半円		d %表示有	
d %表示有 データ 表示有		d データ 表示有	

## 4 塗込みモード

画面上の塗込みの表示/非表示の設定を行います。非表示のときは、画面再表示(リライト)時の画面展開に時間がかかりません。



- ◆A 塗込みの表示(●)/非表示(○)を切り替えます。設定と同時に切り替わります。
- ◆B 編集作業のときなどには画面が再表示(リライト)されますが、この●/○で再表示の仕方が変わります。  
●(On)時には全画面に対して再表示(リライト)を行います。常に最新の画面状態となります。  
○(Off)時には、編集した部分の画面だけに対して再表示(リライト)を行います。画面展開に時間がかかりません。

**注意**

○(Off)時には実画面と表示画面とが異なることがありますので、作業の終わりまでには少なくとも1度は●(On)状態にして画面を必ず確認してください。

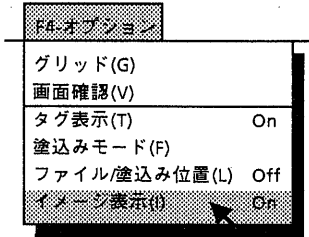


## 5 表示/非表示の切り替え

### (1)ファイル呼出位置/塗込み位置 (2)イメージ表示

以上のコマンドは、コマンドラインをクリックして設定します。コマンドラインを左クリックするたびにOn/Offの設定が切り替わります。クリックと同時にメニューは閉じて、すぐに画面作成モードに戻ります。

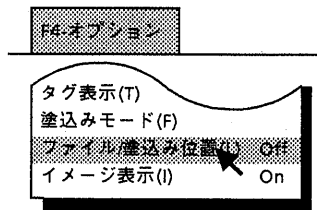
<例>



現在イメージ表示はOn状態です。ここで「イメージ表示」のコマンドラインを左クリックすると、設定はOffに切り替わります。次にプルダウンメニューを開いたときには、「イメージ表示 Off」となっています。

### (1) ファイル呼出位置/塗込み位置

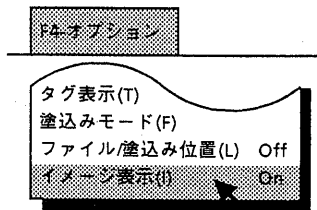
ファイル呼出および塗込みポイントを示す×印の表示/非表示を切り替えます。



×印の色は **F7-環境設定** の「システムカラー」で変更できます。

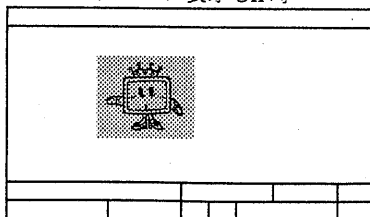
### (2) イメージ表示

ベースファイル上に呼び出したイメージファイル(Iファイル)を、イメージどおりに詳細表示するか、簡略表示するかを切り替えます。

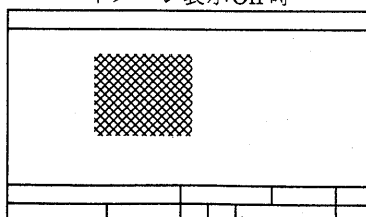


On時には、イメージファイルは詳細表示されます。Off時には、簡略表示となり、イメージファイルの表示エリアのみを斜線で示します。画面展開に時間がかかりません。

イメージ表示On時



イメージ表示Off時



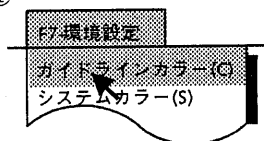
## 2 F7-環境設定

F7-環境設定には、作画時の環境を整える機能が収められています。

### 1 ガイドラインカラーを変更する

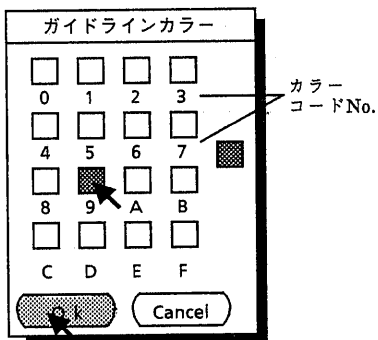
ガイドラインの色を変更します。

①



ガイドラインカラーを指定します。

②



色ボタンを左クリックするかコードNo.をキーボード入力してカラーを選択します。

例 青  
9

Ok

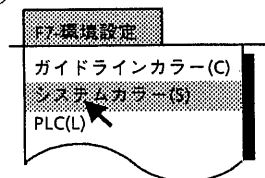


- ラップトップ、ノートパソコンなどのモノクロタイプは、ガイドライン部とディスプレイの境界線を "F" に設定すると見やすくなります。

### 2 システムカラーを変更する

グリッドポイント、塗りポイント(塗込みを実行したポイント)、ファイルポイント(ファイル呼出を実行したポイント)の表示色をシステムカラーと呼びます。作画したデータの色とシステムカラーの色が重なって画面が判別しづらいときには、システムカラーを変更して画面を見やすくなります。

①



システムカラーを指定します。

②

システムカラー

グリッドポイント ... :


塗り込みポイント ... :


ファイルポイント ... :

0 1 2 3 4 5 6 7

Ok Cancel

カラーコードNo.

色指定したい項目のボタン(  )を左クリックして、色を選択します。カラーバー上を左クリックするかコードNo.を入力します。

例 グリッドポイントを緑にする  
2 

③

Ok Cancel

Ok で実行します。

### 3 通信ポートを変更する 「GP-PRO II/V」の場合のみ

この項目は「GP-PRO II/98」にはありません。「GP-PRO II/V」の場合のみ設定します。  
通信のときに使用するRS-232Cのポートを選択し、左クリックします。

①

F7-環境設定

ガイドラインカラー(C)

システムカラー(S)

通信設定(C)

PLC(L)

通信設定を指定します。

②

RS232C

COM1

COM2

Ok Cancel

使用するRS-232Cのポートを選択し、左クリックします。





Ok で実行します。

**注意**

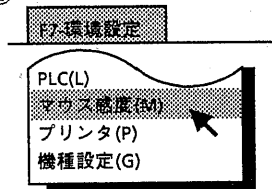
- COMポートが2つ以上あるパソコンで、シリアルマウスを使用している場合は、マウスを使用していないポートの方に通信ポートを設定してください。
- COMポートが1つしかない場合は、COM1に通信ポートを設定してください。

## 4 マウス感度を調整する

マウス感度を設定します。数値が大きいほどマウスカーソルの動きが軽くなります。数値が小さいときには、カーソルの動きは重くなりますが、微調整に便利な場合もあります。必要に応じて調節してください。

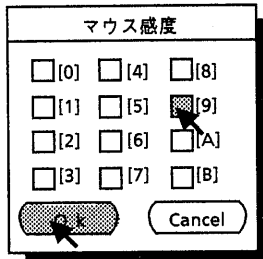
また、この値は **SHIFT** + でカーソルキー(     )を入力したときのカーソル移動量になります。

①



マウス感度を選択します。

②



マウス感度を選択します。  
数値は16進表示されています。

例  
9

**OK** で実行します。

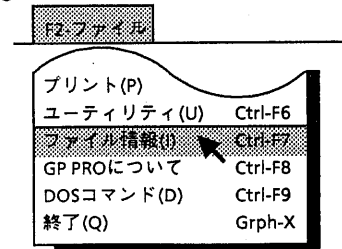
## 3 F2-ファイル

**F2-ファイル** でGP-PRO II の Ver.を確認したり、DOSモードへ切り替えたりできます。

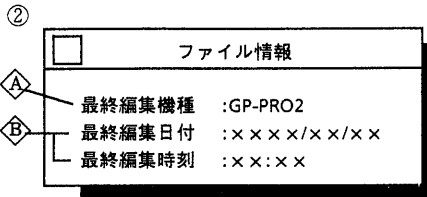
### 1 ファイル情報

現在オープンしているファイルを編集した機種や日付、時刻などを表示します。

①



ファイル情報を選択します。



◆A 編集した機種を表示しています。機種は以下のとおりです。

GP本体 : GPセルフ作画で編集されたファイルです。

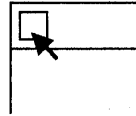
GP-COM2 : GP-COM II で吸い上げたファイルです。

GP-PRO2 : GPPRO II で編集されたファイルです。

◆B 最後に編集した日付と時刻が表示されます。

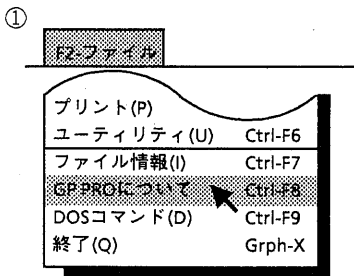
日付  $\begin{matrix} \text{年} & \text{月} & \text{日} \\ \times\times\times\times & / & \times\times / \times\times \end{matrix}$   
 時刻  $\begin{matrix} \times\times : \times\times \\ \text{時} & \text{分} & (24\text{時間制}) \end{matrix}$

確認できたら、ボックスをクローズするためにウインドウの左上の四角を左クリックします。任意の位置で右クリックまたは **ESC** の入力でもボックスはクローズします。

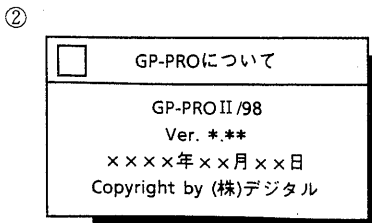


## 2 GP-PROについて

GP-PRO II のバージョン表示を行います。

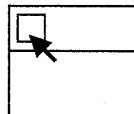


GP-PROについてを選択します。



注) \*.\*はバージョンナンバーを表します。  
 XXは日付を表します。

確認できたら、ボックスをクローズするためにウインドウの左上の四角を左クリックします。任意の位置で右クリックまたは **ESC** の入力でもボックスはクローズします。



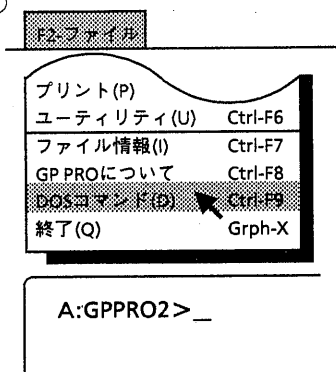


- GP-PRO II をご使用いただくなかで、ご不明の点などが生じた場合には、巻末のトラブルレポートもしくは弊社サポートダイヤルをご利用いただけます。その際に、このコマンドでバージョンおよび日付をご確認の上お問い合わせいただけますと、迅速なサポートにもつながりますのでご協力ください。

### 3 DOSコマンド

DOSコマンドを一時実行します。GP-PRO II 作業中にDOSコマンドを実行したくなった場合、GP-PRO II を終了させなくても、DOSのプロンプト状態にすることができます。

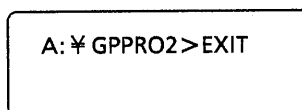
①



DOSコマンドを選択します。

プロンプトが表示され、DOSのコマンド実行モードとなりました。DOSコマンドを入力します。

②



GP-PRO II にもどるときは、EXIT  と入力してください。



- コマンド実行については、GP-PRO II のメモリ配分の関係上実行できないものもあります。
- DOS コマンドの一時実行モードから、再度GP-PRO II を呼び出さないでください。誤動作の原因になります。必ず、EXIT  で戻ってください。
- コマンド実行については十分なシステムメモリが必要です。ファイルを多数プロットしていたり、タグを多数設定している場合には、DOSコマンドを実行できない場合があります。
- CONFIG.SYS の中でSHELL=A:¥COMMAND.COMで/Pオプションを指定した場合はDOSコマンドが起動しません。

## 4 F1-ヘルプ の活用

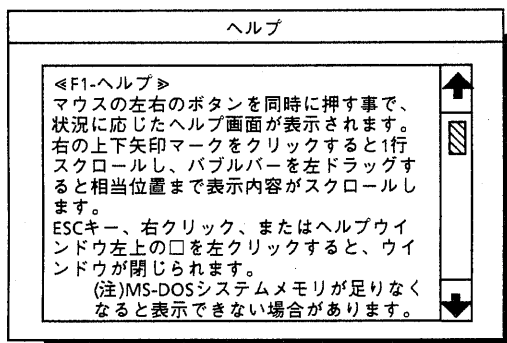
GP-PRO II の各機能の内容を解説します。ヘルプ機能を指定すると、現在使っている機能の解説が表示されます。ヘルプの設定方法は④、⑤、⑥の3とおりあります。



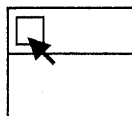
④ メニューラインの **F1-ヘルプ** を左クリックします。

⑤ **F1** を入力します。

⑥ 同時クリックします。



確認できたら、ボックスをクローズするためにウインドウの左上の四角を左クリックします。任意の位置で右クリックまたは **ESC** の入力でもボックスはクローズします。



### 注意

- ファイルを多数プロットしている場合や、多数のタグを設定している場合などシステムメモリが足りないときに、ヘルプ画面がオープンできないことがあります。

## 第6章

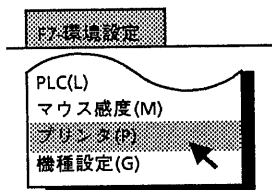
## 印刷

画面データやPLCのアドレスの使用状況など、デバッグ時やドキュメント作りに便利な印刷機能について説明します。

- 1 プリンタを設定する
- 2 印刷する

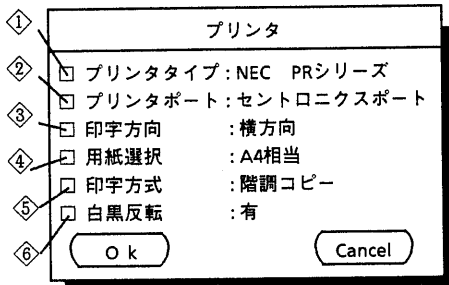
## 1 プリンタを設定する

プリントアウトの前にプリンタの設定を行います。



F7環境設定 のプリンタを選択します。

プリンタ設定の項目は、以下のとおりです。



① プリンタの機種を指定します。

② プリンタポートを指定します。

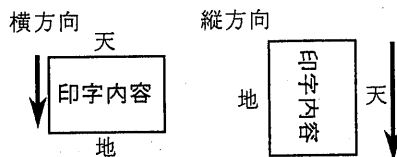
「GP-PROII/98」の場合

セントロニクスポートで固定です。

「GP-PROII/IV」の場合

LPT1、LPT2のどちらかを選択できます。  
プリンタポートが1つしかないパソコンの  
場合は、LPT1を指定してください。

③ 用紙の方向を指定します。



\*1 機種別印字方式選択表

プリンタ	印字方式
NEC PR	階調/カラー/ モノクロ(横方向のみ)
EPSON	階調/カラー
NEC NM	階調/モノクロ(横方向のみ)

④ この項目は現在使用できません。

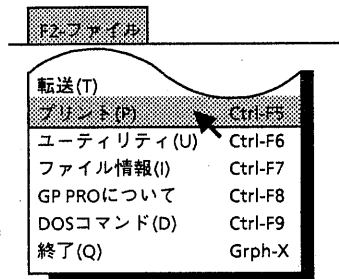
⑤ 印字方式(階調、カラー(濃・淡)、モノクロ)を指定します。\*1

⑥ 画面上の白色と黒色を反転させて印刷したい場合は、有を選択します。

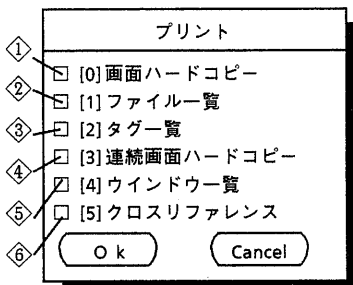


## 2 印刷する

GP-PRO II で作成したデータを印刷します。



プリントを選択します。



プリントアウトの種類が一覧表示されます。

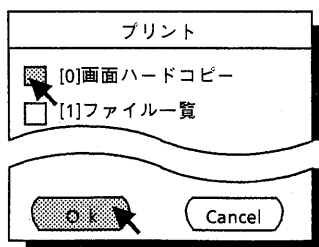
- ① 現在オープン中の画面のハードコピーを行います。
- ② 作成済みの画面のリストをプリントアウトします。
- ③ 設定タグの一覧をプリントアウトします。複数の画面に対して実行できます。
- ④ 複数の画面のハードコピーを行います。
- ⑤ ウィンドウ画面の登録状況をプリントアウトします。
- ⑥ タグなどによるアドレスの指定状況をプリントアウトします。複数の画面に対して実行できます。

### 1 画面ハードコピー

現在オープン中の画面のハードコピーを行います。

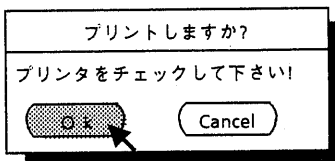
GP-550系(640×480ドット)の画面では、以下の条件をすべて満たしている場合にかぎり、縮小せずにハードコピーが取れます。その他の場合は75%に縮小してプリントされます。

- PC98シリーズまたはJ-3100シリーズパソコン使用
- 印字方向…横方向
- 印字方式…階調コピーまたはカラーコピー(濃・淡)



画面ハードコピーを選択します。

Ok



OK で実行します。

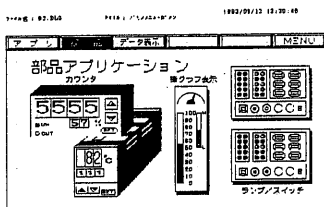
ESC キーでプリントを中断できます。

**注意**

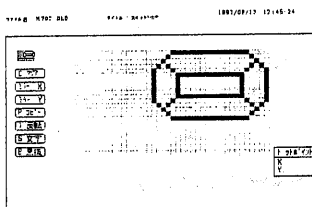
GP-550系で、画面に表示されていない部分への塗込みが印刷されないときは、塗込みが印刷されない部分にも塗込みポイントを設定してください。

プリントアウトの例を以下に示します。

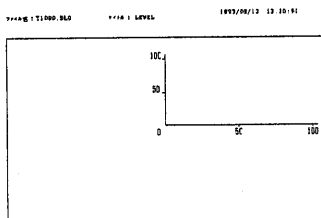
**Bファイル**



**Mファイル**



**Tファイル**



**Aファイル**

ファイル名	内容	日時
11000.B00	部品アプリケーションの印刷	1993/09/13 12:10:16
11201.B50	部品アプリケーションの印刷	1993/09/13 12:10:18
11302.B50	部品アプリケーションの印刷	1993/09/13 12:10:20

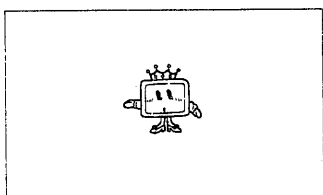
**Sファイル**

項目	値
システムの変更	OK
印刷オプション	標準
印刷範囲	全体
印刷速度	標準
印刷色数	モノクロ
印刷枚数	1
印刷単位	ページ
印刷範囲	全体
印刷速度	標準
印刷色数	モノクロ
印刷枚数	1
印刷単位	ページ

**Xファイル\*1,2**

ファイル名	内容	日時
11000.B00	部品アプリケーションの印刷	1993/09/13 12:10:16
11201.B50	部品アプリケーションの印刷	1993/09/13 12:10:18
11302.B50	部品アプリケーションの印刷	1993/09/13 12:10:20

**Iファイル\*1**



- \*1 GP-\*50、GP-250用のファイルです。
- \*2 Xファイルの場合、内容のプリントアウトです。  
Xファイルのオープン時に行います。



「第4章7 テキストデータの作成(Xファイル)」

## 2 ファイル一覧

作成済みの画面のリストをプリントアウトします。

①

ファイル一覧を選択します。

Ok

②

プリントしたいファイルのヘッダと画面番号を入力します(先頭ファイル番号以降のファイルがプリントされます)。

例 B1

Ok

③

Ok で実行します。

キーでプリントを中断できます。

プリントアウト例を示します。

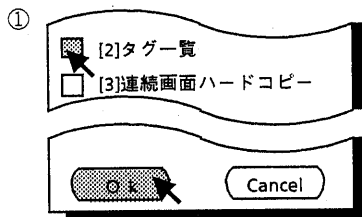
ファイル名	日付	時刻	サイズ	タイトル
B1 .DLB	1994/04/06	14:15	\$2003	設定画面
B2 .DLB	1994/04/06	11:10	1015	運転監視画面
B3 .DLB	1994/04/06	15:25	W1006	生産情報画面

タグを設定したファイルには、サイズの左横に\$マークが付きます。

ウィンドウ登録を設定したファイルにはサイズの左横にWマークが付きます。

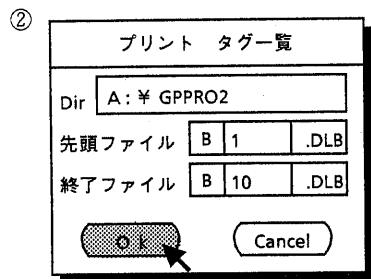
### 3 タグ一覧

設定タグの一覧をプリントアウトします。複数の画面に対して実行できます。



タグ一覧を選択します。

Ok



プリントアウトしたいファイルのヘッダと範囲を入力します。

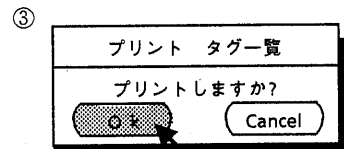
例

B1



B10

Ok



Ok で実行します。



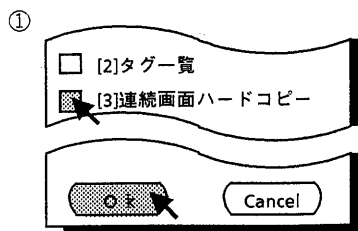
キーでプリントを中断できます。

プリントアウト例を示します。

LTAG				
ネーム	モード	ビットA	ファイル	ワードA データ...
L1	0→1	000100	1	.....
NTAG				
ネーム	ワードA	データ	表示	.....
			形/bit/符/レンジ	形/符/レンジ
N1	0000	ABS16.....		DEC.....

### 4 連続画面ハードコピー

複数の画面のハードコピーを行います。



連続画面ハードコピーを選択します。

Ok

②

連続画面ハードコピー

Dir A: ¥ GPPRO2

先頭ファイル \* 1 .DLB

終了ファイル \* 10 .DLB

Ok Cancel

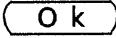
プリントアウトしたいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例

\*1



\*10



③

プリントするファイル

先頭ファイル : \* 1 .DLB

終了ファイル : \* 10 .DLB

Ok Cancel

確認します。



④

プリントしますか?

プリンタをチェックしてください

Ok Cancel

Ok で実行します。



キーでプリントを中断できます。

## 5 ウィンドウ一覧

ウィンドウ画面の登録状況をプリントアウトします。Wファイルの内容となります。

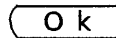
①

[4]ウィンドウ一覧

[5]クロスリファレンス

Ok Cancel

ウィンドウ一覧を選択します。



②

ウィンドウ一覧

先頭番号 1

終了番号 10

Ok Cancel

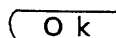
情報をプリントアウトしたいウィンドウ範囲を入力します。

例

1



10




③

プリント ウィンドウ一覧

プリントしますか?

Ok  Cancel

Ok で実行します。

 | •  ESC キーでプリントを中断できます。

プリントアウト例を示します。

ウィンドウ 番号	ファイル 番号	位置	タイトル
1	B500	248,0	487,148 B500
2	B1	320,36	479,282 TENKEY

## 6 クロスリファレンスリスト

タグなどによるアドレスの指定状況をプリントアウトします。ベース画面と折れ線グラフ画面について行います。複数の画面に対して実行できます。

①

[4]ウィンドウ一覧

[5]クロスリファレンス

Ok  Cancel

クロスリファレンスを選択します。

Ok

②

クロスリファレンス

Dir A: ¥ GPPRO2

先頭ファイル B 1 .DLB

終了ファイル B 10 .DLB

Ok  Cancel

プリントアウトしたいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例

B1

 ↓

B10

Ok

③

クロスリファレンス

[0]ワードアドレス

[1]ビットアドレス

Ok  Cancel

ワードアドレス単位で行うかビット単位で行うかを指定します。

例 ワードアドレス

Ok

④

ワードアドレス

先頭ファイル D0100

終了ファイル D0116

Ok Cancel

アドレスを範囲指定します。

例

D0100 Ok

D0116 Ok

Ok

⑤

クロスリファレンス

指定範囲全てのアドレス

Tagで使用アドレスのみ

Ok Cancel

指定範囲全てのアドレスを印字するか、タグを設定しているアドレスのみ印字するかを指定します。

Ok

⑥

プリントするファイル

先頭ファイル : B1.DLB

終了ファイル : B10.DLB

Ok Cancel

確認します。

Ok



⑦

プリントしますか?

プリンタをチェックしてください

Ok Cancel

Ok で実行します。

 | •  キーでプリントを中断できます。

プリントアウト例を示します。

ワードアドレス	タグ名
D0100	G1,K1
D0101	G2,K2
D0102	G3,K3

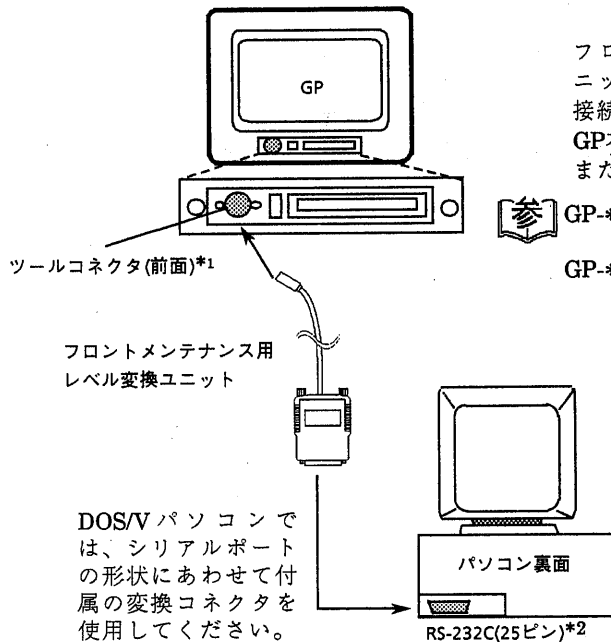
# 第7章 転送

GP-PRO II で作成した画面データをGPに送信したり、GPからデータを受信する方法を示します。

- 1 転送準備
- 2 画面ファイルの送信、受信
- 3 オプション

## 1 転送準備

GP-PRO II とGPとのデータ転送のために、パソコンとGPを接続します。



フロントメンテナンス用レベル変換ユニットを使ってパソコンとGPシリーズを接続します。

GP本体側を「パソコンとの転送モード」または「運転モード」にしておきます。

参 GP-\*50系 → 「GP-\*50シリーズユーザーズマニュアル/第6章1 運転」

GP-\*50系以外 → 「GP-430シリーズ活用マニュアル/第5章 運転」

- ・ GP上で、画面転送のための通信設定は不要です。
  - ・ DOS/Vパソコンでシリアルマウスをご使用の場合は、マウス以外のシリアルポートを使用してください。
- この場合、GP-PRO II 側で通信ポートの設定を変更してください。

参 「第5章2.3 通信ポートを変更する」



\*1 GP-\*50シリーズでは、ツールコネクタは背面にもあります。

\*2 RS-232Cのポートが14ピンの場合は、以下に示す変換コネクタを使用してください。また、省電力モードでは転送できませんので、ご注意ください。

・ホート(株)製

型式	CBC-98RN1	
コネクタ	パソコン側	14ピンオス
	中継側	25ピンメス

・日本電気(株)製

型式	PC-98HA-15	
コネクタ	パソコン側	14ピンオス
	中継側	25ピンオス

※ フロントメンテナンス用レベル変換ユニットもコネクタ部がオスのため、オス→メスに変換するコネクタが必要です。



**注意**

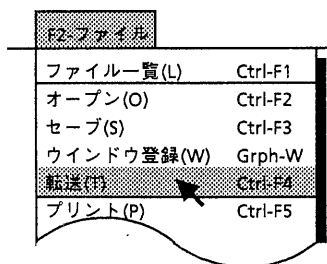
- 一部、GPの機種およびバージョンによっては、転送してもGP上で動作しない機能があります。  
GP上で有効な機能はGP本体の機種に依存します。  
また、GP-\*30シリーズでGP-PRO IIのバージョン(以下、Ver.と表記します)より本体のVer.が低い場合、動作可能な機能はGP本体のVer.に依存します。機種やVer.による機能の違いについて、「ご使用上の注意(本書7~8ページ)」を必ずご覧ください。
- GP本体とGP-PRO IIで対象PLCの設定が異なる場合は、ファイルを転送できないことがあります。PLCの設定は揃えてください。
- 転送するには、最低10Kバイトのシステムメモリが必要です。システムメモリの容量が足りない場合はいったんGP-PRO IIを終了した後、再起動させ、ファイルをオープンしていない状態で転送を行ってください。
- エラーメッセージが表示された場合は、本書巻末の「トラブルシューティング」を参考に処置を行ってください。
- 通信途中でパソコン側キーボードの **ESC** を押すと通信を中断します。

## 2 画面ファイルの送信、受信

### 1 画面ファイルの送信

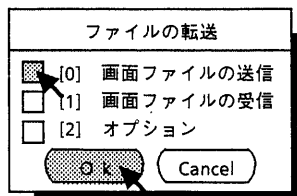
GP-PRO II で作成したファイルをGP本体へ転送します。

①



転送を選択します。

②



画面ファイルの送信を選択します。

**Ok**

③

送信ファイル

Dir A: ¥ GPPRO2

先頭ファイル \* 0 .DLB

終了ファイル \* 8999 .DLB

OK Cancel

送信したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例

\*0



\*8999

OK

**注意**

- \*はワイルドカード<すべてのファイルヘッダ>指定です。先頭ファイル\*0、終了ファイル\*8999と指定すると、作成した全ファイルを転送します。先頭ファイル\*1、終了ファイル\*8999と指定すると、システムファイル(S0)およびウインドウファイル(W0)を除く全ファイルを転送します。

④

画面ファイルの送信

転送ディレクトリ : A: ¥ GPPRO2

先頭ファイル : \*0.DLB

終了ファイル : \*8999.DLB

転送総サイズ : 1644 bytes

転送ファイル数 : 20

OK Cancel

確認します。

OK

ファイルをセーブしますか?

B1.DLB

Yes No Cancel

現在オープンしているファイルをセーブしていない場合は左図の表示に変わります。

セーブする場合は Yes を選択します。

No を選択します。

ディスクにセーブされたデータが転送されます。

転送を開始します。

送信ファイル数がガイドラインに表示されます。

⑤

ファイルの送受信が完了しました!

OK

OK で終了します。

( ← 、 ESC 、 右クリックでも終了できます)

**注意**

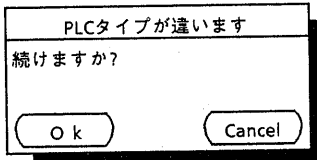
- 既に同じ番号の画面データが存在した場合、画面データは上書きされます。
- GP側の内部記憶容量以上の画面データを転送すると、容量が足りなくなった時点で通信は中断します。
- GPへのファイル転送は通常1ファイルあたり2~3秒ですが、2分程度かかる場合もあります。GP内部記憶のムダな空間をなくすため自動的に再配置を行うためです。
- 転送されるファイルの順番がファイル番号順に並んでいない場合もあります。

データ転送コマンド実行中、パソコン上およびGP上の画面表示は段階に応じて変化します。

<例>

GP上と転送待ちデータのPLCタイプが違うため、GPのセットアップを行う場合

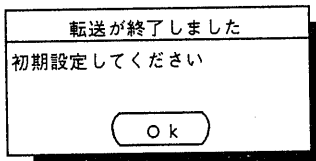
①



プログラムチェックの結果、PLCタイプが違うことがわかったため、GP-PRO II は左記のメッセージを表示します。

を実行すると、プロトコルプログラムを転送してGPのセットアップをまず行い、その後で画面データを転送します。

②







セットアップを行った場合はGP側で初期設定が必要となるため、GPの画面はデータ転送終了時点で自動的にオフラインメニューに切り替わります。GP-PRO II は左記のメッセージを表示します。

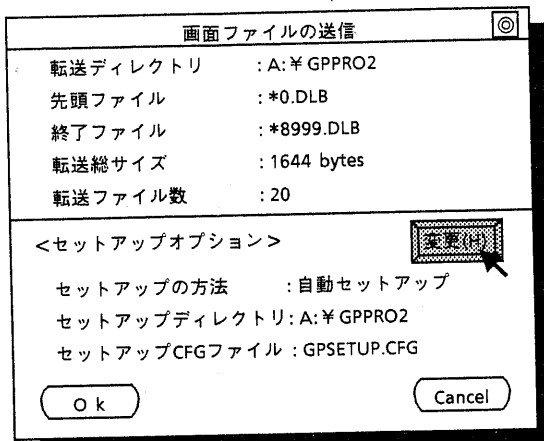
**注意**



- セットアップ機能が動作すると、転送時間は3~5分通常よりかかります。
- GP-PRO II のインストールが正しく行われていない場合、セットアップ機能が正常に動作しませんのでご注意ください。

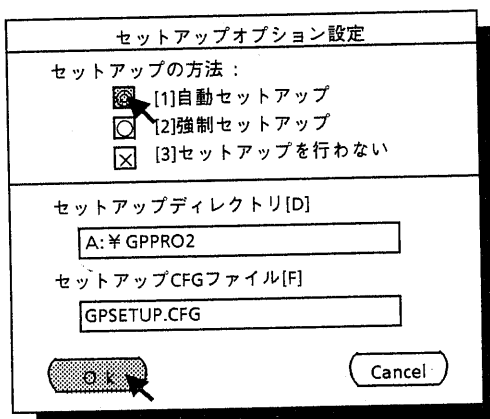
## &lt;GPシリーズダウンロードタイプ\*1の場合&gt;

転送コマンドが実行されると、GP-PRO IIはGPのプログラムチェックを行います。チェックの結果、GPセットアップが必要となる場合があります。\*2 GP-PRO IIは状況に応じてプロトコルプログラムおよび実行プログラムをダウンロードし、GPのセットアップを自動的に行います。

本バージョンでは、7-3の④にセットアップの方法等を指定するセットアップオプションが設けられています。セットアップオプションを変更するには、④でウインドウ右上の 、、 のマークを左クリックするか、ホットキー  を入力します。






 を左クリックするか、ホットキー  の入力でセットアップオプションの変更メニューへ移行します。



セットアップオプション設定ウインドウを表示します。

セットアップオプションには以下の3つのセットアップ方法があります。

-  自動セットアップ: 相手先GPの状況に応じて必要ならばセットアップを実施する。
-  強制セットアップ: 相手先GPの状況に関係なく、GP本体のシステムおよび現在選択されているシステムプロトコルを転送する。
-  セットアップを行わない: セットアップを実施せず、画面の転送のみを行う。

システムプログラムの変更が必要な場合は、セットアップディレクトリ\*3、セットアップCFGファイルを変更してください。



\*1 GPシリーズダウンロードタイプとは、以下の機種を指します。

GP-\*50系 GP-\*50シリーズ  
GP-250シリーズ

GP-\*30系 GP-\*3Jシリーズ  
GP-230シリーズ

\*2 例えば、GP上にあるデータとこれから転送しようとするデータのPLCタイプが違う場合やPLCタイプは同じでもバージョンが違う場合、またはじめてGPにデータを転送する場合などがこれに当たります。

\*3 セットアップするためのシステムプロトコルファイルの存在するディレクトリを指定します。

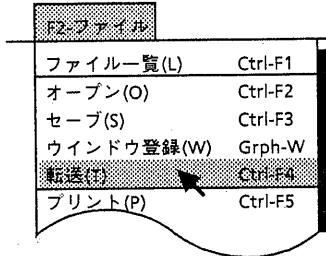
**注意**

- このセットアップオプションの設定は、通常は変更する必要はありません。GP本体側のシステムプロトコルが標準のもの以外を指定する場合に使用します。

## 2 画面ファイルの受信

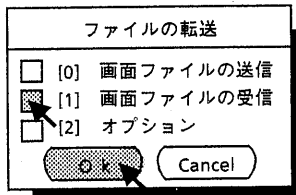
GPで表示中の画面データをGP-PRO IIのファイルとして受信します。

①



転送を選択します。

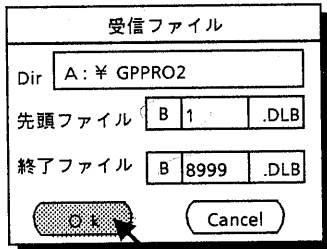
②



画面ファイルの受信を選択します。

Ok

③



受信したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

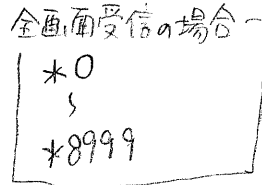
例

B1

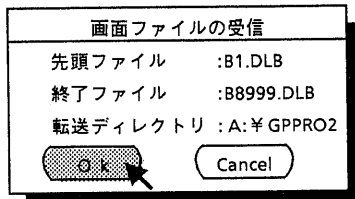


B8999

Ok

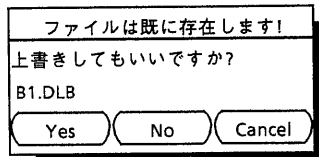


④



確認します。

Ok



データを受信しようとするディレクトリに同じ番号の画面ファイルが存在する場合は左図の表示に変わります。

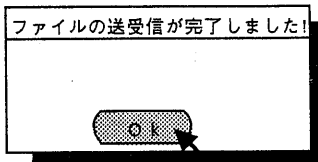
Yes を選択すると同一ファイルは上書きされます。

No を選択すると同一ファイルは受信されず、次のファイルの受信へと移ります。

Cancel で画面ファイルの受信を中止します。

転送を開始します。  
受信ファイル数がガイドラインに表示されます。

⑤



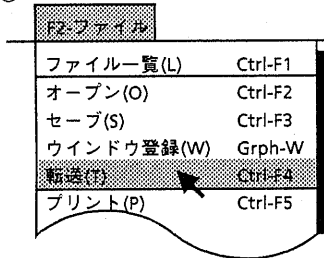
Ok で終了します。  
 (←)、ESC、右クリックでも終了できます)

**注意** ● パソコン側のメディア(ハードディスク、またはフロッピーディスク)は、受信するために十分な容量のものをお使いください。途中で容量が足りなくなると通信は中断されます。

## 3 オプション

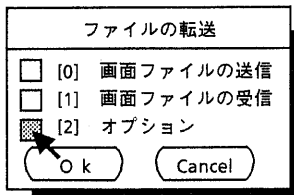
「オプション」内には画面ファイルの送受信以外にバックアップおよびメンテナンスのための機能が収められています。

①



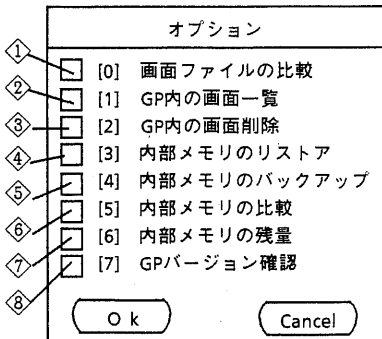
転送を選択します。

②



オプションを選択します。

③



オプションの項目が一覧表示されます。

- ① GP内部の画面データとパソコン上のGP-PRO IIの画面データが同じものであるか調べたいときに実行します。
- ② GP内の画面ファイルの一覧をパソコンの画面上に表示します。
- ③ GP内の画面ファイルをファイル単位で削除します。
- ④ 「内部メモリのバックアップ」および「メモリーカード単位の変換」で作成したパソコン上のバックアップデータをGP内部に戻します。

- ⑤ GPの内部メモリのデータを一括でパソコン上のデータとしてバックアップし、不慮の場合に備えます。
- ⑥ GPで表示中の画面データとパソコン上のバックアップデータが同じものであるか調べたいときに実行します。
- ⑦ GP本体の内部メモリが何バイト残っているかをバンクごとに表示します。
- ⑧ GP本体のシステムのバージョンを表示します。



「第8章1.2 メモリーカード単位の変換」

## 1 画面ファイルの比較

GPに転送されている画面データと、パソコン上のGP-PRO IIの画面データに違いがあるかどうか調べたいときに実行します。  
GP内の画面ファイルと、同じ番号のGP-PRO IIのファイルのサイズを比較して調べます。

①

画面ファイルの比較を選択します。

Ok

②

比較したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例  
B1

B8999

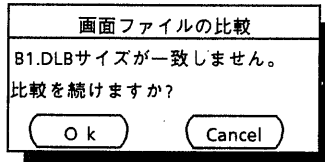
Ok

③

確認します。

Ok

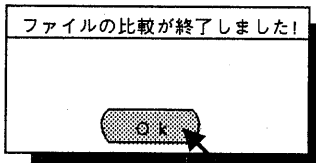




比較を開始します。  
サイズが一致したファイル番号がガイドラインのメッセージエリアに表示されます。

サイズが一致しないファイルがあった場合、いったん比較を中断し、左図の表示に変わります。  
Ok を選択すると次のファイルの比較に移ります。  
Cancel を選択すると画面ファイルの比較を中止します。

④



終了するとメッセージエリアに、一致した画面の数が表示されます。

Ok で終了します。  
(←、ESC、右クリックでも終了できます)

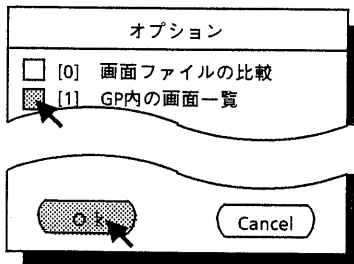
**注意**

- 画面ファイルの比較はGP内の画面ファイルに対して、同じ番号のGP-PRO IIのファイル突き合わせて比較します。比較の相手となるファイルが見つからないものについては、比較を行いません。
  - GP内にあり、GP-PRO IIには無い画面番号のファイルの場合  
比較を実行しようとしてますが、相手がいないため、次の画面データの比較に移ります。「スキップしました」と表示されます。
  - GP-PRO IIにあり、GP内には無い画面番号のファイルの場合  
比較を行いません。

## 2 GP内の画面一覧

GP内の画面ファイルの一覧をパソコンの画面上に表示します。

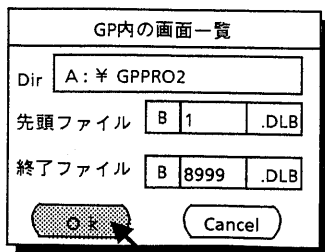
①



GP内の画面一覧を選択します。

Ok

②



表示したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例  
B1  
←  
B8999  
Ok

④

GP内の画面一覧		
先頭ファイル	: B1.DLB	
終了ファイル	: B8999.DLB	
<input type="button" value="Ok"/> <input type="button" value="Cancel"/>		

確認します。

ファイル名	サイズ	タイトル
B1	2003	設定画面
B2	1015	運転監視画面

画面ファイルの一覧が表示されます。

 を押すと続きが表示されます。 か右クリックで終了します。

### 3 GP内の画面削除

GP内の画面ファイルをファイル単位で削除します。

①

<input checked="" type="checkbox"/>	[2] GP内の画面削除
<input type="checkbox"/>	[3] 内部メモリのリストア
<input type="button" value="Ok"/> <input type="button" value="Cancel"/>	

GP内の画面削除を選択します。

②

GP内の画面削除		
Dir	A: ¥ GPPRO2	
先頭ファイル	B 1	.DLB
終了ファイル	B 10	.DLB
<input type="button" value="Ok"/> <input type="button" value="Cancel"/>		

削除したいファイルのヘッダと範囲を入力します。

例

B1

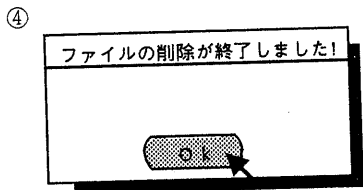
B10

③

GP内の画面削除		
先頭ファイル	: B1.DLB	
終了ファイル	: B10.DLB	
<input type="button" value="Ok"/> <input type="button" value="Cancel"/>		

確認します。

画面ファイルの削除を開始します。  
 削除されたファイル番号がガイドラインのメッセージエリアに表示されます。  
 終了すると削除した画面の数が表示されます。



OK で終了します。  
 (←)、ESC、右クリックでも終了できます)

- 注意**
- ・ 取消しはできませんのでご注意ください。
  - ・ システム(S0)ファイルの削除はできません。

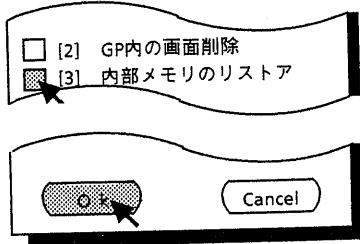
## 4 内部メモリのリストア

「内部メモリのバックアップ」\*1および「メモリーカード単位の変換」\*2で作成したパソコン上のバックアップデータをGP内部に戻します。

- 参**
- \*1 「第7章3.5 内部メモリのバックアップ」
  - \*2 「第8章1.2 メモリーカード単位の変換」

- 注意**
- ・ リストアを実行すると、GP内のデータは上書きされ、失われます。ただし、パソコン上のデータよりGP内のデータの方が大きい場合、パソコン上のデータ分だけ上書きされ、残りのデータについては失われません。この場合、必要ならばリストアの実行前にGPの初期化を行ってください。

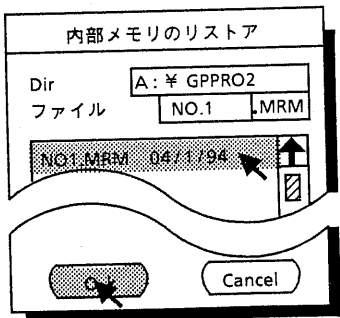
①



内部メモリのリストアを選択します。

OK

②

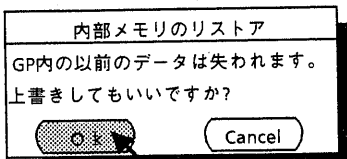


バックアップデータのファイル名をリストから選択します。

例  
NO1

OK

③



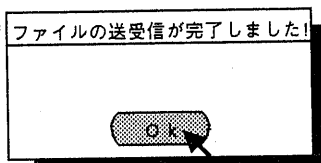
画面上に左図のメッセージが表示されます。  
Ok を選ぶとリストアを開始します。

リストアを開始します。  
送信の進行度合を示すバイト数が画面に表示されます。



- 送信時間は約2~3分です。

④



Ok で終了します。  
(←、ESC、右クリックでも終了できます)



- バックアップデータをリストアすることによって、全く同じ画面データをもつGPを簡単に作成することができます。
- ダウンロードタイプのGP(230、\*3J、\*50、250シリーズ)の場合は、付属のプログラムツールを使ってGP本体の実行プログラムやプロトコルなどを含めてデータすべてをバックアップ&リストアすることができます。

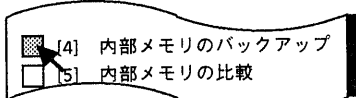


「第8章2 バックアップ&リストアツール」

## 5 内部メモリのバックアップ

GPの内部メモリのデータをパソコン上のファイルとして一括でバックアップし、不慮の場合に備えます。システムファイル(S0ファイル)も含めて全画面データをバックアップします。

①

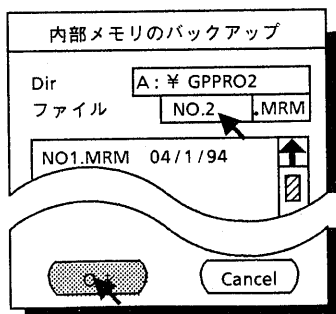


内部メモリのバックアップを選択します。



Ok

②



バックアップデータのファイル名を半角8文字分以内で入力します。  
拡張子は入力する必要はありません。自動的に.MRMが付きます。

例  
NO2

Ok

内部メモリのバックアップを開始します。  
受信の進行度合を示すバイト数が画面に表示されます。

③



Ok で終了します。  
(←、ESC、右クリックでも終了できます)

### 注意

- GPのシステムおよび通信プログラムはバックアップされません。
- バックアップデータは1つの大きなファイルになります\*1。格納先のハードディスク/フロッピーディスクの空き容量を十分確保した上で実行してください。

\*1 GP-\*50系----1Mバイト  
GP-250系----256Kバイト  
GP-430系----512Kバイト  
GP-230系----256Kバイト  
GP-\*3J系----256Kバイト



- バックアップデータをリストアすることによって、全く同じ画面データをもつGPを簡単に作成することができます。
- ダウンロードタイプのGP(230、\*3J、\*50、250シリーズ)は、付属のプログラムツールを使ってGP本体の実行プログラムやプロトコルなどを含めてデータすべてをバックアップ&リストアすることができます。

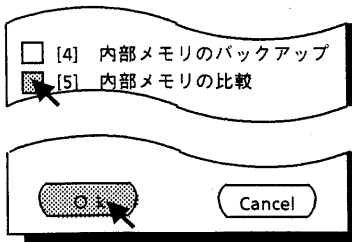


「第8章2 バックアップ&リストアツール」

## 6 内部メモリの比較

GPで表示中の画面データとパソコン上のバックアップデータが同じものであるか調べたいときに実行します。

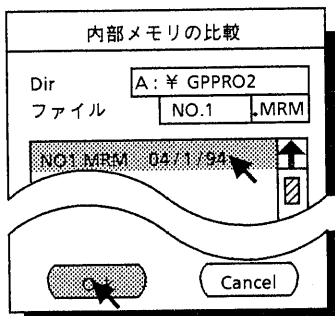
①



内部メモリの比較を選択します。

Ok

②



バックアップデータのファイル名をリストから選択します。

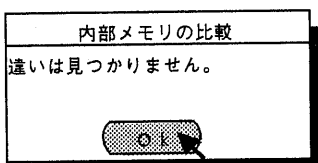
例  
NO1

Ok

比較を開始します。  
比較の進行度合を示すバイト数が画面に表示されます。

③

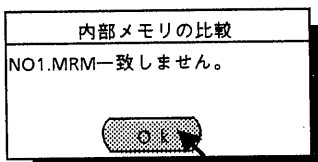
違いがない場合



Ok で終了します。

(、, 右クリックでも終了できます)

違いがあった場合

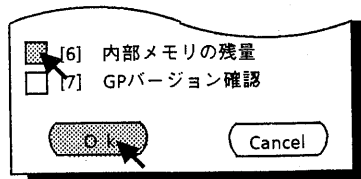


• 違いがあった時点で比較は中止されます。  
この場合も Ok で終了します。

## 7 内部メモリの残量

GP本体の内部メモリが何バイト残っているかをバンクごとに表示します。

①



内部メモリの残量を選択します。

Ok

②

内部メモリの残量			
バンク	残量	バンク	残量
0:	45	8:	00007
1:	60000	9:	00020
2:	63550	10:	00406

1バンクごとの残量が表示されます。  
(1バンク=64Kバイト)



- GP-\*50系---16バンク
- GP-250系---4バンク
- GP-430系---8バンク
- GP-230系---2バンク
- GP-\*3J系---4バンク

終了しました  
右ボタンをクリックするかESCキーで終了します

または、“続ける場合はスペースキーを押してください”(左クリックでもOK)

## 8 GPバージョン確認

GP本体のシステムのバージョンを表示します。

①

[6] 内部メモリの残量  
 [7] GPバージョン確認

Ok Cancel

GPバージョン確認を選択します。

Ok

②

GPバージョン確認

GPタイプ :GP\*\*\*  
バージョン :V\*.\*\*\*  
日付 :xxxxxxx:xx:xxxxxx

Ok

\*.\*\*にはバージョンナンバーが表示されます。  
日付の欄には以下の順で情報が表示されます。

xxx xxx xxx xxx :xx: xxx xxx<sub>曜日 月 日 時 分 秒 年</sub>

Ok で終了します。

(、、右クリックでも終了できます)

## 第8章

## プログラムツールの活用

GP-PRO II に付属のプログラムツールの活用方法を示します。

- 1 GP-\*10用データを\*30用、\*50用に変換
- 2 バックアップ&リストアツールの使用法

## 1 GP-\*10用データを\*30用、\*50用に変換

GP-\*10シリーズ用のデータを、GP-\*30、\*50用に変換します。

GP-\*10シリーズ用のデータは残して、新たにGP-\*30、\*50用のファイルを作成します。

GP-\*10シリーズ用のデータは、GP-COM\*1で読み込んだファイルもしくはGP-PROのデータが使用できます。

この作業は、いったんGP-PRO II を終了させてから、付属のデータ変換用プログラムツールを起動させて行います。変換用ツールは、GP-PRO II インストール時に自動的に作成される<CONVERT>というディレクトリの中にあります。

注意

- 変換後のファイルを格納するために十分な容量を確保してから、作業を開始してください。変換後のファイル容量は、変換前よりも大きくなります。

手

- \*1 GP-COMは、(株)デジタル製のGP-\*10シリーズ用画面データバックアップソフトです。

## &lt;起動方法&gt;

```
A:¥GPPRO2>
```

いったんGP-PRO II を終了し、DOSのプロンプト状態にします。カレントディレクトリはGP-PRO II がインストールされているディレクトリとします。

注意

- 「GP-PRO II/IV」をご使用の場合は、下記のドライブ指定をご参照ください。

パソコン ドライブ	PC98シリーズ パソコン	DOS/IV パソコン
ハードディスク	A	C
FD1	B	A
FD2	C	B

①

```
A:¥GPPRO2>CD CONVERT
```

CONVERTのディレクトリに移ります。

```
CD_CONVERT [↵]
```



②

A: ¥ GPPRO2 ¥ CONVERT > GPCVT

変換プログラムを起動させます。

GPCVT

③

Pro-face 画面データ変換プログラム

- 1:画面ファイル単位の変換(GP410→GP430)
- 2:メモリーカード単位の変換(GP410→GP430)
- 3:ディレクトリの表示
- 4:終了

メニューが表示されます。

番号を入力します。またはカーソルキーをメニューに合わせて  を入力します。

### <各メニューの内容>

- 1 画面ファイル単位の変換  
ファイル単位で保存されている(保存データファイルの拡張子が.GPFである)GP-\*10用のデータをGP-PRO II用のデータに変換します。  
またはGP-PROのデータをGP-PRO II用に変換します。
- 2 メモリカード単位の変換  
メモリーカード単位で保存されている(保存データファイルの拡張子が.GPMである)GP-\*10用のバックアップデータをGP-\*30用のバックアップデータに変換します。
- 3 ディレクトリの表示  
指定したディレクトリ内のファイルを一覧できます。
- 4 終了  
変換用ツールを終了します。

# 1 画面ファイル単位の変換

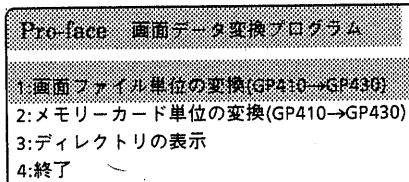
ファイル単位で保存されている(保存データファイルの拡張子が.GPFである)GP-\*10用のデータをGP-PRO II用のデータに変換します。またはGP-PROのデータをGP-PRO II用に変換します。

GP-\*10用データを元にGP-PRO II用のデータを作成します。

フロッピーに格納されたGP-PROのデータ(MELSEC-AnA指定)をGP-PRO II用に変換します。

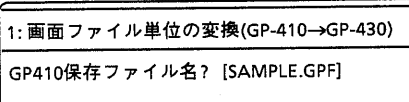
元データは、フロッピーの<GPPRO>というディレクトリの中に格納されているとします。フロッピードライブ名はBとします。変換後のデータはA:¥GPPRO2¥DATAに格納するとします。

①



画面ファイル単位の変換を選択します。

②



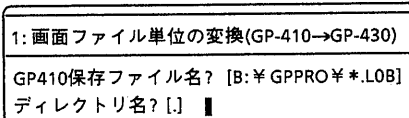
画面ファイル単位の変換を実行する画面が開きます。

GP-\*10用データのファイル名を入力します。データファイルが他のディレクトリにある場合は、ディレクトリ名から入力します。GP-PROのデータの場合、ファイル名をワイルドカード\*1でまとめて指定すると便利です。ただし、拡張子は必ず入力してください。

例

B:¥GPPRO¥\*.LOB

③



GP-PRO II用のファイルを格納するディレクトリを指定します。

画面に表示されている[.]とはカレントディレクトリという意味です。変換用ツールが格納されているディレクトリと同じでよいなら、そのまま  を入力します。


例

B:¥GPPRO2¥DATA

④

PLCタイプを選択して下さい  
 (M: M to M ,0: SYSMAC C ,1:  
 (3: FA-500 ,4: MICREX-F ,5:  
 (7: MEWNET FP ,8: HIDIC ,9:  
 (B: MELSEC AxA ,C: KOSTAC SR21,D:  
 (F: EX100 ,G: HIZACH ,H:I  
 PLCTYPE= 0


PLCタイプを指定します。GP-\*10用のPLCタイプと同じにします。

例 MELSEC-AxAシリーズ  
 B 

1を変換しました ファイル名はB1.DLBです  
 2を変換しました ファイル名はB2.DLBです  
 :

PLCタイプを入力すると、ファイルの変換が開始されます。  
 画面上には、変換の実行状況が表示されます。

GPのファイルデータ終了(ESCキーで終了)

変換作業の終了が画面上で確認できたら  を入力してください。メニュー画面に戻ります。

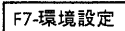


\*1 DOSで、ファイル名の代わりになる記号です。「\*」と「?」の2つがあります。ワイルドカードを使うと、複数のファイルを一括して指定することができます。



● 変換前と変換後の画面データのファイル名は、以下のような関係となります。

GP-*10ファイル		GP-*30
ベース画面	1 ~ 255	B1 ~ B255
ライブラリー画面	300 ~ 699	B300 ~ B699
マーク画面	700 ~ 999	M700 ~ M999
折れ線グラフ画面	1000 ~ 1199	T1000 ~ T1199
アラームメッセージ	1200 ~ 1299	A1200 ~ A1299

- 変換後もタグ名は変わりません。ただし、lタグ,mタグの場合は、元のタグ名の前にlタグの場合はLを、mタグの場合はMを付加します。
- 変換後のファイルは、そのままGP-PRO IIでオープンできます。変換直後は、「環境設定」の「機種設定」が「GP-430系」となっています。GP-\*50もしくはGP-230にてご使用になりたい場合は、「機種設定」を変換して、ファイルをセーブしてください。

**注意**

- 画面ファイル単位の変換では折れ線グラフ画面ファイル(1000~1199)は変換できません。変換は、メモリーカード単位で行ってください。
- 画面ファイルの変換には、以下の注意点があります。このような場合は、画面ファイルの修正/補正が必要となります。
  - ・表示属性が黒色+プリンクの場合、白色+プリンクに変更されます。
  - ・円弧、扇形は、描画の高速化にともないGP-\*10画面ファイルの座標データ(始点、終点、中継点)の最適化を行います。そのとき、描画上のズレが生じることがあります。
- 変換後、データのタグの設定内容を必ず確認してください。
- 32ビットデータを使用した場合、PLCタイプによって32ビットデータの上位、下位の関係が異なりますのでご注意ください。

## 2 メモリーカード単位の変換

メモリーカード単位で保存されている(保存データファイルの拡張子が.GPMである)GP-\*10用のバックアップデータをGP-\*30用のバックアップデータに変換します。

GP-\*10用のバックアップデータを元にGP-\*30用のバックアップデータを作成します。

フロッピーに格納されたGP-\*10用のバックアップデータ(MELSEC-AnA指定)をGP-\*30用のバックアップデータに変換します。

元データは、フロッピーのルートディレクトリに格納されているとします。ファイル名はDGTLO1.GPM、フロッピードライブ名はBとします。変換後のデータのファイル名はDGTLO1.MRMとし、A:¥ GPPRO2に格納するとします。

①

```

Pro-face 画面データ変換プログラム
1:画面ファイル単位の変換(GP410→GP430)
2:メモリーカード単位の変換(GP410→GP430)
3:ディレクトリの表示
4:終了
  
```

メモリーカード単位の変換を選択します。

②

```

2:メモリーカード単位の変換(GP-410→GP-430)
GP410保存ファイル名? [SAMPLE.GPM]
  
```

メモリーカード単位の変換を実行する画面が開きます。

GP-\*10用バックアップデータのファイル名を入力します。拡張子(.GPM)まで入力してください。データファイルが他のディレクトリにある場合は、ディレクトリ名から入力します。

例

B:¥ DGTLO1¥ \*.GPM

③

```

2:メモリーカード単位の変換(GP-410→GP-430)
GP410保存ファイル名? [B:¥ DGTLO1.GPM]
GP430保存ファイル名? [SAMPLE.MRM]
  
```

GP-\*30用のバックアップファイル名を入力します。拡張子(.MRM)まで入力してください。他のディレクトリに格納する場合は、ディレクトリ名から入力します。

例

A:¥ GPPRO2¥ DGTLO1.MRM

④

```

開始していいですか(Y or N)?Y
1を変換しました
2を変換しました
  
```

Yを入力すると、ファイルの変換が開始されます。画面上には、変換の実行状況が表示されます。

SPACEキーでメニュー画面に戻ります。

変換作業が終了すると、画面上に左のように表示されます。確認後、を入力してください。メニュー画面に戻ります。

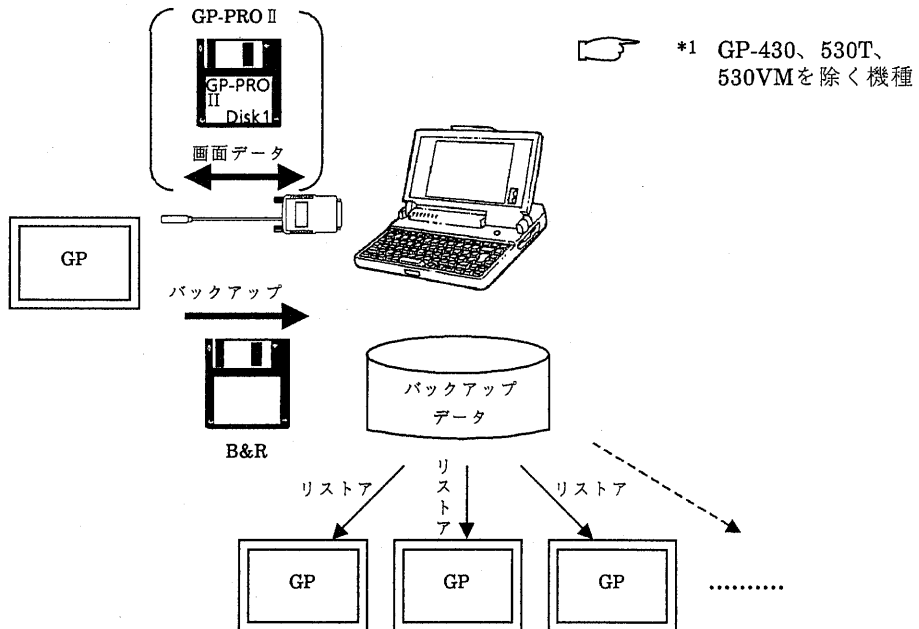


- 変換後のデータは画面バックアップファイルです。GP本体上の表示データに戻す(リストアする)ためには、「転送」の「内部メモリのリストア」を実行します。 「第7章3.4 内部メモリのリストア」

## 2 バックアップ&リストアツール

### 1 バックアップ&リストアの概要

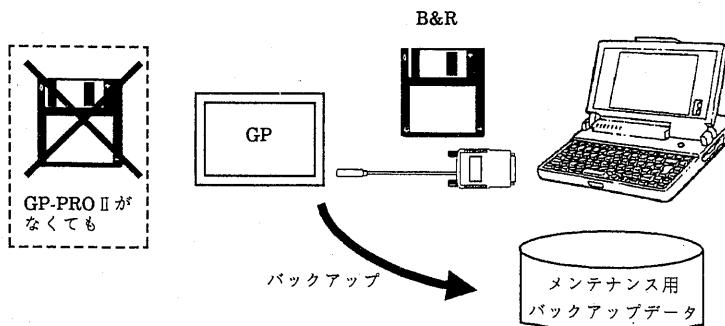
本プログラムは、ダウンロードタイプのGP本体\*1のメモリの内容(実行プログラム+初期設定データ+画面データ)すべてをパソコン上でハードディスクやフロッピーディスクにバックアップし、そのデータファイルをGP本体へリストア(復元)することのできるユーティリティプログラムです。なお、本ツールを使用して作成したデータは、GP-PRO IIでは編集できませんのでご注意ください。



バックアップ&リストア(B&R)ツールは、次の2つの場合に使用します。

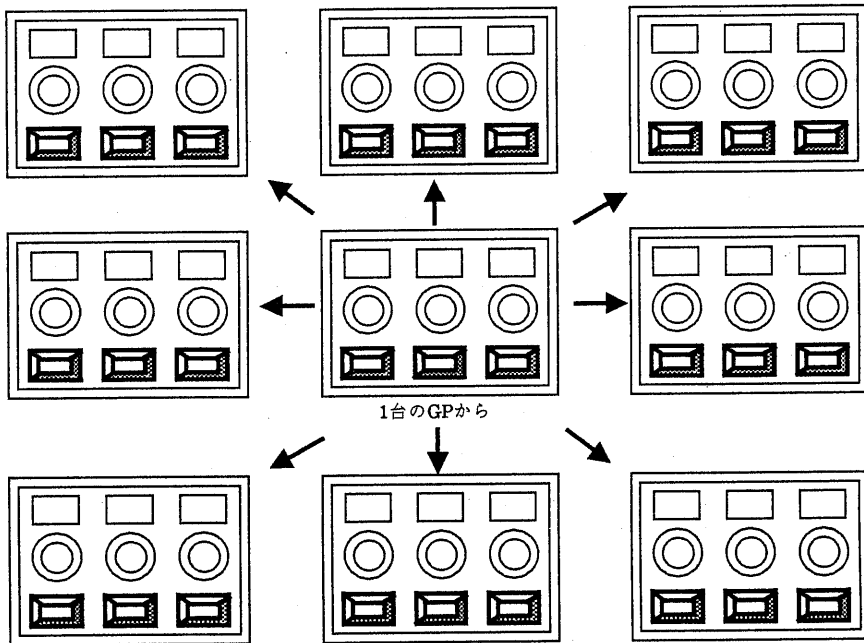
#### (1)現場でのバックアップデータ吸い上げ

メンテナンス用バックアップデータを吸い上げることができます。手元にGP-PRO IIおよびGP-PRO IIの画面データがなくても、事故発生時に備えることができます。

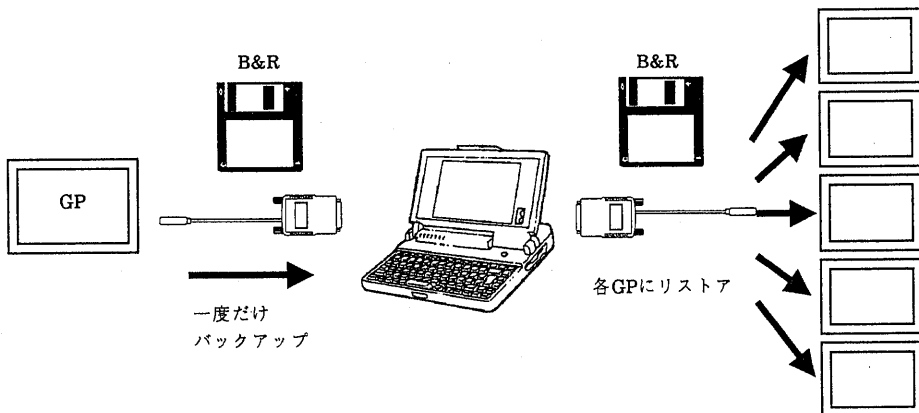


## (2) 全く同じ表示内容のGPを複数台作成

全く同じ表示内容のデータを持つGPを複数作成する場合に便利です。元になるGPが1台あれば本プログラムでその表示データをバックアップし、他のGPへリストアすることができます。この場合、GP-PRO IIの画面データだけでなくGPの初期設定内容なども一括で転送できます。GP上での設定作業を省略して同じ表示内容のGPが次々出来上がります。



上の図のように同じ中身のGPをたくさん作りたい場合があります。1台のGPを元にバックアップ&リストアツールを「コピーツール」ソフトとして活用することができます。



## 2 使用可能な機種および環境一覧

### 「GP-PRO II/98」の場合

#### ■パソコン

NEC PC-9801シリーズでVM以降のもの、およびその互換機

●ハイレゾリューションモードでは動作しません。

●初期型のPC-9801シリーズ(E/F1,2,3/M2,3など)、およびLTシリーズは動作しません。

●動作環境としてCPUが80386以上のものを推奨します。

#### ■OSバージョン

MS-DOS Ver.3.10以上

#### ■必要メモリ容量

640Kバイト以上(EMSのご使用を推奨します)

#### ■ドライブ、およびディスク

1ドライブ(1Mバイト)以上

●インストールするための容量として、1Mバイト以上を確保してください。

●バックアップデータは機種によって異なります。保存先に十分な容量を確保してください。

GP-230シリーズ	.....	512Kバイト
GP-*3Jシリーズ	.....	512Kバイト
GP-*50シリーズ	.....	2Mバイト
GP-250シリーズ	.....	1Mバイト

#### ■ケーブル

GP-PRO II 同梱のフロントメンテナンス用レベル変換ユニットを必ずご使用ください。

#### ■ソフトウェアの内容

プログラム本体 ..... インストールで指定したディレクトリの中の¥BKUPに含まれているGPBKUP.EXEのファイル

その他、本プログラムを動作させるには、以下のファイルが必要です。

・セットアップ用コンフィギュレーション・ファイル	.....	GPSETUP.CFG
・GP-*3Jシリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPJの ファイル (ILDxxx.SPJ)
・GP-230シリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPGの ファイル (ILDxxx.SPG)
・GP-*50シリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPNの ファイル (ILDxxx.SPN)
・GP-250シリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPHの ファイル (ILDxxx.SPH)

なお、これらのプログラムはGP-PRO IIのインストール時に、GPPRO2.EXEと同じディレクトリにコピーされます。

**注意**

- メモリを大量に消費するため、GP-PRO II 本体のプログラム起動中に「DOSコマンド」などで実行できません。必ずGP-PRO II 終了後に実行してください。
- タイプの違うGPへリストアすることはできません。  
ex.GP-230シリーズ用バックアップデータをGP-\*50シリーズへリストアする。
- バックアップデータ容量が大きいいため、フロッピーディスクにて本プログラムを起動される場合は、ディスクの残り容量にご注意ください。

**「GP-PRO II/V」の場合**

## ■ パソコンの機種

IBM PS/Vシリーズ、またはその互換機。\*1  
東芝 J-3100シリーズ。\*2

## ■ OSバージョン

IBM DOSバージョンJ5.0/V以上。\*3  
Microsoft MS-DOS 5.0/V以上  
東芝 日本語DOS Ver.3.10以上

## ■ 必要メモリ容量

640Kバイト以上(EMSのご使用を推奨します)

## ■ ドライブ、およびディスク

1ドライブ(1Mバイト)以上

- インストールするための容量として、1Mバイト以上を確保してください。
- バックアップデータは、機種によって異なります。保存先に十分な容量を確保してください。

GP-230シリーズ	.....	512Kバイト
GP-*3Jシリーズ	.....	768Kバイト
GP-*50シリーズ	.....	2Mバイト
GP-250シリーズ	.....	1Mバイト

## ■ ケーブル

GP-PRO II 同梱のフロントメンテナンス用レベル変換ユニットを必ず使用してください。

## ■ ソフトウェアの内容

プログラム本体 ..... GP-PRO II マスターフロッピー1のディスク¥BKUPに含まれているGPBKUPV.EXEのファイル

その他、本プログラムを動作させるには、以下のファイルが必要です。

セットアップ用コンフィギュレーション・ファイル	.....	GPSETUP.CFG
GP-*3Jシリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPJの ファイル (ILDxxx.SPJ)
GP-230シリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPGの ファイル (ILDxxx.SPG)
GP-*50シリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPNの ファイル (ILDxxx.SPN)
GP-250シリーズ用イニシャルローダプログラム	.....	拡張子が.SPHの ファイル (ILDxxx.SPH)

なお、これらのプログラムはGP-PRO II のインストール時に、GPPRO2.EXEと同じディレクトリにコピーされます。



**注意**

- メモリを大量に消費するため、GP-PRO II 本体のプログラム起動中に「DOSコマンド」などで実行できません。必ずGP-PRO II 終了後に実行してください。
- タイプの違うGPへリストアすることはできません。  
ex.GP-230シリーズ用バックアップデータをGP-\*50シリーズへリストアする。
- バックアップデータ容量が大きい場合、フロッピーディスクにて本プログラムを起動される場合は、ディスクの残り容量にご注意ください。



- \*1 DOS/V対応のパソコンはOADG加盟メーカーのもので、ビデオモードがVGAのもの、またはSVGAに限ります。  
ただし、これらのパソコンをご使用の場合でも、ハードウェアなどの環境の違いによって正常に動作しないことがあります。あらかじめご了承ください。
- \*2 ビデオモードがVGAのものに限ります。  
ただし、これらのパソコンをご使用の場合でも、ハードウェアなどの環境の違いによって正常に動作しないことがあります。あらかじめご了承ください。  
Dynabook EZシリーズでは、パソコンのシステム設定で使用キーボードモードを101keyにしてください。
- \*3 英語モードでは動作しません。

### 3 動作するまでの手順

本プログラムを動作するまでの手順を説明します。

#### 「GP-PRO II/98」の場合

システムフロッピーディスクを作成して動作させる場合と、ハードディスク(DOSおよびGP-PRO IIが正しくインストール済)で動作させる場合とに分けて説明します。

#### (1) システムフロッピーディスクを作成して動作させる場合

バックアップ&リストアツール専用のシステムフロッピーを作ります。システムフォーマットがコピーされたフロッピーを1枚準備します。\*1

2ドライブのフロッピードライブ名をBもう一方をCとします。

また、Aドライブの¥GPPRO2というディレクトリに、GPPRO2が既にインストール済みとします。

- ① GP-PRO II がインストールされているディレクトリから、本プログラムをコピーします。  
Cドライブに準備したフロッピーを入れ、以下のように入力します。

```
A: 
CD_¥ GPPRO2¥ BKUP 
COPY_GPBKUP.EXE_C: 
```

- ② 本プログラムを動作させるのに必要なコンフィグレーションファイルをコピーします。  
以下のように入力します。

```
A: 
CD_¥ GPPRO2 
COPY_GPSETUP.CFG_C: 
```

- ③ イニシャルローダファイルもコピーします。このとき、バックアップ&リストアしたいGPのタイプにより作業が異なります。

- GP-\*3Jシリーズの場合  
以下のように入力します。

```
COPY_ILD*.SPJ_C: 
```

- GP-230シリーズの場合  
以下のように入力します。

```
COPY_ILD*.SPG_C: 
```

- GP-\*50シリーズの場合  
以下のように入力します。

```
COPY_ILD*.SPN_C: 
```


- GP-250シリーズの場合  
以下のように入力します。

```
COPY_ILD*.SPH_C: 
```

それぞれのタイプのGPをご使用になる場合は、4つともコピーしてください。

- ④ 実際に動作させる場合は、フロントメンテナンス用レベル変換ユニットでGPとパソコンを接続してからパソコンをリセットしてください。バックアップ&リストアツールが自動的に起動します。後は画面の指示に従って作業を進めてください。  
また、いったん終了後に再起動させたい場合は、以下のように入力します。

GPBKUP

 \*1 システムフォーマット手順

- ① ドライブAにDOSシステムディスク#1を入れ、電源をONし、DOSを立ち上げます。(画面にA>が表示されます)
- ② ドライブBに別のフロッピー(必ず2HD)を入れ、以下のように入力します。

FORMAT\_B:/S

- ③ 以下画面の指示に従って作業を進めてください。FORMATコマンドが実行されます。なお、ディスクのタイプは1Mバイトを選んでください。

(操作は 2  )

## (2) ハードディスクで動作させる場合

Aドライブは、DOSをインストール済みのハードディスクで、GPPRO2というディレクトリにGP-PROⅡがインストールされているとします。フロッピーディスクのドライブ名をBとします。

- ① 動作させる場合は、A>と表示されている状態で、フロントメンテナンス用レベル変換ユニットでGPとパソコンを接続してから次のように入力します。

CD\_ ¥ GPPRO2 ¥ BKUP

GPBKUP

これでバックアップ&リストアツールが起動します。後は画面の指示に従って作業を進めてください。

### 「GP-PRO II/V」の場合

Cドライブは、DOSをインストール済みのハードディスクで、GPPRO2というディレクトリにGP-PRO IIがインストールされているとします。フロッピーディスクのドライブ名をAとします。

- ① GP-PRO IIがインストールされているディレクトリに本プログラムをコピーします。AドライブにGP-PRO IIのマスターディスク1を入れ、以下のように入力します。( \_ はスペースを表します)

```
C: [↵]
CD_ ¥ GPPRO2 ¥ BKUP [↵]
COPY_GPBKUP/V.EXE_C: ¥ GPPRO2 [↵]
```

- ② 実際に動作させる場合は、C>と表示されている状態で、フロントメンテナンス用レベル変換ユニットでGPとパソコンを接続してから次のように入力します。

```
CD_ ¥ GPPRO2 [↵] *1
GPBKUPV_ _*:* [↵]
      ↓
      オプション*2
```

これでバックアップ&リストアツールが起動します。後は画面の指示に従って作業を進めてください。

 \*1 カレントディレクトリがC: ¥ GPPRO2の場合や、C: ¥ GPPRO2にパスが指定されている場合はこの部分の入力は必要ありません。

\*2 オプションについては、2-8をご参照ください。

# MEMO

このページは、空白です。

# 巻末資料

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1 エラーメッセージ        | 5 アドレス一括変換表      |
| 2 トラブルシューティング     | 6 画面レイアウトシート     |
| 3 メニュー一覧          | 7 タグリスト          |
| 4 ホットキー/ショートカットキー | 8 ソフトウェアトラブルレポート |

## 1 エラーメッセージ

GP-PRO II を使用する上で発生するエラーメッセージとその処置方法について説明します。

なお、処置を行った後にも不具合が発生する場合は、付属のトラブルレポートに詳細事項を明記の上、弊社GP サポートダイヤルへご一報ください。

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
ア	イメージファイルのXドット数は8の倍数です [ファイル]	Xドット数は、8の倍数にしてください。端数が出た場合は、右端から端数分、変換時にカットします。
	イメージファイルのXドット数は4の倍数です [ファイル]	Xドット数は、4の倍数にしてください。端数が出た場合は、右端から端数分、変換時にカットします。
	ウィンドウを追加できません [ファイル]	システムメモリが足りないために登録できません。 CONFIG.SYSの内容を変更し、システムメモリを増やすか、EMSを実装してください。
カ	書き込みエラー(メモリ異常) [転送]	GPの内部メモリへのファイル書き込みでエラーが発生しました。メモリが異常です。お買い求めの代理店もしくは(株)デジタルに連絡してください。
	書き込み禁止です [テキストエディタ] 等	フロッピーディスク等でプロテクトが掛かっています。フロッピーディスク等のプロテクトをはずし、書き込みが行える状態にしてください。
	書き込み失敗 [テキストエディタ] 等	メディアに破損が認められます。正常なフロッピーとディスクを入れ替えてください。
	Query Error (クエリーエラー) [ファイル]	パソコンのグラフィック部分が未定義またはGP-PRO II が起動できません。グラフィックモードとパソコン機種を確認してください。
	コアIDコマンドが失敗しました [転送]	ケーブルが抜けた、または破損、GPの電源がOffしたなど何らかの異常によってパソコンからのデータ送信にエラーが発生しました。GP本体、およびパソコンをリセットして転送をやり直してください。*1

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
カ	高速通信エラー <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	高速データ通信時にエラーが発生しました。ノートパソコンで、省電力モードをご使用の場合は、省電力モードをOFFにしてください。また、CPU速度はLowにしてください。これらを確認したあと、再度転送してください。*1
	号機No.が違います <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ファイル</div>	変換前先頭アドレスと変換前終了アドレスの号機No.を合わせてください。
	このデバイスは変換できません <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ファイル</div>	指定した変換前と変換後のデバイス名の組み合わせでは、変換できません。アドレス一括変換表をご参照ください。
	コマンド異常 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	パソコンからのコマンドが異常です。ケーブルの異常*1、パソコンのハードウェア異常が考えられます。
	これ以上ファイルを開けません <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">テキストエディタ</div>	既に10個のファイルを開いています。オープンしているファイルを閉じてください。
サ	サイズが一致しません <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	GP本体側のファイルとパソコン上のファイルのサイズが異なります。
	サンプル時間設定 <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">折れ線グラフ</div>	折れ線サンプル時間の設定が異常です。再度設定してください。
	シークエラー <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">テキストエディタ 等</div>	メディアに破損が認められます。正常なフロッピーとディスクを入れ替えてください。
	シークエラー <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ファイル</div>	ディスクを交換してください。
	CRCエラー <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">テキストエディタ 等</div>	メディアに破損が認められます。正常なフロッピーとディスクを入れ替えてください。
	[GPSETUP.CFG]がありません セットアップが行えません 続けますか <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	機種判定やセットアップを行うための設定ファイル[GPSETUP.CFG]が指定したディレクトリ上にありません。マスターディスクを使用して正しくインストールし直すか、転送時のセットアップオプションの設定を確認してください。GP側がすでにセットアップが行われているか、またはROMタイプのGPの場合は「OK」を選択することによって画面データのみを送信することができます。
	GPのタイプが違います <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	GP本体と「F7/環境設定」で設定している機種タイプが異なります。同じタイプに設定し直して再度実行してください。

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
サ	GPの準備ができていません  <div style="text-align: right;">転送</div>	GPの電源がOFFされているかケーブルが抜けています。または、GPがパソコンとの転送モード以外のオフラインモードに入っています。ケーブルの接続、GPの電源ONを確認してください。また、GP本体が転送モード以外のオフラインモードになっている場合は、キーボードやタッチパネルによって転送モードにしてください。
	GPのバージョンが違います 転送を続けますか?  <div style="text-align: right;">転送</div>	GP-430Ver.2.00以前のバージョンへファイルを転送しようとしています。転送することは可能ですが、機能によってはGP本体で正常に動作しない場合もあります。
	GPPRO2を起動できませんでした DOSへ戻ります  <div style="text-align: right;">テキストエディタ</div>	何らかの原因でGPPRO2へ戻れませんでした。メモリ容量不足等が考えられます。CONFIG.SYSより使用していないデバイスドライバを取り除いてください。
	システムメモリが確保できません  <div style="text-align: right;">転送</div>	メモリ不足のため、転送用の作業メモリが確保できません。ファイルをクローズして、ファイルをオープンしていない状態(GP-PRO IIを立ち上げ直す)で再度転送します。または、CONFIG.SYSの内容を変更してシステムメモリを増やすかEMSを実装してください。
	システムメモリが足りません!  <div style="text-align: right;">描画</div>	システムメモリ(DOSメインメモリ)が足りませんのでこれ以上作画などは行えません。いったんセーブし、CONFIG.SYSの内容を変更してシステムメモリを増やすかEMSを実装してください。
	指定ファイルがありません  <div style="text-align: right;">転送</div>	GPの内部メモリに指定したファイルはありません。正しいファイルを指定してください。
	指定ファイルはオープンされています 切り替えて編集してください  <div style="text-align: right;">テキストエディタ</div>	指定ファイルは既にオープンされています。F1の編集テキストの切り替えを使用してください。
	指定ファイルは編集中です オープンできません  <div style="text-align: right;">テキストエディタ</div>	現在編集中のファイルをオープンしようとした。編集中のファイルは再オープンできません。一度、閉じてください。
	終了アドレスの方が小さいです  <div style="text-align: right;">ファイル</div>	変換前の先頭アドレスよりも終了アドレスの方を大きくしてください。



五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
サ	スタックオーバーフロー! <div style="text-align: right;">描画</div>	塗り込みエリアが複雑すぎて、スタックオーバーフローを起こしました。塗り込みをOFFにしてください。
	セクターが見つかりません <div style="text-align: right;">編集</div>	ディスクがフォーマットされていないか、フォーマットが違います。DOSの標準ディスクフォーマットでフォーマットされたメディアを使用してください。
	接続機種エラー GPではありません <div style="text-align: right;">転送</div>	GP以外のものか、GP-PRO IIでは対応されていない機種が接続されています。接続されている機種を確認してください。
	接続機種確認 GP機種が見つかりません <div style="text-align: right;">転送</div>	
	選択できませんでした <div style="text-align: right;">描画</div>	選択エリアに、描画の要素が存在しませんでした。選択し直してください。
タ	対象とするアドレスがありません <div style="text-align: right;">ファイル</div>	指定した範囲には、対象となるアドレスがありません。正しく範囲を入力してください。
	対象PLCが違います 転送を続けますか? <div style="text-align: right;">転送</div>	現在の設定PLCタイプが転送先のGPのSIOユニットの中に存在しません。システムファイル以外を転送することはできますが、PLCのデバイス設定などでGP本体でのオンライン動作が正常に動作しない場合があるため、タグのデバイス設定を再設定をしなければならぬことがあります。GP-PRO IIのPLC設定とGP本体の機種設定に必ず合わせてください。
	チェックサムコード異常 <div style="text-align: right;">転送</div>	ファイルのチェックサムコードに異常があるため、GPの内部メモリに書き込むことができません。
	通信エラーです GPから応答がありません <div style="text-align: right;">転送</div>	GP本体側とパソコン側の接続を確認してください。
	通信エラー 転送を失敗しました <div style="text-align: right;">転送</div>	何らかの異常によって通信エラーが発生し、転送を失敗しました。GP本体、およびパソコンをリセットして転送をやり直してください。
	通信がタイムアウトしました <div style="text-align: right;">転送</div>	通信がタイムアウトしました。GP本体リセット後、転送を再トライしてください。
	通信できません 接続をチェックしてください <div style="text-align: right;">転送</div>	GPとパソコンの接続(特にケーブル)を確認してください。接続に異常がない場合は、ケーブルが破損している可能性もあります。


五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
タ	通信ポート初期化エラー 転送	RS-232Cポートが初期化できませんでした。パソコンのハードウェア不良が考えられます。
	ディスク容量が不足しています セーブできません テキストエディタ	セーブ先のディスクの空き容量が不足しています。ディスク容量を空けてください。
	ディスク容量が不足しました 転送	ディスクメディアの容量が不足したため転送を中断します。メディアを交換するか、容量の十分なメディアへパス変更をしてください。
	ディスク容量不足の為変換できません 転送	ディスク十分な空き容量がないため、変換できません。ディスク内の不要なファイルを削除するなどして、ディスク容量を確保してください。
	テキストエディタはGPPRO2より起動してください テキストエディタ	DOSより直接テキストエディタを起動しました。GPPRO2よりテキストエディタを起動してください。
	データサイズが正しくありません 転送	セットアップに必要なプログラムファイルのデータに異常があります。もう一度マスターディスクから正しくインストールし直してください。
	転送を失敗しました 転送	転送を再度やり直してください。
	テンポラリファイルが作成できませんでした テキストエディタ	ディスク容量が不足しています。ディスク容量を増やしてください。
	DOSアクセスエラー ファイル	メモリが足りないために、DOSコマンドをアクセスできません。CONFIG.SYSの内容を変更してシステムメモリを増やすかEMSを実装してください。
	DOSエラーです ファイル	DOSのエラーです。DOSがエラーを検知しました。パソコンリセット後、再起動してください。
	ドライブがありません テキストエディタ 等	ファイル名に不正なドライブを選択しました。ファイル名に正しいドライブ名を設定してください。
	ドライブの準備ができていません テキストエディタ 等	指定ドライブにフロッピーが挿入されていません。指定のドライブにフロッピーを挿入してください。
	ドライブ名が無効です! ファイル	正しいドライブ名を入力してください。

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
ハ	BMPのXドット数は8ドット以上です ファイル	モノクロイメージファイルを作成するときは、BMPファイルのX座標の最小ドット数は8です。8ドット以上のファイルを指定してください。
	BMPのXドット数は4ドット以上です ファイル	カラーイメージファイルを作成するときは、BMPファイルのX座標の最小ドット数は4です。4ドット以上のファイルを指定してください。
	PGOコマンドが失敗しました 環境設定	ケーブルが抜けた、または破損、GPの電源がOffしたなど何らかの異常によってパソコンからのデータ送信にエラーが発生しました。GP本体、およびパソコンをリセットして転送をやり直してください。
	PLCテーブルファイルのフォーマットが違います PLCテーブルファイルがオープンできません 転送	PLCテーブルファイルが存在しないか、何かの原因によって破壊されました。マスターディスクより、インストールし直してください。
	PLDコマンドが失敗しました 転送	ケーブルが抜けた、または破損、GPの電源がOffしたなど何らかの異常によってパソコンからのデータ送信にエラーが発生しました。GP本体、およびパソコンをリセットして転送をやり直してください。
	ファイルがありません 転送	ファイルをGPへ送信しようとしたのですが、該当するファイルがありません。ファイル指定をやり直してください。
	ファイルがありません(セットアップ) [*.*] 転送	セットアップに必要なファイルが指定したディレクトリにありません。[*.*]にはエラーの原因となったファイル名が入ります。もう一度マスターディスクから正しくインストールし直すか、転送のセットアップオプションの設定を確認してください。
	ファイルがオープンできません 転送	転送時、ルートディレクトリに大量のファイルを受信しようとしたときなどに発生します。サブディレクトリへ変更してください。それ以外は、メディアが不良の場合にも発生します。
	ファイルがオープンできません ディレクトリが不正です テキストエディタ 等	存在しないディレクトリを設定しています。正しいディレクトリ名を設定してください。

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
ハ	ファイルがオープンできません ファイルが読めません ファイルフォーマットエラー [*.]* <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	セットアップに必要なプログラムファイルのデータが、何らかの異常によってオープンできない、読み込めない、または内部データが正しくありません。 [*.]*にはエラーの原因となったファイル名が入りません。 主な原因として、ファイルが破壊されている、メディア(FD、HDなど)に異常がある、CONFIG.SYSの中のFILEの設定が非常に少ない(FILE=2)になっているなどが挙げられます。異常の原因を取り除いたうえで、再度正しくインストールし直してください。
	ファイルが書き込めません <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">転送</div>	メディアにライトプロテクトがかかっています。ライトプロテクトを外してください。それ以外は、メディアが不良の場合にも発生します。
	ファイルサイズが95%を超えました 100%に達すると描画できません! <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ファイル</div>	ファイルサイズが最大に近づいています。まもなく、作画/編集ができなくなります。一旦ファイルをセーブし、他のファイルにライブラリーとして呼び出して作画を続けてください。
	ファイル番号エラー 内部データを修正します <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">ファイル</div>	DOSのファイル番号と内部データのファイル番号が異なっています。DOSのリネームコマンドなどでファイル番号を変更した場合に起こります。内部データをDOSファイル番号と同じにします。
	ファイル名が不正です GPのファイル名に変更してセーブしてください <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">テキストエディタ</div>	GPのファイル名でDOSテキストとしてセーブします。ファイル名を変更してください。
	ファイル名が不正です ファイル名の先頭はXにしてください ファイル名が不正です ファイル番号は1~8999です <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">テキストエディタ</div>	GPのファイル名でないファイル名を設定しています。正しいファイル名を設定してください。
	ファイル名が不正です ファイル名を変更してセーブしてください <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">テキストエディタ</div>	GPのファイル名でないファイル名でセーブしようとした。ファイル名を変更してください。
	ファイルをすべて呼び出せません 省略して表示します <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">描画</div>	メモリが足りないためにファイルおよびマークを呼び出せません。メモリの許す限り省略して描画します。CONFIG.SYSの内容を変更してシステムメモリを増やすかEMSを実装してください。

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
ハ	プリンタエラーです <div style="text-align: right;">ファイル</div>	プリンタ側にエラーが発生しました。主な原因は紙切れ、紙づまり、オフライン状態である、などです。プリンタの状態を確認してください。
	HELP.DOCがありません! <div style="text-align: right;">ヘルプ</div>	HELP.DOCファイルをGP-PRO IIの実行ファイルのあるディレクトリへインストールしてください。
	変換できませんでした <div style="text-align: right;">ファイル</div>	指定したファイルのフォーマットがテキスト形式でないため、変換できませんでした。ファイルのフォーマットをテキスト形式にしてください。
	編集中のファイルサイズがエラーです 最大サイズを超えました! すべての描画機能が無効です <div style="text-align: right;">描画</div>	ファイルサイズが規定の約8Kバイトを超えました。これ以上作画などは行えません。新しいファイルをオープンして、ファイル呼び出しを行って対処してください。
マ	マウスが使用できません <div style="text-align: right;">起動時</div>	MOUSE.SYS が組み込まれていません。CONFIG.SYSにMOUSE.SYSを組み込んでください。なお、MOUSE.SYSはDOSに標準で付属しているものを使用してください。汎用ソフトウェアに付属しているものを使用した場合、動作しないことがあります。
	前のディレクトリを使用してください 現在のディレクトリは使用できません <div style="text-align: right;">描画</div>	ディレクトリが使用できません。(オープンで指定したディレクトリをDOSコマンドで削除した場合に表示されます) 前に指定したディレクトリを使用してください。
	メディアのタイプが違います <div style="text-align: right;">ファイル</div>	ディスクフォーマットが違います。DOSの標準ディスクフォーマットでフォーマットされたメディアを使用してください。
	メモリが足りません! <div style="text-align: right;">ヘルプ</div>	CONFIG.SYSの内容を変更してシステムメモリを増やすかEMSを実装してください。
	メモリが足りません <div style="text-align: right;">転送</div>	GPの内部メモリがいっぱいになりました。不要なファイルを削除してください。 (GP-PRO II Ver.1.01では、GP-COM IIを使用してください)
	メモリが不足で、中止しました <div style="text-align: right;">描画</div>	描画途中でメモリが不足したため、描画を続行できません。CONFIG.SYSの内容を変更してシステムメモリを増やすかEMSを実装してください。
	メモリ未初期化 <div style="text-align: right;">転送</div>	GPの内部メモリが初期化されていません。初期化してください。

五十音	エラーメッセージ	原因および対処方法
ヤ	読み込み失敗 テキストエディタ	メディアに破損が認められます。正常なフロッピーディスクと入れ替えてください。
ラ	ロードできません! 描画	ファイル呼び出しやマーク呼び出しで、自分自身のファイルを読み出そうとしたか、ファイルにエラーがある場合に表示されます。正しいファイルを選択してください。

 \*1 これらのエラー発生時には、対処方法に従って処置を行ったあと、ケーブルの接続を再確認のうえ、再度転送してください。再度転送してもうまくいかない場合は、ケーブルの破損の可能性もありますので、お買い求めの代理店または(株)デジタルまでご連絡ください。

## 2 トラブルシューティング

GP-PRO II を使用する上で発生するトラブルの処置方法について説明します。

トラブルシューティングを行う前に再度、以下の項目を確認してください。全て“**Yes**”であればそのままトラブルシューティングへお進みください。1つでも“**No**”があればその項目を設定してから、トラブルシューティングへお進みください。

### 「GP-PRO II /98」の場合

項目	チェック
グラフィックモード「拡張グラフモード4096色中16色」	になっていますか?
RS-232C伝送モード「調歩同期」	になっていますか?
内蔵RAMの容量「640Kバイト」	になっていますか?
サウンドBIOSの切り離し「切り離す」	になっていますか?

※ DIPスイッチか内部メモリSWの内容を確認してください。  
(パソコン付属のガイドブックをご覧ください)

### 「GP-PRO II /V」の場合

項目	チェック
ディスプレイモード「VGA」または「SVGA」	になっていますか?
DOSは「日本語モード」	になっていますか?

「GP-PRO II /98」、「GP-PRO II /V」それぞれにかぎられた確認/処置事項には、

**PC98**、**DOS/V**といったマークがついています。その他の事項は共通です。

なお、処置を行った後にも不具合が発生する場合は、付属のトラブルリポートに詳細事項を明記の上、弊社GP サポートダイヤルへご一報ください。

不具合事項	確認/処置事項
① GP-PRO II が立上らない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 立ち上げディスク(フロッピーまたはハードディスク)にDOSのシステムはありますか? COMMAND.COMというファイルがあるか確認してください。</li> <li>● DOSのバージョンは、3.10以上ですか? VERコマンドでバージョンの確認をしてください。</li> <li>● 環境設定は正しいですか? CONFIG.SYSファイルの内容を確認してください。原因としてメモリの実装不足が考えられます。 「第1章4 パソコン環境を整える」「第1章3 インストール」を参照してください。</li> </ul>

不具合事項	確認/処置事項
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パソコン動作環境は正しいですか？ 「第1章2.2 開発環境図/パソコンの動作環境」を参照し、設定内容を確認してください。</li> <li>● <b>PC98</b> パソコン機種は正しいですか？ ハイレゾモードを除くPC-9801VM以降の機種(ただし、LTシリーズは除く)、またはエプソン互換機で動作可能です。 フロッピーディスク中の <b>README.DOC</b>に、動作確認機種を明記しています。</li> </ul>
<p>② GP-PROⅡが立ち上がらない、またはメニューなどの色の表示が見づらい、またはメニューの下側が切れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>PC98</b> 16色モードですか？ パソコンには、最初から16色モードになっているもの、設定を必要とするもの、オプションのグラフィックカードが必要なものがあります。パソコンを16色モード&lt;拡張グラフィックモード&gt;にしてください。詳細はパソコンの取扱説明書をご覧ください。</li> <li>● <b>DOS/V</b> ディスプレイはVGAモード、もしくはSVGAモードですか？ GP-PROⅡはVGAモード、もしくはSVGAモードに対応しています。他のディスプレイモードでは正しく動作できません。オプション-e:7を指定して実行してください。 特にJ3100シリーズのEGA、およびCGA対応の機種にはご注意ください。詳しくは「GP-PROⅡの起動と終了」をご参照ください。</li> </ul>
<p>③ ノートやラップトップパソコンなどのモノクロディスプレイでGP-PROⅡを実行すると見づらい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 画面を反転(リバース)表示にすると見やすくなります。 ほとんどのパソコンでは、ディップSWおよびメモリSWでリバース表示に切り替えることができます。詳細はパソコンの取扱説明書をご覧ください。</li> </ul>



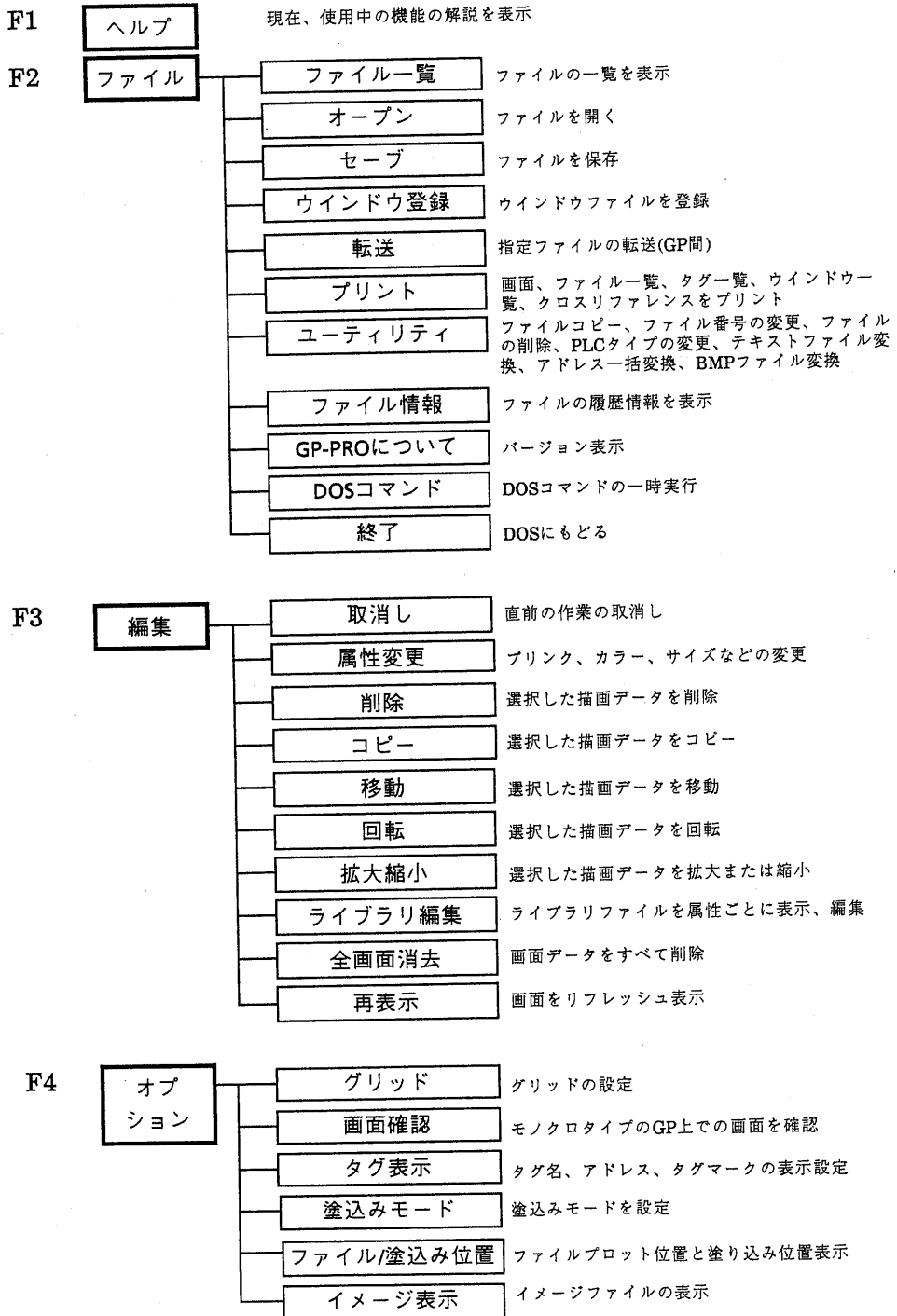
不具合事項	確認/処置事項
④ GP-PROⅡで作画できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ファイルをオープンしていますか? GP-PROⅡでは、まずファイルをオープンしないと作画することはできません。ファイルをオープンしてください。</li> <li>● メディアの残り容量は十分ですか? GP-PROⅡでは、メディア保護のため残り容量が9Kバイト以下になると、実行できないようになっています。残り容量が十分にあるメディア(ハードディスクやフロッピーディスク)を用意してください。</li> </ul>
⑤ マウスが動かない、または使用中にロックする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マウスのシステムファイルをデバイス指定していますか?</li> <li>● GP-PROⅡ立ち上がり時に「マウスが使用できません」というメッセージが表示された MOUSE.SYSというファイルがあるかどうか、また、CONFIG.SYSファイル中にMOUSE.SYSをデバイス指定しているかどうかを確認してください。 「第1章4 パソコンの環境を整える」を参照してください。 なお、MOUSE.SYSはMS-DOSの標準ドライバを使用してください。なお、MOUSE.COMは使用しないでください。</li> </ul>
⑥ 日本語が入力できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FEP(日本語フロントエンドプロセッサ)がインストール、または設定されていますか? FEPのシステムファイル、及び辞書ファイルが正しくインストールされているか、またはCONFIG.SYSファイル中に正しく設定されているか確認してください。詳細はFEPの取扱説明書を参照するか、「第1章4 パソコンの環境を整える」を参照してください。 <b>PC98</b> MS-DOS Ver.5の場合、CONFIG.SYSのBREAKコマンドはBREAK=OFFに設定してください。</li> </ul>

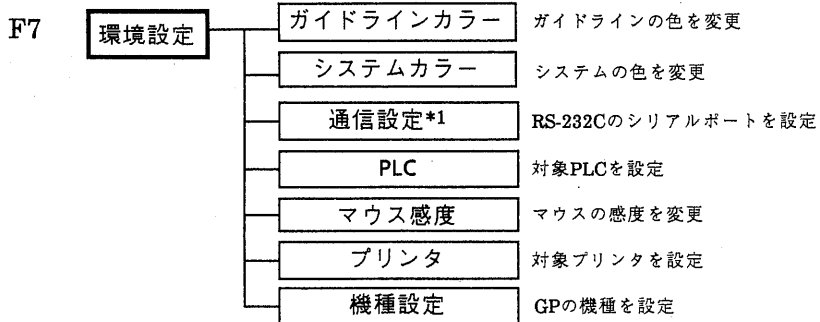
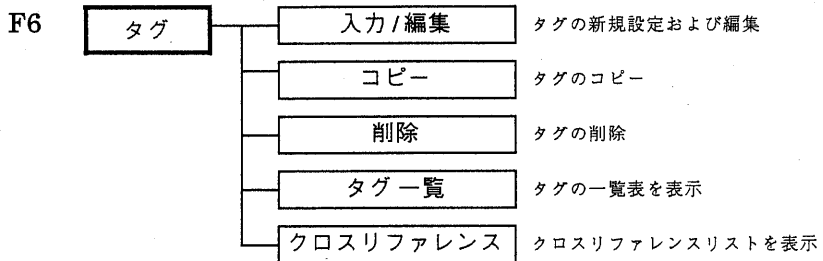
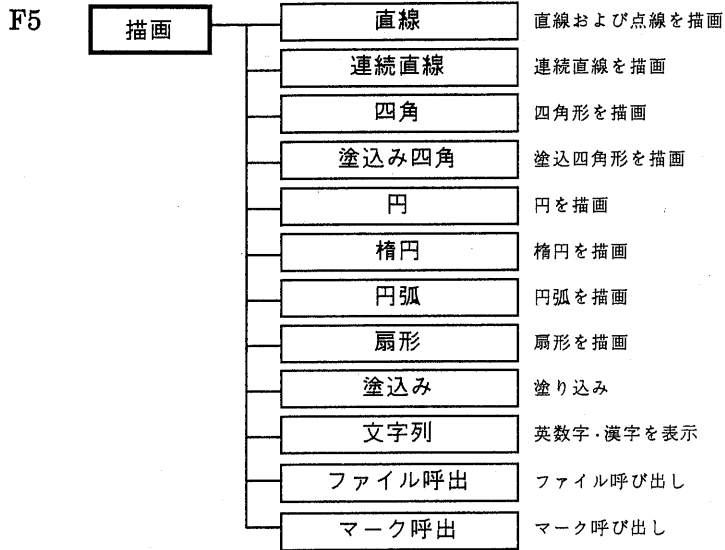
不具合事項	確認/処置事項
<p>⑦ 日本語が正しく入力できない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● FEPが正しく設定されていますか? ATOKの場合、CONFIG.SYSファイルの内容が次のようになっていないか確認してください。 DEVICE=A:¥ATOK6A.SYS /E=1 もし、/E=1というオプションが付属されていたら、/E=0に変更してください。 画面の左上に入力した文字が表示される場合は、<b>CTRL</b> + <b>F-6</b> キーを入力してください。 正しく入力ができるようになります。</li> <li>● GP本体でサポートしていない漢字/特殊文字は表示されません。</li> </ul>
<p>⑧ ファイルがセーブできない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 書き込み禁止になっていませんか? フロッピーのライトプロテクトが書き込み禁止かどうか確認してください。</li> <li>● メディア(フロッピー/ハードディスク)の残り容量が十分にありますか? GP-PRO II ではメディア保護のため、残り容量が9Kバイト以下になるとセーブできません。残り容量が十分にあるメディアを用意してください。</li> <li>● 作画中のデータのメモリ容量が8Kバイト(100%)を超えていませんか? なにかデータを削除してセーブしてください。</li> </ul>
<p>⑨ パソコンとGPとの通信ができない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ケーブルは正しいですか? 必ず付属のケーブルをご使用ください。</li> <li>● GP本体がパソコンとの転送モード以外のオフラインモードになっていませんか? GP本体がパソコンとの転送モードになっていない場合は通信しません。</li> <li>● GPのメモリ容量に余裕がありますか? (GPへ送信時)GP本体の内部メモリ容量が十分にあるか確認してください。残り容量が少ない場合は、GP上の不要なファイルを消去し、内部メモリの最適化を行ってください。</li> </ul>


不具合事項	確認/処置事項
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● GPから受信時、メディアに余裕がありますか？ フロッピーディスク、またはハードディスクの残り容量が十分にありますか？残り容量が十分にあるメディアを用意してください。</li> <li>● <b>PC98</b> パソコンのRS-232Cの設定は正しいですか？ パソコンのディップスイッチ、またはメモリスイッチのRS-232Cの設定が <b>調歩同期</b> になっていることを確認してください。</li> <li>● 通信ポートの設定は、合っていますか？ 転送ケーブルを接続しているシリアルポートと、"F7/通信ポート"で設定しているポートは合っていますか？</li> </ul>
<p>⑩ プリンタが動作しない。 ハードコピーが正常に印字されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プリンタインターフェイスケーブルは、正しいですか？</li> <li>● プリンタ設定は、正しいですか？ プリンタ側でも、コマンドの設定が必要な場合があります。特にエプソン製のプリンタでESC/Pスーパーの設定になっているものに関しては、NEC-PRを選択するようにしてください。プリンタの取扱説明書をご参照ください。</li> <li>● <b>DOS/V</b> プリンタドライバをインストールしていませんか？ DOS/V対応パソコンでDOS/Vシステムに付属のプリンタドライバ(\$PRNUSER.SYS、\$PRNESC.P.SYS)は使用しないでください。</li> </ul>

### 3 メニュー一覧

GP-PRO IIには、以下のメニューがあります。





 \*1 「GP-PRO II/V」のみのメニューです。

## 4 ホットキー/ショートカットキー一覧

機能	ホットキー	ショート カットキー	機能	ホットキー	ショート カットキー
<b>F2-ファイル</b>			<b>F4-オプション</b>		
ファイル一覧	CTRL + F1	L	グリッド	GRPH + G (ALT + G)	G
オープン	CTRL + F2	O	画面確認		V
セーブ	CTRL + F3	S	タグ表示		T
ウインドウ登録	GRPH + W (ALT + W)	W	タグネーム		M
転送	CTRL + F4	T	塗込みモード		F
プリント	CTRL + F5	P	ファイル /塗込み位置		L
ユーティリティ	CTRL + F6	U	イメージ表示		I
ファイル情報	CTRL + F7	I	<b>F5-描画</b>		
GPPROについて	CTRL + F8	A	直線		L
DOSコマンド	CTRL + F9	D	連続直線		O
終了	GRPH + X (ALT + X)	Q	四角		R
<b>F3-編集</b>			塗込み四角		D
取消し	GRPH + U (ALT + U)	U	円		C
属性変更	GRPH + A (ALT + A)	A	楕円		V
削除	GRPH + D (ALT + D)	D	円弧		A
コピー	GRPH + Y (ALT + Y)	Y	扇形		P
移動	GRPH + M (ALT + M)	M	塗込み		F
回転	GRPH + O (ALT + O)	O	文字列		T
拡大縮小	GRPH + E (ALT + E)	E	ファイル呼出		I
ライブラリ編集	GRPH + L (ALT + L)	L	マーク呼出		M
全画面消去	GRPH + C (ALT + C)	C			
再表示	GRPH + R (ALT + R)	R			

※ 「GP-PRO II/V」では( )内のキーで操作してください。

機能	ホットキー	ショート カットキー
<b>F6-タグ</b>		
入力/編集		I
コピー		C
削除		D
タグ一覧		L
クロスリファレンス		R
<b>F7-環境設定</b>		
ガイドラインカラー		C
システムカラー		S
通信設定		O
PLC		L
マウス感度		M
プリンタ		P
機種設定		G

## 5 アドレス一括変換表

アドレスの組み合わせによって、変換できるものとできないものがあります。  
 変換できない組み合わせはPLCメーカーによって異なります。以下に示すアドレス一括  
 変換表を参照して、正しく変換を行ってください。

### 記号の見かた

記号には、それぞれ以下の意味があります。

- : 変換モード時にワードを設定すると、ワードとビットの両方を変換  
 します。  
 ビットを設定すると、ビットのみを変換します。
- △: 変換モード時にワードを設定すると、ワードのみを変換し、ビット  
 を設定すると、ビットのみを変換します。
- ☆: 変換モード時にワードを設定すると、ワードのみを変換します。
- : 変換モード時にビットを設定すると、ビットのみを変換します。

### メモリtoメモリ

前	後	LS
LS システムエリア		○

### 三菱電機(株)製PLC MELSEC - AnN / AnA / AnU / A2C

前	後	X	Y	M	L	B	TN	CN	D	W	R	LS	M	F
X 入力リレー		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
Y 出力リレー		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
M 内部リレー 特殊リレー		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
L 保持リレー		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
B リンクリレー		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
TN タイマ (現在値)		△	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△	△	△	△	△
CN カウンタ (現在値)		△	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△	△	△	△	△
D データレジスタ		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
W リンクレジスタ		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
R *2 ファイルレジスタ		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
LS システムエリア		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○
F アナンシエータ		○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○	○	○

\*1: ビット=接点&コイル

\*2: ブロック単位



三菱電機(株)製PLC MELSEC-FX

前 \ 後	X	Y	M	S	T	C	D	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
M 内部リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
S ステップリレー	○	○	○	○	△	△	○	○
T タイマ	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
C カウンタ	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	△	△	○	○

\*1: ビット=接点&コイル

三菱電機(株)製PLC MELSEC-F

前 \ 後	X	Y	M	S	T	C	D	LS
X 入力リレー	□	□	□	□	□	□	□	□
Y 出力リレー	□	□	□	□	□	□	□	□
M 補助リレー キーブリレー	□	□	□	□	□	□	□	□
S ステップリレー	□	□	□	□	□	□	□	□
T タイマ	□	□	□	□	○ *1	○ *1	□	□
C カウンタ	□	□	□	□	○ *1	○ *1	□	□
D データレジスタ	□	□	□	□	△	△	○	○
LS システムエリア	□	□	□	□	△	△	○	○

\*1: ビット=接点&コイル

オムロン(株)製PLC SYSMAC-C/CV

前 \ 後	CH	A	HR	AR	LR	TIM /T	CNT /C	DM /D	LS
CH リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○
A *3 特殊補助リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○
HR *2 保持リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○
AR *2 補助記憶リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○
LR *2 リンクリレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○
TIM/T タイマ	△	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
CNT/C カウンタ	△	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
DM/D データメモリ	○	○	○	○	○	△	△	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	△	△	○	○

\*1: ビット=接点&コイル

\*2: SYSMAC Cのみ

\*3: SYSMAC CVのみ

シャープ(株)製PLC ニューサテライト JW

前 \ 後	A	T	B	レジスタ	ファイル	LS
A リレー	○	△	○	○	○	○
T タイマ/カウンタ	△	○	△	△	△	△
B タイマ/カウンタ	○	△	○	○	○	□
レジスタ *1	○	△	○	○	○	□
ファイル *1	○	△	○	○	○	□
LS システムエリア	○	△	○	○	○	○

\*1: ブロック単位

横河電機(株)製PLC FACTORY ACE

前 \ 後	X	M	L	Y	I	E	TP	TS	CP	CS	D	Z	W	B	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
M 特殊リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
L リンクリレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
I 内部リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
E 共有リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
TP タイマ (現在値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	△	△	△	△	△
TS タイマ (設定値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	△	△	△	△	△
CP カウンタ (現在値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	△	△	△	△	△
CS カウンタ (設定値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	△	△	△	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
Z 特殊レジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
W リンクレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
B コモンレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○

\*1: ビット=接点&コイル

富士電機(株)製PLC MICREX-F

前 \ 後	WB/WM	WF	WA	W24	BD/DI/SI	W30~W34	TS	TR	CS	CR	LS
WB/WM リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
WF 特殊リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
WA アナウンスリレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
W24 直接入出力	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
BD/DI/SI データメモリ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
W30~W34 ファイルメモリ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○
TS タイマ (設定値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	△
TR タイマ (現在値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	△
CS カウンタ (設定値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	△
CR カウンタ (現在値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	△
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○

\*1: ビット=接点&コイル

富士電機(株)製PLC FLEX-PC

前 \ 後	X	Y	M	L	S	T/TS	C/CS	D	W	R	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
M 内部リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
L ラッチリレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
S ステップリレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
T/TS タイマ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
C/CS カウンタ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
W リンクレジスタ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
R ファイルレジスタ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○

富士電機(株)製PLC FLEX-PC

前 \ 後	X	Y	M	L	S	T/TS	C/CS	D	W	R	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
M 内部リレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
L ラッチリレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
S ステップリレー	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
T/TS タイマ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
C/CS カウンタ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
W リンクレジスタ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
R ファイルレジスタ	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○

豊田工機(株)製PLC TOYOPUC-PC1

前 \ 後	①	②	③
① リレー	□	□	□
② データレジスタ	□	○	○
③ LSシステムエリア	□	○	○

豊田工機(株)製PLC TOYOPUC - PC2

前 \ 後	D	S	R	B	X	Y	M	V	N	LS
D データレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
S 特殊レジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
R リンクレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
B ファイルレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
X 入力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
M 内部リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
V 特殊リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○
N 現在値レジスタ	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	○ *1	☆
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	○

\*1: ビット=接点&コイル

(株)安川電機製PLC Memocon - SC

前 \ 後	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
① コイル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
② 入力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③ リンクコイル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④ 入力レジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤ 出力/保持レジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥ リンクレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦ 定数レジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑧ 拡張レジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑨ LSシステムエリア	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(株) 日立製作所製PLC HIDIC S10α

前 \ 後	X	Y	R	K	G	E	TC	TS	UC	US	CC	CS	DW	SW	FW	EW	MS	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
R 内部リレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
K キープリレー	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
G グローバルリンク	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
E イベント	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
TC オンディレイタイム (計数値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	○ *1	☆	△	△	△	△	△	△
TS オンディレイタイム (設定値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	☆	○ *1	△	△	△	△	△	△
UC ワンショットタイム (計数値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	○ *1	☆	△	△	△	△	△	△
US ワンショットタイム (設定値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	☆	○ *1	△	△	△	△	△	△
CC アップダウンカウンタ (計数値)	△	△	△	△	△	△	○ *1	☆	○ *1	☆	○ *1	☆	△	△	△	△	△	△
CS アップダウンカウンタ (設定値)	△	△	△	△	△	△	☆	○ *1	☆	○ *1	☆	○ *1	△	△	△	△	△	△
DW データレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
SW システムレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
FW ワークレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
EW Eワードレジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
MS 拡張レジスタ	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○

\*1: ビット = 接点&コイル

(株)日立製作所 製PLC HIDIC H (HIZAC H)

前 \ 後	X	Y	M	L	R	T C	W R	L S
X 入力リレー	○	○	○	○	□	△	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	□	△	○	○
M データエリア	○	○	○	○	□	△	○	○
L CPUリンク	○	○	○	○	□	△	○	○
R 内部出力	□	□	□	□	□	□	□	□
TC タイマ/カウンタ	△	△	△	△	□	○ *1	☆	△
WR ワード内部出力	○	○	○	○	□	☆	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	□	△	○	○

\*1: ビット = 接点&コイル

(株)東芝 製PLC PROSEC - EX

前 \ 後	X	Y	R	Z	T	C	D	L S
X 外部入力	○	○	○	○	△	△	○	○
Y 外部出力	○	○	○	○	△	△	○	○
R 補助リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
Z リンクリレー	○	○	○	○	△	△	○	○
T タイマ	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
C カウンタ	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	△	△	○	○

\*1: ビット = 接点&コイル



(株)東芝製 PROSEC-T

前 \ 後	X	Y	I	O	R	S	Z	L	T	C	D	W	F	LS
X 外部入力	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
Y 外部出力	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
I 外部入力	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
O 外部出力	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
R 内部リレー	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
S 特殊リレー	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
Z リンクレジスタリレー	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
L リンクリレー	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
T タイマ (現在値)	△	△	△	△	△	△	△	□	○ *1	○ *1	△	△	△	△
C カウンタ (現在値)	△	△	△	△	△	△	△	□	○ *1	○ *1	△	△	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
W リンクレジスタ	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
F ファイルレジスタ	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	□	□	△	△	○	○	○	○

\*1: ビット = 接点 & コイル

松下電工(株)製PLC MEWNET

前 \ 後	X	Y	R	L	EV	SV	DT	FL	Ld	LS	DT
X 入力リレー	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
R 内部リレー	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
L リンクリレー	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
EV タイマ/カウンタ (経過値)	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△	△	△	△
SV タイマ/カウンタ (設定値)	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△	△	△	△
DT データメモリー 特殊データレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
FL ファイルレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
Ld リンクレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○

光洋電子工業(株)製PLC KOSTAC - SR

前 \ 後	①	②	③	④
① リレー	○	☆	○	○
② タイマ/カウンタ	☆	☆	☆	☆
③ データレジスタ	○	☆	○	○
④ システムエリア	○	☆	○	○

光洋電子工業(株)製PLC KOSTAC -SG/SU

前 \ 後	I	Q	M	SP	S	GI	GQ	T	C	R	LS
I 入力	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
Q 出力	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
M 内部リレー	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
SP 特殊リレー	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
S ステージ	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
GI 全局伝送リレー	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
GQ 特定局伝送リレー	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
T タイマ	△	△	△	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
C カウンタ	△	△	△	△	△	△	△	○ *1	○ *1	△	△
R データレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○

\*1: ビット=接点&コイル

東芝機械(株)製PLC TC200

前 \ 後	X	Y	R/G/H	A	L	S	E	T	C	D/B	P/V	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R/G/H 内部リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
A 特殊リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
L ラッチリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S シフトレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E エッジリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
T タイマ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
C カウンタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
D/B 汎用レジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
P/V T/Cレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

松下電器産業(株)製PLC P7000

前 \ 後	I N	O T	R T	K R	L K	ST/ MS	TS/ TU	C U	CI/ CO	M	L M	TM/ TC	C T	P M	L S
IN 入力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
OT 出力リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
RT 内部リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
KR 保持リレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
LK リンクリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
ST/MS ステータスリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
TS/TU タイマリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
CU カウントアップリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
CI/CO CPUリレー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
M データメモリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
LM リンクレジスタ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
TM/TC タイマ	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
CT カウンタ値	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
PM 位置データ	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
LS システムエリア	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○

和泉電気(株)製PLC IDEC\_1、IDEC\_2、IDEC\_3

前 \ 後	X	Y	M	R	T	C	D	H	L S
X 入力リレー	○	○	○	○	△	△	○	△	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	△	△	○	△	○
M 内部リレー	○	○	○	○	△	△	○	△	○
R シフトレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	△	○
T タイマ	△	△	△	△	△	△	△	△	△
C カウンタ	△	△	△	△	△	△	△	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	△	○
H タイマ(10ms)	△	△	△	△	△	△	△	△	△
LS システムエリア	○	○	○	○	△	△	○	△	○

和泉電気(株)製PLC MICRO3

前 \ 後	X	Y	M	R	T	C	D	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
M 内部リレー	○	○	○	○	△	△	○	○
R シフトレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○
T タイマ	△	△	△	△	△	△	△	△
C カウンタ	△	△	△	△	△	△	△	△
D データレジスタ	○	○	○	○	△	△	○	○
LS システムエリア	○	○	○	○	△	△	○	○

Allen-Bradley 製PLC AB SLC 500

前 \ 後	B	N	TP/ TA	CA/ CP	TT/ TN	CC/ CD/ CN	LS
B ビット	○	○	☆	☆	□	□	○
N 整数	○	○	☆	☆	□	□	○
TP/TA タイマ	☆	☆	☆	☆			☆
CP/CA カウンタ	☆	☆	☆	☆			☆
TT/TN タイマ(接点)	□	□			□	□	□
CU/CD/CN カウンタ(接点)	□	□			□	□	□
LS システムエリア	○	○	☆	☆	□	□	○

空白部は変換できません。

ファナック(株)製モーションコントローラ FANUC Power Mate

前 \ 後	X	Y	R	K	D	T	C	@	LS
X 入力リレー	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
Y 出力リレー	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
R 内部リレー	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
K キープリレー	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
D データテーブル	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○
タイマ	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
C カウンタ	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
@ システム情報	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
LS システムエリア	○	○	○	○	○	☆	☆	☆	○

キーエンス製PLC KZ

前 \ 後	リレー	T	C	DM	TM	LS
リレー	○	△	△	○	○	○
T タイマ	△	△	△	△	△	△
C カウンタ	△	△	△	△	△	△
DM データメモリ	○	△	△	○	○	○
TM テンポラリ データメモリ	○	△	△	○	○	○
LS システムエリア	○	△	△	○	○	○

# 6 画面レイアウトシート

GP-\*50シリーズ用画面レイアウトシート

システム名	コメント	画面番号	コメント	作成	チェック	承認
		80				
		160				
		240				
		320				
		400				
		480				
		560				
		640				

GP-\*3Jシリーズ、\*30シリーズ用画面レイアウトシート

システム名	コメント	画面番号	タイトル	作成	チェック	承認
80	160	240	320	400	480	560
						640



GP-250シリーズ、230シリーズ用画面レイアウトシート

システム名	コメント	画面番号	タイトル	作成	チェック	承認



# 7 タグリスト

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

Lタグ

ファイルNo. (81~8999)	タグ ネーム	表示モード (0→1,1→0, 間接データ)	ビット アドレス	ファイル指定			消去動作 (有,無)	位置
				ファイルNo.	ワードアドレス	データ形式(Bin,BCD)		

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

Nタグ

ファイルNo. (81~8999)	タグ ネーム	データ		表示 形式(Dec,Hex,Oct) 符号(-,無,*,+/) レンジ(最小,最大)	演算 種(演算子) 直接,間接 値(データ)	スタイル 表示桁(1~11) 小数点桁数(1~10) 色属性(0~7:Fg&Bg,*,Bk) 表示サイズ(縦×横<1,2,4,8>) ゼロサブレス(0:有,1:無) ゼロ表示(0:有,1:無) 結(左右)	情報 直接,間接 下 限 上 限 色 (0~7:Fg&Bg,*,Bk)	位置										
		形	bit						レンジ	形	符	レンジ	種	値	種	色	Z表	Z

# Mタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	表示モード (ON/OFF, 間接データ)	ビット アドレス	色属性0 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)	色属性1 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)	表示サイズ (縦×横<1,2,4,8>)	ファイル指定		位置
							直間	ワードアドレス1 (Bin,BCD) オフセット	

# Jタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	ワード アドレス	データ 形式(Bin,BCD,絶対,REL,相対) ビット長(0~16) 符号(0:無,1:2の補数,2:MSB) レンジ(最小,最大)		ファイル指定		ルール 番号	色属性 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)	警報 直接 間接 下限 上限 (orレンジ最小値,最大値) 色(0~7:Fg&Bg, *:Blk)		位置
			形	bit 符	レンジ	直間			ワードアドレス1	オフセット	

# Rタグ

システム名称	作成	チェック	承認
--------	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	レール 番号	表示 位置数	位置

# Tタグ

システム名称	作成	チェック	承認
--------	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	動作モード B:ビット書込(セット/リセット/メモリー反転/比較) W:ワード書込(セット16/セット32/Bin加/Bin減) R:前面に異なる本体リセット A:Aタグキー(上/下確定)	ビット書込(セット/リセット/メモリー反転/比較) W:ワード書込(セット16/セット32/Bin加/Bin減) R:前面に異なる本体リセット A:Aタグキー(上/下確定)	アドレス	アドレス1	基準	定数	反転表示 (有/無)	ブザー音 (有/無)	AUX出力 (有/無)	位置	
											始点	終点

ビット書込のときにはビットアドレス、ワード書込のときはワードアドレスが入ります。

# Kタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	ビット アドレス	ワード アドレス	データ 形式(ABS:絶対, REL:相対, CHR:文字) ビット長(0~16) 符号:0:無, 1:2の補数, 2:MSB レンジ(最小, 最大)	表示 形式(Dec, Hex, Oct, BCD) 符号(-:無, *:+/) レンジ(最小, 最大)		演算 演算子 直接, 間接 データ	スタイル 表示桁(1~11) 小数点桁数(1~10) 色属性(0~7:Fg&Bg, *:Blk) 文字サイズ(縦×横<1,2,4,8>) ゼロサブレス(0:有, 1:無) ゼロ表示(0:有, 1:無) 語(左, 右) 入力(0:クリア無, 1:クリア有, 2:クリア+入力桁, *:バーコード入力禁止)	種	直間	値	桁	色	サイズ	Z	Z発	語	入力	
					形	bit													符

登録 間接 下限:上 色(0~7:Fg&Bg, *:Blk)	位置	
	下限:上 色	色

# タグ

システム名称	作成	チェック	承認
--------	----	------	----

ファイルNo. (K1~8999)	タグ ネーム	動作モード (ENT,BS,CLR,DEL,文字入力,画面切換,△,▽,<,>)		反転表示 (有,無)	ブザー音 (有,無)	AUX出力 (有,無)	位置	
		モード	文字*(コード)				切替画面NO.	始点

システム名	作成	チェック	承認
-------	----	------	----

# キーボード(消去エリア)

ファイルNo. (K1~8999)	タグ ネーム	位置	
		始点	終点

# Gタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	データ 形式(ABS:絶対REL:相対) ビット長(0~16) 符号(0:無,1:2の補数,2:MSB) レンジ(最小,最大)		グラフ 種類(円,半円) 符号(-:無,+:+)		方向 (上下 左右)	色属性 (0~7:Fg&Bg,*:Bk)	パタ ーン	情報 連続 下限:上限(orレンジ最小値,最大値) 色(0~7:Fg&Bg,*:Bk)			位置		
		形	bit	符	レンジ				種	符	直間	下限:上限	色	始点

# Wタグ

システム名		作成	チェック	承認
-------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	起動ビット (0→1,1→0, 0⇔1)	ビット アドレス	動作モード B:ビット番込(セット/リセット/メモランタリ反転/比較) W:ワード番込(セット/リセット/32Bin加/BCD加) R:前面に長る	位置			
					アドレス	ビット 数	定数	
					アドレス	アドレス1	ビット数	定数

ビット番込のときにはビットアドレス、ワード番込のときにはワードアドレスが入ります。



# Cタグ

システム名称			作成	チェック	承認
--------	--	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	色属性 (0~7:Fg&Bg,*:Blk)	文字サイズ (縦×横<1,2,4,8>)	文字種類 (半角,全角)	位置

# Sタグ

システム名			作成	チェック	承認
-------	--	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	表示モード (0→1,1→0, 間接データ)	ビット アドレス	色属性 (0~7:Fg&Bg,*:Blk)	文字サイズ (縦×横<1,2,4,8>)	表示桁数 (1~40)	ワード アドレス	位置

# aタグ

システム名称										作成	チェック	承認
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	------	----

ファイルNo. (A1~8999)	タグ ネーム	監視アド レス	監視 ワード数	表示 開始行	表示 行数 (1~20)	文字数 (1~80)	文字サイズ (縦×横<1,2,4,8>)	クリア属性 (0~7:Fg&Bg,*:Blk)	格表示 (無:格なし,外:外格, 外内:外格+内格)	位置

# Vタグ

システム名										作成	チェック	承認
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	ID 番号	チャ ネル 番号	表示モード (ON,OFF)	表示サイズ (標準、拡大)	透過表示(有、無) 表示モード (=表示:指定色を優先 ≠表示:指定色以外を優先)	位置					
							透過	モード	タOUCHパネ ル動作 (有効,無効)	始点	終点	原点

# Fタグ

システム名称	作成	チェック	承認
--------	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	ワード アドレス	動作モード (エリア/2点)	データ 形式(BCD,Bin) ビット長(16固定) 符号(-,無,*,+/) レンジ1(X)(最小,最大) レンジ2(Y)(最小,最大)	ファイル指定				位置	
					直間	ファイルNo.	ワードアドレス1	形式 (Bin,BCD)		オフセット

# Dタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (81~8999)	タグ ネーム	ワード アドレス	データ 形式 (BCD, Bin) ビット最 大 (16固定)	ファイル指定		グラフィ 属性 (横, 円)	表示 方向 (上, 下, 左, 右)	分割	色属性1 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)		色属性2 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)		色属性3 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)		色属性4 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)	
				形	bit				直間	ファイルNo.	色1	パ	色2	パ	色3	パ

色属性5 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)	色属性6 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)	色属性7 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)	色属性8 (0~7:Fg&Bg, *:Blk) 色パターン(0~8)	位置												
				色5	パ	色6	パ	色7	パ	色8	パ	外径	内径			

# Uタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	ワード アドレス	ウインドウ 指定(直接,間接)、 登録番号		データ形式 (Bin,BCD)	位置
			指定	番号		

# Xタグ

システム名		作成	チェック	承認
-------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	動作 モード (B:ビット、 W:ワード)	テキストファイル 画面番号 ワードアドレス データ形式(Bin,BCD)		表示開始行 ビット数(1~16) 指定(直接,間接) 行番号(1~512) ワードアドレス1 データ形式(Bin,BCD)	文字数	修正 行数	文字サイズ (縦×横<1,2,4,8>)	色属性 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)	クリア色属性 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)	位置	
			ファイル	Wアドレス								データ

# Aタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (X1~8999)	タグ ネーム	監視アド レス	監視 ワード数	テキスト ファイル 番号	表示 開始行	表示 行数 (1~20)	文字数 (1~80)	文字サイズ (縦×横<1,2,4,8>)	色属性 (0~7:Fg&Bg,*:Bk)	クリア色属性 (0~7:Fg&Bg,*:Bk)	枠表示 (無:枠なし,外:外枠, 外内:外枠+内枠)	サブ表示 (無:ベース, ウインドウ)

動作設定 指定(切替:画面切替,ライブラリ:ライブラリ表示, テキスト:テキスト表示)		ウインドウ指定 種(G:グローバル,L:ローカル) 登録番号 ワードアドレス1		表示位置	サブ位置
画面 指定	画面 ワードアドレス1	種	番号	ワードアドレス1	

# nタグ

システム名称	作成	チェック	承認
--------	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	色属性 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)		表示サイズ (縦×横<1,2,4,8>)		位置	
		最小	最大	最小	最大	最小	最大

# Pタグ

システム名	作成	チェック	承認
-------	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	データ 形式 (Dec,Hex,Oct,BCD) ビット長(16,32) 符号(-:無,+:+)		表示 桁数(1~11) 切捨桁数(1~10) 色属性 (0~7:Fg&Bg, *:Blk)		スタイル 文字サイズ(縦×横<1,2,4,8>) ゼロサブレス(0:有,1:無) 詰(左:点)		警報 直接 間接 下限:上限(orレンジ最小値,最大値) 色(0~7:Fg&Bg, *:Blk)		位置							
		形	bit	符	桁	切捨	色	サイズ	Z		詰	直間	下限	上限	色		

dタグ

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (B1~8999)	タグ ネーム	データ形式 (Bin,BCD)	スタイル 表示桁数(1~11) 小数点桁数(1~10) 表示サイズ(縦×横<1,2,4,8> ゼロサブレス(0:有,1:無) 詰(左,右)	分割		色属性1 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置1		色属性2 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置2		色属性3 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置3		色属性4 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置4		色属性5 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置5					
				桁	サイズ	詰	色1	パ	位置1	色2	パ	位置2	色3	パ	位置3	色4	パ	位置4	色5

色属性6 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置6	色属性7 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置7	色属性8 (0~7:Fg&Bg,*:Blk) 色パターン(0~8) 位置8	位置6		位置7		位置8	
			色6	パ	位置6	色7	パ	位置7



### 折れ線 (画面設定)

システム名称		作成	チェック	承認
--------	--	----	------	----

ファイルNo. (T1~8999)	タグ ネーム	グラフ属性 (ノーマル,ペンレコ, 一括表示)	表示 方向 (上下 左右)	クリア色属性 (0~7:Fg&Bg,*:Blk)	原点位置	100%高さ	ピ ッ チ	表示 データ数	スク ロール数	サンプリ ング秒

### 折れ線 (データ設定)

システム名		作成	チェック	承認
-------	--	----	------	----

ファイルNo. (T1~8999)	ワード アドレス	データ 形式(Bin,BCD,絶対,REL,相対) ビット長(0~16) 符号(0:無,1:2の補数,2:MSB) レンジ(最小,最大)		表示 符号(—:無,*:+/-)	線種	空欄 直接,間接 下限,上限(orレンジ最小値,最大値) 色(0~7:Fg&Bg,*:Blk)		位置		
		形	bit			符	レンジ		値間	下限,上限

# アラーム

システム名称	作成	チェック	承認
--------	----	------	----

ファイルNo. (A1-8999)	タグ ネーム	アラーム モード (メッセージ, サマリ)	ビット アドレス	色属性 <ガイドライン上> (0-7:Fg&Bg, *:Bk)	印字	
					発報	復旧

## 8 お客様お問い合わせFAX用紙

### ■ トラブルシューティングを行っても不具合が解消されない場合

トラブルシューティングを行っても不具合が解消されない場合は、「トラブルリポート」をコピーし、必要事項をご記入のうえ、**㈹デジタル**までご返送ください。なお、トラブルリポートは不具合事項をなるべく具体的に(再現できるように)お書きください。また資料として次のものを必ず添付してください。

- ・ CONFIG.SYSの内容をプリントアウトしたもの
- ・ AUTOEXEC.BATの内容をプリントアウトしたもの
- ・ その他の起動用バッチファイルやメニューシステムの設定ファイルの内容をプリントアウトしたもの
- ・ ハードコピー関係のトラブルであればハードコピー

上記の内容は不具合の再現や調査検証に際し、非常に重要な事項ですので、必ず添付してください。また、お問い合わせの内容によっては、画面データを提出していただく場合もありますので、あらかじめご了承ください。画面データを提出していただく際には、画面データの秘密は厳守いたします。

### ■ GP-PRO II の使用法、設定法がわからない場合

GP-PRO II の作画の仕方や設定の仕方がわからない場合は、「問い合わせFAX用紙」をコピーし、質問事項をご記入のうえ、**㈹デジタル**までご返送ください。

#### 注意

- GP-PROおよびGP-PRO II 起動時のシステムメモリの残り容量は、以下の手順で検査してください。
  - ① GP-PROおよびGP-PRO II を起動します。
  - ② ファイルをオープンせずにキャンセルします。オープンダイアログが終了します。
  - ③ **F10** を押します。システムメモリの残り容量が表示されます。
- お問い合わせの際には、シリアルNo.を必ずご記入ください。ご記入がない場合は、ご質問にはお答えできませんのでご了承ください。
- お問い合わせの内容によっては、調査等のため、回答に時間がかかる場合もありますのでご了承ください。

#### <宛先>

株式会社デジタル サポートダイアル

東京 〒111 東京都台東区鳥越1-8-2 鳥越Fビルディング5F  
FAX. (03) 5821-1110

名古屋 〒461 名古屋市東区葵3-15-31 住友生命千種ビル3F  
FAX. (052) 932-6802

大阪 〒559 大阪市住之江区南港東8-2-52  
FAX. (06) 613-5888

宛先

株式会社デジタル  
サポートダイヤル宛

返送先	東京	名古屋	大阪
FAX	(03)5821-1110	(052)932-6802	(06)613-5888

# ソフトウェアトラブルレポート

日付 19 年 月 日  
ページ数 枚

## ご連絡先

貴社名 \_\_\_\_\_ TEL(\_\_\_\_\_) - \_\_\_\_\_

ご所属 \_\_\_\_\_ ご氏名 \_\_\_\_\_ FAX(\_\_\_\_\_) - \_\_\_\_\_

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

シリアルNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ シリアルNo.が記入されていないと質問にはお答えすることができません。

ご使用ソフト名:  GP-PRO Ver. \_\_\_\_\_  GP-PRO II/98 Ver. \_\_\_\_\_  
 GP-COM II Ver. \_\_\_\_\_  GP-PRO II/V Ver. \_\_\_\_\_  
 GPBKUPV Ver. \_\_\_\_\_  その他(\_\_\_\_\_)Ver. \_\_\_\_\_

ご使用のGP機種名: \_\_\_\_\_ PLCタイプ: \_\_\_\_\_

ご使用のパソコン機種名: メーカー ( \_\_\_\_\_ ) 機種名 ( \_\_\_\_\_ )

DOSバージョン: \_\_\_\_\_ メモリ(RAM)容量: \_\_\_\_\_ MB

拡張メモリボード(EMS):  なし  あり(メーカーおよび機種名: \_\_\_\_\_ )

ご使用のFEP: \_\_\_\_\_ ご使用のメニューシステム: \_\_\_\_\_

起動時のシステムメモリ容量: \_\_\_\_\_ バイト(検査方法は前ページを参照してください)

ご使用のプリンタ機種名: メーカー ( \_\_\_\_\_ ) 機種名 ( \_\_\_\_\_ )

CONFIG.SYSおよびAUTOEXEC.BATの内容(必ずプリントアウトしたものを添付してください)

問題点の具体的内容・再現方法をわかりやすくご記入ください。関連資料のリストも添えてください。問題点1点につきレポート1枚でお使いください。

エラーメッセージの内容:

デジタル記入欄

処理

受付

宛先

株式会社デジタル  
サポートダイアル宛

返送先	東京	名古屋	大阪
FAX	(03)5821-1110	(052)932-6802	(06)613-5888

Pro-faceお問い合わせFAX

日付 19 年 月 日  
ページ数 枚

ご連絡先

貴社名 \_\_\_\_\_ TEL(\_\_\_\_) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

ご所属 \_\_\_\_\_ ご氏名 \_\_\_\_\_ FAX(\_\_\_\_) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_

ご住所 〒 \_\_\_\_\_

シリアルNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ シリアルNo.が記入されていないと質問にはお答えすることができません。

ご使用ソフト名: \_\_\_\_\_ Ver. \_\_\_\_\_

ご使用GP機種名:

ホスト名: ( \_\_\_\_\_ ) 機種 ( \_\_\_\_\_ )  
通信方法:  RS-232C  RS-422  その他( \_\_\_\_\_ )

お問い合わせの内容

デジタル記入欄

処理

受付

## 索

## 引

## 英数字

ALL	3-16
AUTOEXEC.BAT	1-17
Aファイル	1-3,4-26
BMPファイル変換	4-50
Bファイル	1-3
Cancel	2-3
CONFIG.SYS	1-16
<CONVERT>	8-1
DOSコマンド	5-9
EMSの設定について	1-18
FEP	1-14,2-7
GP-PRO II の特長	1-1
GP-PROについて	5-8
GPシリーズ	1-7
GP内の画面一覧	7-10
GP内の画面削除	7-11
GPの機種を設定する	2-9
GPバージョン確認	7-16
GP-*10用データをGP-*30用、 *50用に変換	8-1
GROUP	3-17
Iファイル	1-3,4-35
<KEYLIB>	4-23
Kファイル	1-3,4-20
Mファイル	1-3,4-9
No	2-3
Ok	2-3
ONE	3-16
OSバージョン	1-6
PLC	6
PLC<コマンド>	2-9
PLCタイプの変更	4-46
PLCタイプの変更(テンキー)	4-24
SIOユニット	1-8,1-9
Sファイル	1-3,4-36
TAG	3-17
Tファイル	1-3,4-17
Wファイル	1-3,4-8
Xファイル	1-3,4-29
Yes	2-3

## あ

アイコン	3-1
アドレス<項目>	5-2
アドレス一括変換	4-48
アラームメッセージ画面	1-3
一画面当たりの平均使用容量	1-4
移動する	3-21

イメージデータの表示	4-35
イメージ表示	5-4
イメージライブラリ画面	1-3
色	3-2
印刷する	6-2
インストールする	1-14
ウインドウ	4-3
ウインドウ一覧	6-6
ウインドウ削除	4-3
ウインドウ情報ファイル	1-3
ウインドウ登録	4-3
ウインドウを表示する	4-6
エラーメッセージ	巻末-1
円	3-5
円弧	3-6
オープン	2-11
扇形	3-6
オプション	5-1
オプション<コマンド:転送>	7-8
折れ線グラフ画面	1-3
折れ線グラフを作る	4-17

## か

カーソル	2-4
カーソル座標位置	2-1
階層呼び出し	3-12
回転する	3-22
ガイドライン	2-1
ガイドラインカラー	5-5
開発環境図	1-6
拡大縮小する	3-23
かな漢字入力手順	3-10
画面一覧(GP)	7-10
画面確認	5-2
画面各部名称	2-1
画面中央マーク	2-1
画面ハードコピー	6-2
画面表示の切り替え	2-2
画面ファイル単位の変換	8-3
画面ファイルの受信	7-7
画面ファイルの送信	7-2
画面ファイルの比較	7-9
画面領域	2-10
画面レイアウトシート	巻末-34
画面を再表示する	3-26
環境一覧	1-6
環境設定	5-5
キー操作	2-4
キーボード画面	1-3
キーボード操作	2-3

- |                                    |         |                               |           |
|------------------------------------|---------|-------------------------------|-----------|
| キーボードを作る                           | 4-20    | センタリング                        | 3-9       |
| 機種設定                               | 2-10    | 操作の進め方                        | 2-4       |
| 起動と終了                              | 2-7     | 送信                            | 7-2       |
| クリア                                | 4-11    | 属性を変更する                       | 3-18      |
| クリック                               | 2-3     | ソフトウェアトラブルリポート                | 巻末-55     |
| グリッド                               | 2-1,5-1 |                               |           |
| クロスリファレンス                          | 3-39    |                               |           |
| クロスリファレンスリスト                       | 6-7     |                               |           |
| 黒抜(マーク)                            | 4-15    |                               |           |
| 誤差分散法                              | 4-49    |                               |           |
| コピー(タグ)                            | 3-37    |                               |           |
| コピー(ファイル)                          | 4-41    |                               |           |
| コピー(マーク)                           | 4-14    |                               |           |
| コピーする(描画)                          | 3-20    |                               |           |
| コマンド                               | 2-1     |                               |           |
| 梱包内容                               | 1-5     |                               |           |
| <br>                               |         |                               |           |
| <b>さ</b>                           |         |                               |           |
| 最大設定可能数(タグ)                        | 3-35    | ダイアログボックス内の操作                 | 2-5       |
| 作画可能機種一覧                           | 1-6     | 対応PLC一覧表                      | 1-10      |
| 作画領域                               | 2-10    | 対象PLCを設定する                    | 2-10      |
| 削除(GP内画面)                          | 7-11    | 対象機種                          | 6,1-7     |
| 削除(ウインドウ)                          | 4-5     | 対象図形を選択する                     | 3-15      |
| 削除(タグ)                             | 3-38    | タイリングパターン                     | 3-2       |
| 削除(ファイル)                           | 4-43    | 楕円                            | 3-5       |
| 削除する(描画)                           | 3-19    | タグ                            | 3-30      |
| サンプルキーボードの利用方法                     | 4-23    | タグ一覧                          | 3-39      |
| 四角                                 | 3-4     | タグ一覧(プリント)                    | 6-5       |
| しきい値法                              | 4-49    | タグコピー                         | 3-37      |
| システムカラー                            | 5-5     | タグサイズ                         | 3-35      |
| システム構築手順                           | 1-12    | タグ削除                          | 3-38      |
| システムファイル                           | 1-3     | タグ設定                          | 3-31      |
| システムフォーマット手順                       | 8-11    | タグ設定時の注意事項                    | 3-34      |
| 終了のしかた                             | 2-9     | タグの入力/編集                      | 3-36,3-41 |
| 受信                                 | 7-7     | タグ表示                          | 5-2       |
| ショートカットキー                          | 2-5     | タグ名                           | 3-27      |
| 使用可能な機種および環境一覧                     | 1-6     | タグ名<項目>                       | 5-2       |
| 使用可能な機種および環境一覧<br>(バックアップ&リストアツール) | 8-8     | タグリスト                         | 巻末-40     |
| 使用容量                               | 1-4     | タッチパネル<項目>                    | 5-1       |
| 初期設定                               | 4-36    | ダブルクリック                       | 2-3       |
| 新規作成                               | 2-12    | 直線                            | 3-3       |
| 透かしモード                             | 3-2     | 通信ポートを変更する                    | 5-6       |
| 図形の属性                              | 3-2     | テーブルファイル                      | 1-8,1-9   |
| スナップ                               | 5-1     | デザ                            | 4-49      |
| セーブ                                | 2-13    | ディスク                          | 1-6       |
| 製品構成                               | 1-5     | ディレクトリの指定方法                   | 2-13      |
| セットアップオプションの設定                     | 7-5     | テキストエディタ                      | 4-29      |
| 全画面消去                              | 3-26    | テキスト画面                        | 1-3       |
| 線種                                 | 3-2     | テキストデータの作成                    | 4-30      |
|                                    |         | テキストファイル変換                    | 4-47      |
|                                    |         | テンキーファイルのPLCタイプ変更             | 4-24      |
|                                    |         | 転送                            | 7-1       |
|                                    |         | 転送可能ファイル数の目安                  | 1-4       |
|                                    |         | 転送準備                          | 7-1       |
|                                    |         | 動作するまでの手順(バックアップ<br>&リストアツール) | 8-11      |
|                                    |         | 同時クリック                        | 2-3       |
|                                    |         | 登録(ウインドウ)                     | 4-3       |
|                                    |         | ドラッグ                          | 2-3       |
|                                    |         | トラブルシューティング                   | 巻末-10     |
|                                    |         | 取消し                           | 3-25      |

## な

内部記憶容量	1-4
内部メモリの残量	7-15
内部メモリのバックアップ	7-13
内部メモリの比較	7-14
内部メモリのリストア	7-12
日本語FEPの起動	2-7
塗込み	3-7
塗込み四角	3-4
塗込みモード	5-3
ネスティング	3-12

## は

バージョンアップ項目一覧	9
バージョン確認(GP)	7-16
バージョン確認(GP-PRO II)	5-8
パソコン	6,1-6
パソコンの動作環境	1-7
バックアップ(GP-PRO II内項目)	7-13
バックアップ(プログラムツール)	8-6
バックアップツールの使用法	8-6
バックアップディスクを作る	1-13
反転	4-14
ピッチ	5-1
必要メモリ容量	1-6
描画機能	3-1
表示ディレクトリ以外のディレクトリ の指定方法	2-14
ファイル一覧	4-40
ファイル一覧(プリント)	6-4
ファイルコピー	4-41
ファイル削除	4-43
ファイル情報	5-7
ファイル/塗込み位置	5-4
ファイルのオープン	2-12
ファイルの種類	1-2
ファイルのセーブ	2-13
ファイル番号の変更	4-43
ファイルヘッダ	1-3
ファイル呼出	3-11
プリンタ	1-7
プリンタ設定	6-1
プルダウンメニュー	2-1
プログラムツールの活用	8-1
ベース画面	1-3
ヘルプ	5-10
編集(タグ)	3-36
編集(マーク)	4-11

編集する(描画)	3-15
ホットキー	2-5
ホットキー/ショートカットキー 一覧	巻末-17

## ま

マーク画面	1-3
マークの編集	4-11
マーク呼出	3-13
マークを描く	4-10
マークを作る	4-9
マウス	1-7
マウス感度	5-7
マウス操作	2-3
ミラー(マーク)	4-13
メッセージを登録する	4-26
文字	3-9
文字(マーク)	4-15
メニュー一覧	巻末-15
メニューライン	2-1
メモリーカード単位の変換	8-5

## や

ユーティリティ	4-41
用語および記号	6

## ら

ライブラリ	4-1
ライブラリ画面を作画する際の留意点	4-2
ライブラリ編集	3-27
リストア(GP-PRO II内項目)	7-12
リストア(プログラムツール)	8-6
リストアツールの使用法	8-6
連続画面ハードコピー	6-5
連続直線	3-3



Pro - face

GP-PRO II Ver. 3.3 GP作画支援ソフトウェア オペレーションマニュアル

---

1995年 5月 15日 初版発行

発行所 株式会社 デジタル  
〒559  
大阪市住之江区南港東8-2-52  
TEL (06) 613-1101(代)  
FAX (06) 613-5888

---

落丁・乱丁は弊社にてお取り替えいたします。

©(株) デジタル May. 1995

PRINTED IN JAPAN

## ☎ GPサポートダイヤル

タル製品の技術的なご相談にご利用ください

受付 TEL…(月～金)9:00～17:00

FAX…24時間フルタイム

名古屋

(03)5821-1105  
(03)5821-1110

TEL(052)932-4093  
FAX(052)932-6802

大阪

TEL(06)613-3115  
FAX(06)613-5888

※その他のお問い合わせは下記までお電話ください。

Digital 商品のご用命は

## 株式会社 Digital

本社/〒559 大阪市住之江区南港東8-2-52  
TEL:(06)613-1101(代) FAX:(06)613-5888  
本社営業/TEL:(06)613-3111・3 FAX:(06)613-5888  
東京支社/〒111 東京都台東区鳥越1-8-2 鳥越Fビル5F  
TEL:(03)5821-1101(代) FAX:(03)5821-1110  
厚木営業所/〒243 神奈川県厚木市旭町2-9-18 会田ビル1F  
TEL:(0462)29-9851(代) FAX:(0462)29-3193  
名古屋営業所/〒461 名古屋市東区葵3-15-31 住友生命千禧ビル3F  
TEL:(052)932-6610(代) FAX:(052)932-6802  
広島営業所/〒732 広島市東区光町2-9-14 COMS光1F  
TEL:(082)262-4017(代) FAX:(082)262-9270  
九州営業所/〒812 福岡市博多区博多駅東2-15-19 KS・T 駅東ビル6F  
TEL:(092)441-5236(代) FAX:(092)441-6032  
松原工場/〒580 大阪府松原市三宅西5-781-3  
TEL:(0723)37-1101(代) FAX:(0723)37-1055

・記載事項はお断りなく変更する事がありますので、ご了承ください。